

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第551集

やぎさわ やぎさわらんのさわ  
八木沢Ⅱ遺跡第2次・八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書

三陸縦貫自動車道宮古道路建設事業関連遺跡発掘調査

2010

国土交通省東北地方整備局  
三陸国道事務所  
(財)岩手県文化振興事業団



# 八木沢Ⅱ遺跡第2次・八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書

三陸縦貫自動車道宮古道路建設事業関連遺跡発掘調査



## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史を生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは、県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターでは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸縦貫自動車道宮古道路建設事業に関連して、平成20年度に発掘調査された宮古市八木沢Ⅱ遺跡及び八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査により、八木沢Ⅱ遺跡では、縄文時代の竪穴住居跡や貯蔵穴からなる集落跡、古代の鉄生産に関連する炉跡などが検出されました。時代によって土地利用のあり方が異なることが判明しており、当該期における自然環境や生業と集落の立地との係わりについて考えるうえで貴重な資料となるものであります。

また、八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡では、縄文時代と推定される陥し穴状遺構、古代以降と推定される炭窯跡などがまとまって検出されました。山間の土地利用を考えるうえで貴重な資料が得られています。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、宮古市教育委員会、山田町教育委員会をはじめとする関係各位に深く感謝の意を表します。

平成22年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 武田 牧雄



## 例 言

- 1 本報告書は、岩手県宮古市大字八木沢第3地割字中村129ほかに所在する八木沢Ⅱ遺跡第2次調査、岩手県宮古市大字八木沢第3地割字中村89ほかに所在する八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、三陸縦貫自動車道宮古道路建設事業に伴う緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所との協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳に登録される八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡の遺跡番号と遺跡略号は次のとおりである。

八木沢Ⅱ遺跡 : 遺跡番号 L G 43-0205、遺跡略号 Y G S Ⅱ-08  
八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡 : 遺跡番号 L G 43-0269、遺跡略号 Y G S R Ⅱ-08
- 4 発掘調査の調査面積・期間・担当者は次のとおりである。

八木沢Ⅱ遺跡  
調査面積 : 7,000㎡ / 調査期間 : 平成20年4月8日～7月15日 / 調査担当者 : 阿部勝則・菅野 梢  
八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡  
調査面積 : 5,023㎡ / 調査期間 : 平成20年7月16日～10月30日 / 調査担当者 : 阿部勝則・菅野 梢
- 5 室内整理の期間・担当者は、次のとおりである。

八木沢Ⅱ遺跡  
整理期間 : 平成20年11月1日～平成21年2月27日 / 整理担当者 : 阿部勝則・菅野 梢  
八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡  
整理期間 : 平成20年11月1日～平成21年2月27日 / 整理担当者 : 阿部勝則・菅野 梢
- 6 野外調査における基準点測量・写真撮影にあたっては、次の機関に委託した。

基準点測量 : 釜石測量設計株式会社(八木沢Ⅱ遺跡)・鈴木測量設計(八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡)  
空中写真撮影 : 東邦航空株式会社
- 7 遺物の分析・鑑定にあたっては、次の機関に委託した。

石材鑑定 : 花崗岩研究会(代表矢内桂三) 炭化材樹種鑑定 : 阿部利吉(前岩手県木炭協会)  
放射性炭素年代測定・炭化種実・樹種の同定・火山灰同定 : パリノ・サーヴェイ株式会社  
鉄製品の成分分析・鉄滓の成分分析 : J F E テクノリサーチ株式会社
- 8 発掘・整理・報告にあたっては、次の方々にご指導とご協力いただいた(順不同・敬称略)。

斉藤邦雄・佐藤嘉広・菅 常久・櫻井友梓(岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課)、竹下将男・高橋憲太郎・鎌田祐二・加納由美・安原 誠・長谷川真・阿部 豊(宮古市教育委員会)、安達尊伸(田野畑村教育委員会)、川向聖子(山田町教育委員会)、井上雅孝(滝沢村教育委員会)。
- 9 本報告書の執筆は、Ⅰ章の調査に至る経過は、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所に依頼した原稿を掲載した。Ⅱ章～Ⅵ章は、阿部勝則が執筆した。Ⅰ-3「周辺の遺跡」は、岩文振第528集の「周辺の遺跡」を一部改編したものである。Ⅶ章は、鑑定委託先に依頼した原稿を掲載した。報告書の編集・校正は阿部と菅野が行った。
- 10 本遺跡の調査成果は、先に『八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡現地公開資料』(平成20年10月28日)、『平成20年度発掘調査報告書』(岩文振第546集)などに発表しているが、本書の内容が優先するものである。
- 11 本遺跡の調査で得られた一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。



# 凡 例

## 1 掲載図版等について

### (1) 掲載図版の構成

図版構成は、遺構・遺物に分けている。遺構図版は、竪穴住居跡・竪穴状遺構・土坑・陥し穴状遺構・炭窯跡・焼土遺構・土器埋設遺構・溝跡の順で種類毎に掲載した。遺物図版は土器・土製品・石器・石製品・陶磁器・金属製品・鉄滓類・動物遺存体・植物遺存体の順に出土遺物の種類毎に図版を作成し、出土地点・層位（上→下）を基準に掲載した。別に出土地点別の遺物集成図も作成した。遺物の掲載番号は、掲載順に連番とし、図版・写真図版とも同一番号とした。掲載遺物にはすべて観察表を付した。観察表内の（ ）内の数値は残存値、< >内数値は推定値である。

### (2) 掲載図版の縮尺

掲載図版の縮尺は以下を原則としたが、一部変更したところもあり、各図にスケール・縮尺を付した。

#### a 遺構図版

竪穴住居跡の平・断面図：1/50、炉跡の平・断面図：1/30、土坑・陥し穴状遺構・炭窯跡の平・断面図：1/40、炉跡・焼土遺構・土器埋設遺構の平・断面図：1/30、溝跡：1/60。

#### b 遺物図版

土器：1/3、土製品1/2、剥片石器：1/2、礫石器：1/3、石製品：1/2、陶磁器：1/3、金属製品：1/2。

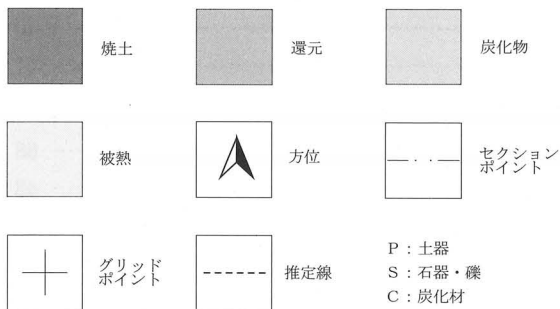
#### c 写真図版

遺構の写真図版の縮尺は不定である。遺物の写真図版の縮尺は、概ね図版と同一縮尺になることを基本として編集したが、一部変更したところもあり、各図に縮尺を付した。

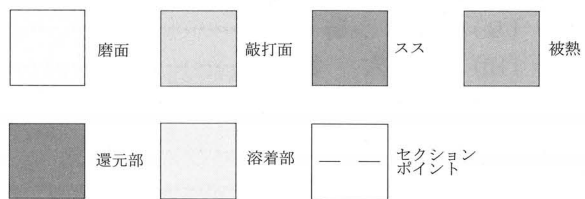
### (3) 図版の凡例

図中に使用した記号と網かけの凡例は以下のとおりである。それ以外については、個々の図版毎に凡例を示している。

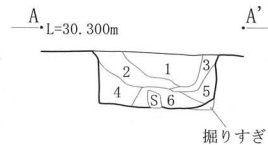
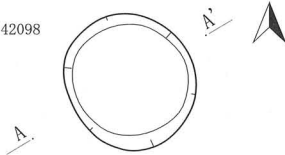
#### 〈遺構〉



#### 〈遺物〉



+ X=-42098

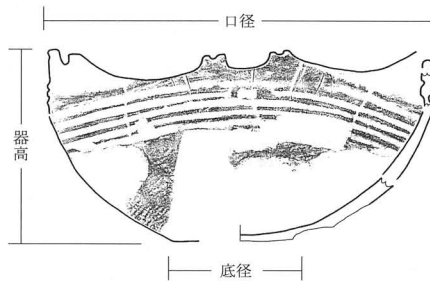


Y=94572

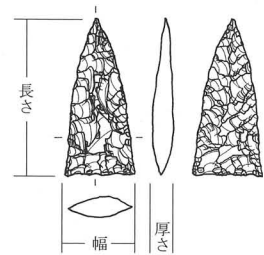
+ X=-42100

II C6c

土坑



土器



石器



# 目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の位置と立地	2
1	遺跡の位置と地理的環境	2
2	遺跡の立地と周辺の地形・地質	2
3	周辺の遺跡	2
4	基本土層	4
III	調査・整理の方法	13
1	野外調査	13
2	室内整理	16
IV	八木沢Ⅱ遺跡	19
1	検出遺構	19
(1)	検出遺構の概要	19
(2)	竪穴住居跡	19
(3)	竪穴状遺構	20
(4)	土坑	20
(5)	陥し穴状遺構	34
(6)	炭窯跡	36
(7)	炉跡・焼土遺構	36
(8)	土器埋設遺構	40
(9)	溝跡	40
(10)	柱穴群	41
(11)	埋没沢	41
2	出土遺物	68
(1)	出土遺物の概要	68
(2)	土器	68
(3)	土製品	69
(4)	石器	69
(5)	石製品	70
(6)	陶磁器	70
(7)	金属製品	70
(8)	鉄滓類	71
(9)	動物遺存体	71
(10)	植物遺存体	71
V	八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡	91
1	検出遺構	91
(1)	検出遺構の概要	91
(2)	土坑	91
(3)	陥し穴状遺構	93
(4)	炭窯跡	94
(5)	焼土遺構	99

2 出土遺物	116
(1) 出土遺物の概要	116
(2) 土器	116
(3) 鉄滓類	116
(4) 植物遺存体	116
VI 総括	119
1 八木沢Ⅱ遺跡	119
2 八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡	120
3 まとめ	121
VII 分析・鑑定	125
1 八木沢Ⅱ遺跡	125
(1) 放射性炭素年代側定・樹種同定	125
(2) 種実同定	130
(3) 鉄製品の成分分析及び保存処理	132
(4) 鉄滓類の成分分析	138
2 八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡	156
(1) 放射性炭素年代側定・樹種同定	156
(2) 火山灰分析	160
報告書抄録	207

## 図版目次

(八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡)	
第1図 遺跡位置図	8
第2図 遺跡周辺の地形分類図	9
第3図 遺跡周辺の地質分類図	10
第4図 宮古市域図	11
第5図 周辺の遺跡分布図	12
(八木沢Ⅱ遺跡)	
第6図 遺構配置図(1):全体図	45
第7図 遺構配置図(2):部分図	46
第8図 遺構配置図(3):部分図	47
第9図 竪穴住居跡・竪穴状遺構: S I 101・S K I 101	48
第10図 土坑(1): S K 101~103	49
第11図 土坑(2): S K 104~106	50
第12図 土坑(3): S K 107~109	51
第13図 土坑(4): S K 110~112	52
第14図 土坑(5): S K 113~115	53
第15図 土坑(6): S K 116・117	54
第16図 土坑(7): S K 119・121・122・125	55
第17図 土坑(8): S K 130~133	56
第18図 土坑(9): S K 134~138	57
第19図 土坑(10): S K 139~144(1)	58
第20図 土坑(11): S K 144(2)~147	59
第21図 土坑(12): S K 149~153	60
第22図 陥し穴状遺構(1): S K 118・123・124	61
第23図 陥し穴状遺構(2): S K 126~128・148	62
第24図 炭窯跡: S W 101、溝跡: S D 01、土器埋設遺構: S Z 101	63
第25図 焼土遺構(1): S N 101~103	64
第26図 焼土遺構(2): S N 104~106	65
第27図 焼土遺構(3): S N 107~110	66
第28図 柱穴群・埋没沢	67
第29図 出土地点別遺物集成図(1)	78
第30図 出土地点別遺物集成図(2)	79
第31図 出土地点別遺物集成図(3)	80
第32図 出土地点別遺物集成図(4)	81
第33図 土器(1)	82
第34図 土器(2)	83
第35図 土器(3)	84
第36図 土器(4)	85
第37図 土器(5)	86
第38図 土器(6)、土製品	87
第39図 石器(1)	88
第40図 石器(2)、石製品、陶磁器、金属製品(1)	89
第41図 金属製品(2)	90
(八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡)	
第42図 トレンチ位置図	101
第43図 調査区位置図	102
第44図 遺構配置図	103
第45図 土坑(1): S K 01・02・04・07	104
第46図 土坑(2): S K 09・11	105
第47図 陥し穴状遺構(1): S K 03・05・06	106
第48図 陥し穴状遺構(2): S K 08	107
第49図 陥し穴状遺構(3): S K 10	108
第50図 炭窯跡(1): S W 01~04	109
第51図 炭窯跡(2): S W 05~07	110
第52図 炭窯跡(3): S W 08・09	111
第53図 炭窯跡(4): S W 10・11	112
第54図 炭窯跡(5): S W 12(1)	113
第55図 炭窯跡(6): S W 12(2)	114
第56図 焼土遺構: S N 01~03	115
第57図 土器	117
(八木沢Ⅱ遺跡)	
第58図 炉跡・焼土遺構集成図	122
(八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡)	
第59図 炭窯跡集成図(1)	123
第60図 炭窯跡集成図(2)	124

## 表 目 次

(八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡)	
第1表 周辺の遺跡一覧表	6
(八木沢Ⅱ遺跡)	
第2表 竪穴住居跡観察表	42
第3表 竪穴状遺構観察表	42
第4表 土坑観察表	42
第5表 陥し穴状遺構観察表	43
第6表 炭窯跡観察表	44
第7表 焼土遺構観察表	44
第8表 土器埋設遺構観察表	44
第9表 溝跡観察表	44
第10表 出土地点別土器重量表	72
第11表 遺構別出土遺物一覧表	73
第12表 土器観察表	73
第13表 土製品観察表	74
第14表 石器観察表	74
第15表 石製品観察表	75
第16表 石材略号一覧表	75
第17表 産地等略号一覧表	75
第18表 石器の器種別石材一覧表	75
第19表 陶磁器観察表	75
第20表 金属製品観察表	75
第21表 銭貨観察表	75
第22表 鉄滓類観察表	75
第23表 粒状滓観察表	77
第24表 鍛造剥片観察表	77
第25表 動物遺存体観察表	77
第26表 炭化種実観察表	77
第27表 炭化材観察表	77
(八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡)	
第28表 土坑観察表	100
第29表 陥し穴状遺構観察表	100
第30表 炭窯跡観察表	100
第31表 焼土遺構観察表	100
第32表 出土地点別土器重量表	117
第33表 土器観察表	117
第34表 鉄滓類観察表	118
第35表 炭化材観察表	118

## 写真図版目次

(八木沢Ⅱ遺跡)	
写真図版1 遺跡(1):調査区全景	165
写真図版2 遺跡(2):調査区(1)	166
写真図版3 遺跡(3):調査区(2): 埋没沢、基本土層	167
写真図版4 竪穴住居跡:S I 101、竪穴状遺構: S K I 101、炭窯跡:SW101	168
写真図版5 土坑(1):S K 101~104	169
写真図版6 土坑(2):S K 105~109	170
写真図版7 土坑(3):S K 110~113	171
写真図版8 土坑(4):S K 114~117	172
写真図版9 土坑(5):S K 119~122	173
写真図版10 土坑(6):S K 125・130~133	174
写真図版11 土坑(7):S K 134~138	175
写真図版12 土坑(8):S K 139~143	176
写真図版13 土坑(9):S K 144~146	177
写真図版14 土坑(10):S K 147・149~152	178
写真図版15 土坑(11):S K 153、溝跡:SD101、 土器埋設遺構:S Z 01	179
写真図版16 陥し穴状遺構(1): S K 118・123・124・126	180
写真図版17 陥し穴状遺構(2):S K 127・128・148	181
写真図版18 焼土遺構(1):S N 101~104	182
写真図版19 焼土遺構(2):S N 105~107(1)	183
写真図版20 焼土遺構(3):S N 107(2)~110	184
写真図版21 遺物出土状況:土器、鉄製品	185
写真図版22 土器(1)	186
写真図版23 土器(2)	187
写真図版24 土器(3)	188
写真図版25 土器(4)	189
写真図版26 石器(1)	190
写真図版27 石器(2)、石製品、陶磁器	191
写真図版28 金属製品:鉄製品、銭貨	192
写真図版29 鉄滓類(1)	193
写真図版30 鉄滓類(2)、動物遺存体、植物遺存体	194
(八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡)	
写真図版31 遺跡(1):調査区全景	195
写真図版32 遺跡(2):調査区、基本土層	196
写真図版33 遺跡(3):試掘	197
写真図版34 土坑(1):S K 01・02・04・07	198
写真図版35 土坑(2):S K 09・11、 陥し穴状遺構(1):S K 03	199
写真図版36 陥し穴状遺構(2):S K 05・06・08・10	200
写真図版37 炭窯跡(1):S W 01~04	201
写真図版38 炭窯跡(2):S W 05~08	202
写真図版39 炭窯跡(3):S W 09~11	203
写真図版40 炭窯跡(4):S W 12	204
写真図版41 焼土遺構:S N 01~03	205
写真図版42 土器、鉄滓類、炭化材	206



## I 調査に至る経過

八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡は、一般国道45号宮古道路事業の事業区域内に位置しているため、当該事業の施工に伴い、発掘調査を実施することとなったものである。

宮古道路事業は、宮古市内の国道45号の線形不良及び隘路箇所を解消し、増大する交通需要に対応するとともに、三陸沿岸地域への高速交通サービスの充実を図り、地域経済の発展・連携・交流の促進のために、平成15年度から事業化している。これに係わる埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについては、次のように進められた。

八木沢Ⅱ遺跡については、平成19年9月10日付け「国東整陸調第26-2号」により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課長に、埋蔵文化財包蔵地の確認依頼を行い、平成19年10月22日～11月12日にわたり試掘調査を行い、平成19年12月17日付け「教生第1110号」により、宮古道路建設事業に関連する包蔵地として回答がなされたものである。

その結果、本調査が必要となったことから、岩手県教育委員会と三陸国道事務所が協議を行い、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに発掘調査を委託することとなったものである。

八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡については、平成20年7月3日付け「国東整陸調第35号」により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課長に、埋蔵文化財包蔵地の確認依頼を行い、平成20年7月16日～8月12日にわたり試掘調査を行い、平成20年8月13日付け「教生第679号」により、宮古道路建設事業に関連する包蔵地として回答がなされたものである。

その結果、本調査が必要となったことから、岩手県教育委員会と三陸国道事務所が協議を行い、平成20年8月8日付け「国東整陸調第42-1号」を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに発掘調査を委託することとなったものである。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)

## Ⅱ 遺跡の位置と立地

### 1 遺跡の位置と地理的環境

本遺跡の所在する宮古市は岩手県の沿岸北部に位置し、北と北西側は岩泉町、西は川井村、南は山田町に接し、東側は太平洋に面している。平成17年6月に田老町・新里村と合併しており、面積約696.82km<sup>2</sup>、人口57,861人である（平成21年7月1日現在）。三陸海岸のほぼ中央に位置し、漁業・港湾・観光を柱に発展を目指す、本州最東端の市である。

八木沢Ⅱ遺跡は、宮古市八木沢第3地割字中村129ほかに所在し、宮古市の中央やや南側にあり、JR山田線磯鶏駅の南約2.8kmに位置する。八木沢川を下った地点の海岸線からの直線距離は約3.5kmである。同地点は北緯39度36分57秒、東経141度56分4秒付近に位置する。

八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡は、同八木沢第3地割字中村89ほかに所在し、JR山田線磯鶏駅の南西約3.8kmに位置する。八木沢川を下った地点の海岸線からの直線距離は約3.5kmである。同地点は北緯39度36分48秒、東経141度56分4秒付近に位置する。

八木沢Ⅱ遺跡および八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡は、国土交通省国土地理院発行5万分の1地形図「宮古」(N J-54-13-3)、同2万5千分の1地形図「宮古」(N J-54-13-3-1)の図幅に属する。

### 2 遺跡の立地と周辺の地形・地質

宮古市の地形は、西側に北上高地が南北に連なり、その東縁が直接太平洋に張り出している山地・丘陵地形で大半を占められている。そのなかに閉伊川・八木沢川・津軽石川とその支流によって形成された谷底地形・氾濫平野が分布する。なかでも川井村の兜明神岳に源を発して東流する閉伊川が、市域のほぼ中央を西から東に向かって流れ、太平洋に注いでいるが、この閉伊川の北側と南側によって宮古市域の地形は大きく分かれる。

八木沢Ⅱ遺跡は、閉伊川の南側に位置し、南西から北東方向に向かって流れる八木沢川に向かって流れる支流によって形成された谷底平野の南側の山地に立地している。調査区の標高は約50～30mである。調査区の範囲は、東西約80m、南北約130m、面積7,000m<sup>2</sup>である。遺跡の現況は山林と畑地である。

八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡は、八木沢川西側の山地に立地している。調査区の標高は約80～50mである。調査区の範囲は東西約80～110m、南北約60～80m、面積5,023m<sup>2</sup>である。遺跡の現況は山林である。ふたつの遺跡の今回の調査区は、いずれも三陸縦貫自動車道宮古道路建設予定地部分である。

### 3 周辺の遺跡

宮古市の遺跡数は、平成17年に合併された旧新里村地区、旧田老町地区を含め、579遺跡にのぼる。第5図は平成17年12月31日時点における岩手県遺跡検索システム（註1）に掲載されているもので、本遺跡周辺に分布する遺跡を図示したものである。それに加えて、近年の三陸縦貫道路宮古道路建設事業に係り、分布調査で新たに把握された試掘段階の遺跡や、新たに登録された遺跡も掲載した。第5図の図幅内（南北20km、東西16km）に登録されているのは250遺跡を数える。（第1表参照）

この地域は、縄文時代から近世までの遺跡が分布しており、縄文時代が154遺跡、古代（奈良・平

安とされたものも含む) 86遺跡、中世27遺跡、近世が4遺跡を数える(註2)。

縄文時代は、早期から晩期までの遺跡が確認されている。早期は菅ノ沢遺跡(22)、小沢貝塚(43)などで、土器片が確認されている程度であるが、前期に入ると徐々に堅穴住居跡をもつ遺跡数が増え、中期になると、遺跡数、遺物量ともに最盛期を迎える。磯鶏蝦夷森貝塚(131)や上村貝塚(128)、近内中村遺跡(24)などの比較的規模の大きい集落や、その反対に、2~3棟の小規模な集落も数多く営まれるようになる。後・晩期になると、遺跡数は減少するものの、近内中村遺跡(24)のように後期後半から晩期前半の遺構・遺物が大量に検出されるといった大集落が認められる。古代、特に平安時代に入ると、再び遺跡数が増加し、集落内に鍛冶炉、鉄滓、韃の羽口など、鉄生産に関連する遺構・遺物が、特徴的にあらわれる。このような鯉沢遺跡(138)、青猿I遺跡(74)など多くの遺跡でみられ、特に島田II遺跡(158)は当該期の岩手県内屈指の鉄生産遺跡であることが指摘されている。そして、中世に至ると、山口館、重茂館など、城館跡の増加が特筆され、登録されている27件の遺跡のうち、城館跡は22遺跡を数える。いずれも河川や急峻な斜面を自然要害として利用し、平場や空堀を構築するものである。本遺跡周辺には、八木沢古館(159)、八木沢新館遺跡(156)があり、八木沢氏に関わるものと考えられている。近世に入ると、遺跡数は減少し、黒森町I遺跡(42)で鋳物工房跡、磯鶏沖(136)で台場跡が検出されている程度である。

次に、第5図の図幅内に図示しえた250遺跡の中から、本遺跡と同時期である縄文時代の集落及び、古代の集落の特徴について主に立地の観点から概観する。

#### 縄文時代

縄文時代の遺跡は、北上山地から山地・支脈が延びて形成している山地・山岳地帯が大部分を占める宮古地区特有の地形を反映して、その立地に3つの傾向が認められる。第一に臨海性の小丘陵上に位置するもので、上村貝塚(128)、鉾ヶ崎館山貝塚(61)、金浜館(182)などがあげられる。上村貝塚では中期の堅穴住居跡11棟、鉾ヶ崎館山貝塚では中期の堅穴住居跡7棟が検出されている。金浜館ではフラスコ状土坑が47基検出されているため、周辺に大規模な集落の存在が推定されている。これらは小丘陵上で広い平坦面や緩斜面を利用して、比較的大規模な集落を形成することが多い。

第二に西流する大河川である閉伊川にそそぐ山口川、近内川などの中河川が形成した、谷底平野及び氾濫平野に立地するもので、近内中村遺跡(24)、高根遺跡(13)、菅ノ沢遺跡(22)、小平I遺跡(14)などがあげられる。この場合、周辺の山地から山口川、近内川に流れ込む小河川や沢が形成する崖錘性扇状地や緩斜面に立地する場合もあり、その規模によっては縄文中期から晩期までの拠点集落ともいべき近内中村遺跡や、中期の堅穴住居跡19棟を検出した小平I遺跡のように大集落を形成する場合もある。これらは閉伊川より北部の千徳丘陵域に多くみられる。

第三に八木沢丘陵、千徳丘陵、花輪山地などの小起伏山地のやせ尾根上に立地するものである。当八木沢II遺跡はこれに分類されるものであり、他には狐崎II遺跡(73)、木戸井内IV遺跡(106)、八木沢駒込II遺跡(165)(現在整理中)などが挙げられる。これらは尾根上あるいは尾根先端の緩斜面の狭い範囲を利用するため、堅穴住居跡が2~3棟程度の小規模な集落が多い。

また、縄文時代には遺跡内でも遺構別に、立地の違いがみられる。住居跡と貯蔵穴はセットで確認されることが多いが、前述した金浜館遺跡のように、貯蔵穴群のみが検出された例がある。墓壙についても上村貝塚では、住居跡内から人骨を伴った墓壙が検出される例がある一方、菅ノ沢遺跡のように、墓壙群として単独に確認されている遺跡もある。これらは、集落が大規模化すると、住居跡群と貯蔵穴群及び墓壙群を区分する傾向をもつようになると考えられる。また、陥し穴状遺構に関しては、居住の場、狩猟の場と区分されることが多く、集落跡と離れたところから検出される。また尾根上・



斜面・低地と、あらゆる地形に設けられている。この立地の差異は、遺構の形状の違いとあわせて、時期差や、狩猟対象、狩猟方法の違いを反映している可能性がある。

### 古代

古代の遺跡は、岩手県遺跡検索システムをみると、縄文時代の山地・丘陵上にある遺跡と共伴する例が多くみられる。他地域においては、古代になると、低地に集落が移動するのが一般的な傾向として認められるが、宮古地区ではそれとは異なる様相を示しており、むしろ、縄文時代の第二の特徴としてあげた、山口川・近内川などの中河川流域の、比較的標高の低い地域には、古代の集落が営まれなくなり、標高の高い尾根上や斜面に立地するものが多いのが特徴である。以下で事例を挙げながら、縄文時代の集落との立地の相違点を見ていく。

まず、縄文時代とも共通する立地である臨海性の小丘陵上にある遺跡は、上村貝塚（128）、鍬ヶ崎館山貝塚（61）などがある。上村貝塚は奈良～平安時代の住居跡が16棟、鍬ヶ崎館山貝塚は平安時代の住居跡3棟が検出されている。この場合、比較的広い平坦面を利用しており、集落の立地という点では、縄文時代と大きな変化はみられない。

次に山地・丘陵部の尾根上に集落が築かれているのは、島田Ⅱ遺跡（158）、磯鶏館山貝塚（137）である。これらは縄文時代のやせ尾根上に営まれる集落と立地的には共通しているが、より平坦部の広い尾根上を選択しており、集落の規模も10～30棟程度と飛躍的に大きくなる。そしてもうひとつ特徴的なのは、同じ山地、丘陵部の尾根から谷（洞）に下る斜面上に立地する集落が増加することである。当八木沢Ⅱ遺跡もこれに分類され、他に鰹沢遺跡（138）、木戸井内Ⅳ遺跡（106）があげられる。その谷は低地面が比較的広く、開けた谷部であることが多く、それを見下ろす形の斜面部から竪穴住居跡が検出される。鰹沢遺跡では、奈良時代から平安時代までの住居跡32棟が検出されており、それは時代が下るとともに、緩斜面から急斜面に進出して集落を営む傾向があると指摘されている（註3）。これらの尾根上や尾根からの斜面部に立地する遺跡は、竪穴住居跡とともに、その内外に製鉄関連の遺構（製鉄炉、大鍛冶炉、小鍛冶炉など）を伴うことが多い。そのため鉄生産関連の職人の移動と関連づけて考えられている（註3）。

以上みてきたように、縄文時代と古代の集落は、ともに山地・丘陵上を好んで営まれるという点では一致する。しかし、それは前述したこの地区特有の地形とともに、古代になって、社会的に鉄生産の重要性が増してくる中で、砂鉄が採取できるこの地域としての特異性によるものであり、土地選択の要因となる背景は大きく変化しているといえる。

なお、今回の調査対象範囲となった八木沢Ⅱ遺跡は、平成19年度に「可能性あり⑩」として試掘調査が行われた結果、本調査の対象となったものである（註4）。もともとは別遺跡と認識されていたが、平成19年度に調査した「八木沢Ⅱ遺跡」の南側にあたり、沢を挟んで南側に位置することから、同遺跡名が付けられたようである。八木沢Ⅱ遺跡の遺跡範囲が南側に拡大したかたちとなるが、その調整は、平成19年度の八木沢Ⅱ遺跡の調査終了後に担当調査員の知らない間に行われた。そのため、本来ならば2年間の調査成果を一括して報告するところであるが、平成19年度調査分を1次調査とし、平成20年度調査分を2次調査として、同一遺跡でありながら分割して報告する形となったものである。

### 註

- (1) 報告書一覧 42
- (2) 2時期以上を含む複合遺跡は重複して数えた。
- (3) 報告書一覧 28
- (4) 報告書一覧 13

## 4 基本土層

八木沢Ⅱ遺跡は、調査区が南北130m×東西80mとやや長い細長く、微地形は、北谷部・中央尾根部・南谷部に分かれ、尾根部と谷部が連続する地形である。特に北谷部は、現在、調査区の北側を東流する沢のかつての流路が埋没沢として複雑に入り込んでいた。そのため、尾根上と各谷部で地形に応じて基本土層の確認を行い、遺構検出面を確認した。地点により若干の差がみられるが、各観察地点の土層の堆積状況と基本土層は次のとおりである。

### (1) 各観察地点の土層の堆積状況と遺構検出面

観察地点①北谷部の北東側：盛土の下にⅡ層が堆積する。Ⅲ層が遺構検出面。

観察地点②北谷部の北西側：Ⅰ層直下にⅡ層が厚く堆積している。Ⅱ層からⅢ層が遺構検出面。

観察地点③中央尾根部：Ⅰ層直下がⅣ層で、Ⅱ・Ⅲ層は欠落している。Ⅳ層が遺構検出面。

観察地点④南谷部：斜面部はⅠ層直下がⅢ～Ⅳ層で、Ⅱ層は欠落している。Ⅲ層からⅣ層が遺構検出面。

遺跡の現況は山林で、調査区には伐採した立木の搬出のための作業道が縦断していた。調査区内の土層の堆積をみると、尾根部の上(観察地点③)ではⅠ層直下でⅣ層が確認され、斜面部ではⅠ層直下でⅢ層が確認された。よってⅢ層またはⅣ層が遺構検出面となった。斜面裾や谷部(観察地点①・②)ではⅠ層直下にⅡ層の堆積が確認された。調査では、このⅡ層中で焼土遺構や若干の遺物を確認している。よって谷部では、Ⅱ層上面を1次検出面、Ⅲ層上面を二次検出面とし、Ⅱ層が厚く堆積するところは、段階的に掘り下げて遺構の確認を行った。

八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡の基本土層の堆積状況と遺構検出面は、基本的に八木沢Ⅱ遺跡と同様である。尾根上(観察地点①・②)は、おおむねⅠ層の表土直下がⅢ層となり、表土も薄く、削平されていることが確認された。斜面部では、緩斜面と急斜面で様相が異なる。緩斜面(特に東谷部)では、Ⅱ層が厚く堆積している状況が確認された。急斜面(南谷部)では、Ⅰ層直下がⅢ層またはⅣ層となり、本来の堆積物は斜面下に流出しているものと推測される。

### (2) 基本土層

I層 10Y R 2/2 黒褐色 層厚10～110cm シルト 締り疎 現表土(盛土、漸移層含)

II層 10Y R 3/4 暗褐色 層厚20～120cm シルト 締り中(谷部に厚く堆積する一次検出面)

III層 10Y R 5/6 黄褐色 層厚20～40cm 粘土 締り密 いわゆる地山(尾根部の一次検出面、谷部の2次検出面)

IV層 10Y R 8/2 灰黄褐色 層厚50cm以上 マサ土 基盤となる礫層に続く(尾根部の二次検出面)

第1表 周辺の遺跡一覧表

掲載 No.	遺跡コード		遺 跡 名	種 別	時代・時期	報告書
	L.G.	No.				
1	22	1365	柵館Ⅲ	散布地	縄文・弥生・古代	
2	22	1388	柵館Ⅱ	散布地	縄文	
3	22	2347	与茂子Ⅰ	散布地	縄文	
4	22	2385	与茂子Ⅱ	散布地		
5	22	2387	桜木	散布地	縄文・古代	
6	23	1042	アサナイ沢	散布地	縄文・古代	
7	23	1068	蜂ヶ沢Ⅱ	散布地		
8	23	1121	蜂ヶ沢Ⅳ	散布地		
9	23	1151	蜂ヶ沢Ⅲ	散布地		
10	23	1216	小平Ⅲ	散布地	縄文	
11	23	1233	牛沢	散布地	縄文	
12	23	1234	小平Ⅱ	散布地	縄文	
13	23	1253	高根	土坑墓群	縄文	20・28
14	23	1255	小平Ⅰ	散布地	縄文	5
15	23	1295	赤畑東	散布地	縄文・近世	2
16	23	1309	南沢Ⅰ	散布地		
17	23	1326	黒森	散布地		
18	23	1332	黒森山	寺院跡		
19	23	1349	寒風	集落跡	縄文・古代	1・18
20	23	1364	黒森マギ沢	散布地	縄文	
21	23	2021	柵館Ⅰ	散布地	縄文	
22	23	2024	菅ノ沢	集落跡	縄文・古代	40
23	23	2055	横川	散布地	縄文・古代	
24	23	2059	近内中村	集落跡	縄文・弥生・古代	41
25	23	2104	蜂ヶ沢Ⅰ	集落跡	縄文・古代	
26	23	2133	近内踊場	散布地		
27	23	2162	近内館	城館跡	中世	
28	23	2194	近内白石Ⅰ	製鉄跡		
29	23	2196	近内大館	城館跡	中世	
30	23	2197	近内白石Ⅱ	散布地	縄文・古代	
31	23	2215	赤畑	集落跡	縄文・近世	2・32
32	23	2231	山口駒込Ⅱ	集落跡		
33	23	2244	山口駒込Ⅰ	集落跡	縄文・奈良	
34	23	2246	天神山	散布地	縄文・古代・弥生	32
35	23	2282	延所	散布地	縄文	
36	23	2310	山口館	城館跡	中世・古代	6・10・32・35
37	23	2323	拝殿峠	集落跡	縄文	
38	23	2325	小沢Ⅴ神龍石	散布地・祭祀跡	縄文・古代	
39	23	2336	小沢Ⅳ人形鼻	散布地	縄文・古代	
40	23	2346	小沢Ⅲ石倉平	散布地	縄文	
41	23	2353	拝殿ヶ沢	散布地	縄文・古代	
42	23	2362	黒森Ⅰ	屋敷跡・鋳造遺跡	近世	27
43	23	2377	小沢貝塚	貝塚	縄文	
44	24	1000	早稲橋Ⅴ	散布地	縄文	
45	24	1020	早稲橋Ⅳ	散布地	縄文	18
46	24	1069	佐原	集落跡	縄文	
47	24	1166	平松Ⅰ	集落跡	縄文	
48	24	1184	平松Ⅱ	散布地	縄文	
49	24	1187	平松Ⅲ	散布地	縄文	
50	24	2003	日の出町Ⅰ	散布地	縄文	
51	24	2033	日の出町Ⅱ	散布地	縄文	
52	24	2044	日の出町Ⅲ	散布地	縄文	
53	24	2076	沢田Ⅰ	散布地	古代	
54	24	2080	小沢Ⅱ大上	散布地	縄文	36
55	24	2087	沢田Ⅱ	散布地		
56	24	2111	熊野町	番屋跡?	中世	26
57	24	2150	日影町Ⅰ	散布地	縄文	
58	24	2158	井戸ヶ洞	集落跡	縄文	
59	24	2175	日影町Ⅱ	散布地		
60	24	2183	鍛ヶ崎館(館山)	城館跡	中世	
61	24	2184	鍛ヶ崎館山貝塚	集落跡・貝塚	縄文～中世	24
62	24	2190	小山根	散布地	縄文・弥生・古代	
63	32	1335	下根市	散布地	縄文	
64	32	2333	田鎖館(三合並館)	城館跡	中世	
65	32	2358	田鎖	散布地	縄文・古代	
66	33	0087	室井沢Ⅰ	散布地	縄文・古代	
67	33	0099	神田沢	散布地	縄文・古代	
68	33	0138	近内寺本	散布地	縄文・古代	
69	33	0148	近内寺本	散布地	古代	
70	33	0197	千徳城遺跡群	城館跡	奈良・平安・中世	14・25
71	33	0202	青猿Ⅲ	散布地	縄文・古代	
72	33	0207	狐崎	集落跡	縄文・奈良・平安	22
73	33	0218	泉町狐崎Ⅱ	集落跡	縄文・奈良・平安	21
74	33	0220	青猿Ⅰ	集落跡・製鉄跡	縄文・平安	19・25
75	33	0222	青猿Ⅱ	集落跡	弥生・平安	

掲載 No.	遺跡コード		遺 跡 名	種 別	時代・時期	報告書
	L.G.	No.				
76	33	0225	長根Ⅳ	散布地		
77	33	0226	長根Ⅴ	散布地		
78	33	0234	長根Ⅲ	散布地	古代	
79	33	0236	長根寺Ⅰ	集落跡		
80	33	0229	泉町狐崎Ⅲ	散布地		
81	33	0245	長根Ⅱ	散布地	古代	
82	33	0247	長根寺Ⅱ	散布地	縄文・古代	
83	33	0253	長根Ⅰ	群集墳	弥生～中世	3
84	33	0257	長根寺Ⅲ	散布地	縄文・古代	
85	33	0321	泉町狐崎Ⅰ	散布地	古代	21
86	33	0311	鴨崎Ⅰ	集落跡	古代	
87	33	0322	鴨崎Ⅱ	散布地	古代	
88	33	0340	笠間館	城館跡	中世	
89	33	0385	横山	集落跡・貝塚	古代	
90	33	1008	室井沢Ⅱ	散布地		
91	33	1019	板屋Ⅰ	散布地		
92	33	1120	板屋Ⅱ	散布地		
93	33	1237	岩ヶ沢	散布地	縄文・古代	
94	33	1273	木戸井内	散布地	縄文	
95	33	1370	小山田館	城館跡	中世	
96	33	1380	小山田Ⅰ	散布地	古代	
97	33	1389	小山田Ⅲ	城館跡	中世	
98	33	2086	松山館	城館跡	古代・中世	
99	33	2162	松山下谷地	散布地	縄文・古代	
100	33	2166	松山大地田沢	集落跡	古代	
101	33	2189	隠里Ⅱ	集落跡	縄文・古代	
102	33	2197	隠里Ⅰ	集落跡	縄文・古代	
103	33	2214	木戸井内Ⅱ	散布地	古代	
104	33	2227	木戸井内Ⅲ	散布地	縄文・弥生	
105	33	2260	隠里Ⅷ	散布地	縄文	12
106	33	2263	木戸井内Ⅳ	集落跡	古代・縄文	12・39
107	33	2288	八木沢守ノ越Ⅱ	散布地	縄文	
108	33	2292	隠里Ⅲ	集落跡	縄文・古代	12
109	33	2306	小山田Ⅱ	散布地	古代	
110	33	2343	猿峯峠	散布地	古代・縄文	
111	33	2349	磯鶏竹洞Ⅱ	集落跡	縄文・古代	
112	33	2351	八木沢守ノ越Ⅳ	散布地	縄文・古代	
113	33	2372	八木沢守ノ越Ⅲ	散布地	縄文・古代	
114	33		可能性あり①			
115	33		可能性あり②			
116	34	0025	黒田館	城館跡	中世	
117	34	0122	夏保	散布地	縄文	
118	34	0103	鍛ヶ崎仲町	散布地	縄文	
119	34	0124	鍛ヶ崎上町	散布地	縄文	
120	34	0143	光岸地	集落跡・貝塚		
121	34	1007	藤原上町Ⅰ	散布地	縄文・古代	
122	34	1027	藤原上町Ⅱ	集落跡	奈良	
123	34	1045	藤原上町Ⅲ	散布地	縄文・古代	
124	34	1047	磯鶏石崎	散布地	縄文・古代	
125	34	1073	小沢田	貝塚	縄文・古代	
126	34	1075	早坂	貝塚	縄文・弥生	
127	34	1084	上村Ⅱ	散布地	縄文・古代	
128	34	1085	上村貝塚	集落跡・貝塚	縄文～平安	4
129	34	1091	上村Ⅲ	散布地	縄文・古代	34
130	34	2001	上村Ⅳ	散布地	縄文・古代	
131	34	2007	磯鶏蝦夷森貝塚	貝塚	縄文・古代	
132	34	2013	磯鶏竹洞Ⅰ	集落跡	平安・古代	
133	34	2076	仏沢Ⅰ	散布地	古代	
134	34	2091	島田Ⅰ	集落跡	平安	17
135	34	2097	仏沢Ⅱ	集落跡	縄文・平安	
136	34	2133	磯鶏沖	台場	近世・中世	
137	34	2155	磯鶏館山	集落跡・城館跡	縄文～中世	23・31
138	42	0355	鑿沢	集落跡	平安・奈良	29
139	42	0384	花輪館	城館跡	中世	
140	42	1312	程久保	城館跡	中世	
141	42	1395	下折壁Ⅱ	城館跡	中世	
142	42	2326	下折壁Ⅰ	散布地	縄文	
143	42	2391	中折壁Ⅰ	散布地	縄文	
144	42	2398	下大野Ⅰ	散布地	縄文	
145	43	0044	真木田	散布地	縄文	
146	43	0102	七所沢Ⅰ	散布地	古代	
147	43	0122	七所沢Ⅱ	散布地	縄文	
148	43	0138	隠里Ⅶ	散布地		
149	43	0163	七所沢Ⅲ	散布地	縄文	
150	43	0200	隠里Ⅳ	散布地	縄文・古代	

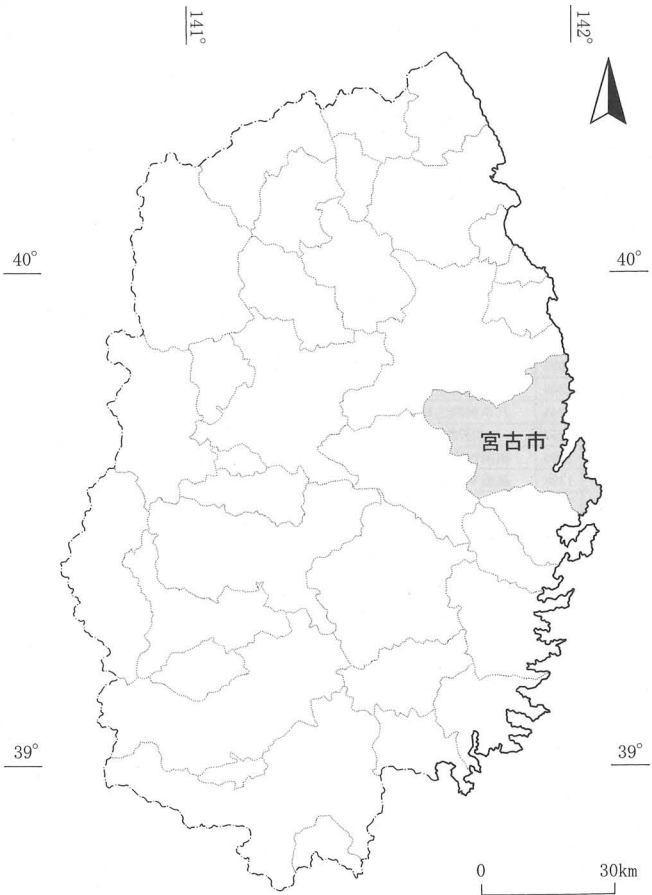
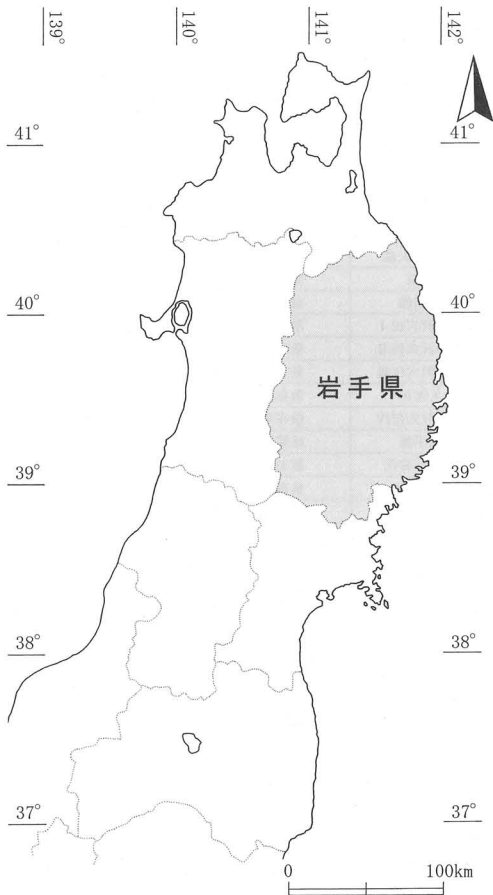


掲載 No.	遺跡コード LG No.	遺 跡 名	種 別	時代・時期	報告書
152	43 0212	隠里Ⅴ	散布地	古代	
153	43 0230	隠里Ⅵ	散布地	古代	
154	43 238	八木沢Ⅲ	生産遺跡	古代	
155	43 0301	八木沢守ノ越Ⅰ	散布地	縄文	
156	43 0312	八木沢新館	城館跡	中世・近世	
157	43 0330	八木沢Ⅰ白山下	散布地	縄文	
158	43 0338	島田Ⅱ	集落跡	古代	7・8・9
159	43 0357	八木沢古館	城館跡	中世	38
160	43 1012	向沢	散布地	縄文	
161	43 1040	鱒沢館	城館跡	中世	
162	43 1042	鱒沢Ⅰ	集落跡		
163	43 1073	鱒沢Ⅱ	散布地	縄文	
164	43 1206	八木沢駒込Ⅰ	集落跡	縄文・古代	12・38
165	43 1244	八木沢駒込Ⅱ	散布地	縄文	11
166	43 1257	八木沢野来	集落跡	縄文	11
167	43 1369	高浜Ⅳ横須賀	散布地	縄文	
168	43 1398	高浜Ⅴ下地神	散布地	縄文	
169	43 2068	大谷地Ⅲ	散布地		
170	43 2076	大谷地Ⅳ	散布地	縄文	
171	43 2143	大谷地Ⅰ	散布地	縄文	
172	43 2147	下大谷地Ⅵ	散布地	縄文	
173	43 2170	大谷地Ⅱ	集落跡	縄文	
174	43 2204	下大谷地Ⅱ	集落跡	縄文	
175	43 2206	下大谷地Ⅰ	散布地	縄文	11
176	43 2209	養ノ神	散布地	縄文	11
177	43 2222	下大谷地Ⅲ	散布地	縄文	
178	43 2325	下大谷地Ⅳ	散布地	縄文	
179	43 2264	下大谷地Ⅴ	散布地	縄文	
180	43 2314	金浜堤ヶ沢	製鉄跡		
181	43 2316	高浜Ⅵ地神	散布地	縄文	
182	43 2335	金浜館	城館跡	中世	16
183	43 2342	金浜Ⅰ	散布地	縄文	
184	43 2363	金浜Ⅱ	集落跡	古代	
185	43 2384	金浜Ⅲ	散布地	縄文・古代	
186	43 2394	金浜Ⅳ	散布地	縄文	
187	43 2353	可能性あり①			11
188	43 2341	可能性あり②			11
189	43 2331	可能性あり③			11
190	43 2320	可能性あり④			11
191	43 2310	可能性あり⑤			11
192	43 2229	可能性あり⑥			11
193	43 0279	八木沢ラントノ沢Ⅰ			11・12
194	43	可能性あり⑨			11
195	43	可能性あり⑩→八木沢Ⅱに統合される。			11・13
196	43 0364	八木沢中田			38
197	44 0003	磯鶏中谷地	散布地	古代	
198	44 0095	高浜Ⅰ坂ノ下	散布地	縄文	
199	44 0268	白浜Ⅱ	散布地	縄文	
200	44 0287	白浜Ⅲ	散布地	縄文	
201	44 0351	白浜Ⅰ	集落跡	縄文	
202	44 1013	高浜Ⅱ今ヶ洞	散布地	縄文	
203	44 1032	高浜Ⅲ熊野	散布地	縄文	
204	44 1155	堀内Ⅰ	散布地	縄文	
205	44 1209	白浜Ⅳ	散布地	縄文	
206	44 1234	白浜太田浜Ⅰ	散布地	縄文	
207	44 1247	白浜太田浜Ⅱ	散布地		
208	44 1271	白浜太田浜Ⅲ	散布地	縄文	
209	44 1282	白浜太田浜Ⅳ	散布地	縄文	
210	44 1290	白浜太田浜Ⅴ	散布地	縄文	
211	44 1311	白浜Ⅴ	散布地	縄文	
212	44 2167	堀内Ⅱ	散布地	縄文	
213	44 2176	堀内Ⅴ	散布地	縄文	
214	44 2195	堀内Ⅳ	散布地	縄文	
215	44 2290	堀内Ⅲ	散布地	縄文	
216	52 0328	下大野Ⅱ	散布地		
217	52 0336	中大野Ⅰ	散布地		
218	52 0347	中大野Ⅱ	散布地		
219	52 0357	上大野Ⅰ	集落跡	縄文	
220	52 0379	長沢横街道Ⅱ	散布地		
221	52 0387	上大野Ⅱ	散布地	縄文	
222	52 1317	上大野Ⅲ	散布地		
223	52 1306	上大野Ⅳ	散布地	古代	
224	53 0027	大谷地Ⅴ	散布地	縄文	
225	53 0060	長沢横街道Ⅰ	散布地	縄文	

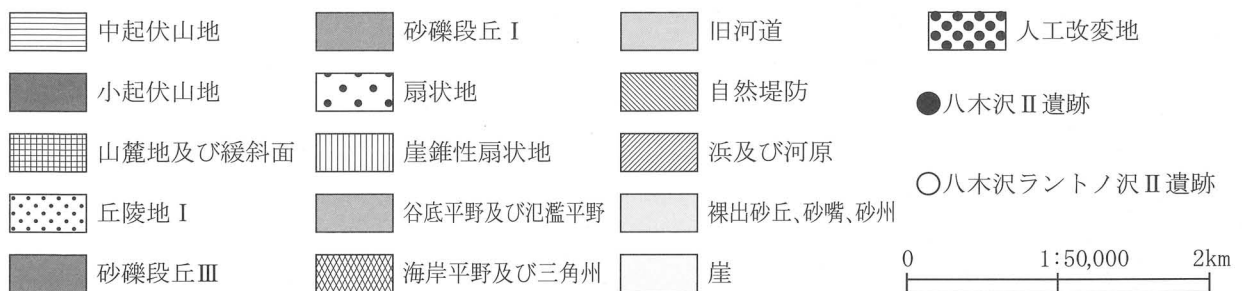
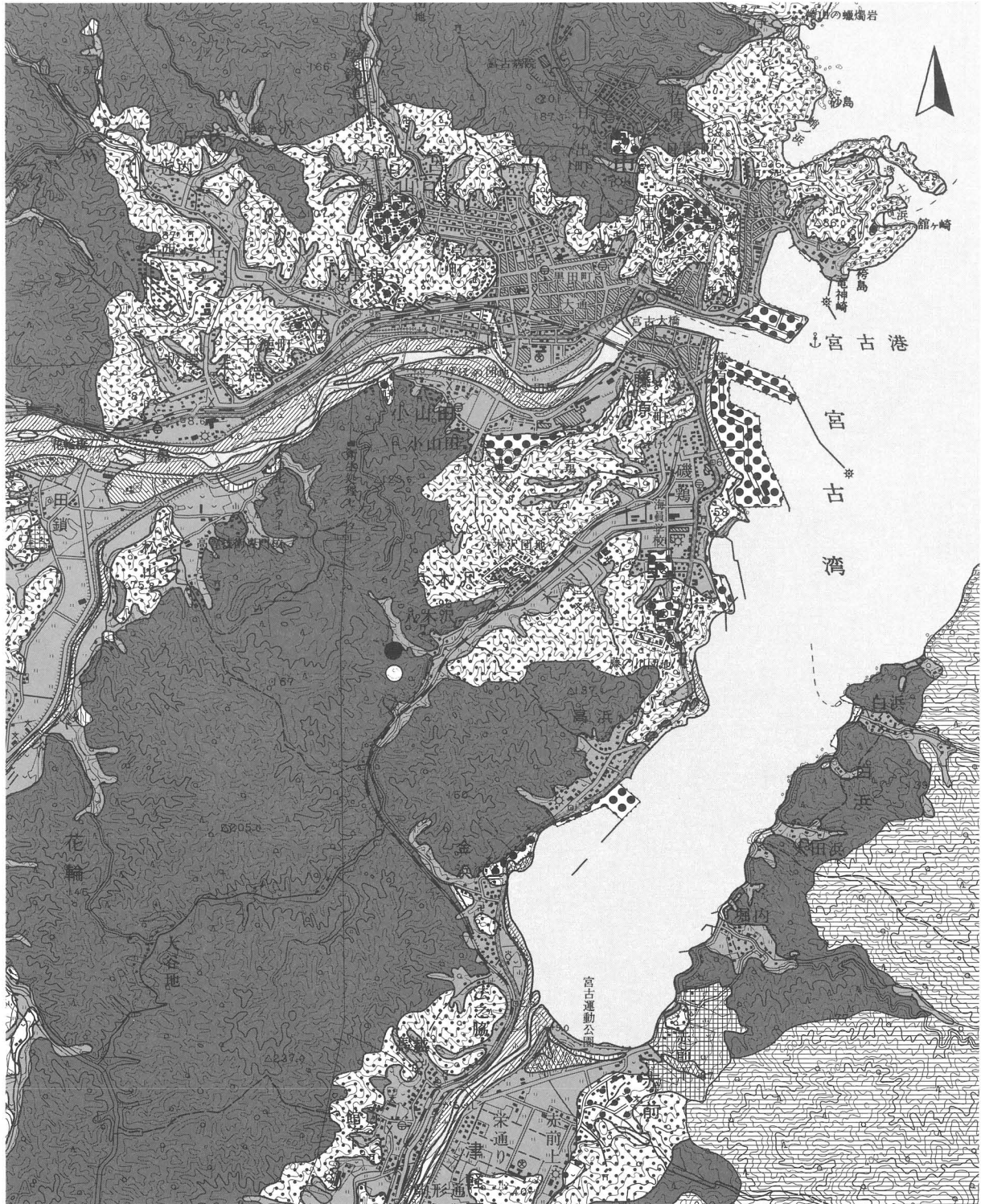
掲載 No.	遺跡コード LG No.	遺 跡 名	種 別	時代・時期	報告書
227	53 0246	馬越Ⅱ	集落跡	古代	
228	53 0268	馬越Ⅰ	散布地	縄文・古代	
229	53 0313	金浜Ⅴ	散布地	縄文	
230	53 0382	山崎館	城館跡	中世	
231	53 1093	長沢横街道Ⅳ	散布地	縄文	
232	53 1194	根井沢寺ヶ沢	散布地	古代	
233	53 1207	津軽石大森	散布地	縄文	
234	53 1225	沼里	集落跡	縄文・奈良	37
235	53 1266	沼里館	城館跡	中世	
236	53 1273	根井沢穴田Ⅰ	散布地	縄文・古代	
237	53 1281	根井沢穴田Ⅱ	散布地	縄文	
238	53 1290	根井沢穴田Ⅲ	散布地	縄文	
239	53 1389	久保田	散布地	縄文・古代	
240	53 2201	根井沢穴田Ⅳ	散布地	縄文	
241	53 2205	高平館	城館跡	中世	
242	54 0089	赤前Ⅴ柳沢	散布地	縄文・古代	15・33
243	54 0113	小堀内Ⅰ	集落跡	縄文・弥生	
244	54 0123	小堀内Ⅱ	散布地	縄文	
245	54 0142	小堀内Ⅲ	散布地	縄文・奈良	33
246	54 0160	赤前Ⅵ釜屋ヶ沢	散布地	縄文・古代	15・33
247	54 1008	赤前Ⅳ八枚田	集落跡	縄文・平安	15・33
248	54 1025	赤前Ⅲ	集落跡	縄文・平安	15・33
249	54 1064	赤前館	城館跡	中世	15
250	54 1072	赤前Ⅰ牛子沢	散布地	縄文	15・30

周辺の遺跡 報告書一覧表

岩手県埋蔵文化財センター			
集	報 告 書 名	年	
1	43 『寒風遺跡発掘調査報告書』	1981	
2	142 『赤畑遺跡発掘調査報告書』	1989	
3	145 『長根Ⅰ遺跡発掘調査報告書』	1990	
4	158 『上村貝塚発掘調査報告書』	1990	
5	299 『小平Ⅰ発掘調査報告書』	1999	
6	310 『山口館跡発掘調査報告書』	1999	
7	337 『島田Ⅱ遺跡試掘調査報告書』	1999	
8	368 『島田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』	2001	
9	450 『島田Ⅱ遺跡第2～4次発掘調査報告書』	2004	
10	485 『山口館跡発掘調査報告書』	2006	
11	490 『平成17年度発掘調査報告書』	2006	
12	505 『平成18年度発掘調査報告書』	2007	
13	524 『平成19年度発掘調査報告書』	2008	
宮古市教育委員会			
14	2 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』	1980	
15	5 『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査』	1984	
16	7 『金浜館跡』	1986	
17	10 『中谷地・島田遺跡』	1987	
18	12 『寒風・早稲橋Ⅳ遺跡』	1987	
19	14 『青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群』	1988	
20	19 『高根遺跡』	1989	
21	20 『狐崎Ⅱ遺跡』	1989	
22	22 『狐崎遺跡』	1990	
23	24 『磯鶏館山遺跡-第2次調査-』	1990	
24	25 『鍛ヶ崎館山貝塚』	1990	
25	27 『青猿Ⅰ遺跡・千徳城遺跡群』	1991	
26	28 『熊野町遺跡』	1990	
27	32 『黒森町Ⅰ遺跡』	1992	
28	33 『高根遺跡-第2次調査』	1992	
29	34 『鯉沢遺跡』	1992	
30	42 『赤前Ⅰ牛子沢遺跡』	1995	
31	43 『磯鶏館山遺跡』	1995	
32	51 『赤畑・天神山・山口館跡』	1998	
33	53 『小堀内Ⅲ・赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢遺跡』	1999	
34	56 『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡』	1999	
35	57 『山口館跡』	2002	
36	58 『小沢Ⅱ大上遺跡』	2002	
37	60 『上根井沢Ⅰ遺跡・沼里遺跡』	2003	
38	67 『八木沢古館・八木沢中田・八木沢駒込Ⅰ遺跡』	2006	
39	68 『木戸井内Ⅳ遺跡』	2006	
40	69 『菅ノ沢遺跡』	2006	
41	『近内中村遺跡-第1次～7次発掘調査の概要-』		2001
岩手県教育委員会事務局			
42	岩手県遺跡検索システム(宮古地方振興局)バージョン1.05(平成17年12月31日現在)		










第1図 遺跡位置図



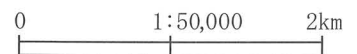
第 2 図 遺跡周辺の地形分類図





- |  |  |  |  |
|--|--|--|--|
|  砂礫 (沖積性) |  礫岩     |  安山岩質岩石 |  斑礫岩質岩石 |
|  砂礫 (洪積性) |  流紋岩質岩石 |  花崗岩質岩石 | ● 八木沢Ⅱ遺跡   |

○ 八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡



第3図 遺跡周辺の地質分類図



第4図 周辺の遺跡図幅位置図



第5図 周辺の遺跡分布図

### Ⅲ 調査・整理の方法

#### 1 野外調査

##### (1) 調査区の設定と遺構の命名

###### ①八木沢Ⅱ遺跡

調査区の地区割にあたっては、平面直角座標（第X系：世界測地系）に合わせた基準点1・基準点2を中心にして、調査区全体にメッシュがかかるようにグリッドを設定した。設定した基準点の座標は世界測地系であり、座標値は以下のとおりである。

基準点1	X=-42076.000	Y=94620.000	H=36.596m
基準点2	X=-42076.000	Y=94556.000	H=30.595m
補点1	X=-42136.000	Y=94536.000	H=47.725m
補点2	X=-42136.000	Y=94556.000	H=44.782m
補点3	X=-42180.000	Y=94556.000	H=43.996m
補点4	X=-42180.000	Y=94584.000	H=45.725m

この基準点2点・補点4点を基準としてグリッドを設定した。原点（X=-42040.000、Y=94480.000）を北西側隅にして、40m四方の大グリッドを設定し、さらに4m四方の小グリッドを設定した。グリッド名は、大グリッドは北から南に向かってⅠ・Ⅱ・Ⅲ（ローマ数字）…、西から東に向かってA・B・C（アルファベット大文字）…とし、小グリッドは北から南に向かって1・2・3（アラビア数字）…、西から東に向かってa・b・c（アルファベット小文字）…とした。それぞれの組み合わせでⅠA1a・ⅠB1bグリッドの区画名を付し、区画左上の杭をもって、その区画のグリッド名称を表した。

###### ②八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡

調査区の地区割の方法は、八木沢Ⅱ遺跡に準じている。設定した基準点の座標は世界測地系であり、座標値は以下のとおりである。

基準点1	X=-42300.000	Y=94540.000	H=82.419m
基準点2	X=-42332.000	Y=94540.000	H=74.918m
補点1	X=-42288.000	Y=94580.000	H=73.372m
補点2	X=-42332.000	Y=94580.000	H=73.855m
補点3	X=-42256.000	Y=94612.000	H=62.894m
補点4	X=-42332.000	Y=94612.000	H=69.997m

##### (2) 遺構の名称

検出された遺構の名称は、遺構の種類に応じてアルファベットで略号化し、検出順にそれぞれ番号を付けて、SⅠ01・SK02のように命名した。精査の過程や終了後に検討した結果、遺構ではないと判断したものや、遺構の種類を変更した番号については、混乱を防止するために欠番とした。報告にあたって現場で命名した遺構名をそのまま使用しているため一部欠番を生じている。本調査で使用した遺構略号・遺構種別・検出数・遺構名は以下に記したとおりである。なお、遺構名の一覧表は第6図に遺構配置とともに示した。

###### ①八木沢Ⅱ遺跡

SⅠ：竪穴住居跡、SKⅠ：竪穴状遺構、SK：陥し穴状遺構・土坑、SN：炉跡・焼土遺構、SZ：土器埋設遺構、SD：溝跡、SW：炭窯跡



八木沢Ⅱ遺跡は、平成19年度調査に次いで二度目の調査（二次調査）となる。そのため、遺構名の名称については、調査時には01（1番台）から付していたが、報告に際して101（百番台）より番号を付すこととして整理時に変更した。

遺構種別：検出数：遺構名

竪穴住居跡 1 棟：S I 101

竪穴状遺構 1 棟：S K I 101

土 坑44基：S K 101・102・103・104・105・106・107・108・109・110・111・112・113・114・  
115・116・117・119・121・122・125・130・131・132・133・134・135・136・137・  
138・139・140・141・142・143・144・145・146・147・149・150・151・152・153  
※120・129欠番

陥し穴状遺構 7 基：S K 118・123・124・126・127・128・148

炭窯跡 1 基：S W 101

炉跡・焼土遺構10基：S N 101・102・103・104・105・106・107・108・109・110

土器埋設遺構 1 基：S Z 101

溝 跡 1 条：S D 101

②八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡

八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡では、01より番号を付すこととした。

土 坑 6 基：S K 01・02・04・07・09・11

陥し穴状遺構 5 基：S K 03・05・06・08・10

炭窯跡12基：S W 01・02・03・04・05・06・07・08・09・10・11・12

### （3）試掘・粗掘と遺構検出

当初、幅1～2m、長さ5～10mのトレンチを地形に応じて任意の場所に入れ、土層の堆積状況を把握した。試掘溝の設定にあたっては、八木沢Ⅱ遺跡については、平成19年度の試掘調査の成果を考慮しながら、計43本の試掘溝を入れている。八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡では、57本の試掘溝を入れている。

試掘の結果、急斜面地で遺構・遺物が存在する可能性が低いと判断された区域は、試掘調査のみで調査を終えた。それ以外の区域においては、試掘にもとづいて表土掘削を行った。調査区全体の表土の厚さは20～30cm程あり、包含する遺物はほとんどないことを確認し、重機により表土除去を行った。

遺構検出は人力で行った。尾根上ではⅢ層の黄褐色土層（一次検出）またはⅣ層マサ土層（二次検出）で遺構検出を行い、谷部ではⅡ層黒褐色土層（一次検出）またはⅢ層黄褐色土層（二次検出）で遺構検出を行った。

### （4）精 査

検出された遺構は、原則として住居跡や炭窯跡など大形の遺構の場合は4分法、土坑類は2分法で行った。精査の各段階において必要図面の作成や写真撮影を適宜行っている。陥し穴状遺構の底面で確認された副穴は、径が小さく深いことから、トレンチを設定して断面観察による記録を優先して作成している。

遺構内出土の遺物は、覆土で可能な限り分層して取り上げ、床面出土の遺物は写真撮影・図面作成後に取り上げた。遺構外出土の遺物については、原則としてグリッドごとに出土した層位を記して取り上げ、適宜、写真撮影・図面作成を行っている。また、現場での記録作成では、上記の図面・写真以外にField・Card（以下F・Cと略す）を使用して、遺跡の調査経過や遺構の精査の進捗状況を記録している。

### (5) 実測・写真撮影

平面実測はグリッドごとに合わせた1 mメッシュを基準として行った。平面図・断面図の縮尺は竪穴住居跡・土坑類・炭窯跡は1/20を基本として、マイラー用紙に記録した。レベルは、基準高をもとに絶対高で測った。なお、トレンチ位置図・個々の遺構平面図については、グリッド杭・水系によって設けられた基準から計測する簡易遣り方測量ではなく、電子平板を用いて図化作業を行った。断面実測については、任意の高さを基に設定した水系を基準として計測を行った。

写真撮影は、35mmモノクロームとカラーリバーサル各1台、モノクローム6×9 cm判1台、補助用としてデジタルカメラ1台を使用して調査員が行った。撮影に際しては、整理時の混乱を避けるために撮影カードを使用した。実際の撮影は、各種遺構の覆土堆積状況、掘り上げ状況、遺物の出土状況などについて行った。調査終了段階でセスナ飛行機による航空写真撮影を行った。

### (6) 土層注記

断面図作成後に土層注記を行った。観察項目は、色調・土性・締まり・混入物などである。基本的には『新版標準土色帳』（1990年版、小山正忠・竹原秀雄編・著）をもとに行っているが、締まりは、密・やや密・中・やや疎・疎、の5段階で判断した。個々の遺構の覆土堆積状況は、自然か人為かの判断と、埋没している土の起源を把握することを課題とした。層名は調査区内に見られる基本的な土層をローマ数字（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）、遺構内覆土をアラビア数字（1・2・3）で表した。層位の細分の必要が生じた場合は、小文字のアルファベットを付し、Ⅰa・Ⅰb・Ⅰc・・・などと表わした。

### (7) 土壌水洗

縄文時代の住居跡と炉跡や焼土遺構においては、動物遺存体が存在する可能性、古代の炉跡・焼土遺構においては、製鉄関連の遺構である可能性を考慮し、住居跡の覆土下位（床上3 cm）の覆土、住居跡の炉跡の覆土及び焼土・カマドの覆土及び焼土を採取し、水洗い・天日での乾燥・篩（5 mm・3 mm・1 mm）による仕分け・磁着作業を行った。この工程を経て得られた遺物には、土器・石器の細片や鉄滓類・鍛造剥片・砂鉄、動物遺存体・植物遺存体などがある。

### (8) 調査の経過

#### ①八木沢Ⅱ遺跡

調査期間は4月8日～7月15日で、作業実働日数は60日であった。作業員の登録人数は、当初23人で始まり、一日の平均稼働作業員数は21人ほどで作業を行った。以下に調査経過を簡略に記す。

- 4月8日（火）午後から資材搬入、現場設営
- 4月17日（木）基準点測量（釜石測量設計株式会社）
- 6月17日（火）部分終了確認
- 6月17日（火）航空写真撮影（東邦航空）
- 7月9日（水）終了確認
- 7月15日（火）調査終了

具体的な調査の進行状況を記す。調査対象区域は、平成19年度に試掘調査が行われた7,450㎡より、本調査対象範囲として示された7,000㎡である。調査区の現況は、北側は畑地、南側は山林であった。南側の山林の伐採は、4・5月に行われたため、4・5月は、主に北谷・中央尾根の北側部分5,000㎡の調査を行い、6月17日に部分終了確認を受け、調査を終えた6月末に委託者に引き渡している。伐採の終えた南側については、主に6・7月に調査を行い、7月15日に調査を終了した。遺跡の公開等は、工事が急がれていたこと。隣接地で並行して道路工事が行われていたことから行わなかった。

作業は、調査区の確認を行った後、人力で雑物撤去を行い、各所に雑物を集積した。集積した雑物

## 1 野外調査

は、後に重機で調査区域外に搬出している。雑物撤去が終了した区域から、任意にトレンチを設けて試掘調査を行った。試掘調査の留意点は、遺構の検出面の把握と尾根部・谷部が連続する調査区における土層の確認である。また、平成19年度に行われた試掘調査で確認されている、遺構の確認にも留意して行った。設定したトレンチは43本である。次に調査区内を地形区分により三つに分けて進行状況を記す。

北谷部は、試掘を行った結果、現況では一見平坦に見えるものの、現在、調査区北側を流れている沢の旧河道が何重にも入り込み、埋没していたことが判明した。旧地形の把握は容易ではなく、その把握と排出した土量の多さは、調査の進行にも影響を及ぼした。掘削した土量は、調査区の北側に仮の廃土場を設けて搬出した。西側の緩斜面では土坑・陥し穴、南側の平坦面では竪穴住居跡や定形的な大形の土坑がまとまって確認された。また、北側の低地では古代の鍛冶炉や炭窯跡など鉄生産に関連する遺構がまとまって確認された。中央尾根部については、試掘調査を行い、土坑や溝跡などの遺構が確認された地点について範囲を拡張して精査を行った。急斜面となる北側・南側の斜面では遺構・遺物が確認されなかったため試掘のみで調査を終えた。南谷部の谷底では湧水が確認され、遺構・遺物は確認されなかった。斜面裾で土坑・陥し穴、谷部で雨裂溝を確認している。遺物はほとんど出土していない。野外作業と並行して、採取した土壌の水洗・仕分け等の作業を事務所内で行った。

### ②八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡

調査期間は7月16日～10月30日で、作業実働日数は64日であった。作業員の登録人数は当初23人で始まり、一日の平均稼働作業員数は21人ほどで作業を行った。以下に調査経過を簡略に記す。

- 7月16日（水）調査開始
- 8月1日（金）部分終了確認（試掘調査分）
- 9月9日（火）基準点測量（鈴木測量設計）
- 10月21日（火）終了確認（本調査分）
- 10月22日（水）航空写真撮影（東邦航空）
- 10月28日（火）現地公開：参加者83人
- 10月30日（木）調査終了、撤収

7月16日より雑物撤去を開始し、8月22日まで試掘調査を行った。対象面積は12,300㎡である。雑物の搬出・試掘における表土除去は重機を使用した。57本の試掘溝を入れた結果、調査区中央付近の尾根部を中心とする5,023㎡が本調査の対象範囲となった。8月25日より本調査を開始し、試掘結果により尾根上は全面表土掘削を行い、斜面部は遺構が確認された地点を拡張して調査を行った。調査の全容が見えた10月下旬に航空写真撮影・現地公開を行い、10月30日に調査のすべてを終了し、撤収した。

## 2 室内整理

八木沢Ⅱ遺跡の室内整理の期間は、平成20年11月1日～平成21年2月27日で、整理に従事した作業員は1名である。八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡の室内整理の期間は、平成20年11月1日～平成21年2月27日で、整理に従事した作業員は1名である。なお、11月は、調査員は野外調査（八木沢駒込Ⅱ遺跡）に従事していたため、室内整理には従事していない。野外調査で得られた遺物、実測図、写真などの各種資料は室内整理の段階で次のように処理し、整理を行い、報告書作成とともに資料化を行った。

### （1）遺構に関わる記録

実測図は遺構ごとに分類し、図面は点検のうえ、第二原図を作成してトレースを行った。電子平板で測量したデータについては、現場で入手した情報をそのまま保存することとし、手作業で作図した図を読み込んで電子データ化し、パソコンを用いてトレース・図版作成を行った。撮影されたフィルムはネガアルバムに密着写真と一組にして収納した。カラーライドフィルムはライドファイルに

撮影順に収納した。

いずれの得られた記録・情報についても、センターの内規に従って収納・保存を行っている。

## (2) 遺物の整理

遺物は野外及び当センター整理室で水洗した後、細片は別として、出土地点・層位等を登録した遺物No.を全破片に注記した。その後、出土地点・層位ごとに仕分けを行い、遺構ごと、遺構外出土の遺物はグリッドごとに接合・復元作業を行った。遺物の実測図は実大とし、トレースは遺物の状況に応じて実大あるいは縮小して図化した。石材・炭化材・炭化種実・放射性炭素年代測定・火山灰分析・鉄製品・鉄滓類の成分分析など各種分析は外部の専門家に委託した。遺物の写真撮影はセンター内の写真撮影技師1名が行った。

## (3) 遺物の選別・図化の基準

遺物の整理・報告にあたっての作業・記録作成は以下の方針で進めた。報告書に掲載された遺物は出土した遺物のすべてではなく、整理のなかで設定した基準を基に選別した一部の資料である。以下に選別基準を明示する。また、資料化は図化・写真が全てではない。不掲載資料についても可能な限り数的処理を行い、出土資料全体の傾向を把握するためのデータとした。

### a 土器・土製品

はじめに出土地点別に重量計測を行った。土器の接合と並行して、遺物の選別を進めた。接合した土器については、原則としては計測値（器高・口径・底径）1箇所以上計測可能なもの（器形が把握できるもの）を立体土器として登録し、図化した。破片資料は、優先的に口縁部破片を選択したが、一部胴部破片も選んでいる。以上の資料について、該当する土器の型式名を記録して数的処理を行った。底部破片は、底部圧痕・調整が認められる破片を選別して図化した。

土製品は、出土したすべてを対象として、仕分け・登録作業・計測・分類を行い、全点について、観察表・図・写真を掲載した。素材による分類から、羽口は土製品として扱った。

### b 石器・石製品

石器は、出土したすべてを対象として、個々に仕分け・登録作業・計測・分類を行い、さらに一部資料について図化を行った。図化の基準は、遺構内出土遺物を優先して図化することにし、それ以外の石器は、観察表・写真を掲載するに留めた。石製品は、出土したすべてを対象として、仕分け・登録作業・計測・分類を行い、全点の観察表・図・写真を掲載した。

### c 陶磁器

陶磁器は、出土したすべてを対象として、個々に仕分け・登録作業・計測・分類を行い、さらに一部資料について図化を行った。図化の基準は、遺構内出土遺物及び19世紀代までの陶磁器を可能な限り図化することにし、それ以外の陶磁器は、観察表・写真を掲載するに留めた。

### d 鉄製品

鉄製品は、出土したすべてを対象として、個々に仕分け・登録作業・計測・分類を行い、全点の観察表・図・写真を掲載した。鉄製品は一部を除き保存処理を行い、鉄製品1点について成分分析を行い、分析結果を掲載した。

### e 鉄滓類

鉄滓類については、以下の作業工程によって分類作業を行い、分類された遺物のすべてについて観察表を掲載し、出土地点別に代表的な遺物についてのみ写真を掲載した。

#### 作業工程

外観の観察によって、他の遺物と鉄滓類を分類し、鉄滓類としたものについては、磁着作業を行い、磁着の有無を確認し、磁着有鉄滓・磁着無鉄滓に大別した。磁着有鉄滓については、さらにメタルチェックの反応について確認作業を行い、鉄の含有率について調べ、鉄塊系遺物とそうでない鉄滓類に分

類した。強力磁石（タジマツール製ピックアップ）とメタルチェッカー（埋蔵文化財用特殊金属探知機（鉄塊系遺物対応調整）／形式：MR - 50B（L型））については、当センターの製鉄関連遺跡（宮古市島田Ⅱ遺跡：第450集など）の整理・報告において使用されたものと同じものを使用した。

採取した土壌についても水洗し、乾燥させた後に篩掛けを行い、各段階（5mm・3mm・1mm）に分けられた資料について、仕分け・磁着作業を行い、鉄滓類・粒状滓・鍛造剥片・砂鉄の抽出を行った。

なお、分類した鉄滓類については、任意に抽出した一部資料（鍛冶滓・粒状滓・鍛造剥片・砂鉄）について、専門機関による成分分析を行った。

第一段階：外観観察・磁着作業などにより、鉄関連遺物として他の遺物と分類する。

- ・鉄製品（金属製品として報告）
- ・鍛造剥片（本分類）
- ・鉄滓類（本分類）
- ・羽口（土製品として報告）

第二段階：鉄滓類の磁着の有無とメタル度により分類する。

強力磁石で磁着の有無を確認し、磁着有の鉄滓については、メタルチェッカーによるメタル度の反応による細分を行った。結果として次の4つに大別することができた。このように分類されたすべての資料について、出土地点別に仕分けした後、重量計測を行った結果を外観観察による所見とともに観察表に掲載した。表の分類は上記の分類内容を優先した。

○強力磁石により、鉄滓の磁着の有無を確認する。

- ・磁着有 → 磁着有の鉄滓
- ・磁着無 → 磁着無の鉄滓

○磁着有の鉄滓について、メタルチェッカーでメタル度の反応を確認する。

- ・メタルチェッカー大反応 → 鉄塊系遺物
- ・メタルチェッカー中反応 → 鉄滓（鉄含有率強）
- ・メタルチェッカー小反応 → 鉄滓（鉄含有率弱）

#### 仕分け・分類された鉄滓類と報告内容

- ・鉄滓類

[化学的分類]	[外観観察による分類]
・磁着無の鉄滓	→ 製鉄滓・鍛冶滓（炉底滓・炉内滓・流動滓）
・磁着有の鉄滓	
・鉄塊系遺物	→ 鍛冶滓
・鉄滓（鉄含有率強）	→ 鍛冶滓（炉底滓・炉内滓・流動滓）
・鉄滓（鉄含有率弱）	→ 鍛冶滓（炉底滓・炉内滓・流動滓）
・粒状滓	→ 鍛冶滓
・鍛造剥片	→ 鍛冶滓

報告においては、分類した各種鉄滓類について、科学的分類、外観的な特徴、重量や組成比率、出土地点・出土状況などの傾向について記載し、想定される鉄生産の工程について言及した。

#### f 自然遺物

自然遺物には、動物遺存体と植物遺存体がある。動物遺存体には、獣骨・魚骨がある。植物遺存体には、炭化種実と炭化材がある。炭化種実・炭化材とも、個々に仕分け・登録作業・計測・分類を行った。炭化種実は、観察表・写真掲載とし、炭化材は、観察表・写真の掲載とし、樹種名・重量を掲載するに留めた。なお、遺構内出土の資料を中心に、八木沢Ⅱ遺跡では、炭化種実1点・炭化材3点について種実同定・樹種同定・放射性炭素年代測定を行い、その結果を掲載した。八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡では、炭化材5点について、それぞれ専門家による樹種同定と放射性炭素年代測定を行い、分析結果を掲載した。



## IV 八木沢Ⅱ遺跡

### 1 検出遺構

#### (1) 検出遺構の概要(第6～8図、写真図版1～3)

検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡1棟、竪穴状遺構1棟、土坑44基、陥し穴状遺構7基、炭窯跡1基、炉跡・焼土遺構10基、土器埋設遺構1基、溝跡1条、柱穴55個である。

遺構の占地をみると、縄文時代の遺構のなかで竪穴住居跡や大形の土坑類は、調査区北側の平坦な低地部でまとまって確認されており、古代の炉跡や炭窯跡は、より北側にある河川寄りの低地部からまとまって確認された。縄文時代と古代では時期によって遺構の占地が異なっていた可能性が想定される。

また上記の遺構のほか、調査区内で埋没沢を4条確認した。そのうち3条を掘削し、包含する遺物の採取と地形測量を行っており、これについても概要を報告する。以下、遺構毎に詳述する。

#### (2) 竪穴住居跡(第9図、写真図版4)

縄文時代後期の竪穴住居跡1棟が確認された。炉跡と柱穴のみの検出であり、正確な規模・形状は不明である。遺存状態はよくない。計測値などは第2表竪穴住居跡観察表を参照されたい。

### S I 101竪穴住居跡

#### 遺構(第9図、写真図版4)

〔位置・検出状況〕ⅡC3eグリッド。北谷平坦面のⅢ層面でSK110・111土坑とその周辺に柱穴群を検出した。最初にSK110・111土坑の精査を開始したところ、覆土中から焼土を検出した。この時点では炉跡と認識できず、土坑の精査を継続したが、その後、周辺の柱穴を精査したところ、柱穴の規模が近似し、柱穴から縄文土器片が出土したことから、SK110土坑覆土中の焼土は住居跡の炉跡で、周辺の柱穴も住居跡に伴うものであることを考えるに至った。これらの遺構群を焼土・柱穴群からなる住居跡として報告する。なお、地山はかなり削平されており、床面は消失したものと判断した。

〔重複関係〕炉跡がSK110・111土坑の覆土中から確認されたことから、SK110・111土坑より新しいと推測される。SZ101土器埋設遺構との新旧関係は不明である。

〔規模・平面形〕5～6m以上と推定される。平面形は不明である。

〔覆土・堆積状況〕住居跡の覆土の堆積状況は不明である。

〔壁・床面〕壁の状態は不明である。床面はⅢ層を掘り込んでつくられたもの推測される。

〔柱穴・配置〕PP1～PP17の17個が検出された。規模は20～40cm、深さ9～37cm。配置は不明である。

〔炉跡〕地床炉である。柱穴群との位置関係から住居跡中央より、やや南寄りに位置すると考えられる。平面形は円形基調で、規模は径110×70cmを測る。焼土の厚さは最大で20cmを測る。

〔その他の付属施設〕なし。

#### 遺物(第29・33・35・39図、写真図版22・23・26)

〔出土状況〕柱穴から縄文土器片(総重量167.5g)、石器が出土している。

〔土器〕縄文土器(1・2・3)。

〔石器〕不定形石器(149)。

時期 出土遺物と遺構の重複関係などから縄文時代後期と推測される。

### (3) 堅穴状遺構 (第9図、写真図版4)

調査区北側の平坦面で1棟を検出した。堅穴状の掘り込みが確認されたが、内部に炉跡・柱穴の施設がなかったことから、堅穴状遺構として報告する。計測値などは第3表堅穴状遺構観察表を参照されたい。

#### SK I 101堅穴状遺構

遺構 (第9図、写真図版4)

[位置・検出状況] I B 6 c ~ 7 c グリッド。Ⅲ層で黒色土の広がりとして検出した。

[重複関係] SW101炭窯跡・SK136土坑と重複し、SW101炭窯跡・SK136土坑を切っている。

[規模・平面形] 東側の斜面下は失われている。規模は、残存部で(3.6) × (1.3) mを測る。平面形は隅丸方形と推測される。

[覆土・堆積状況] 黒色土が主体である。自然堆積とみられる。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。床面はⅢ層を掘り込んでつくられている。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 遺構の新旧関係から古代と推測される。

### (4) 土坑 (第10~21図、写真図版5~15)

用途不明のものを含む穴を一括した。44基ある。このなかには、北谷部の平坦面で確認された定形的な土坑7基を含んでいる。多くの土坑の時期は、概ね縄文時代から古代に属すると推測されるが、出土遺物を欠くものが多く、詳細は不明である。個々の規模・形状や特徴は、第4表土坑観察表を参照されたい。

#### SK101土坑

遺構 (第10図、写真図版5)

[位置・検出状況] Ⅲ B 4 g ~ 5 g グリッド。中央尾根部で、Ⅳ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径210×160cm、底部径150×120cm、平面形は円形を呈するものと推定される。深さは60cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・暗褐色土・オリーブ褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅣ層を掘り込んでつくられている。底面は緩く湾曲し、北から南に傾斜する。

[その他の付属施設] なし。

遺物 (写真図版29)

[出土状況] 覆土から鉄滓類(17.4g)が出土している。

[鉄滓類] 鉄滓(磁着有)(240)。

時期 時期を決定できる出土遺物がなく、詳細は不明である。

#### SK102土坑

遺構 (第10図、写真図版5)

[位置・検出状況] Ⅲ B 4 g ~ 5 g グリッド。中央尾根で、Ⅳ層で灰黄褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径120×120cm、底部径100×90cm、平面形は円形基調と推定される。深さは20cmである。

[覆土・堆積状況] 灰黄褐色・黒褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅣ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

### S K103土坑

遺構 (第10図、写真図版5)

[位置・検出状況] ⅡC5cグリッド。北谷部の平坦面で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径90×84cm、底部径74×74cm、平面形は円形を呈する。深さ35cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・黒色土・褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

遺物 (第29・33・39図、写真図版22・26)

[出土状況] 土器 (62.1g) ・石器が出土している。

[土器] 縄文土器 (4・5)。

[石器] 不定形石器 (150)。

時期 出土遺物から縄文時代と推測される。

### S K104土坑

遺構 (第11図、写真図版5)

[位置・検出状況] ⅡC4d～5dグリッド。北谷部の平坦面のⅢ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径110×110cm、底部径80×80cm、平面形は円形で、深さは50cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・黒色土・暗褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

遺物 (第29・33図、写真図版22)

[出土状況] 覆土から縄文土器 (11.2g) が出土している。

[土器] 縄文土器 (6)。

時期 出土遺物から縄文時代と推測される。

### S K105土坑

遺構 (第11図、写真図版6)

[位置・検出状況] ⅡC1e～2eグリッド。北谷部の平坦面で、Ⅲ層で暗褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

## 1 検出遺構

[規模・平面形] 規模は、開口部径220×210cm、底部径145×135cm、平面形は円形で、深さ120cmである。

[覆土・堆積状況] 暗褐色土・にぶい褐色土・黒褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

遺物 (第29・33・40図、写真図版22・27)

[出土状況] 覆土から縄文土器 (1025.3g) ・石器が出土している。

[土器] 縄文土器 (7～18)。

[石器] 石皿? (166)。

時期 出土遺物から縄文時代と推測される。

### S K106土坑

遺構 (第11図、写真図版6)

[位置・検出状況] II C 4 f～4 g グリッド。北谷部の平坦面で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径130×130cm、底部径100×100cm、平面形は円形で、深さ70cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・にぶい黄褐色土・暗褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

遺物 (第29・33図、写真図版22)

[出土状況] 覆土から縄文土器 (161.1g) が出土している。

[土器] 縄文土器 (19～21)。

時期 出土遺物から縄文時代と推測される。

### S K107土坑

遺構 (第12図、写真図版6)

[位置・検出状況] II C 4 e～4 f グリッド。北谷部の平坦面のⅢ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] S K108土坑を切っている。

[規模・平面形] 規模は、開口部径130×125cm、底部径60×60cm、平面形は円形を呈するものと推定される。深さ30cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土である。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は平坦である。

[その他の付属施設] なし。

遺物 (第29・33図、写真図版22)

[出土状況] 覆土から縄文土器 (90.8g) が出土している。

[土器] 縄文土器 (22・23)。

時期 出土遺物から縄文時代と推測される。

### S K108土坑

遺構 (第12図、写真図版6)

〔位置・検出状況〕ⅡC 4 e～4 f グリッド。北谷部で、Ⅲ層で暗褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕SK107土坑に切られている。

〔規模・平面形〕規模は、開口部径140×130cm、底部径120×100cm、平面形は円形を呈するものと推定される。深さ25cmである。

〔覆土・堆積状況〕暗褐色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は平坦である。

〔その他の付属施設〕なし。

**遺物**（第29・33図、写真図版22）

〔出土状況〕覆土から縄文土器（111.3g）・鉄滓類（175.9g）が出土している。

〔土器〕縄文土器（24）。

〔鉄滓類〕鉄滓（磁着有）（241）。

**時期** 出土遺物から縄文時代と推測される。

### SK109土坑

**遺構**（第12図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕ⅡC 4 f～5 f グリッド。北谷部の平坦面のⅢ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕規模は、開口部径150×150cm、底部径70×70cm、平面形は円形で、深さ60cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒褐色土・暗褐色土・黒褐色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。壁に段を持ち、底面はほぼ平坦である。

〔その他の付属施設〕なし。

**遺物**（第29・33図、写真図版22）

〔出土状況〕覆土から縄文土器（666.5g）が出土している。

〔土器〕縄文土器（25～32）。

**時期** 出土遺物から縄文時代と推測される。

### SK110土坑

**遺構**（第13図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕ⅡC 3 d グリッド。北谷部の平坦面で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕SK111土坑と重複し、切っている。

〔規模・平面形〕規模は、開口部径190×170cm、底部径110×110cm、平面形は円形で、深さ90cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒褐色土・暗褐色土・黒色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦で、SK111土坑よりやや高い。

〔その他の付属施設〕なし。

**遺物**（第29・34・39図、写真図版22・26・29・30）

〔出土状況〕覆土から縄文土器（299.9g）・石器・鉄滓類（20.1g）が出土している。

〔土器〕縄文土器（33～37）。

〔石器〕不定形石器（151）。

〔鉄滓類〕鉄滓（磁着無）（217）・鉄滓（磁着有）（242）・鍛造剥片（288）。

**時期** 出土遺物と遺構の重複関係などから縄文時代と推測される。



### SK111土坑

遺構（第13図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 IIC3e グリッド。北谷部で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕 SK110土坑と重複し、切られている。

〔規模・平面形〕 規模は、開口部径150×130cm、底部径130×120cm、平面形は円形で、深さ100cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黒褐色土・褐色土・黒褐色土で構成される。

〔壁・底面〕 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦で、SK110土坑よりやや低い。

〔その他の付属施設〕 なし。

遺物（第29・34図、写真図版22・23）

〔出土状況〕 覆土から縄文土器（478.8g）が出土している。

〔土器〕 縄文土器（38～43）。

時期 出土遺物と遺構の重複関係などから縄文時代と推測される。

### SK112土坑

遺構（第13図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 IIC4c グリッド。北谷部の平坦面で、Ⅲ層で暗褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕 なし。

〔規模・平面形〕 規模は、開口部径98×90cm、底部径75×75cm、平面形は円形である。深さ25cmである。

〔覆土・堆積状況〕 暗褐色土・黒褐色土で構成される。

〔壁・底面〕 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。壁はやや内湾し、底面は北から南に傾斜する。

〔その他の付属施設〕 なし。

遺物（第29・40図、写真図版27）

〔出土状況〕 底面直上から礫石器が出土している。

〔石器〕 台石（164）。被熱した痕跡がある。

時期 出土遺物と遺構の状態から縄文時代と推測される。

### SK113土坑

遺構（第14図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 IB10c グリッド。北谷部の小規模な尾根上で、Ⅳ層で暗褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕 なし。

〔規模・平面形〕 規模は、開口部径160×140cm、底部径100×100cm、平面形は円形で、深さ50cmである。

〔覆土・堆積状況〕 暗褐色土・褐色土・黒褐色土で構成される。

〔壁・底面〕 壁・底面はⅣ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

〔その他の付属施設〕 なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

**S K114土坑**

**遺構**（第14図、写真図版8）

〔位置・検出状況〕ⅡC5dグリッド。北谷部で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕規模は、開口部径160×190cm、底部径110×60cm、平面形は長楕円形を呈する。深さは35cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒褐色土・褐色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は湾曲している。

〔その他の付属施設〕なし。

**遺物**（第29・39図、写真図版26）

〔出土状況〕覆土から土器（19.0g）・石器が出土している。土器は小破片のため不掲載である。

〔石器〕石鏃（141）。

**時期** 出土遺物と遺構の状態から縄文時代と推測される。

**S K115土坑**

**遺構**（第14図、写真図版8）

〔位置・検出状況〕ⅠC9b～10bグリッド。北谷部で、Ⅲ層で黒色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕規模は、開口部径150×140cm、底部径130×120cm、平面形は円形を呈する。深さは20cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒色土・黒褐色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は南から北に傾斜する。

〔その他の付属施設〕底面南側に浅いくぼみがあるが、底面と一連のものである。

**遺物**（第29・34図、写真図版23）

〔出土状況〕覆土から土器（30.8g）が出土している。

〔土器〕縄文土器（44）。

**時期** 出土遺物と遺構の状態から縄文時代と推測される。

**S K116土坑**

**遺構**（第15図、写真図版8）

〔位置・検出状況〕ⅠC10cグリッド。北谷部で、Ⅲ層で黒色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕規模は、開口部（280）×140cm、底部（240）×80cm、平面形は不整形を呈する。深さは40cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒色土・暗褐色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は緩やかな起伏を持ちながら湾曲する。

〔その他の付属施設〕なし。

**遺物**（第29・34図、写真図版23）

〔出土状況〕覆土から土器（248.7g）が出土している。

〔土器〕縄文土器（45・46）。

**時期** 出土遺物と遺構の状態から縄文時代と推測される。

### S K117土坑

遺構（第15図、写真図版8）

〔位置・検出状況〕 II C 7 d～7 e グリッド。北谷部で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕 なし。

〔規模・平面形〕 規模は、開口部径380×160cm、底部径180×80cm、平面形は不整形を呈する。深さは50cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黒褐色土・暗褐色土・黒色土で構成される。

〔壁・底面〕 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は緩やかな起伏を持ちながら湾曲する。

〔その他の付属施設〕 なし。

遺物（第29・34図、写真図版23）

〔出土状況〕 覆土から土器（387.0g）が出土している。

〔土器〕 縄文土器（47～50）。

時期 出土遺物と遺構の状態から縄文時代と推測される。

### S K119土坑

遺構（第16図、写真図版9）

〔位置・検出状況〕 II B 5 i グリッド。北谷部で、Ⅲ層で黒色土の広がりとして検出された。

〔重複関係〕 なし。

〔規模・平面形〕 規模は、開口部径135×125cm、底部径80×80cm、平面形は円形で、深さは40cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黒色土・黒褐色土で構成される。

〔壁・底面〕 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は平坦である。

〔その他の付属施設〕 なし。

遺物（第29・34図、写真図版23）

〔出土状況〕 覆土から土器（30.4g）が出土している。

〔土器〕 縄文土器（51）。

時期 出土遺物と遺構の状態から縄文時代と推測される。

### S K121土坑

遺構（第16図、写真図版9）

〔位置・検出状況〕 II B 5 h グリッド。北谷部のⅡ層で黒色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕 なし。

〔規模・平面形〕 規模は、開口部径90×80cm、底部径70×45cm、平面形は方形で、深さは14cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黒色土で構成される。

〔壁・底面〕 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は西側が低くなっている。

〔その他の付属施設〕 なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

### S K122土坑

遺構（第16図、写真図版9）

〔位置・検出状況〕 II B 4 g グリッド。北谷部で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕 なし。

〔規模・平面形〕 規模は、開口部径100×90cm、底部径50×28cm、平面形は円形基調と推定される。深さは20cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黒褐色土・暗褐色土で構成される。

〔壁・底面〕 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は湾曲している。

〔その他の付属施設〕 なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

### S K 125土坑

遺構（第16図、写真図版10）

〔位置・検出状況〕 Ⅱ C 8 b グリッド。北谷部で、Ⅱ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕 なし。

〔規模・平面形〕 規模は、開口部径90×80cm、底部径65×58cm、平面形は円形で、深さ40cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黒褐色土で構成される。

〔壁・底面〕 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は平坦である。

〔その他の付属施設〕 なし。

遺物 土器（8.1g）が出土している。小破片のため不掲載である。

時期 時期判断をできる出土遺物がなく、詳細は不明である。

### S K 130土坑

遺構（第17図、写真図版10）

〔位置・検出状況〕 Ⅱ B 7 j グリッド。北谷部で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕 S K 131土坑に切られている。

〔規模・平面形〕 規模は、開口部径150×115cm、底部径130×95cm、平面形は方形基調と推定される。深さは20cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黒褐色土・暗褐色土で構成される。

〔壁・底面〕 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦で、S K 131土坑より高い。

〔その他の付属施設〕 なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

### S K 131土坑

遺構（第17図、写真図版10）

〔位置・検出状況〕 Ⅱ B 7 j グリッド。北谷部で、Ⅲ層で暗褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕 S K 130土坑を切っている。

〔規模・平面形〕 規模は、開口部径100×100cm、底部径90×80cm、平面形は円形基調と推定される。深さは22cmである。

〔覆土・堆積状況〕 暗褐色土・にぶい黄褐色土で構成される。

〔壁・底面〕 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦で、S K 130土坑より低い。

〔その他の付属施設〕 なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

### S K132土坑

遺構（第17図、写真図版10）

〔位置・検出状況〕ⅡB7aグリッド。北谷部で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕規模は、開口部径80×165cm、底部径35×30cm、平面形は円形である。深さ40cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒褐色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は湾曲している。

〔その他の付属施設〕なし。

遺物 土器（10g）が出土している。小破片のため不掲載である。

時期 時期判断できる出土遺物がなく、詳細は不明である。

### S K133土坑

遺構（第17図、写真図版10）

〔位置・検出状況〕ⅡA1j～ⅡB1aグリッド。Ⅱ～Ⅲ層で黒色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕規模は、開口部径160×80cm、底部径(65)×28cm、平面形は不整形で、深さ42cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒色土・暗褐色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は湾曲している。

〔その他の付属施設〕なし。

遺物（第30・34図、写真図版23）

〔出土状況〕覆土から土器（55.9g）が出土している。

〔土器〕縄文土器（52・53）。

時期 出土遺物と遺構の状態から縄文時代と推測される。

### S K134土坑

遺構（第18図、写真図版11）

〔位置・検出状況〕ⅡB7h～7iグリッド。北谷部で、Ⅱ～Ⅲ層で黒色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕S K135土坑を切っている。

〔規模・平面形〕規模は、開口部径185×120cm、底部径160×30cm、平面形は不整形で、深さ26cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒色土・黒褐色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は緩く湾曲し、S K135土坑より低い。

〔その他の付属施設〕なし。

遺物（第30・34図、写真図版23）

〔出土状況〕覆土から土器（22.2g）が出土している。

〔土器〕縄文土器（54）。

時期 出土遺物と遺構の状態から縄文時代と推測される。

### S K135土坑

遺構（第18図、写真図版11）



[位置・検出状況] II B 7 h～7 i グリッド。北谷部で、Ⅲ層で黒色土の広がりとして検出した。  
 [重複関係] S K134土坑に切られている。  
 [規模・平面形] 規模は、開口部径180×60cm、底部径120×15cm、平面形は不整形で、深さ10cmである。  
 [覆土・堆積状況] 黒色土で構成される。  
 [壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は緩く湾曲し、S K134土坑より高い。  
 [その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

### S K136土坑

遺構 (第18図、写真図版11)

[位置・検出状況] I B 7 d グリッド。北谷部で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。  
 [重複関係] S W101炭窯跡に切られている。  
 [規模・平面形] 規模は、開口部径110×100cm、底部径96×75cm、平面形は円形で、深さ20cmである。  
 [覆土・堆積状況] 黒褐色土・暗褐色土で構成される。  
 [壁・底面] 壁・底面はⅢ層下位の礫層を掘り込んでつくられており、底面は緩く湾曲している。  
 [その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明だが、遺構の重複関係から古代以前と推測される。

### S K137土坑

遺構 (第18図、写真図版11)

[位置・検出状況] I B 6 d グリッド。北谷部で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。  
 [重複関係] なし。  
 [規模・平面形] 規模は、開口部径110×100cm、底部径96×75cm、平面形は円形基調で、深さ20cmである。  
 [覆土・堆積状況] 黒褐色土・暗褐色土で構成される。  
 [壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は西から東に傾斜し、一部落ち込む。  
 [その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

### S K138土坑

遺構 (第18図、写真図版11)

[位置・検出状況] I B 6 d グリッド。北谷部で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。  
 [重複関係] なし。  
 [規模・平面形] 規模は、開口部径140×105cm、底部径95×75cm、平面形は楕円形で、深さ30cmである。  
 [覆土・堆積状況] 黒褐色土で構成される。  
 [壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦だが、中央が落ち込む。  
 [その他の付属施設] なし。

遺物 (第30・34図、写真図版23)

[出土状況] 覆土から土器 (6.0g) が出土している。

## 1 検出遺構

[土器] 縄文土器 (55)。

時期 出土遺物と遺構の状態から縄文時代と推測される。

### S K 139土坑

遺構 (第19図、写真図版12)

[位置・検出状況] I B 8 e グリッド。北谷部で、II層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径60×60cm、底部径42×42cm、平面形は円形である。深さ50cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・黒色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はII層を掘り込んでつくられている。底面は緩く湾曲している。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

### S K 140土坑

遺構 (第19図、写真図版12)

[位置・検出状況] I B 7 d グリッド。II層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径85×80cm、底部径45×44cm、平面形は円形である。深さは60cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・黒色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はII層を掘り込んでつくられている。底面は緩く湾曲している。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

### S K 141土坑

遺構 (第19図、写真図版12)

[位置・検出状況] I B 7 f～7 g グリッド。北谷部で、II層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] S K 142土坑に切られている。

[規模・平面形] 規模は、開口部径95×(85)cm、底部径80×(60)cm、平面形は円形で、深さ24cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・黒色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はII層を掘り込んでつくられている。底面は緩く湾曲し、S K 142土坑より高い。

[その他の付属施設] なし。

遺物 (写真図版29)

[出土状況] 覆土から土器(1.6g)・鉄滓類(91.1g)が出土している。土器は小破片のため不掲載である。

[鉄滓類] 鉄滓(磁着有り)(243)。

時期 出土遺物と遺構の状態から古代と推測される。

### S K 142土坑

遺構 (第19図、写真図版12)

[位置・検出状況] I B 7 f ~ 7 g グリッド。北谷部で、Ⅱ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] S K 141土坑を切っている。

[規模・平面形] 規模は、開口部径110×110cm、底部径90×88cm、平面形は円形で、深さ25cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・黒色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅡ層を掘り込んでつくられている。底面は緩く湾曲し、S K 141土坑より低い。

[その他の付属施設] なし。

**遺物** (第30・34・40図、写真図版23・28・29)

[出土状況] 覆土から土器(38.9g)・鉄製品(4.4g)・鉄滓類(20.7g)が出土している。

[土器] 縄文土器(56・57)。

[金属製品] 鉄釘(191)。

[鉄滓類] 鉄滓(磁着無)(218)・鉄滓(磁着有)(244)。

**時期** 出土遺物と遺構の状態から古代と推測される。

### S K 143土坑

**遺構** (第19図、写真図版12)

[位置・検出状況] I B 8 f グリッド。北谷部で、Ⅱ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径102×100cm、底部径110×100cm、平面形は隅丸方形、深さ48cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・黒色・黒褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅡ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

**遺物** (第30・38・40図、写真図版25・28・29)

[出土状況] 覆土から土製品(161.7g)・鉄製品(54.9g)・鉄滓類(606.0g)が出土している。

[土製品] 羽口(131)。

[金属製品] 鉄釘(192・193)。

[鉄滓類] 鉄滓(磁着無)(219)。

**時期** 出土遺物と遺構の状態から古代と推測される。出土した炭化材について放射性炭素年代測定を行ったところ、calAD1044-1167(11~12世紀)の測定結果が得られている(125頁)。

### S K 144土坑

**遺構** (第19図、写真図版13)

[位置・検出状況] I B 8 g グリッド。北谷部で、Ⅱ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部224×170cm、底部195×125cm、平面形は楕円形で、深さ65cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・黒色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅡ層を掘り込んでつくられている。底面は緩く湾曲している。精査中に底面に赤褐色の広がりが見えたため、裁ち割って確認したところ、地山が一部酸化したものと判断した。

[その他の付属施設] なし。

**遺物** なし。

**時期** 出土遺物がなく、詳細は不明である。

### S K145土坑

#### 遺構 (第20図、写真図版13)

[位置・検出状況] I B 9 h グリッド。北谷部で、Ⅱ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径140×110cm、底部径125×90cm、平面形は隅丸方形で、深さ30cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・黒色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅡ層を掘り込んでつくられている。底面は平坦である。

[その他の付属施設] なし。

#### 遺物 (第30・34図、写真図版23・29)

[出土状況] 覆土から土器 (25.8 g) ・鉄滓類 (12.1 g) が出土している。

[土器] 縄文土器 (58)。

[鉄滓類] 鉄滓 (磁着無) (220) ・鉄滓 (磁着無) (245)。

時期 出土遺物と遺構の状態から古代と推測される。

### S K146土坑

#### 遺構 (第20図、写真図版13)

[位置・検出状況] I B 6 g グリッド。北谷部で、Ⅱ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] S K147土坑を切っている。

[規模・平面形] 規模は、開口部径190×130cm、底部径155×94cm、平面形は楕円形で、深さ55cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・黒色土・黒褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅡ層を掘り込んでつくられている。底面は西から東に傾斜する。

[その他の付属施設] なし。

#### 遺物 (第30・34図、写真図版23)

[出土状況] 覆土から土器 (38.3 g) が出土している。

[土器] 縄文土器 (59)。

時期 出土遺物と遺構の状態から古代と推測される。

### S K147土坑

#### 遺構 (第20図、写真図版14)

[位置・検出状況] I B 6 g グリッド。北谷部で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] S K146土坑に切られている。

[規模・平面形] 規模は、開口部径(70)×40cm、底部径(55)×45cm、平面形は楕円形を呈するもの推定される。深さは45cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は緩く湾曲するものと推定される。

[その他の付属施設] なし。

#### 遺物 (第30・34図、写真図版23)

[出土状況] 覆土から土器 (9.0 g) が出土している。

[土器] 縄文土器 (60)。

時期 出土遺物と遺構の状態から古代と推測される。

**S K149土坑****遺構** (第20図、写真図版14)

[位置・検出状況] III C 7 c グリッド。南谷部で、II層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径70×55cm、底部径42×38cm、平面形は円形である。深さ50cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・にぶい黄褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はIII層を掘り込んでつくられている。底面は北から南に緩く湾曲している。

[その他の付属施設] なし。

**遺物** なし。

**時期** 出土遺物がなく、詳細は不明である。

**S K150土坑****遺構** (第21図、写真図版14)

[位置・検出状況] III C 6 e グリッド。南谷部で、III層でにぶい黄褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径135×65cm、底部径120×40cm、平面形は長楕円形で、深さ40cmである。

[覆土・堆積状況] にぶい黄褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はIII層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

**遺物** なし。

**時期** 出土遺物がなく、詳細は不明である。

**S K151土坑****遺構** (第21図、写真図版14)

[位置・検出状況] III C 6 e～6 f グリッド。南谷部で、III層でにぶい黄褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] S K152土坑を切っている。

[規模・平面形] 規模は、開口部径225×185cm、底部径120×115cm、平面形は不整形で、深さ60cmである。

[覆土・堆積状況] にぶい黄褐色土・暗褐色土・黒褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はIII層を掘り込んでつくられている。底面は緩く湾曲している。

[その他の付属施設] なし。

**遺物** なし。

**時期** 出土遺物がなく、詳細は不明である。

**S K152土坑****遺構** (第21図、写真図版14)

[位置・検出状況] III C 5 e～5 f グリッド。南谷部で、III層で暗褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] S K151土坑に切られている。

[規模・平面形] 規模は、開口部径160×150cm、底部径110×90cm、平面形は不整形で、深さ80cmである。



## 1 検出遺構

[覆土・堆積状況] 暗褐色土・褐色土・黒褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は中央部が落ち込んでいる。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

### SK153土坑

遺構 (第21図、写真図版15)

[位置・検出状況] ⅢC7eグリッド。南谷部のⅢ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径110×60cm、底部径75×35cm、平面形は隅丸方形で、深さ25cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・黒色土・暗褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は西から東に傾斜する。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

### (5) 陥し穴状遺構 (第22・23図、写真図版16・17)

形状から陥し穴としての機能が考えられる穴で7基確認された。そのうち5基がⅡA～ⅡBグリッドの平坦面に位置する。平面形は、長方形、楕円形、溝状で、底面に副穴を伴うものもある。出土遺物がないため、詳細な時期は不明だが、縄文時代と推測される。詳細は第5表陥し穴状遺構観察表を参照されたい。

### SK118陥し穴状遺構

遺構 (第22図、写真図版16)

[位置・検出状況] ⅡB3j～4jグリッド。北谷部で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部300×40cm、底部265×30cm、平面形は溝形で中央部より両端が広がる形状である。深さは75cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・にぶい黄褐色土・黒褐色土から構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はやや凹凸があり、南側が低くなる。

[その他の付属施設] なし。

遺物 土器(4.1g)が出土している。小破片のため不掲載である。

時期 時期を判断できる出土遺物がなく、詳細は不明だが、縄文時代と推定される。

### SK123陥し穴状遺構

遺構 (第22図、写真図版16)

[位置・検出状況] ⅡB3cグリッド。北谷部の斜面地形で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径(135)×36cm、底部径(130)×20cm、平面形は溝形で、南端部を欠いている。等高線に直交して長軸が設けられている。深さは70cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土から構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし

時期 出土遺物がなく、詳細は不明だが、縄文時代と推定される。

#### S K124陥し穴状遺構

遺構 (第22図、写真図版16)

[位置・検出状況] Ⅱ B 7 j グリッド。北谷部の平坦部で、Ⅱ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径150×60cm、底部径130×50cm、平面形は溝形で、深さ30cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・暗褐色土から構成される。

[壁・底面] 壁はⅡ層・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

遺物 土器 (5.3g) が出土している。小破片のため不掲載である。

時期 時期を判断できる出土遺物がなく、詳細は不明だが、縄文時代と推定される。

#### S K126陥し穴状遺構

遺構 (第23図、写真図版16)

[位置・検出状況] Ⅱ A 5 j グリッド。北谷部の微高地で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径200×40cm、底部径195×20cm、平面形は溝形で、深さ30cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土から構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦で2個の副穴がある。

[その他の付属施設] 底面に2個の副穴がある。径8～10cm、深さは湧水のため不明である。

遺物 なし

時期 出土遺物がなく、詳細は不明だが、縄文時代と推定される。

#### S K127陥し穴状遺構

遺構 (第23図、写真図版16)

[位置・検出状況] Ⅱ A 7 i グリッド。北谷部の微地形で、Ⅲ層で黒色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径150×70cm、底部径110×20cm、平面形は楕円形で、深さ60cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・褐色土・暗褐色土から構成される。

[壁・底面] 壁はⅢ層・底面はⅣ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦で2個の副穴がある。

[その他の付属施設] 底面に2個の副穴がある。径3～4cm、深さは20cmである。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明だが、縄文時代と推定される。

#### S K128陥し穴状遺構

遺構 (第23図、写真図版16)

[位置・検出状況] Ⅱ A 7 i グリッド。北谷部の微高地で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

## 1 検出遺構

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径220×100cm、底部径165×30cm、平面形は楕円形で、深さ90cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・褐色土・暗褐色土から構成される。自然堆積と思われる。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

**遺物** なし。

**時期** 出土遺物がなく、詳細は不明だが、縄文時代と推定される。

### SK148陥し穴状遺構

**遺構** (第23図、写真図版16)

[位置・検出状況] IVC 2 d グリッド。南谷部の緩斜面で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径130×80cm、底部径80×45cm、平面形は楕円形を呈する。等高線に直交するように長軸が設けられている。深さは90cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・暗褐色土・褐色土から構成される。自然堆積と思われる。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦で、中央に1個の副穴がある。

[その他の付属施設] 底部に1個の副穴がある。径16cm、深さ15cmである。

**遺物** なし。

**時期** 出土遺物がなく、詳細は不明だが、縄文時代と推定される。

### (6) 炭 窯 跡 (第24図、写真図版4)

調査区南側で炭窯跡が1基検出した。緩やかな南斜面に掘り込んだだけの炭窯がつくられている。時期は、形態と検出状況から古代と推測される。計測値などは第6表炭窯跡観察表を参照されたい。

### SW101炭窯跡

**遺構** (第24図、写真図版4)

[位置・検出状況] IB 7 c グリッド。北谷部の低地部で、Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] SK136土坑を切り、SK I 101竪穴状遺構に切られている。

[規模・平面形] 規模は、開口部が150×90cm、底部が130×85cmで、隅丸長方形を呈している。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土から構成される。炭化物を多く含んでいる。

[壁・底面] 壁はほぼ垂直に立ち上がる。深さ12cmである。底面はほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

**遺物** (写真図版30)

[出土状況] 土器 (2.9g) ・炭化材 (419.7g) ・植物遺存体 (炭化種実) が出土している。

[炭化種実] 植物遺存体は鑑定の結果、モモ (311) と同定された (130頁)。

**時期** 出土した炭化材について放射性炭素年代測定を行った結果、calAD1021~1149年 (11~12世紀) との結果を得ている (125頁)。時期は古代と推定される。

### (7) 炉跡・焼土遺構 (第25~27図、写真図版18~20)

10基検出した。いずれも北谷部での検出である。焼土遺構の周囲では、柱穴や壁など住居跡として

の痕跡は確認できていないため、単独遺構と認識し、炉跡・焼土遺構として報告する。なおⅠBグリッド付近の焼土からは鉄滓類が出土しており、鉄生産が行われた作業場としての空間であったものと推測される。計測値などは、第7表焼土遺構観察表を参照されたい。

#### S N101炉跡

**遺構** (第25図、写真図版18)

〔位置・検出状況〕ⅡC4cグリッド。北谷部で、Ⅲ層で赤褐色の焼土を検出した。整然としていないが、周囲に焼成痕跡を持つ礫も確認されている。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕径100×90cmの円形基調を呈する。焼土の周囲に部分的に石組を伴う。

〔被熱土〕にぶい赤褐色の焼土で、厚さは3cmほどである。

〔所属施設〕なし。周辺から柱穴状土坑を数基検出しているが、関連する施設となるかは不明である。

**遺物** (写真図版29・30)

〔出土状況〕覆土から土器(6.9g)・鉄滓類(40.8g)が出土している。

〔鉄滓類〕鉄滓(磁着無)(211)・鉄滓(磁着有)(231)・鍛造剥片(281)。

**時期** 出土遺物と遺構の状態から古代の可能性はあるが、詳細は不明である。

#### S N102焼土遺構

**遺構** (第25図、写真図版18)

〔位置・検出状況〕ⅡB6fグリッド。Ⅱ層で暗赤褐色土の広がりとして焼土を確認した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕暗赤褐色土の広がり、径30×30cmの不整形な焼土が径80cmの範囲に散在する。焼土の周辺に火山灰を確認している。調査時は中礫浮石と認識していたものである。分析は行っていない。

〔被熱土〕暗赤褐色土の焼土で、焼土の厚さは6cmほどである。

〔所属施設〕なし。

**遺物** なし。

**時期** 出土遺物がなく、時期の詳細は不明だが、遺構の状態から縄文時代の可能性がある。

#### S N103焼土遺構

**遺構** (第25図、写真図版18)

〔位置・検出状況〕ⅠB7fグリッド。Ⅱ層で明赤褐色土の広がりとして焼土を確認した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕明赤褐色土の広がり、径50×25cmの不整形な焼土が径90cmの範囲に散在する。

〔被熱土〕明赤褐色土の焼土で、焼土の厚さは6cmほどである。

〔所属施設〕なし。

**遺物** なし。

**時期** 出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。

#### S N104焼土遺構

**遺構** (第26図、写真図版18)

〔位置・検出状況〕ⅠA1jグリッド。Ⅱ層で暗赤褐色土の広がりとして焼土を確認した。

〔重複関係〕なし。

## 1 検出遺構

[規模・平面形] 暗赤褐色土の広がり、径40×25cmの不整形である。

[被熱土] 暗赤褐色土の焼土で、焼土の厚さは3cmである。

[所属施設] なし。

**遺物** (写真図版29)

[出土状況] 覆土から鉄滓類(0.2g)が出土している。

[鉄滓類] 鉄滓類(磁着有)(232)。

**時期** 出土遺物から古代の可能性はあるが、詳細は不明である。

### S N105炉跡

**遺構** (第26図、写真図版19)

[位置・検出状況] I B 8 h グリッド。II層で黒色土の広がりとして確認した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 黒色土の広がり、径30×22cmの円形を呈している。掘り方は、すり鉢状に掘り込まれ、中央が深さ8cmほど凹んでいる。

[被熱土] 掘り方及びその周辺が黒色土で固く締まる。還元状態である。還元部の厚さは10cmほどである。

[所属施設] なし。

**遺物** (写真図版29・30)

[出土状況] 覆土から鉄滓類(128.1g)が出土している。

[鉄滓類] 鉄滓類(磁着無)(212)・鉄滓類(磁着有)(233・234)・粒状滓(271)・鍛造剥片(282・283)。

**時期** 出土遺物と遺構の状態から古代と推測される。

### S N106炉跡

**遺構** (第26図、写真図版19)

[位置・検出状況] I B 9 i グリッド。II層で黒色土の広がりとして確認した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 黒色土の広がり、径40×22cmの円形で、すり鉢状に中央が8cm凹む。

[被熱土] 掘り方及びその周辺が黒色土で固く締まり、還元している。還元部の厚さは10cmである。

[所属施設] なし。

**遺物** (写真図版29・30)

[出土状況] 覆土から鉄滓類(0.4g)が出土している。

[鉄滓類] 鉄滓類(磁着有)(235)・鍛造剥片(284)。

**時期** 出土遺物と遺構の状態から古代と推測される。

### S N107炉跡

**遺構** (第27図、写真図版19)

[位置・検出状況] I B 8 h グリッド。II層で黒色土の広がりとして確認した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 黒色土の広がり、径40×30cmの円形で、中央がすり鉢状に5cmほど凹む。

[被熱土] 掘り方及びその周辺が黒色土で固く締まり、還元している。還元部の厚さは10cmである。

[所属施設] なし。

**遺物** (写真図版29・30)

[出土状況] 覆土から鉄滓類 (297.9 g) が出土している。

[鉄滓類] 鉄滓類 (磁着無) (213) ・鉄滓類 (磁着有) (214) ・粒状滓 (272) ・鍛造剥片 (285)。  
出土した鉄滓類5点について成分分析を行った (138頁)。砂鉄を始発原料とする精錬鍛冶滓と鍛造剥片からなる鍛造鍛冶滓であるとの結果を得ている。

**時期** 出土遺物と遺構の状態から古代と推測される。

#### S N108炉跡

**遺構** (第27図、写真図版20)

[位置・検出状況] I B 8 g グリッド。Ⅱ層で黒色土の広がりとして確認した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 黒色土の広がり、径30×20cmの円形で、中央が2 cmほど凹む。

[被熱土] 掘り方およびその周辺が黒色土で固く縮まり、還元している。還元部の厚さは4 cmである。

[所属施設] なし。

**遺物** (写真図版29・30)

[出土状況] 覆土から鉄滓類 (0.2 g) が出土している。

[鉄滓類] 鉄滓 (磁着無) (215) ・鍛造剥片 (286)。

**時期** 出土した炭化材について、放射性炭素年代測定を行った結果、cal AD1058～1214 (11～13世紀) との結果を得ている (125頁)。出土遺物と遺構の状態からも古代と推測される。

#### S N109焼土遺構

**遺構** (第27図、写真図版20)

[位置・検出状況] I B 8 i グリッド。Ⅱ層で黒色土の広がりとして確認した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 径20×15cmの不整形な焼土が径80cmの範囲に散在する。焼成面は平坦である。

[被熱土] 明赤褐色土の焼土で、焼土の厚さは4 cmである。

[所属施設] なし。

**遺物** なし。

**時期** 出土遺物がなく、時期の詳細は不明だが、遺構の状態から古代と推測される。

#### S N110焼土遺構

**遺構** (第27図、写真図版20)

[位置・検出状況] I B 8 i～8 j グリッド。Ⅱ層で赤褐色土の広がりとして焼土を確認した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 赤褐色土の広がり、径20～30cmほどの焼土が径105×80cmの不整形な範囲に散在する。焼成面は平坦である。

[被熱土] 赤褐色土の焼土で、焼土の厚さは5 cmである。

[所属施設] なし。

**遺物** (第30・34・40図、写真図版23・28・29・30)

[出土状況] 覆土から土器 (5.6 g) ・鉄製品 (1.2 g) ・鉄滓類 (240.7 g) が出土している。

[土器] 縄文土器 (61)。

[金属製品] 鉄釘 (194・195)。

[鉄滓類] 鉄滓類 (磁着無) (216) ・鉄滓類 (磁着有) (238) ・粒状滓 (273) ・鍛造剥片 (287)。

## 1 検出遺構

**時期** 出土遺物と遺構の状態から古代と推測される。

### (8) 土器埋設遺構 (第24図、写真図版15)

土器埋設遺構を1基検出した。竪穴住居跡・土坑と重複しているため、本来の形状は不明である。計測値等は、第8表土器埋設遺構観察表を参照されたい。

#### S Z 101土器埋設遺構

**遺構** (第24図、写真図版15)

[位置・検出状況] II C 3 d グリッド。南谷部の平坦面で、S K 101・111土坑を調査中、覆土掘り下げ中に確認したものである。

[重複関係] S K 110・111土坑と重複している。遺構の状態から土器埋設遺構が切られているものと判断した。掘り方と埋設土器の北側が、S K 110・111土坑に切られて失われている。

[掘り方の規模・平面形・覆土] 開口部径は40×(35)cm・底部径30×(30)cmを測り、円形を呈するものと推定される。深さ25cmである。覆土は暗褐色土からなる。

[埋設方法] 倒立した状態で埋設している。

[土器内部の様子] 黒褐色土・暗褐色土・にぶい黄褐色土などで構成される。

[所属施設] なし。

**遺物** (第30・35図、写真図版23)

[出土状況] 埋設土器として深鉢形土器の底部～胴部下半部が出土している。

[土器] 縄文土器 (61)。

**時期** 遺構の新旧関係と埋設土器から判断して、縄文時代後期と思われる。

### (9) 溝 跡 (第24図、写真図版15)

溝状を呈する遺構で1条検出した。尾根部を断ち切るように形成されている。人工的に設けられた可能性が高いと判断し報告する。時期は明確にできない。計測値などは、第9表溝跡観察表を参照されたい。

#### S D 101溝跡

**遺構** (第24図、写真図版15)

[位置・検出状況] III B 5 g グリッド。尾根筋に直交して、IV層で黒色土の細長い形状で検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 開口部の長さ450m、幅180cm、底面の長さ440cm、幅140cm。深さ20cmである。

[覆土・堆積状況] 暗褐色土・黄褐色土を主体とする。

[壁・底面] IV層を掘り込んでいる。壁は外傾し、底面は尾根の形状に沿って凹凸を持つ。

[付属施設] なし。

**遺物** なし。

**時期** 出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

### (10) 柱 穴 群 (第28図)

柱穴は71個確認された。このうち竪穴住居跡や建物跡を構成しない柱穴54個を柱穴群として報告する。



**PP1～9・25～39・43～48 (ⅡB・ⅡCグリッド)****遺構 (第8図)**

[位置・検出状況] 北谷部、ⅡB・ⅡCグリッド付近で24個検出した。Ⅲ層で黒色または黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] 柱穴同士で重複関係を持つものがある。

[規模・平面形] 径15～70cm、深さ9～72cmである。

[覆土・堆積状況] 柱痕跡や掘り方が確認されたものはなく、黒色から黒褐色土の単層で構成される。

**PP51～74 (ⅠBグリッド)****遺構 (第7図)**

[位置・検出状況] 北谷部、ⅠBグリッド付近で30個検出した。Ⅲ層で黒色または黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] 柱穴同士で重複関係を持つものがある。

[規模・平面形] 径15～75cm、深さ12～70cmである。

[覆土・堆積状況] 柱痕跡や掘り方が確認されたものはなく、黒色から黒褐色土の単層で構成される。

**遺物 (第30・35・39・40図、写真図版23・26・27・29)**

[出土状況] PP8・9・33・34・43・58・71から土器(139.8g)、PP69から石器、PP32から陶磁器、PP33・34・43・58・60から鉄滓類が出土している。

[土器] 縄文土器(63～65)。

[石器] 石鏃(142)・不定形石器(152)。

[陶磁器] 常滑の壺の破片か?(182)。

[鉄滓類] 鉄滓(磁着無)(222～226)・鉄滓(磁着有)(246～248)。

**時期** 出土遺物から、概ねⅠBグリッドの柱穴は古代、ⅡCグリッドの柱穴は縄文時代と推測される。

**(11) 埋 没 沢 (第28図、写真図版2・3)**

上記の遺構の他に調査区の北谷部・南谷部で埋没沢を確認している。北谷部の埋没沢は、現在は枯渇しており、全面掘り下げて遺構・遺物の確認を行った。現在調査区の北側を流れて、調査区東側で南流する沢と合流する小沢は、かつては調査区を横切るように北西-南東方向に流れていたものが、徐々に北側に流れを変えて現在に至ったものと推定される。確認された流路は3本(埋没沢1・2・3)で、埋没沢1の覆土から縄文時代早期以降の土器・石器などの遺物が出土している(68頁参照)。

南谷の埋没沢は、現在も湧水が激しく、沢の底部まで掘り下げることは困難であった。そのため表土除去後に試掘調査を行ったところ、下位から雨裂溝などが確認されたが、人為的に設けられた遺構は確認できなかった。平成19年度の試掘調査時に同地点で確認された焼土遺構は、埋没沢の覆土中に散在する酸化鉄のまとまりを見誤ったものと判断し、調査を終了した。

第2表 竪穴住居跡観察表

図版No.	写図No.	遺構名	位置	検出面	床面	平面形	規模 (m)	壁高 (cm)	炉の形態	炉の規模 (cm)	焼土の厚さ (cm)	柱穴・柱配置	覆土の堆積状況 (上位→下位)	付属施設	重複関係 (旧→新)	重複関係係 (旧→新)	遺物 (掲載No.)	備考	時期
9	4	SI101	II C 3 e	III	III?	不明	5~6?	不明	地床炉	110×70	20	17?	不明	なし	SK101・111→SI101	なし	あり	なし	縄文後期?

(数値) : 残存値

第3表 竪穴状遺構観察表

図版No.	写図No.	遺構名	位置	検出面	床面	平面形	規模 (m)	壁高 (cm)	柱穴・柱配置	覆土の堆積状況 (上位→下位)	付属施設	重複関係 (旧→新)	重複関係係 (旧→新)	遺物 (掲載No.)	備考	時期
9	4	SK1101	I B 6 c ~ 7 c	III	III?	隅丸方形?	3.6×(1.3)	12	なし	黒色土	なし	SK136→SW101→SK101	なし	なし	なし	古代?

(数値) : 残存値

第4表 土坑観察表

図版No.	写図No.	遺構名	位置	検出面	平面形	規模 (cm)			底面のレベル (m)	覆土の堆積状況 (上位→下位)	重複関係 (旧→新)	重複関係係 (旧→新)	性格	付属施設	備考	時期
						開口部	底面	深さ								
10	5	SK101	III B 4 g ~ 5 g	IV	円形?	210×160	150×120	60.0	44.000	黒褐色土・暗褐色土・オレンジ褐色土	なし	なし	土	なし	なし	不明
10	5	SK102	III B 4 g ~ 5 g	IV	円形基調?	130×120	100×90	20.0	45.400	灰黄褐色・黒褐色土	なし	なし	土	なし	なし	不明
10	5	SK103	II C 5 g	III	円形	90×84	74×74	35.0	29.780	黒褐色土・黒色土・褐色土	なし	なし	貯	なし	なし	縄文時代
11	5	SK104	II C 4 d ~ 5 d	III	円形	110×110	80×80	50.0	29.700	黒褐色土・黒色土・暗褐色土	なし	なし	貯	なし	なし	縄文時代
11	6	SK105	II C 1 e ~ 2 e	III	円形	220×210	145×135	120.0	28.800	暗褐色土・にぶい黄褐色土・黒褐色土	なし	なし	貯	なし	なし	縄文時代
11	6	SK106	II C 4 f ~ 4 g	III	円形	130×130	100×100	70.0	29.100	黒褐色土・にぶい黄褐色土・暗褐色土	なし	なし	貯	なし	なし	縄文時代
12	6	SK107	II C 4 e ~ 4 f	III	円形?	130×125	60×60	30.0	29.550	黒褐色土	なし	なし	土	なし	なし	縄文時代
12	6	SK108	II C 4 e ~ 4 f	III	円形?	140×130	120×100	25.0	29.600	暗褐色土	なし	なし	土	なし	なし	縄文時代
12	6	SK109	II C 4 f ~ 5 f	III	円形	150×150	70×70	60.0	28.900	黒褐色土・暗褐色土・黒褐色土	なし	なし	貯	なし	なし	縄文時代
13	7	SK110	II C 3 d	III	円形	190×170	110×110	90.0	29.150	黒褐色土・暗褐色土・黒色土	SK110→SK111	なし	貯	なし	なし	縄文時代
13	7	SK111	II C 3 e	III	円形	150×130	130×120	100.0	29.100	黒褐色土・褐色土・黒褐色土	SK110→SK111	なし	貯	なし	なし	縄文時代
13	7	SK112	II C 4 c	III	円形	98×90	75×75	25.0	30.100	暗褐色土・黒褐色土	なし	なし	貯	なし	なし	縄文時代
14	7	SK113	I B 10 c	IV	楕円形	160×140	100×100	50.0	35.500	暗褐色土・褐色土・黒褐色土	なし	なし	土	なし	なし	不明
14	8	SK114	II C 5 d	III	長楕円形	160×90	110×60	35.0	29.600	黒褐色土・褐色土	なし	なし	土	なし	なし	縄文時代
14	8	SK115	I C 9 b ~ 10 b	III	円形	150×140	130×120	20.0	29.400	黒色土・黒褐色土	なし	なし	土	なし	なし	縄文時代
15	8	SK116	I C 10 c	III	不整形	(280)×140	(240)×80	40.0	29.400	黒色土・暗褐色土	なし	なし	土	なし	なし	縄文時代
15	8	SK117	II C 7 d ~ 7 e	III	不整形	380×160	180×80	50.0	29.150	黒褐色土・暗褐色土・黒色土	なし	なし	土	なし	なし	縄文時代
16	9	SK119	II B 5 i	III	円形	135×125	80×80	40.0	31.350	黒色土・黒褐色土	なし	なし	土	なし	なし	縄文時代
16	9	SK121	II B 5 h	II	方形	90×80	70×45	14.0	31.950	黒色土	なし	なし	土	なし	なし	不明
16	9	SK122	II B 4 g	III	円形基調	100×90	50×28	20.0	32.200	黒褐色土・暗褐色土	なし	なし	土	なし	なし	不明
16	10	SK125	II C 8 b	II	円形	90×80	65×58	40.0	29.980	黒褐色土	なし	なし	土	なし	なし	不明
17	10	SK130	II B 7 j	III	方形基調	150×115	130×95	20.0	35.100	黒褐色土・暗褐色土	なし	なし	土	なし	なし	不明

(数値) : 残存値

図版No.	写図No.	遺構名	位置	検出面	平面形	規模 (cm)		底面のレベル (m)	覆土の堆積状況 (上位→下位)	重複関係 (旧→新)	性格	付属施設	備考	時期
						開口部	底部							
17	10	SK131	II B 7 j	III	円形基調	100×100	90×80	35.040	暗褐色土・にぶい黄褐色土	なし	土	なし	不明	
17	10	SK132	II B 7 a	III	円形	80×65	35×30	34.630	黒褐色土	なし	土	なし	不明	
17	10	SK133	II A 1 j ~ II B 1 a	II ~ III	不整形	160×80	(65)×28	35.700	黒色土・暗褐色土	なし	土	なし	縄文時代	
18	11	SK134	II B 7 h ~ 7 i	II ~ III	不整形	185×120	160×30	31.200	黒色土・黒褐色土	SK135→SK134	土	なし	縄文時代	
18	11	SK135	II B 7 h ~ 7 i	III	不整形	180×60	120×15	31.450	黒色土	SK135→SK134	土	なし	縄文時代	
18	11	SK136	I B 7 d	III	円形	104×95	60×50	30.350	黒褐色土・暗褐色土	SK136→SW101	土	なし	古代?	
18	11	SK137	I B 6 d	III	円形基調	110×100	96×75	30.088	黒褐色土・暗褐色土	なし	土	なし	不明	
18	11	SK138	I B 6 d	III	楕円形?	140×105	95×75	30.800	黒褐色土・黒色土	なし	土	なし	縄文時代	
19	12	SK139	I B 8 e	II	円形	60×60	42×42	30.550	黒褐色土・黒色土	なし	土	なし	不明	
19	12	SK140	I B 7 d	II	円形	85×85	45×44	29.150	黒褐色土・黒色土	なし	土	なし	不明	
19	12	SK141	I B 7 f ~ 7 g	II	円形	95×(85)	80×(60)	29.800	黒褐色土・黒色土	SK141→SK142	土	なし	古代	
19	12	SK142	I B 7 f ~ 7 g	II	円形	110×110	90×88	29.670	黒褐色土・黒色土	SK141→SK142	土	なし	古代	
19	12	SK143	I B 8 f	II	隅丸方形	102×100	110×100	29.800	黒褐色土・黒色土・黒褐色土	なし	土	なし	古代	
19	13	SK144	I B 8 g	II	楕円形	224×170	195×125	29.200	黒褐色土・黒色土	なし	土	なし	不明	
20	13	SK145	I B 9 h	II	隅丸方形	140×110	125×90	29.320	黒褐色土・黒色土	なし	土	なし	古代	
20	13	SK146	I B 6 g	II	楕円形	190×130	155×94	29.160	黒褐色土・黒色土・黒褐色土	SK147→SK146	土	なし	古代	
20	14	SK147	I B 6 g	III	楕円形?	(70)×40	(55)×45	29.450	黒褐色土	SK147→SK146	土	なし	古代	
20	14	SK149	III C 7 c	II	円形	70×55	42×38	33.600	黒褐色土・にぶい黄褐色土	なし	土	なし	不明	
21	14	SK150	III C 6 e	III	長楕円形	135×65	120×40	30.700	にぶい黄褐色土	なし	土	なし	不明	
21	14	SK151	III C 6 e ~ 6 f	III	不整形	225×185	120×115	31.800	にぶい黄褐色土・暗褐色土・黒褐色土	SK152→SK151	土	なし	不明	
21	14	SK152	III C 5 e ~ 5 f	III	不整形	160×185	110×90	31.600	暗褐色土・褐色土・黒褐色土	SK152→SK151	土	なし	不明	
21	15	SK153	III C 7 e	III	隅丸方形	110×60	75×35	31.900	黒褐色土・黒色土・暗褐色土	なし	土	なし	不明	

第5表 陥し穴状遺構観察表

図版No.	写図No.	遺構名	位置	検出面	平面形	規模 (cm)		底面のレベル (m)	覆土の堆積状況 (上位→下位)	重複関係 (旧→新)	性格	付属施設	備考	時期
						開口部	底部							
22	16	SK118	II B 3 j ~ 4 j	III	溝状	300×40	265×30	30.650	黒褐色土・にぶい黄褐色土・黒褐色土	なし	陥	なし	両端が広がる	不明
22	16	SK123	II B 3 c	III	溝状	(135)×36	(130)×20	33.800	黒褐色土	なし	陥	なし	南端を欠く	不明
22	16	SK124	II B 7 j	III	溝状	150×60	130×50	30.850	黒褐色土・暗褐色土	なし	陥	なし		不明
23	16	SK126	II A 5 j	III	溝状	200×40	195×20	30.060	黒褐色土	なし	陥	副穴2個		不明
23	17	SK127	II A 7 i	III	楕円形	150×70	110×20	35.300	黒色土・暗褐色土・黒褐色土	なし	陥	副穴2個		不明
23	17	SK128	II A 7 i	III	楕円形	220×100	165×30	35.250	黒褐色土・褐色土・暗褐色土	なし	陥	なし		不明
23	17	SK148	IV C 2 d	III	楕円形	130×80	80×45	34.700	黒褐色土・暗褐色土・褐色土	なし	陥	副穴1		不明

(数値) : 残存値

第 6 表 炭 灰 跡 観 察 表 (数 値) : 残 存 値

図版 No.	写図 No.	遺構名	位置	検出面	平面形	規模 (cm)			底面のレベル(m)	軸長比	覆土の堆積状況	焼土		炭化材重量(g)	同定	重複関係	付属施設	備考	時期
						開口部	底部	深さ				壁	底						
24	4	SW101	I B 7 c	III	隅丸長方形	150×90	130×85	12	31.18	1.6	黒褐色土	○	○	419.7	クリ	SK138→SW101→SKI101	なし	C14	古代

第 7 表 焼 土 遺 構 観 察 表 (数 値) : 残 存 値

図版 No.	写図 No.	遺構名	位置	焼成面	平面形	形態	規模 (cm)		状況 (焼土・還元の状態)	新旧関係 (旧→新)	備 考	出土遺物		時 期
							平面	厚さ				粒状滓	鍛造剥片	
25	18	SNI01	II C 4 c	III	円形基調?	A	100×90	3.0	赤褐色 (焼土)	なし	焼土の周囲に石組?	○	○	古代?
25	18	SNI02	II B 6 f	II	不整形	A	30×30	6.0	暗赤褐色 (焼土)	なし	焼土の周囲に礫・中粒径石?			縄文?
25	18	SNI03	I B 7 h	II	不整形	A	50×25	6.0	明赤褐色 (焼土)	なし				不明
26	18	SNI04	I A 1 j	II	不整形	A	40×25	3.0	暗赤褐色 (焼土)	なし				不明
26	19	SNI05	I B 8 h	II	凹形	B	30×22	10.0	黒色 (還元)	なし	掘り込みの周囲還元	○	○	古代
26	19	SNI06	I B 9 i	II	凹形	B	40×22	10.0	黒色 (還元)	なし	掘り込みの周囲還元	○	○	古代
27	19	SNI07	I B 8 h	II	凹形	B	40×30	10.0	黒色 (還元)	なし	掘り込みの周囲還元	○	○	古代
27	20	SNI08	I B 8 g	II	凹形	B	30×20	1.5	黒色 (還元)	なし	掘り込みの周囲還元	○	○	古代
27	20	SNI09	I B 8 i	II	不整形	A	20×15	4.0	明赤褐色 (焼土)	なし				古代
27	20	SNI10	I B 8 i ~ 8 j	II	凹形	A	105×80	5.0	赤褐色 (焼土)	なし				古代

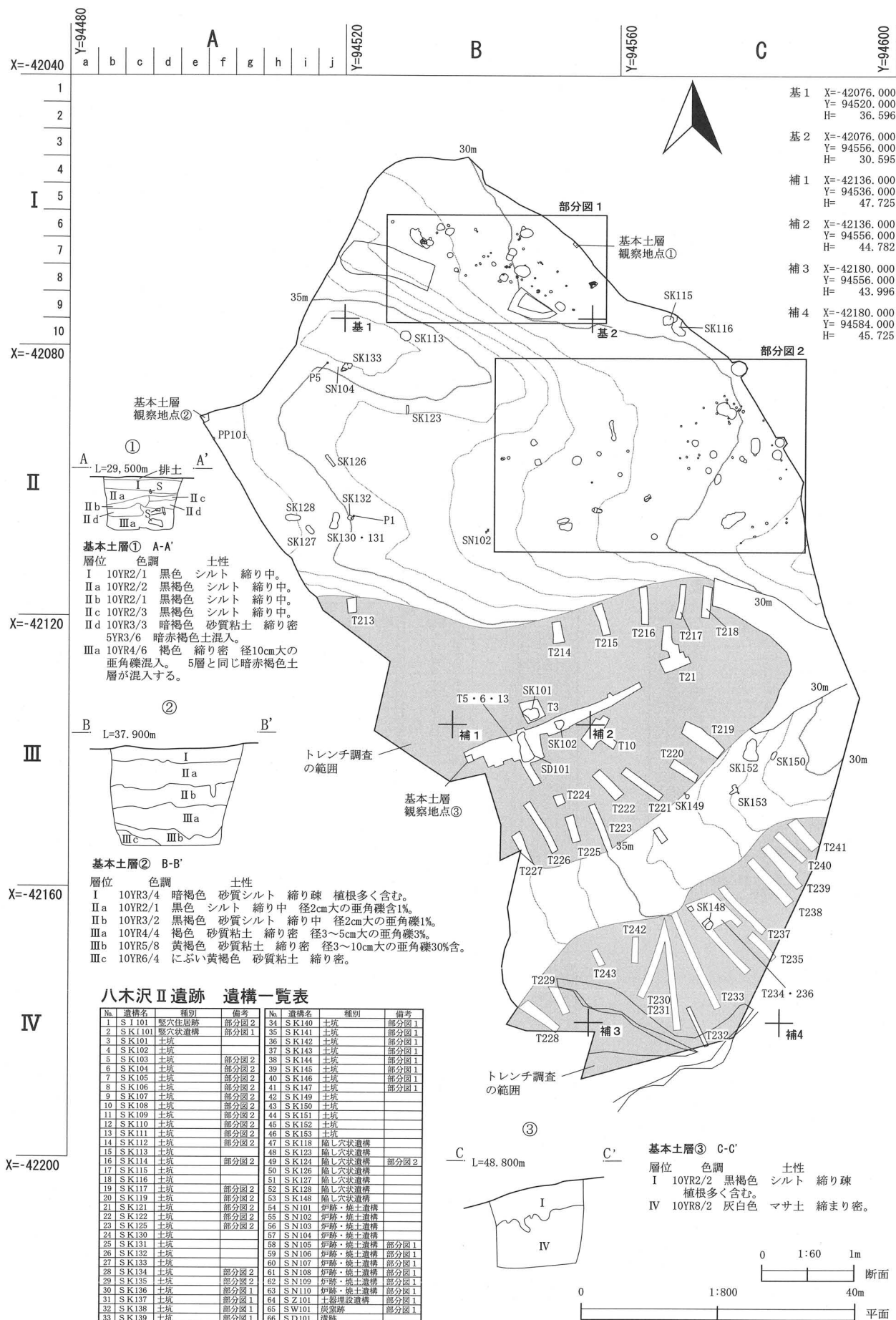
※平面形：A = 掘り込みをもたないもの、B = 掘り込みをもつもの

第 8 表 土 器 埋 設 遺 構 観 察 表 (数 値) : 残 存 値

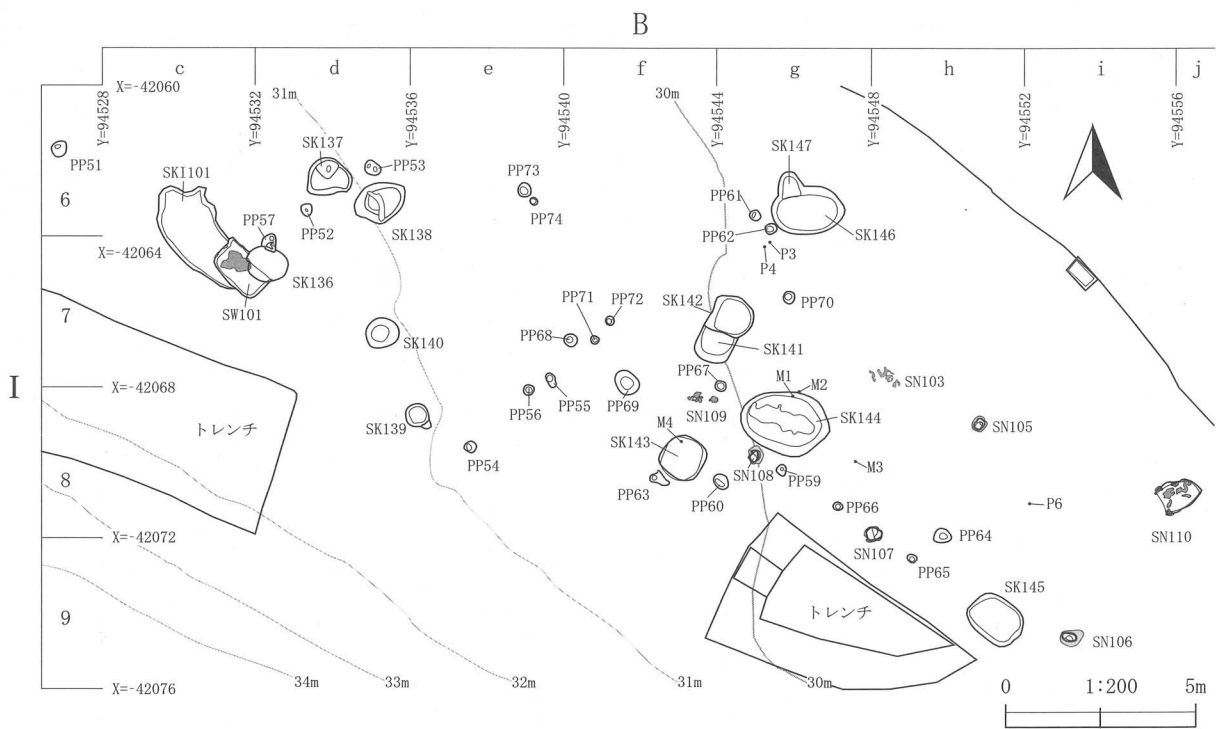
図版 No.	写図 No.	遺構名	位置	検出面	平面形	掘り方の規模 (cm)		埋設状況	埋設土器の状況	埋設土器の内部	重複関係 (旧→新)	備考	出土遺物	時 期
						平面	深さ							
24	15	SZ101	II C 3 d	III	円形?	40×(35)	25.0	倒立	口縁~胴部上半	黒褐色・暗褐色・にぶい黄褐色	SZ01→SK110・111?	なし	土器	縄文後期

第 9 表 溝 跡 観 察 表 (数 値) : 残 存 値

図版 No.	写図 No.	遺構名	位置	検出面	平面形	規模 (cm)			底面のレベル(m)	重複関係 (旧→新)	性格	付属施設	備考	時 期
						平面	底部	深さ						
24	15	SD101	III B 5 g	IV層	溝状 (端部にふくらみあり)	450×180	440×140	20.0	46.300	なし	不明	なし	尾根に直交	不明



第6図 遺構配置図(1) : 全体図



部分図1 遺構一覧表

No.	遺構名	種別	備考
2	SK1101	堅穴状遺構	部分図1
31	SK136	土坑	部分図1
32	SK137	土坑	部分図1
33	SK138	土坑	部分図1
34	SK139	土坑	部分図1
35	SK140	土坑	部分図1
36	SK141	土坑	部分図1
37	SK142	土坑	部分図1
38	SK143	土坑	部分図1
39	SK144	土坑	部分図1
40	SK145	土坑	部分図1
41	SK146	土坑	部分図1
42	SK147	土坑	部分図1
58	SN105	炉跡・焼土遺構	部分図1
59	SN106	炉跡・焼土遺構	部分図1
60	SN107	炉跡・焼土遺構	部分図1
61	SN108	炉跡・焼土遺構	部分図1
62	SN109	炉跡・焼土遺構	部分図1
63	SN110	炉跡・焼土遺構	部分図1
65	SW101	炭窯跡	部分図1

柱穴観察表

(数値) : 残存値

No.	遺構名	規模 (cm)		底面 レベル(m)	備考
		開口部径	深さ		
1	PP1 (II C)	35×30	11.0	29.190	部分図2
2	PP2 (II C)	20×15	24.0	29.104	部分図2
3	PP3 (II C)	25×20	11.4	29.230	部分図2
4	PP4 (II C)	20×18	36.0	29.290	部分図2
5	PP5 (II C)	20×20	13.0	29.684	部分図2
6	PP6 (II C)	40×(25)	19.0	29.574	部分図2
7	PP7 (II C)	30×25	10.0	29.864	部分図2
8	PP8 (II C)	70×65	72.0	29.124	部分図2
9	PP9 (II C)	40×40	21.0	29.614	部分図2
10	PP25 (II C)	25×20	38.0	29.950	部分図2
11	PP26 (II C)	30×20	31.0	30.170	部分図2
12	PP27 (II C)	25×25	37.0	29.994	部分図2
13	PP28 (II C)	30×25	16.6	30.104	部分図2
14	PP29 (II C)	20×20	14.0	30.104	部分図2
15	PP30 (II C)	38×25	22.0	30.114	部分図2
16	PP31 (II C)	28×22	14.0	30.284	部分図2
17	PP32 (II C)	33×33	14.0	30.154	部分図2
18	PP33 (II B)	65×60	14.0	30.124	部分図2
19	PP34 (II C)	60×60	29.0	30.904	部分図2
20	PP35 (II C)	35×30	24.4	30.840	部分図2
21	PP36 (II B)	60×45	10.0	32.494	部分図2
22	PP37 (II B)	45×40	11.0	32.384	部分図2
23	PP38 (II C)	(70)×70	23.0	30.440	部分図2
24	PP39 (II C)	60×(50)	14.0	30.520	部分図2
25	PP43 (II C)	40×40	31.2	28.920	部分図2
26	PP44 (II C)	20×20	21.2	85.928	部分図2
27	PP45 (II C)	35×30	31.6	28.656	部分図2
28	PP46 (II C)	40×20	9.6	28.852	部分図2
29	PP47 (II C)	30×15	18.2	28.902	部分図2
30	PP48 (II C)	30×30	31.0	29.004	部分図2
31	PP51 (I B)	50×40	43.4	31.280	部分図1
32	PP52 (I B)	30×30	39.0	30.850	部分図1
33	PP53 (I B)	45×30	35.0	30.634	部分図1
34	PP54 (I B)	30×30	35.0	30.610	部分図1
35	PP55 (I B)	45×25	22.0	30.500	部分図1
36	PP56 (I B)	30×30	30.4	30.470	部分図1
37	PP57 (I B)	50×35	46.4	30.934	部分図1
38	PP59 (I B)	25×20	24.0	29.760	部分図1
39	PP60 (I B)	50×30	13.0	30.054	部分図1
40	PP61 (I B)	30×25	19.6	29.774	部分図1
41	PP62 (I B)	25×22	12.0	29.614	部分図1
42	PP63 (I B)	50×30	70.4	29.674	部分図1
43	PP64 (I B)	50×34	28.0	29.470	部分図1
44	PP65 (I B)	25×18	13.4	29.650	部分図1
45	PP66 (I B)	25×15	22.0	29.684	部分図1
46	PP67 (I B)	30×42.5	33.6	29.724	部分図1
47	PP68 (I B)	36×30	31.0	30.360	部分図1
48	PP69 (I B)	70×65	55.0	29.914	部分図1
49	PP70 (I B)	30×30	27.0	29.574	部分図1
50	PP71 (I B)	15×15	19.6	30.414	部分図1
51	PP72 (I B)	18×18	15.0	30.390	部分図1
52	PP73 (I B)	34×34	26.0	30.344	部分図1
52	PP74 (I B)	20×20	22.6	30.414	部分図1
53	PP101 (II A)	40×(20)	48.4	36.390	全体図

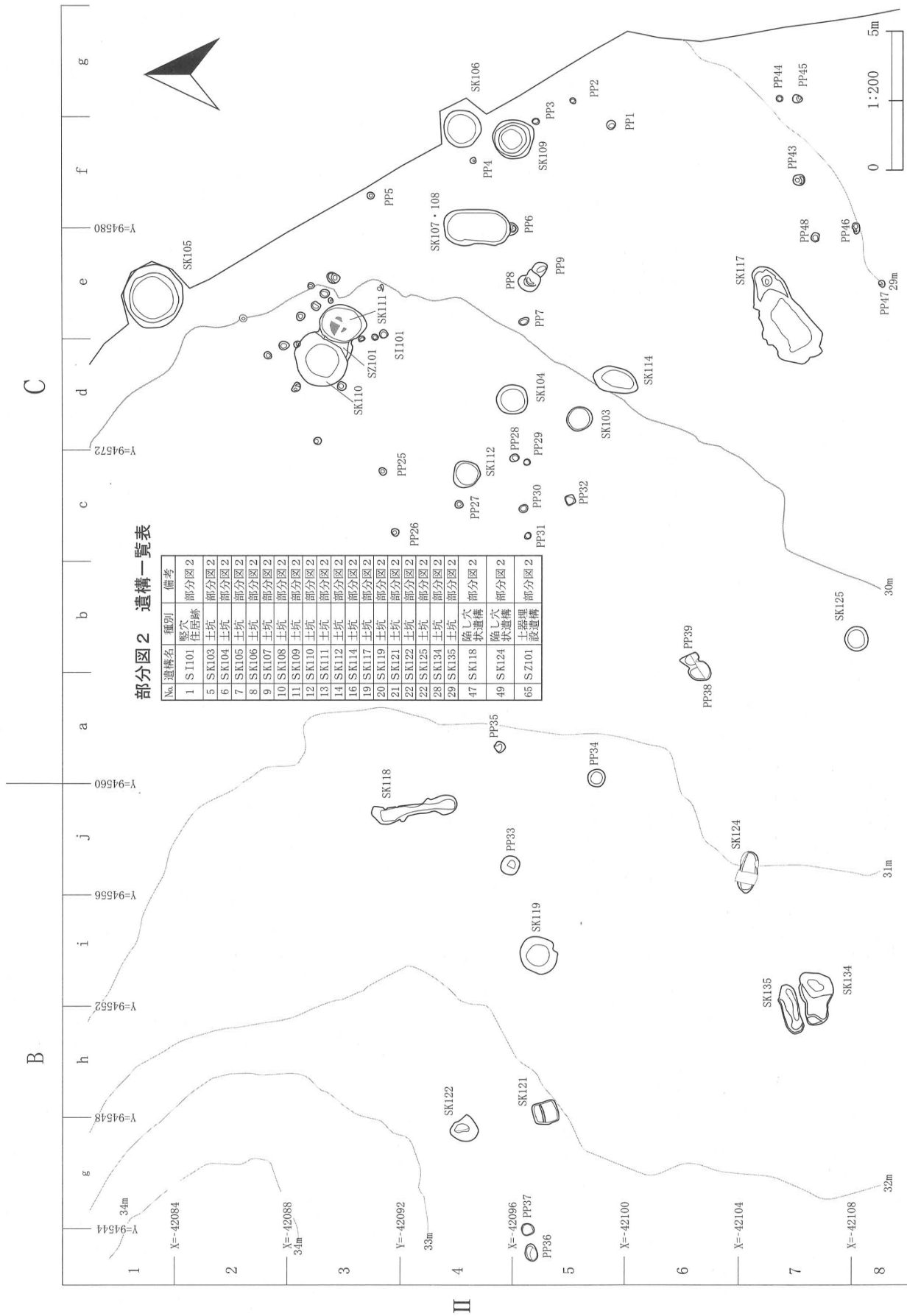
PP10~24 : 欠番

PP40~42 : 欠番

PP49 : 50 : 欠番

PP58 : 欠番

第7図 遺構配置図(2) : 部分図1



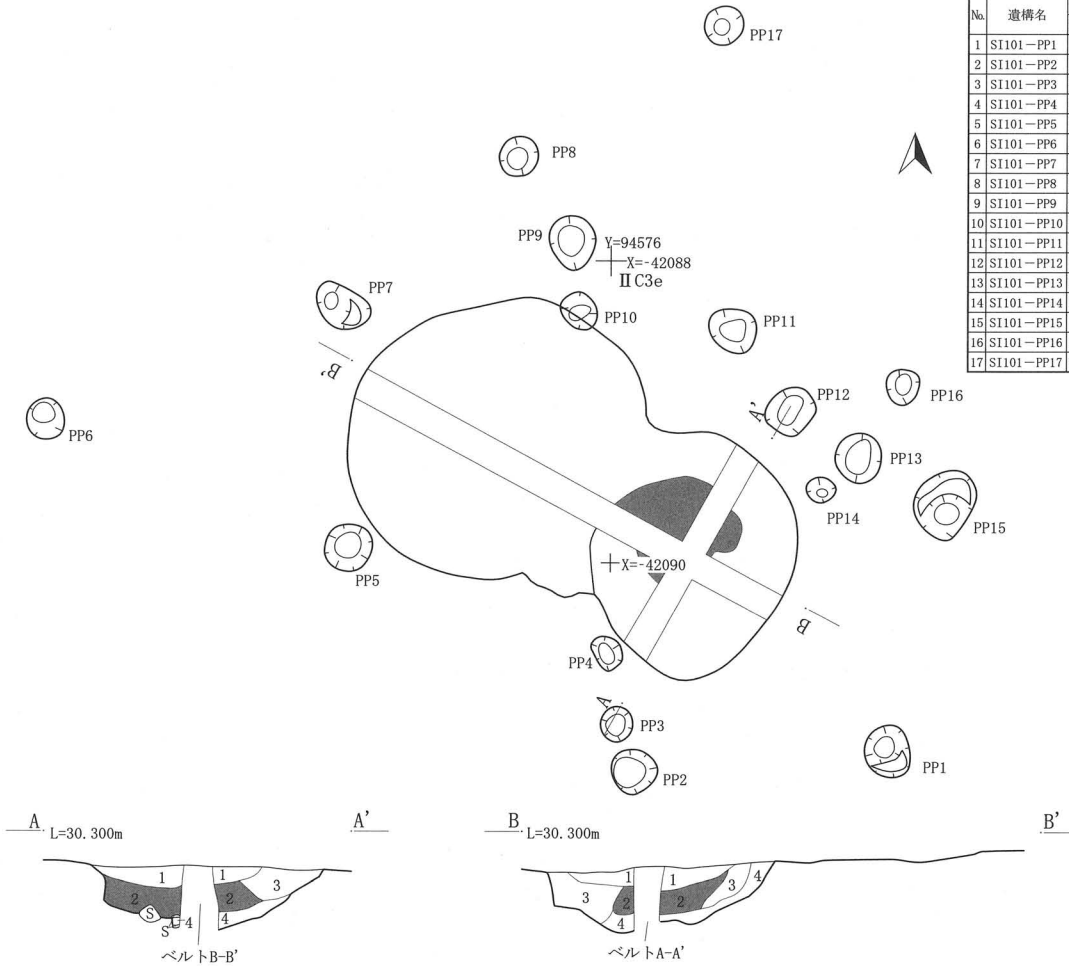
第8図 遺構配置図(3) : 部分図2



SI101

SI101 柱穴観察表 (数値): 残存値

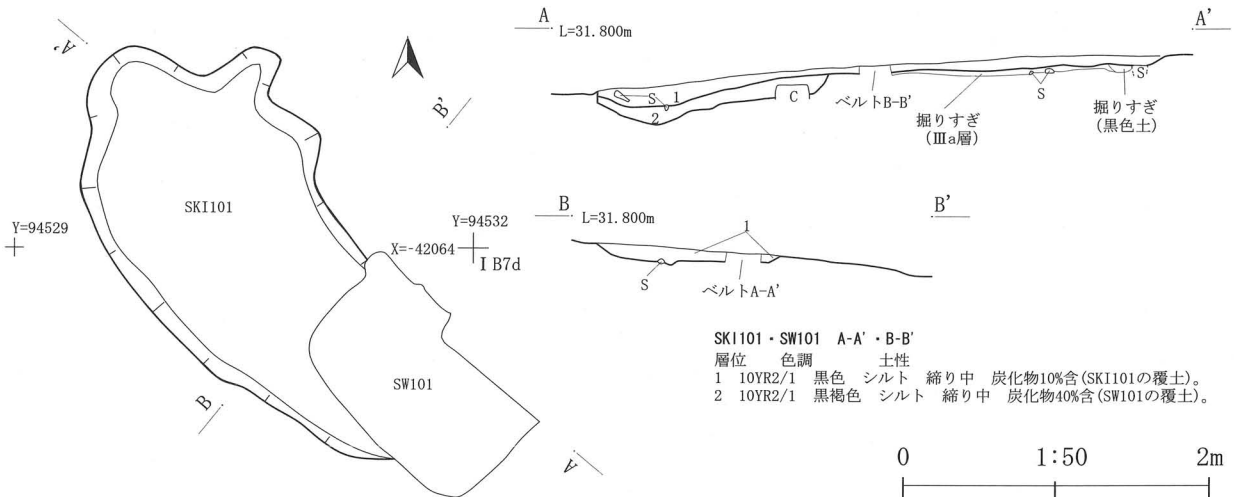
No.	遺構名	規模 (cm) 開口部径	深さ	底面 レベル (m)	備考
1	SI101-PP1	30×30	25.0	29.764	
2	SI101-PP2	30×30	37.0	29.710	
3	SI101-PP3	23×21	17.0	29.984	
4	SI101-PP4	23×18	15.0	29.920	
5	SI101-PP5	30×30	17.6	29.924	
6	SI101-PP6	27×25	34.0	29.930	
7	SI101-PP7	38×28	37.0	29.784	
8	SI101-PP8	28×25	9.0	30.020	
9	SI101-PP9	35×30	24.0	29.844	
10	SI101-PP10	27×20	20.6	29.854	
11	SI101-PP11	34×30	12.6	29.894	
12	SI101-PP12	31×28	23.0	29.760	
13	SI101-PP13	32×30	17.4	29.830	
14	SI101-PP14	20×18	20.4	29.780	
15	SI101-PP15	45×40	19.4	29.734	
16	SI101-PP16	24×22	22.0	29.770	
17	SI101-PP17	25×25	27.0	29.754	



SK110 A-A'・B-B'

- 層位 色調 土性
- 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト 縮り中。
  - 5YR5/4 にぶい赤褐色 焼土 縮り密 小礫(径1cm大)混入 上層ほど明るい 褐色土3%。
  - 10YR3/4 暗褐色 砂質シルト 縮り中。
  - 10YR2/3 黒褐色 シルト 縮り中。

SK1101

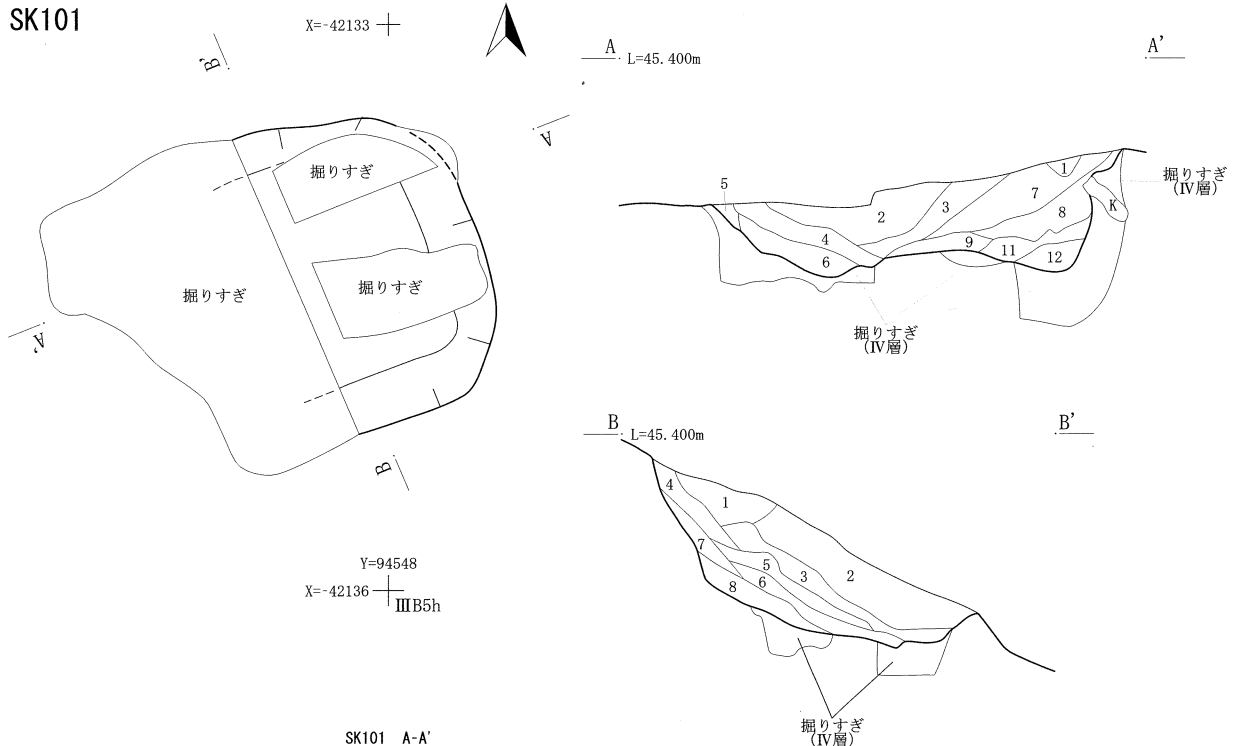


SK1101・SW101 A-A'・B-B'

- 層位 色調 土性
- 10YR2/1 黒色 シルト 縮り中 炭化物10%含(SK1101の覆土)。
  - 10YR2/1 黒褐色 シルト 縮り中 炭化物40%含(SW101の覆土)。

第9図 竪穴住居跡：SI101・竪穴状遺構：SKI101

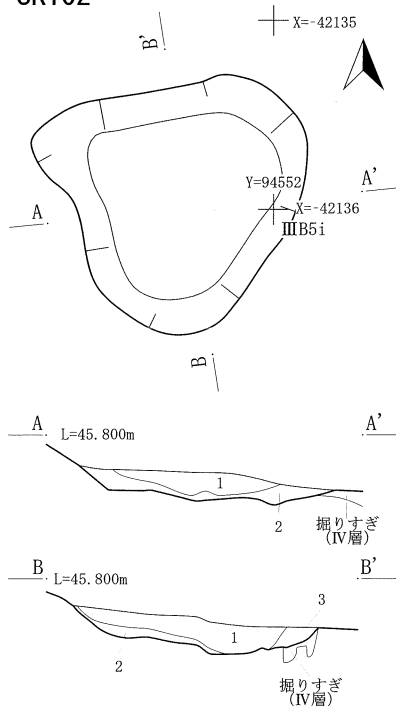
SK101



SK101 A-A'

層位	色調	土性
1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂 締りやや疎 φ0.5~1cm礫3%。
2	10YR2/2 黒褐色	シルト 締り中 マサ土7% φ2mm程度炭化物1%。
3	10YR3/3 暗褐色	シルト 締りやや疎 マサ土5% φ2mm程度炭化物1%。
4	10YR3/4 暗褐色	シルト 締りやや疎 φ2mm炭化物1%。
6	10YR4/4 褐色	砂 締り密。
5	10YR3/2 黒褐色	シルト 締り中 マサ土10% φ2m程度炭化物1%。
7	10YR3/3 暗褐色	砂 締り中 マサ土15% φ2m程度炭化物。
8	10YR3/4 暗褐色	シルト 締りやや疎 マサ土10%。
9	10YR3/3 暗褐色	砂 締り中 マサ土5%。
11	2.5Y4/6 オリーブ褐色	砂 締り疎。
12	2.5Y4/4 オリーブ褐色	砂 締り疎。

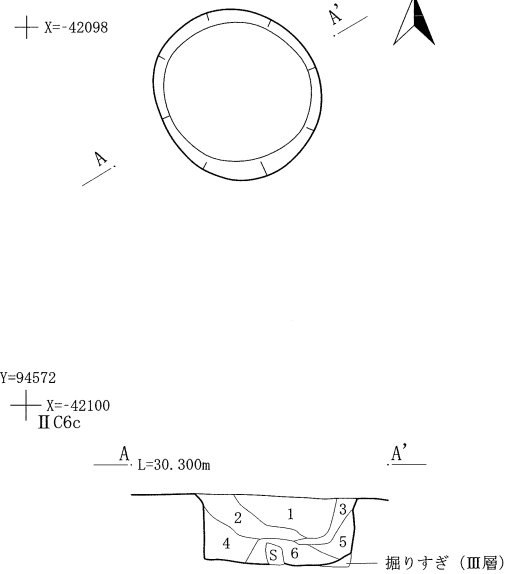
SK102



SK102 A-A'・B-B'

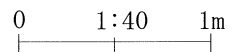
層位	色調	土性
1	10YR4/2 灰黄褐色	砂 密度やや密 細礫3%。
2	2.5Y3/2 黒褐色	砂 締り密。
3	10YR3/4 暗褐色	砂 締り密 マサ土5%。

SK103



SK103 A-A'

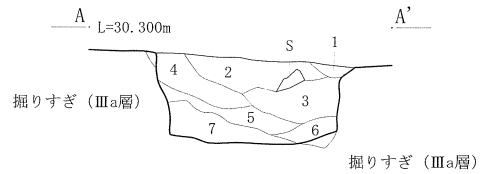
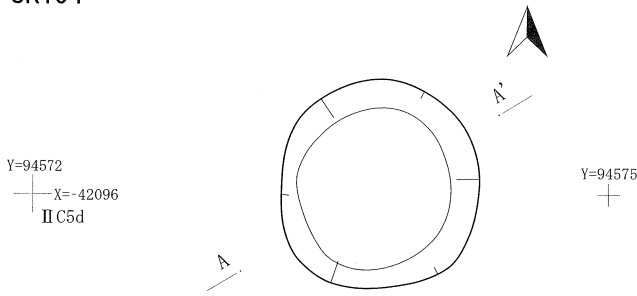
層位	色調	土性
1	10YR2/2 黒褐色	シルト 締り密 φ1cm礫3% IIIa層ブロック3%。
2	10YR1.7/1 黒色	シルト 締りやや密 1層ブロック(φ5cm)5% φ5mm礫1%。
3	10YR2/1 黒色	シルト 締りやや密 IIIa層ブロック3% φ1cm炭化物 %。
4	10YR2/1 黒色	シルト 締りやや密 IIIa層ブロック3% 10YR3/2 黒褐色ブロック7%。
5	10YR1.7/1 黒色	シルト 締りやや密 φ5cm IIIa層ブロック10%。
6	10YR4/6 褐色	砂 締り密 10YR2/2 黒褐色 シルトブロック混入。



第10図 土坑(1) : SK 101~103

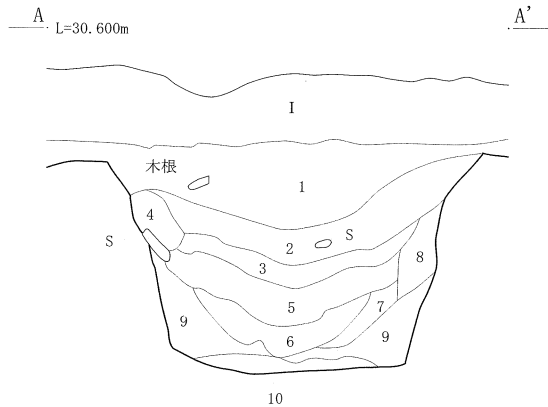
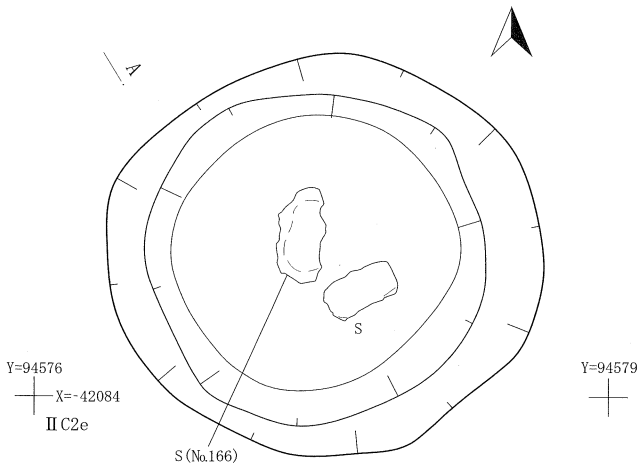
1 検出遺構

SK104



- SK104 A-A'
- | 層位 | 色調           | 土性                          |
|----|--------------|-----------------------------|
| 1  | 10YR3/4 暗褐色  | シルト 締り中。                    |
| 2  | 10YR3/1 黒褐色  | シルト 締り中 径15cm大の亜角礫1個含。      |
| 3  | 10YR4/4 褐色   | 砂質粘土 締り中 Ⅲa層起源の土 黒褐色土20%混入。 |
| 4  | 10YR3/2 黒褐色  | シルト 締り中 細礫1%含 暗褐色土30%含。     |
| 5  | 10YR2/1 黒色   | シルト 締り中。                    |
| 6  | 10YR1.7/1 黒色 | シルト 締り中。                    |
| 7  | 10YR3/3 暗褐色  | 砂質粘土 締り中 褐色土5%混入 細礫1%混入。    |

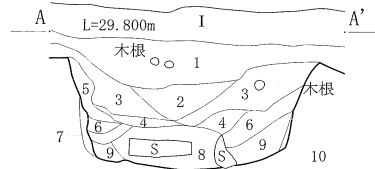
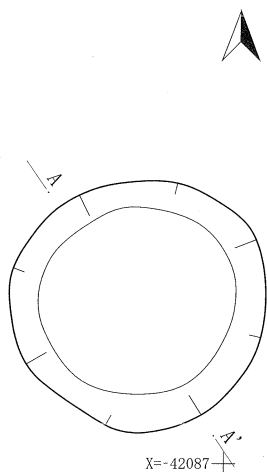
SK105



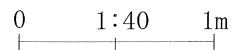
- SK105 A-A'
- | 層位 | 色調             | 土性                                 |
|----|----------------|------------------------------------|
| 1  | 10YR3/4 暗褐色    | 砂質シルト 締り中。                         |
| 2  | 10YR3/3 暗褐色    | 砂質シルト 締り中 径10cm大の礫混入 径5mm大の礫混入10%。 |
| 3  | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 締り中 暗褐色土3%含。                |
| 4  | 10YR5/6 黄褐色    | 粘土 締り中 径20cm大の礫混入。                 |
| 5  | 10YR3/1 黒褐色    | シルト 締り中 黄褐色土2%含。                   |
| 6  | 10YR2/1 黒色     | シルト 締り中 黄褐色土2%含。                   |
| 7  | 10YR3/2 黒褐色    | シルト 締り中。                           |
| 8  | 10YR5/6 黄褐色    | 粘土 締り中。                            |
| 9  | 10YR4/6 褐色     | 粘土 締り中 暗褐色土10%含。                   |
| 10 | 10YR3/2 黒褐色    | シルト 締り中。                           |
- ※5・6・10層(下層)シルトに黒色土が入り、1・2・3層(上層)砂質シルトに暗褐色土が入る。この堆積土は周辺にはすでに無く、削平されたものと考えられる。

SK106

Y=94584  
X=-42084 II C4g

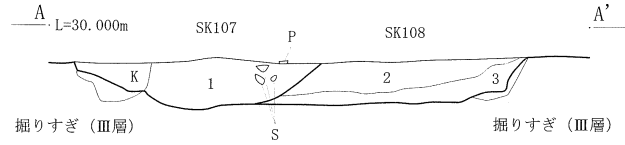
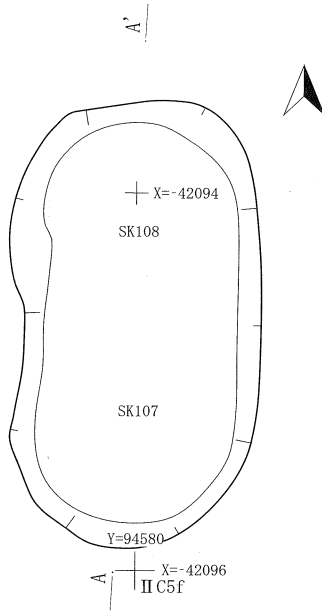


- SK106 A-A'
- | 層位 | 色調             | 土性                   |
|----|----------------|----------------------|
| 1  | 10YR2/2 黒褐色    | シルト 締り中 植根多量に含む。     |
| 2  | 10YR2/3 黒褐色    | シルト 締り中 焼土粒1%。       |
| 3  | 10YR3/2 黒褐色    | シルト 締り中 褐色土3%含 木根含。  |
| 4  | 10YR3/1 黒褐色    | シルト 締り中。             |
| 5  | 10YR3/4 黒褐色    | シルト 締り中。             |
| 6  | 10YR3/2 黒褐色    | シルト 締り中。             |
| 7  | 10YR4/6 褐色     | 粘土・粗砂 締り密 Ⅲ層の崩落。     |
| 8  | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 径20cm大の亜角礫含む。 |
| 9  | 10YR3/4 暗褐色    | 粘土質シルト 褐色土10%含。      |
| 10 | 10YR5/6 黄褐色    | 粗砂 締り密 Ⅲ層の崩落。        |



第11図 土坑(2) : SK 104~106

SK107・108



SK107・SK108 A-A'

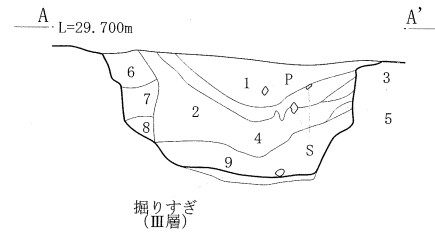
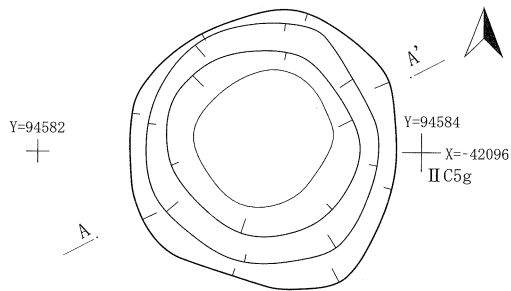
SK107

層位 色調 土性  
 1 10YR2/3 黒褐色 シルト 締り中 亜角礫(径5cm大)1%含 褐色土3%含。

SK108

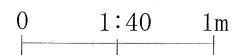
層位 色調 土性  
 2 10YR3/4 暗褐色 シルト 締り中 植根多量に含む 上位に褐色土層が入る 木根含む。  
 3 10YR3/3 シルト 締り中 黄褐色土3%含。

SK109



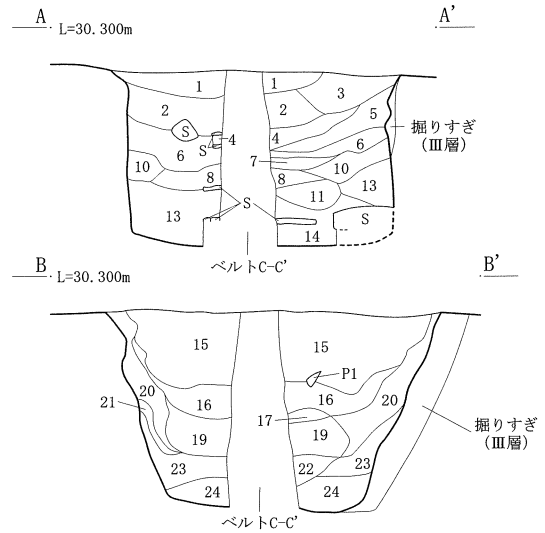
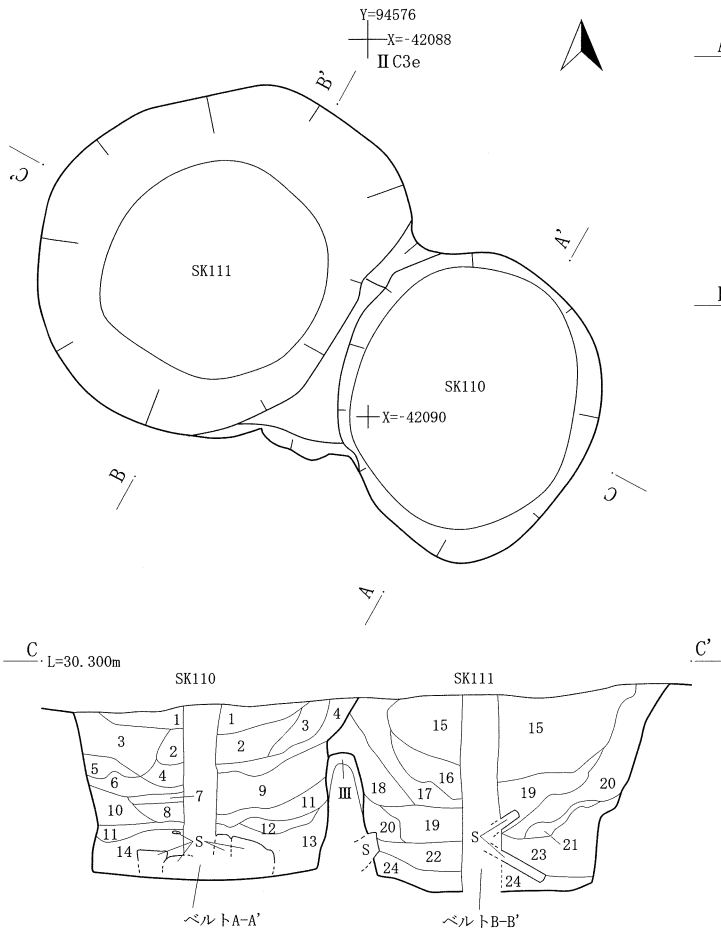
SK109 A-A'

層位 色調 土性  
 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り中 径5cm大の礫混入3%。  
 2 10YR2/1 黒色 シルト 締り中 褐色土粒混入5%。  
 3 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 締り中。  
 4 10YR2/3 黒褐色 シルト 締り中 小礫径2cm未満。  
 5 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 締り中。  
 6 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 締り中 小礫混入1%。  
 7 10YR4/4 褐色 粘土 締り中 小礫混入1%。  
 8 10YR3/3 暗褐色 シルト 締り中 小礫混入1%。  
 9 10YR2/3 黒褐色 シルト 締り中 径5cm大の礫混入。



第12図 土坑(3) : SK 107~109

SK110・111



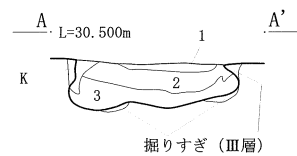
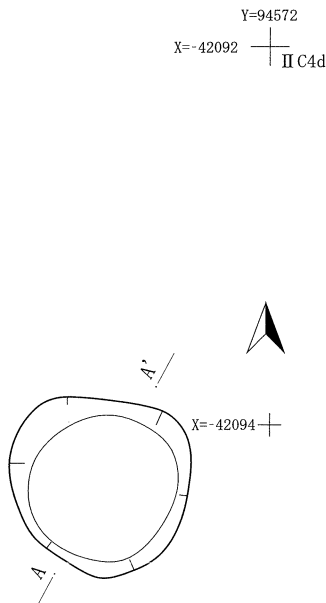
SK110・SK111 A-A'・B-B'・C-C'  
SK110

- | 層位 | 色調             | 土性                                 |
|----|----------------|------------------------------------|
| 1  | 10YR3/2 黒褐色    | 砂質シルト 締り中。                         |
| 2  | 5YR5/4 にぶい赤褐色  | 焼土 締り密 小礫(径1cm大)混入 上層ほど明るい 褐色土3%含。 |
| 3  | 10YR3/4 暗褐色    | 砂質シルト 締り中。                         |
| 4  | 10YR2/3 黒褐色    | シルト 締り中。                           |
| 5  | 10YR5/6 黄褐色    | 粘土 締り中。                            |
| 6  | 10YR3/2 黒褐色    | シルト 締り中。                           |
| 7  | 10YR3/4 暗褐色    | 砂質シルト 締り中。                         |
| 8  | 5YR3/6 暗赤褐色    | 焼土 締り中 暗褐色土との混土。                   |
| 9  | 10YR4/4 褐色     | 粘土質シルト 締り中 黄色土3%含。                 |
| 10 | 10YR3/4 暗褐色土   | 砂質シルト 締り中。                         |
| 11 | 10YR2/1 黒色     | シルト 締り中。                           |
| 12 | 10YR4/6 褐色     | 粘土 締り中。                            |
| 13 | 10YR2/2 黒色     | シルト 締り中 径10cm大の亜角礫混入。              |
| 14 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | 粘土 締り中 径10cm大の亜角礫混入。               |

SK111

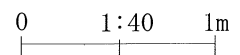
- | 層位 | 色調           | 土性                         |
|----|--------------|----------------------------|
| 15 | 10YR2/3 黒褐色  | 砂質シルト 締り中 植根多い。            |
| 16 | 10YR2/2 黒褐色  | 砂質シルト 締り中 径5cm大の亜角礫混入。     |
| 17 | 10YR3/2 黒褐色  | 砂質シルト 締り中。                 |
| 18 | 10YR3/8 暗褐色  | 砂質シルト 締り中。                 |
| 19 | 10YR1.7/1 黒色 | シルト 締り中。                   |
| 20 | 10YR4/4 褐色   | 砂質粘土 締り中 10YR5/6 黄褐色土10%含。 |
| 21 | 10YR2/1 黒色   | シルト 締り中。                   |
| 22 | 10YR3/1 黒色   | シルト 締り中。                   |
| 23 | 10YR4/4 褐色   | 粘土 締り中。                    |
| 24 | 10YR3/2 黒褐色  | シルト 締り中。                   |

SK112



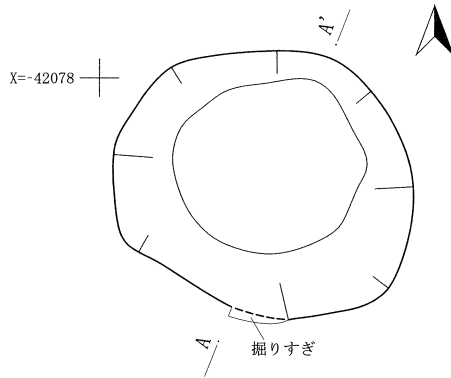
SK112 A-A'

- | 層位 | 色調          | 土性                     |
|----|-------------|------------------------|
| 1  | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト 締り中 黄褐色土10%含。   |
| 2  | 10YR2/3 黒褐色 | シルト 締り中 径3cm大の礫含む。     |
| 3  | 10YR2/3 黒褐色 | シルト 締り中 黄色土粒3%ブロックで含む。 |

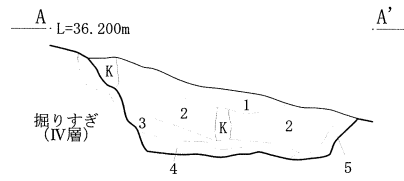


第13図 土坑(4) : SK110~112

SK113



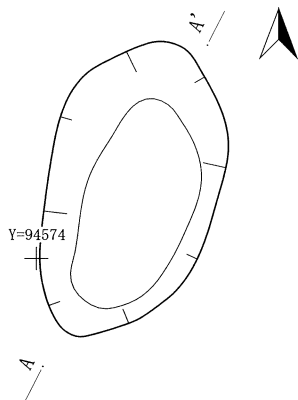
Y=94528  
X=-42080  
II B1c



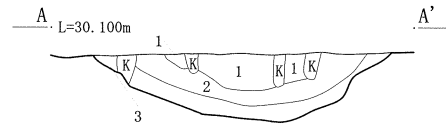
SK113 A-A'

- | 層位 | 色調          | 土性                |
|----|-------------|-------------------|
| 1  | 10YR3/4 暗褐色 | シルト 締り中 植根多く含む。   |
| 2  | 10YR3/3 暗褐色 | 砂質シルト 締り中 植根多く含む。 |
| 3  | 10YR4/4 褐色  | 粘土質・砂 締り中。        |
| 4  | 10YR2/3 黒褐色 | シルト 締り中。          |
| 5  | 10YR4/6 褐色  | 粘土 締り中 (IV層起源)。   |

SK114



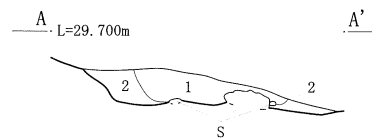
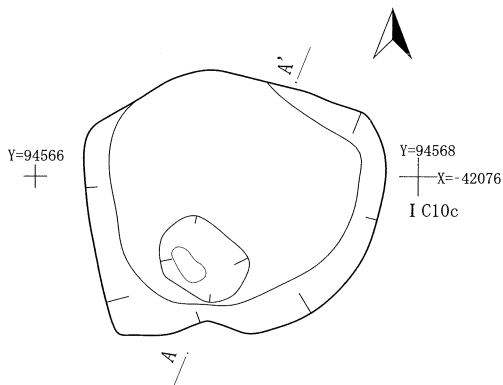
Y=94576  
X=-42100  
II C6e



SK114 A-A'

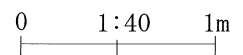
- | 層位 | 色調          | 土性                          |
|----|-------------|-----------------------------|
| 1  | 10YR2/2 黒褐色 | シルト 締り中 径1cm未満の小礫混入層の上層に1%。 |
| 2  | 10YR2/3 黒褐色 | シルト 締り中 褐色土10%含。            |
| 3  | 10YR4/4 褐色  | 粘土 締り密 径1cm未満の小礫混入(5%)。     |

SK115



SK115 A-A'

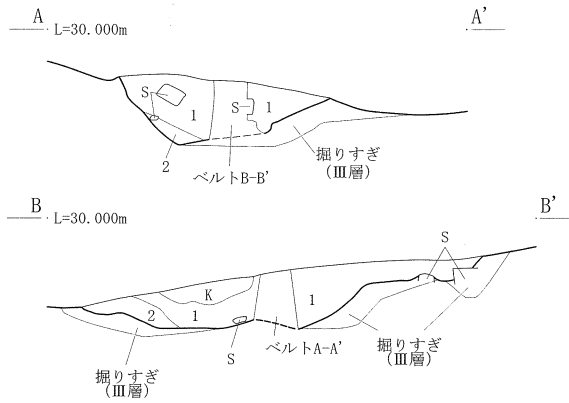
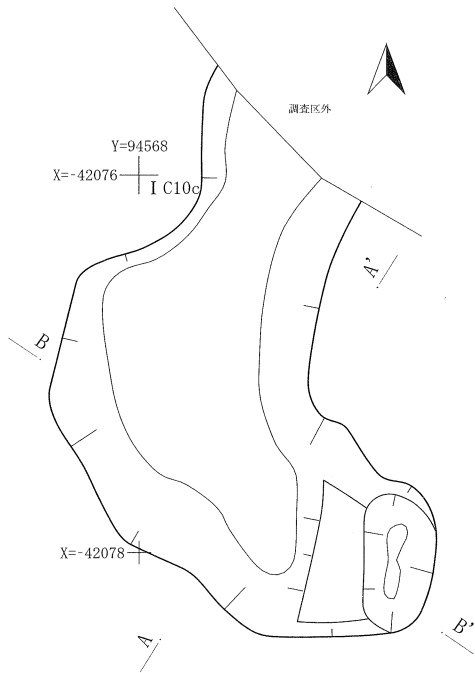
- | 層位 | 色調          | 土性                      |
|----|-------------|-------------------------|
| 1  | 10YR2/2 黒色  | 砂質シルト 締り中 径20cm大の亜角礫混入。 |
| 2  | 10YR3/2 黒褐色 | 砂質シルト 締り中 小礫混入。         |



第14図 土坑(5) : SK 113~115

1 検出遺構

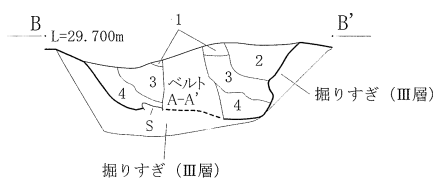
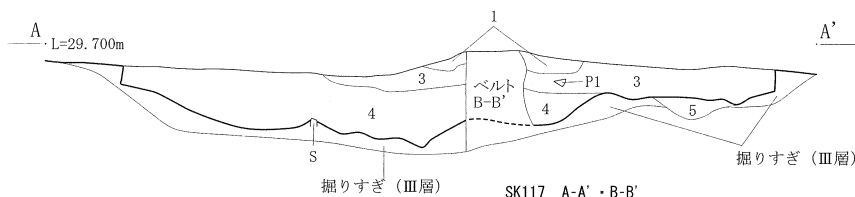
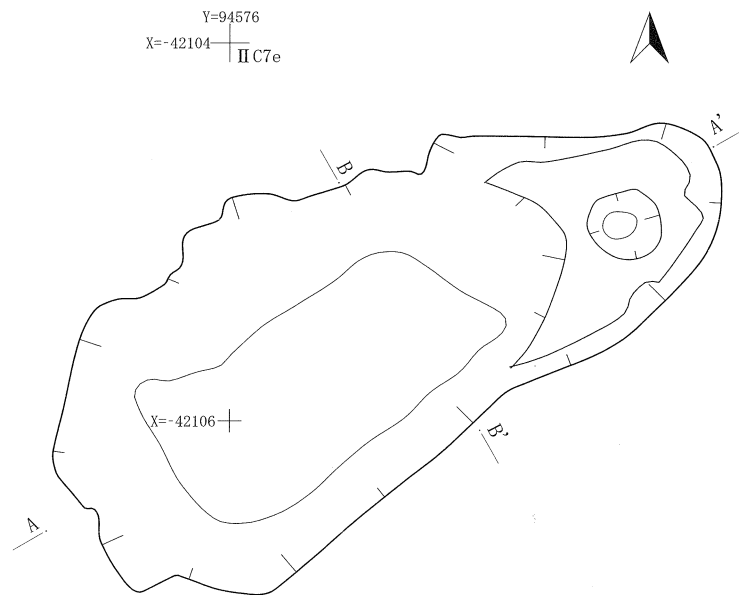
SK116



SK116 A-A'・B-B'

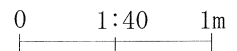
層位	色調	土性
1	10YR2/1 黒色	シルト 締りやや疎 径20cm大の五角礫含 植根多量に含む。
2	10YR3/4 暗褐色	粘土 締り中。

SK117



SK117 A-A'・B-B'

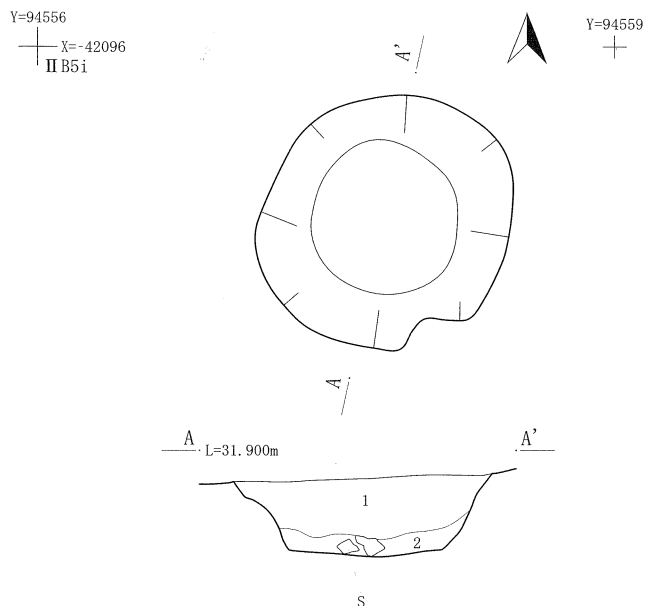
層位	色調	土性
1	10YR2/2 黒褐色	シルト 締り中 10YR3/4 暗赤褐色 焼土が混入10%。焼土は現地性のものではない。
2	10YR3/4 暗褐色	砂質粘土 締り中 礫3%含。
3	10YR2/2 黒褐色	シルト 締り中 植根含。
4	10YR2/1 黒色	シルト 締り中 径2cm大の小礫混入。
5	10YR3/2 黒褐色	シルト



第15図 土坑(6) : SK 116・117

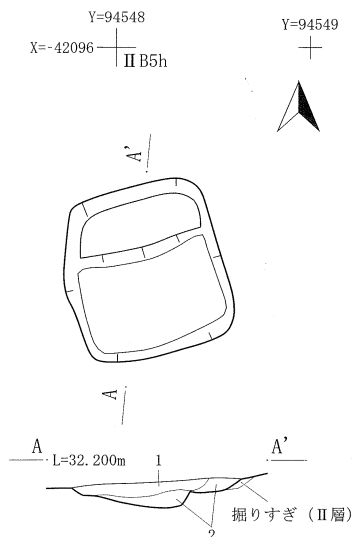


SK119



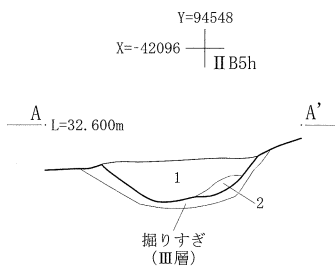
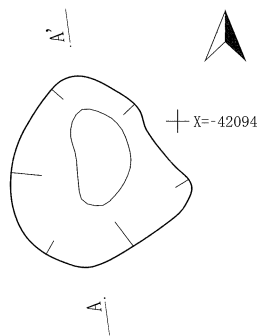
SK119 A-A'  
 層位 色調 土性  
 1 10YR1.7/1 黒色 シルト 締り中。  
 2 10YR2/3 黒褐色 シルト 締り中 褐色土1%含。  
 径10cm大の亜角礫含。

SK121



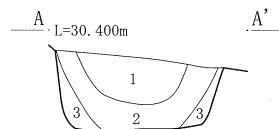
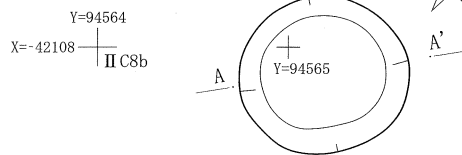
SK121 A-A'  
 層位 色調 土性  
 1 10YR3/1 黒色 砂質シルト 締り中  
 径5mm大の小礫混入10%。  
 2 10YR1.7/1 黒色 シルト 締り中。

SK122

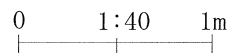


SK122 A-A'  
 層位 色調 土性  
 1 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト 締り中 暗褐色土1%含。  
 径1cm大の小礫1%含。  
 2 10YR3/4 暗褐色 粘土 締り中 黄色土粒1%含。

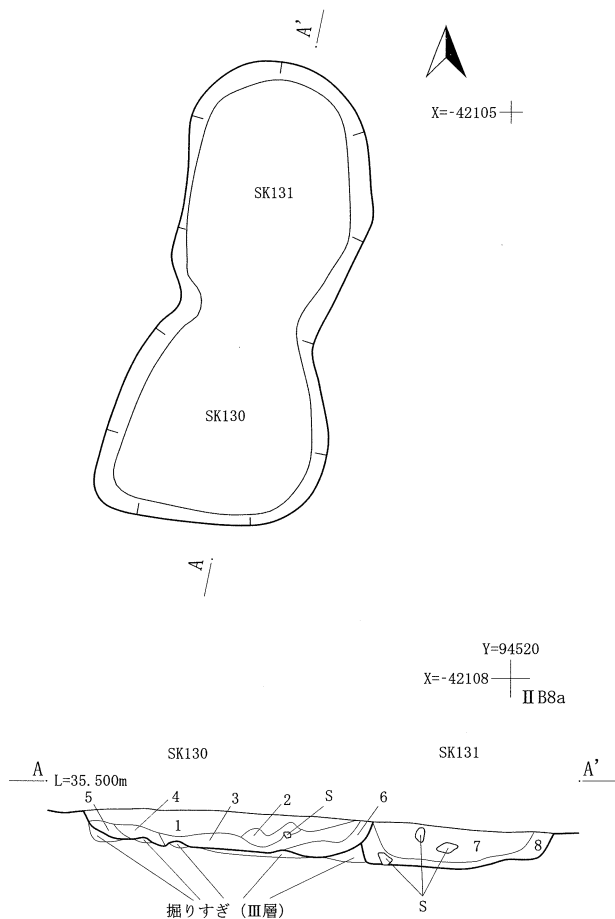
SK125



SK125 A-A'  
 層位 色調 土性  
 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 締りやや密 径1cm大の小礫3%。  
 2 10YR2/2 黒褐色 シルト 締りやや密 径1cm大の小礫7%。  
 3 10YR2/3 黒褐色 粘土質シルト 締り中 径1cm大の小礫2%  
 10YR5/6 黄褐色土5%含。

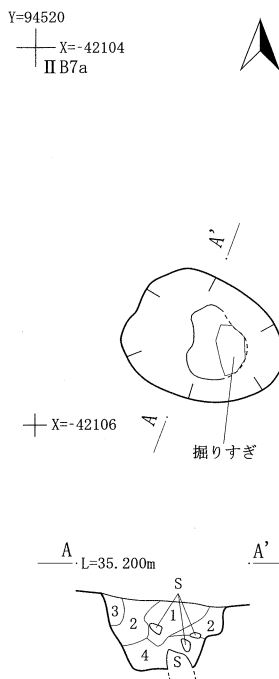


SK130・131



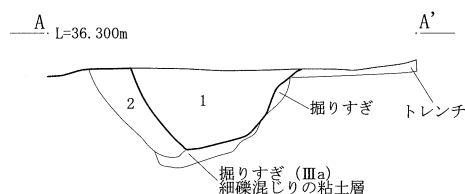
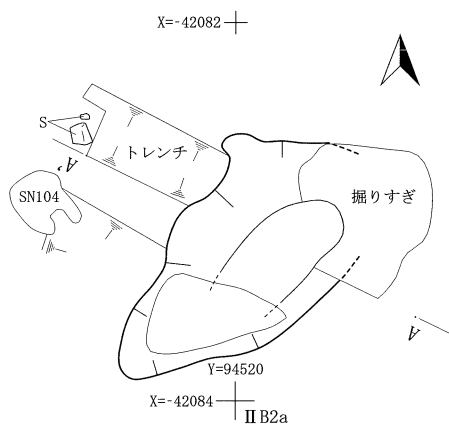
- SK130・131 A-A'
- | 層位 | 色調             | 土性                                  |
|----|----------------|-------------------------------------|
| 1  | 10YR2/2 黒褐色    | シルト 締り中 径1cm前径小礫3%。                 |
| 2  | 10YR2/3 黒褐色    | シルト 締り中 径1cm大の小礫2%。                 |
| 3  | 10YR3/3 暗褐色    | 粘土質シルト 締り中 径1cm大の小礫5%。              |
| 4  | 10YR3/4 暗褐色    | 粘土質シルト 締りやや疎 径1cm大の小礫3%。            |
| 5  | 10YR4/4 褐色     | 粘土質シルト 締り中 径1cm大の小礫2%。              |
| 6  | 10YR3/4 暗褐色    | 粘土質シルト 締りやや疎 径1cm大の小礫1%。            |
| 7  | 10YR3/3 暗褐色    | 粘土質シルト 締り中 径1cm大の小礫7% 径2~3cm大の小礫2%。 |
| 8  | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 締りやや疎 径1cm大の小礫7%。            |

SK132

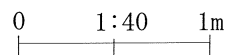


- SK132 A-A'
- | 層位 | 色調          | 土性                          |
|----|-------------|-----------------------------|
| 1  | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト 締り中 褐色土が下位に含まれる。     |
| 2  | 10YR2/2 黒褐色 | シルト 締りやや疎。                  |
| 3  | 10YR4/4 褐色  | 粘土質シルト 締り中 10YR3/3 暗褐色土40%。 |
| 4  | 10YR2/2 黒褐色 | 10YR3/3の混合 粘土質シルト 締り中。      |

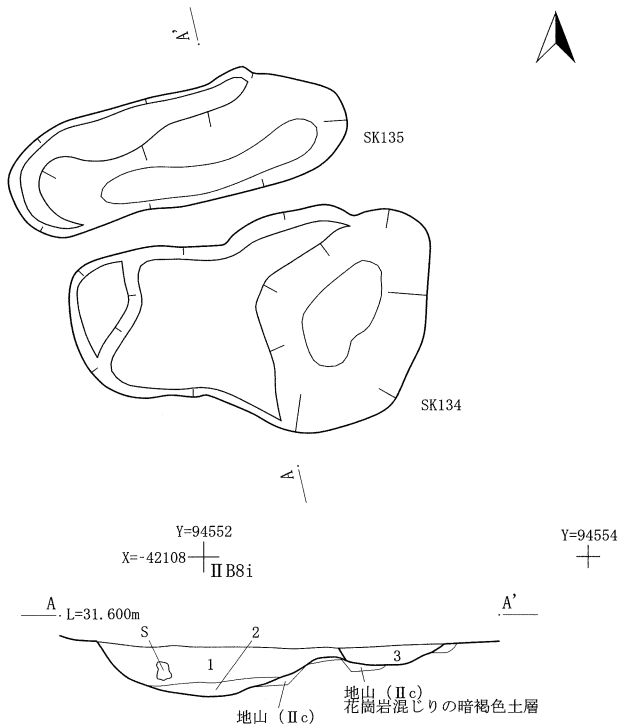
SK133



- SK133 A-A'
- | 層位 | 色調          | 土性                 |
|----|-------------|--------------------|
| 1  | 10YR2/1 黒色  | 砂質シルト 締り中。         |
| 2  | 10YR3/3 暗褐色 | 砂質シルト 締り中 黄色土粒含1%。 |



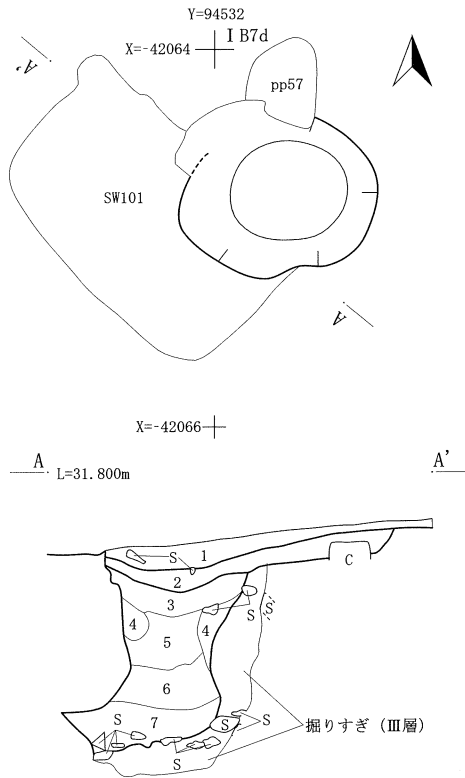
SK134・135



SK134・135 A-A'

- | 層位 | 色調           | 土性                  |
|----|--------------|---------------------|
| 1  | 10YR1.7/1 黒色 | シルト 締り中 花崗岩の細礫混入5%。 |
| 2  | 10YR2/3 黒褐色  | シルト 締り中。            |
| 3  | 10YR2/1 黒色   | シルト 締り中。            |
- 各層とも湧水のため、湿っぽく粘性強い。

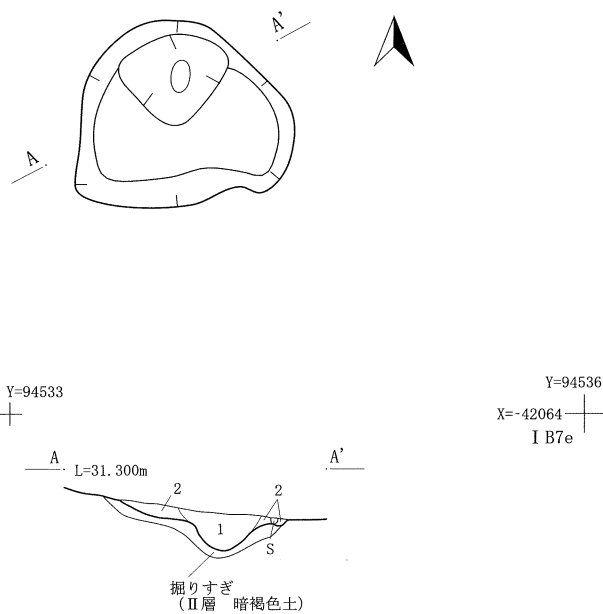
SK136



SK136 A-A'

- | 層位 | 色調          | 土性                           |
|----|-------------|------------------------------|
| 1  | 10YR2/1 黒色  | シルト 締り中 炭化物10%含 (SKI101の覆土)。 |
| 2  | 10YR2/1 黒褐色 | シルト 締り中 炭化物40%含 (SW101の覆土)。  |
| 3  | 10YR2/2 黒褐色 | シルト 締り中 炭化物5%含。              |
| 4  | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土 締り中 径10cm大の垂角礫混入。         |
| 5  | 10YR2/3 黒褐色 | シルト 締り中 砂質シルト 締り中 植根多く含む。    |
| 6  | 10YR3/4 暗褐色 | 砂質シルト 締り中 植根多く含む。            |
| 7  | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土 締り中 径10cm大の垂角礫混入10%。      |

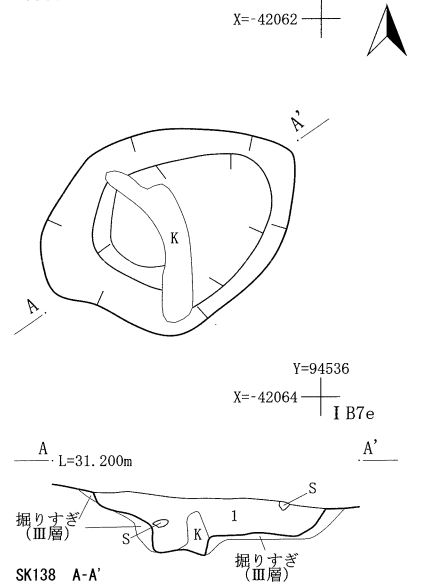
SK137



SK137 A-A'

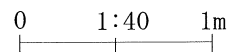
- | 層位 | 色調          | 土性                      |
|----|-------------|-------------------------|
| 1  | 10YR2/2 黒褐色 | 砂質シルト 締り中。              |
| 2  | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト 締り中 径3cm大の垂角礫混入。 |

SK138



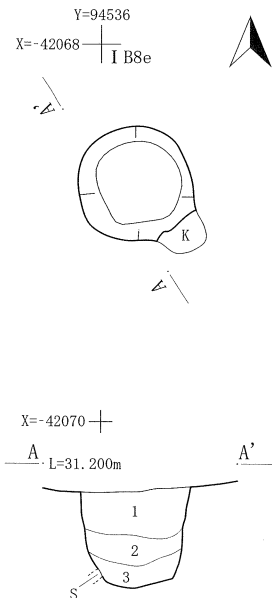
SK138 A-A'

- | 層位 | 色調           | 土性                        |
|----|--------------|---------------------------|
| 1  | 10YR2/2 黒褐色  | 砂質シルト 締り中 径3~5cm大の小礫混入3%。 |
| K  | 10YR1.7/1 黒色 | シルト 締り疎 木根跡?              |



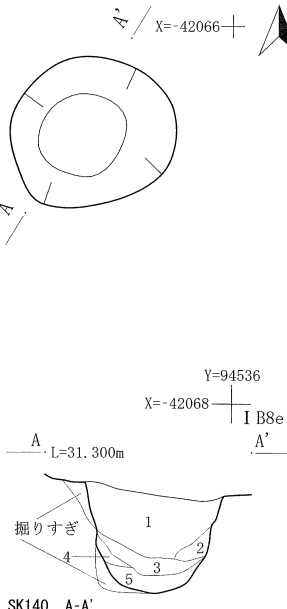
1 検出遺構

SK139



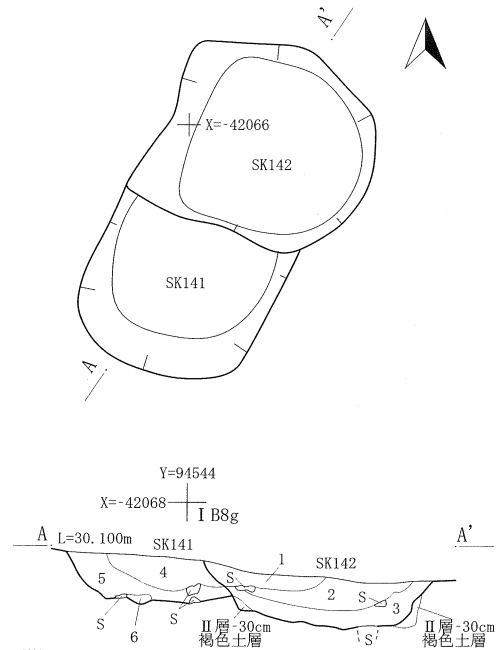
- SK139 A-A'
- | 層位 | 色調           | 土性                              |
|----|--------------|---------------------------------|
| 1  | 10YR2/2 黒褐色  | 砂質シルト 締り中 炭化物1%含。径1cm大の小礫混入10%。 |
| 2  | 10YR2/1 黒色   | シルト 締りやや疎。                      |
| 3  | 10YR1.7/1 黒色 | 砂質シルト 締り中 褐色土粒3%含。              |

SK140



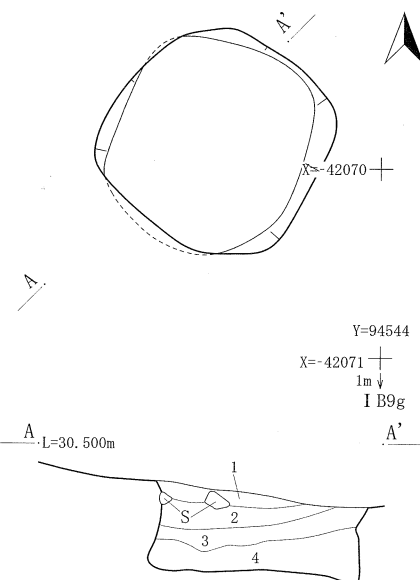
- SK140 A-A'
- | 層位 | 色調          | 土性                     |
|----|-------------|------------------------|
| 1  | 10YR2/2 黒褐色 | 砂質シルト 締り中 炭化物1%含 植根含む。 |
| 2  | 10YR3/3 暗褐色 | 砂 締り中。                 |
| 3  | 10YR2/1 黒色  | シルト 締りやや疎。             |
| 4  | 10YR3/3 暗褐色 | 砂 締り中。                 |
| 5  | 10YR2/2 黒褐色 | シルト 締りやや疎。             |

SK141・142



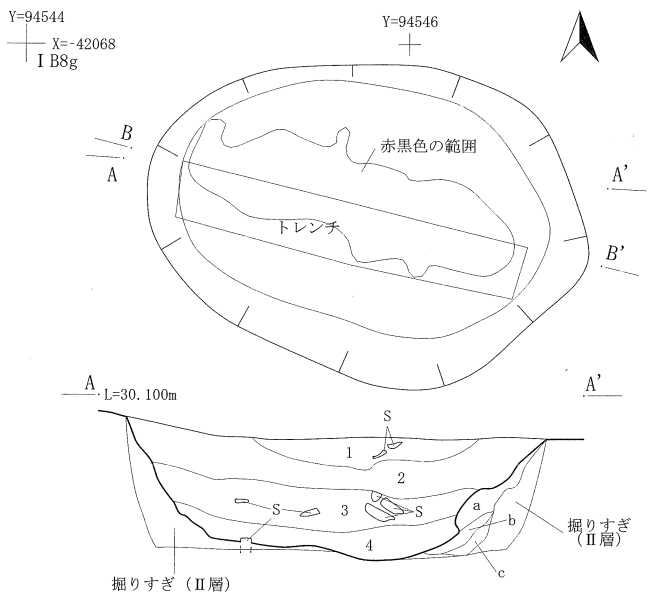
- SK141・142 A-A'
- | 層位 | 色調           | 土性                      |
|----|--------------|-------------------------|
| 1  | 10YR2/3 黒褐色  | シルト 締り中。                |
| 2  | 10YR2/1 黒色   | シルト 締りやや密。              |
| 3  | 10YR1.7/1 黒色 | シルト 締りやや密 径3~5cm大の礫5%含。 |
| 4  | 10YR3/2 黒褐色  | シルト 締り中。                |
| 5  | 10YR1.7/1 黒色 | シルト 締りやや密 径5cm大の礫5%含。   |
| 6  | 10YR4/4 褐色   | 粘土 締り中。                 |

SK143

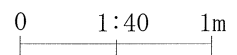


- SK143 A-A'
- | 層位 | 色調          | 土性                           |
|----|-------------|------------------------------|
| 1  | 10YR2/3 黒褐色 | 砂質シルト 締り中 炭化物1% 径10cm大の垂角礫含。 |
| 2  | 10YR2/1 黒色  | シルト 締り中。                     |
| 3  | 10YR3/2 黒褐色 | 砂質シルト 締り中 径2~3cm大の小礫含1%。     |
| 4  | 10YR2/2 黒褐色 | 砂質シルト 締り中 径2~3cm大の小礫含1%。     |

SK144

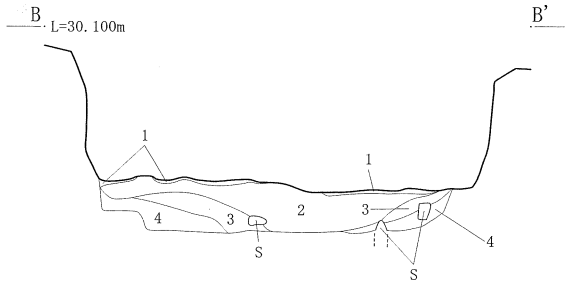


- SK144 A-A'
- | 層位 | 色調           | 土性  |
|----|--------------|---|
| 1  | 10YR2/3 黒褐色  | 砂質シルト 締り中 径5cm大の垂角礫混入。                              |
| 2  | 10YR2/2 黒褐色  | 砂質シルト 締り中 褐色土1%含 暗褐色土10%含。                          |
| 3  | 10YR2/1 黒色   | シルト 締り中 径51~0cm大の垂角礫混入 径2cm大の細礫10%含。                |
| 4  | 10YR1.7/1 黒色 | シルト 締り中 褐色土1%含。 ※4層の下位に青灰色に硬化している面がある。その上面に4層が堆積する。 |
| a  | 10YR4/3      | にぶい黄褐色 粘土 締り中。                                      |
| b  | 10YR2/3 黒褐色  | シルト 締り中。  |
| c  | 10YR4/4 褐色   | 粘土 締り中。   |



第19図 土坑(10) : SK 139~144(1)

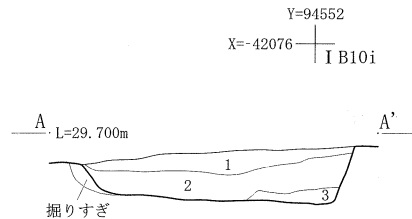
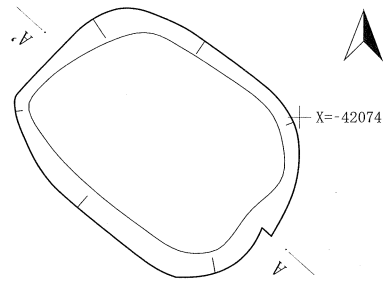
SK144(2)



SK144 B-B'

層位 色調 土性  
 1 2.5YR2/1 赤黒色 砂礫 締り密。  
 2 10YR2/3 黒褐色 砂質シルト 締り密。  
 3 10YR5/6 黄褐色 砂礫 締り密。  
 4 10YR3/3 暗褐色 砂礫 締り密。  
 ※SK44の底面は黄褐色粘土層の下位に1層が以下の層が堆積しているようである。  
 →1層は作業面ではなく、基本層として広がる層かと判断する。

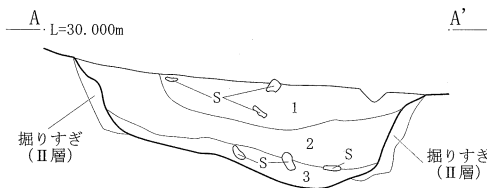
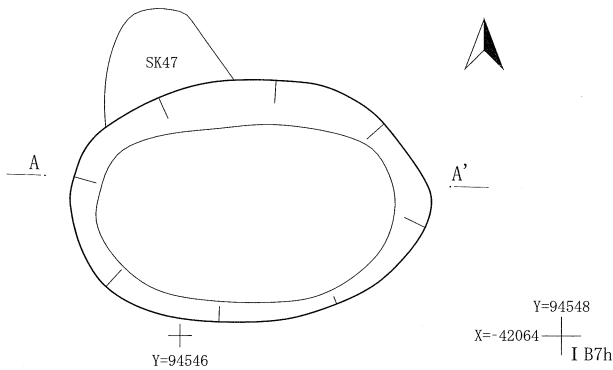
SK145



SK145 A-A'

層位 色調 土性  
 1 10YR2/3 黒褐色 砂質シルト 締り中 植根多量に含む  
 細礫5%含。  
 2 10YR2/1 黒色 シルト 締り中 径3cm大の細礫3%含。  
 3 10YR1.7/1 黒色 シルト 締りやや密 焼土粒含3%。

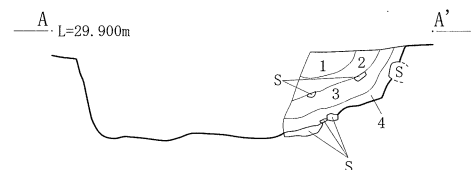
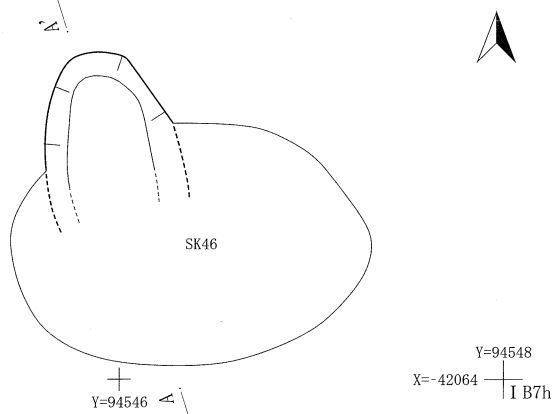
SK146



SK146 A-A'

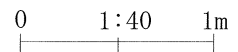
層位 色調 土性  
 1 10YR2/3 黒褐色 砂質シルト 締り中 植根多量に含む。  
 2 10YR2/1 黒色 シルト 締り中。  
 3 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り中 径5~10cm大の亜角礫混入1%。

SK147



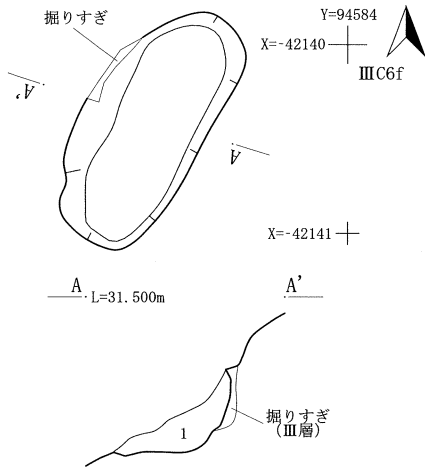
SK147 A-A'

層位 色調 土性  
 1 10YR2/3 黒褐色 シルト 締り中。  
 2 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り中。  
 3 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト 締り中 径5cm大の礫含む。  
 4 記録なし



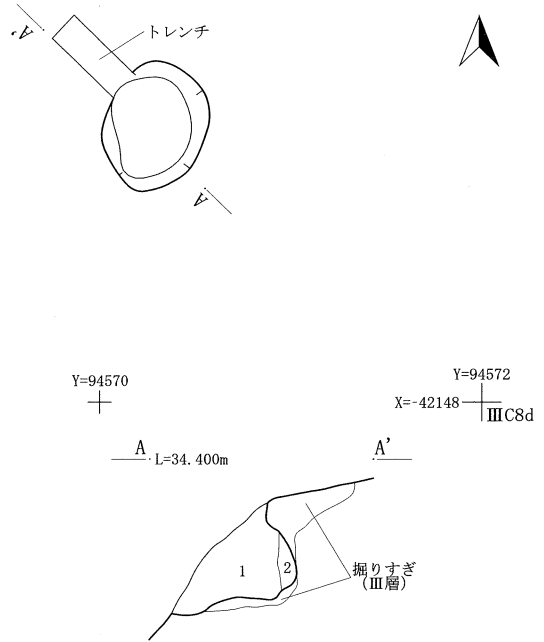
1 検出遺構

SK150



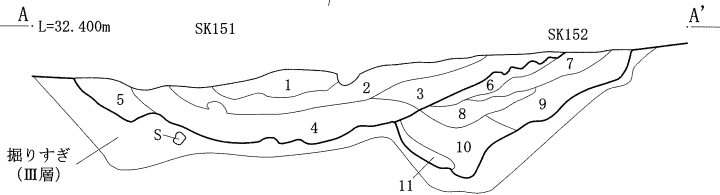
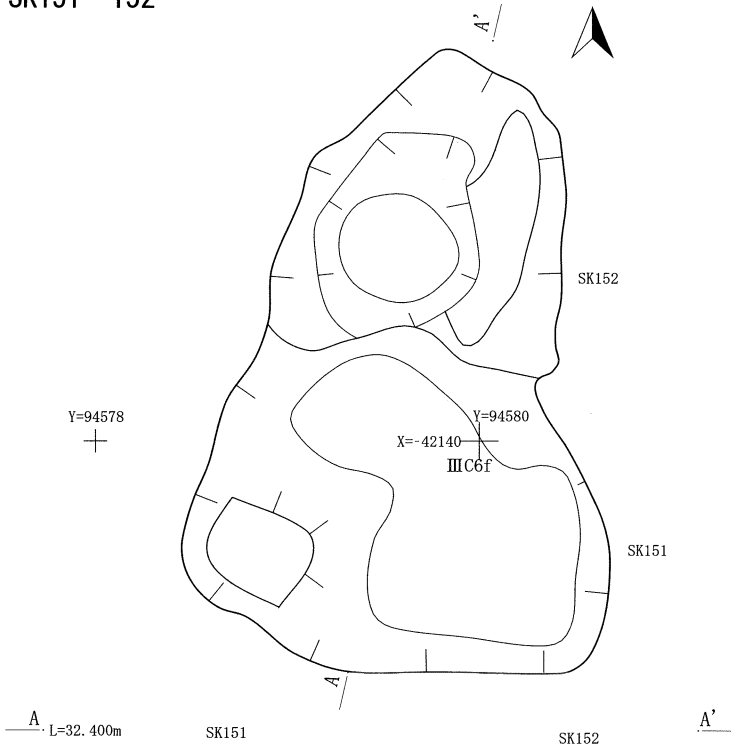
SK150 A-A'  
 層位 色調 土性  
 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 締り密 10YR2/3  
 黒褐色土10% 10YR3/4 暗褐色土15%混入  
 混土層の様相を呈する。

SK149



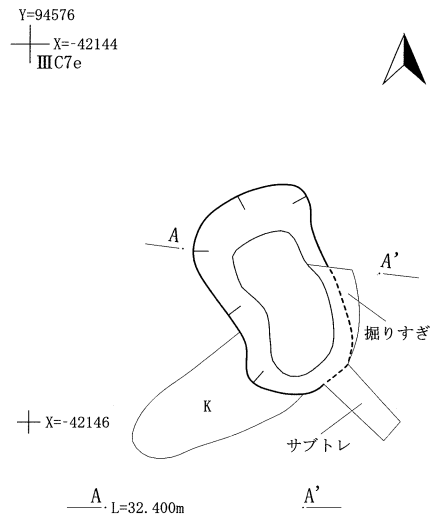
SK149 A-A'  
 層位 色調 土性  
 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り密 径5cm大の亜角礫  
 (花崗岩)20%含。  
 2 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土 締り密 暗褐色土10%含。

SK151・152

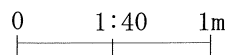


SK151・152 A-A'  
 層位 色調 土性  
 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 締り密 暗褐色土10%含。  
 2 10YR3/4 暗褐色 粘土 締り中 黒褐色土20%。  
 3 10YR3/3 暗褐色 粘土 締り密。  
 4 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り密。  
 5 10YR2/3 黒褐色 シルト 締り中。  
 6 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 締り中 黒褐色5%含。  
 7 10YR4/4 褐色 粘土 締り密。  
 8 10YR3/3 暗褐色 粘土 締り密 黒褐色土5%含。  
 9 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り中 褐色土5%含。  
 10 10YR2/3 黒褐色 シルト 締り中 褐色土10%含。  
 11 10YR3/3 暗褐色 粘土 締り中。

SK153

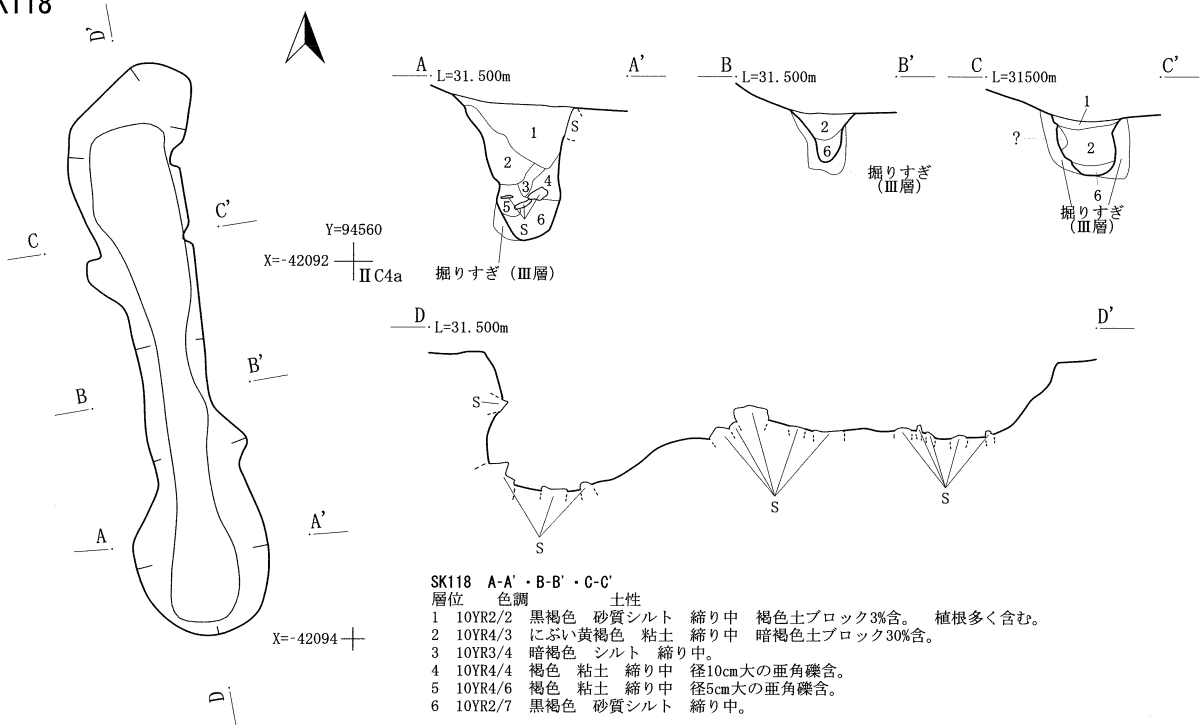


SK153 A-A'  
 層位 色調 土性  
 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り中。  
 2 10YR2/1 黒色 シルト 締り中。  
 3 10YR3/4 暗褐色 粘土 締り中  
 黒褐色土5%含。

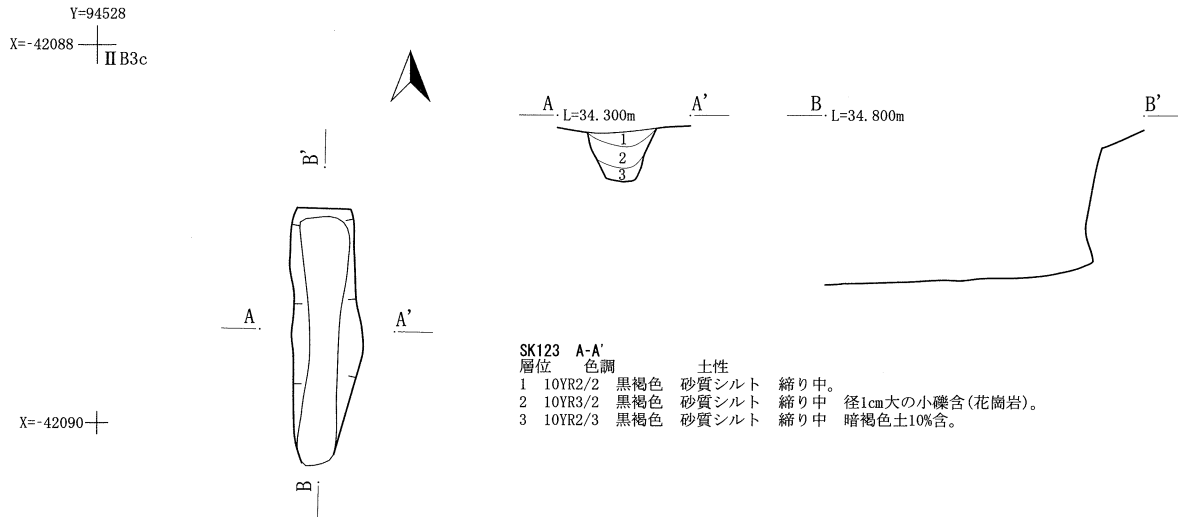


第21図 土坑(12) : SK 149~153

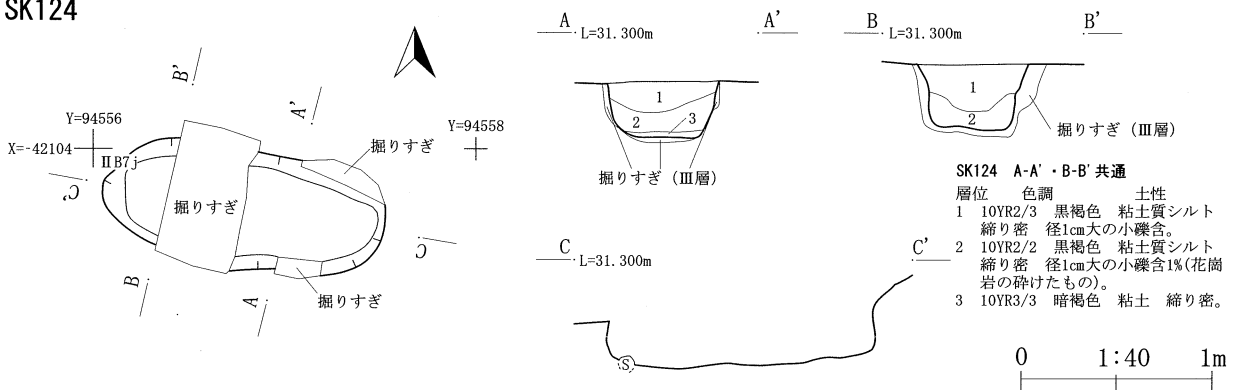
SK118



SK123



SK124



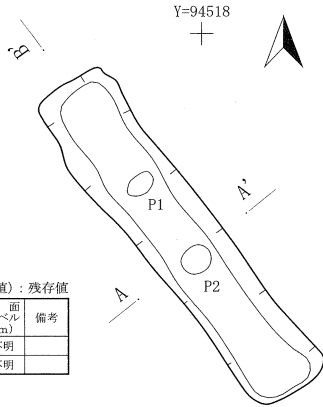
第22図 陥し穴状遺構(1) : SK 118・123・124



1 検出遺構

SK126

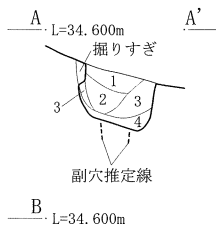
Y=94516  
X=-42096  
II A5j



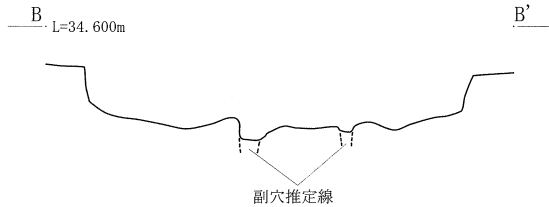
SK126 副穴観察表

(数値): 残存値

No.	遺構名	規模 (cm) 開口部径 深さ	底面 レベル (m)	備考
1	SK126-PP1	16×10 不明	不明	
2	SK126-PP2	16×14 不明	不明	

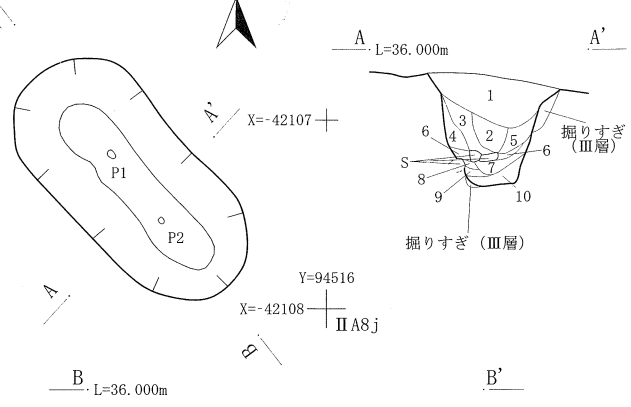


SK126 A-A'  
層位 色調 土性  
1 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 締り密  
径0.5cmの小礫含む。  
2 10YR2/3 黒褐色 粘土質シルト 締り中  
径1cmの小礫5%含む。  
3 7.5YR2/2 黒褐色 粘土 締りやや疎  
径0.5cmの小礫含む。  
4 10YR2/2 黒褐色 粘土 締りやや疎。



SK127

Y=94516  
X=-42108  
II A8j



SK127 副穴観察表

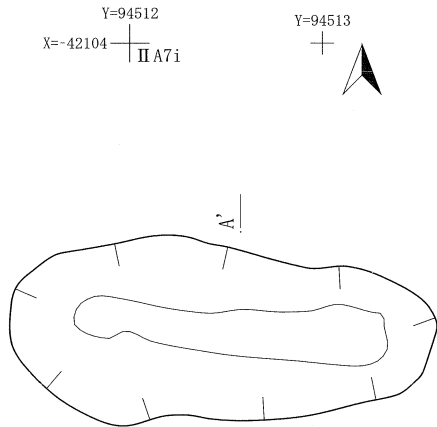
(数値): 残存値

No.	遺構名	規模 (cm) 開口部径 深さ	底面 レベル (m)	備考
1	SK127-PP1	3×3 12.0	35.040	
2	SK127-PP2	4×4 20.0	35.080	

SK127 A-A'  
層位 色調 土性  
1 10YR2/1 黒色 粘土質シルト 締り中 径1cmの小礫3%。  
2 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 締り中 径1cmの小礫含む。  
3 10YR3/3 暗褐色 粘土 締り中 径1cmの小礫含む。  
4 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土質シルト 締り中。  
5 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 締り中 10YR2/1 黒色土5%  
10YR5/4 にぶい黄褐色土7%。  
6 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 締り中 径1cmの小礫含む2%。  
7 10YR2/3 黒褐色 粘土質シルト 締り中 径1cmの小礫含む3%。  
8 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土質シルト 締り中。  
9 10YR2/3 黒褐色 粘土質シルト 締り中。  
10 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 締り中。

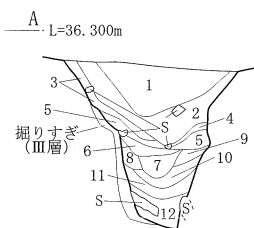
SK128

Y=94512  
X=-42104  
II A7i



SK128 A-A'

層位 色調 土性  
1 10YR2/2 黒褐色 シルト 径1cm大の小礫3% 10YR3/3  
暗褐色土 締り中。  
2 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 径1cm大の 小礫3%  
10YR3/3 暗褐色土7% 締り中。  
3 10YR4/6 褐色 砂質シルト 径1cm大の小礫3% 締り中。  
4 3層に同じ。  
5 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 径1cm大の小礫3%  
締り中。  
6 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 径1cm大の小礫2%  
締り中。  
7 10YR4/6 褐色 粘土質シルト 締り中。  
8 10YR4/4 褐色 砂質シルト 径2~3mm砂?小礫含  
締り中。  
9 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 径1cm大の小  
礫3% 締り中。  
10 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 径1cm大の小  
礫5% 締り中。  
11 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 2.5Y7/4 浅  
黄色 砂質シルト含 締り中。  
12 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 径5mm大の礫含  
締り中。



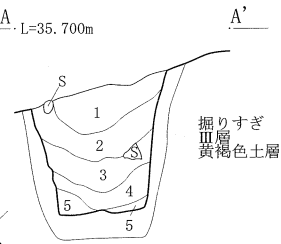
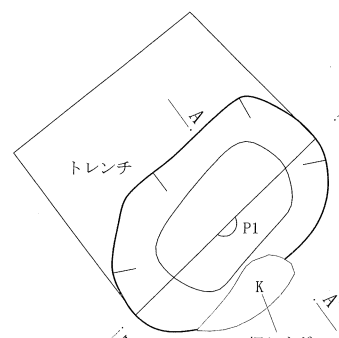
SK148

Y=94572  
X=-42164  
IVC2d

SK148 副穴観察表

(数値): 残存値

No.	遺構名	規模 (cm) 開口部径 深さ	底面 レベル (m)	備考
1	SK148-PP1	13×13 15	34.42	

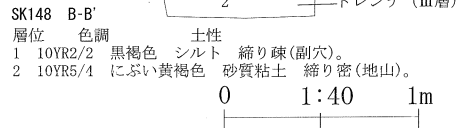


SK148 A-A'

層位 色調 土性  
1 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り  
中。  
2 10YR2/1 黒色 シルト 締り中  
径5cm大の珪角礫混入。  
3 10YR3/2 黒褐色 シルト 締り  
中 径10cm大の珪角礫混入。  
植根多量に含む。褐色土粒1%含。  
4 10YR3/3 暗褐色 シルト 締り  
中 褐色土粒3%含。  
5 10YR4/4 褐色 粘土 締り中。

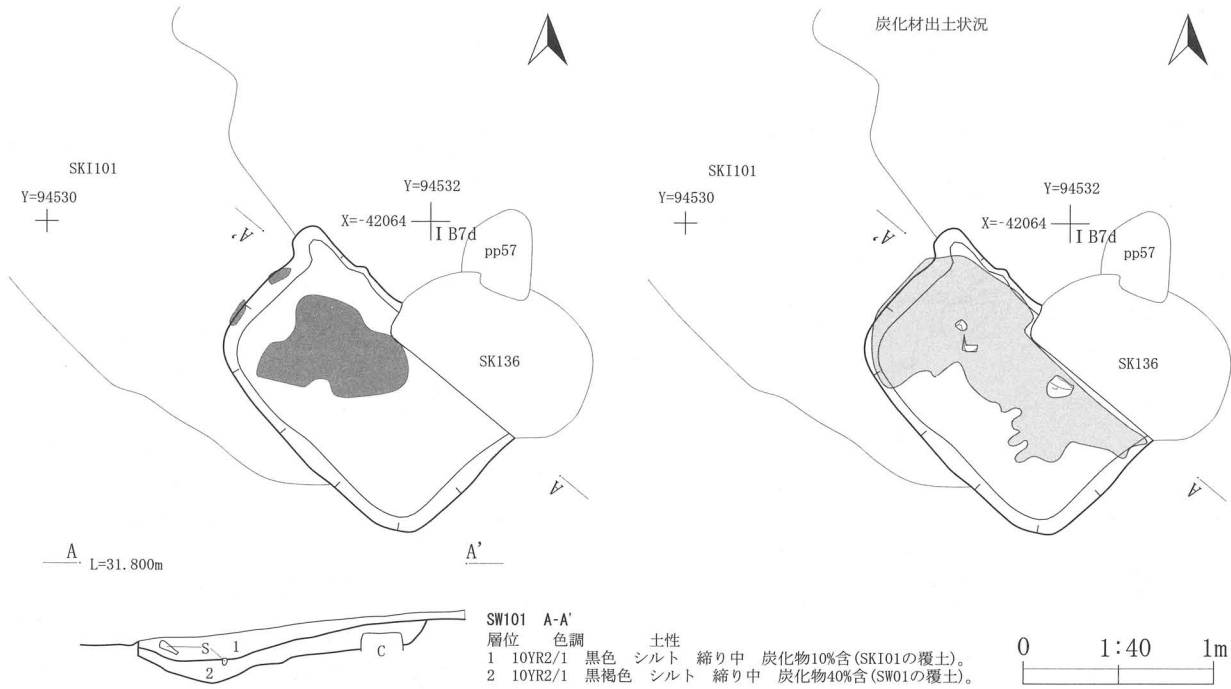
SK148 B-B'

層位 色調 土性  
1 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り疎(副穴)。  
2 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂質粘土 締り密(地山)。

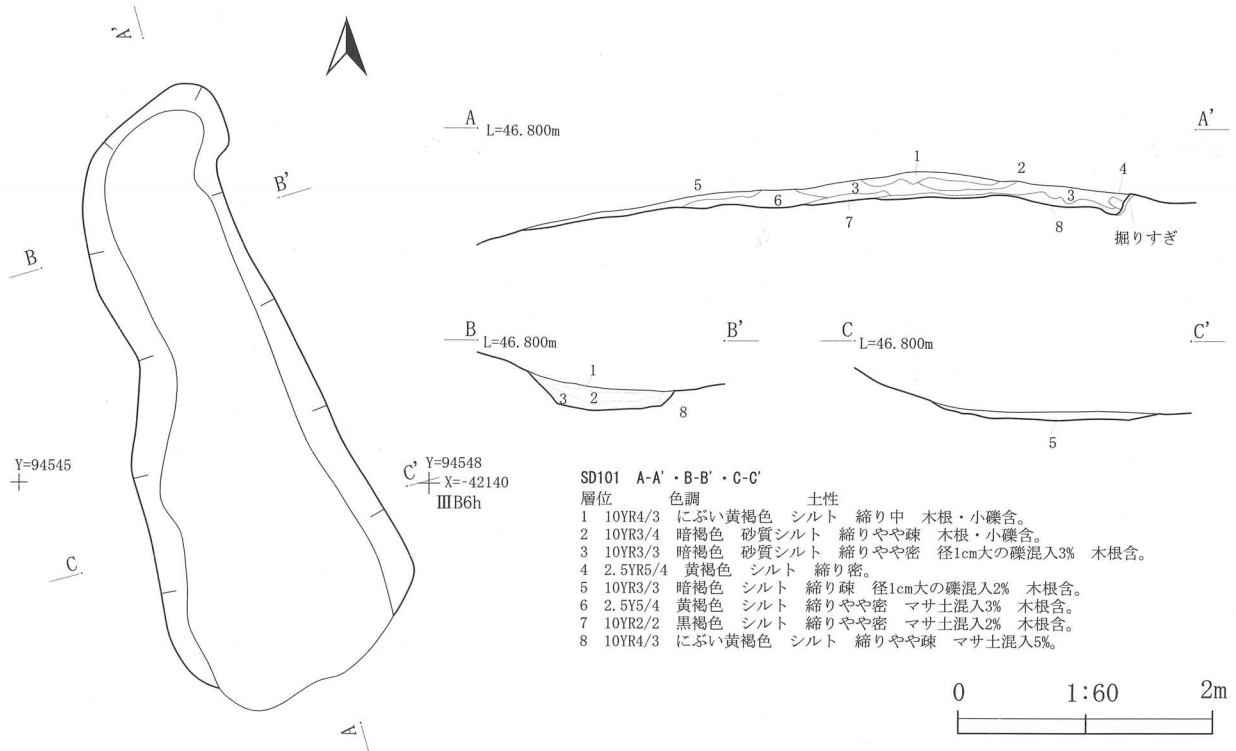


第23図 陥し穴状遺構(1) : SK 126~128・148

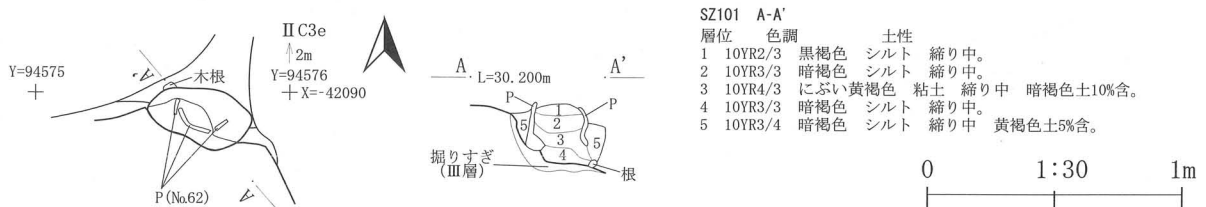
SW101



SD101



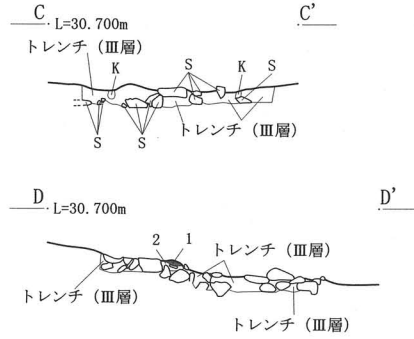
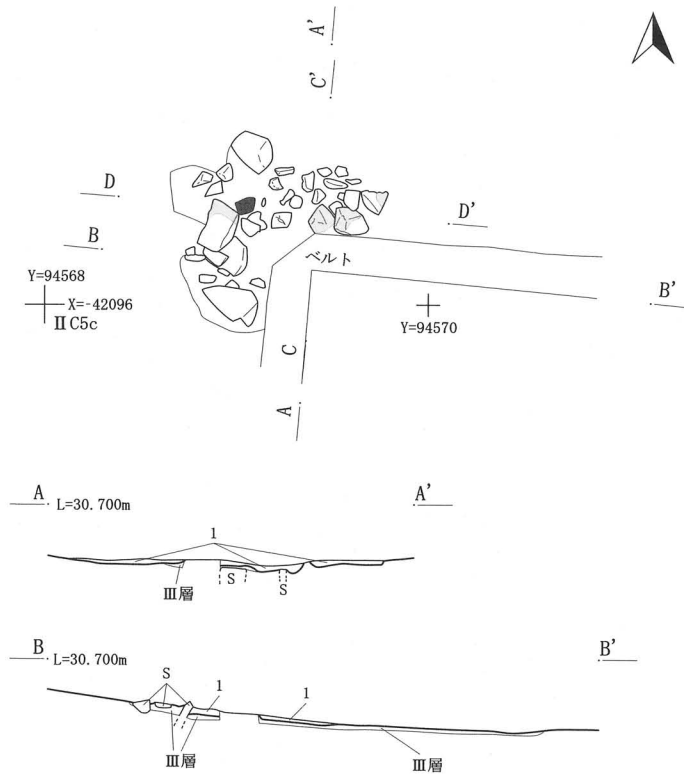
SZ101



第24図 炭窯跡：SW 101、溝跡：SD 101、土器埋設遺構：SZ 101

1 検出遺構

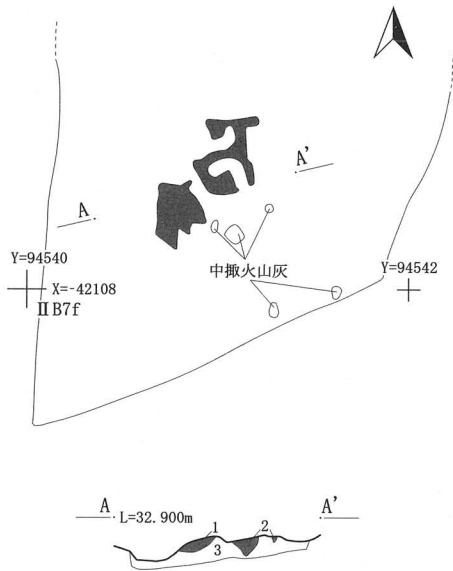
SN101



SN101① A-A'・B-B'  
 層位 色調 土性  
 1 10YR4/4 褐色 シルト 締り中 径10cm大の亜角礫を北側に多く含む。

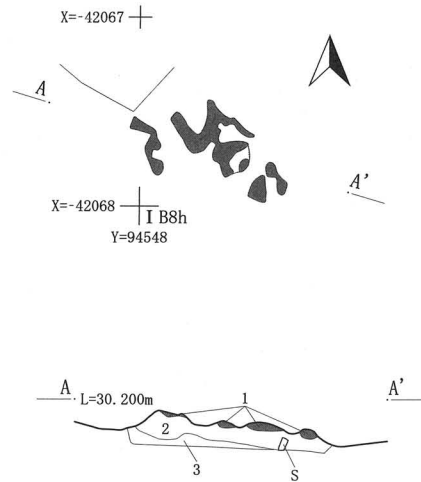
SN101② C-C'・D-D'  
 層位 色調 土性  
 1 5YR4/8 赤褐色 焼土 締り中。  
 2 10YR3/4 暗褐色 シルト 締り中。  
 3 10YR5/8 黄褐色 粘土 締り密(地山III層)。

SN102

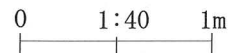


SN102 A-A'  
 層位 色調 土性  
 1 5YR3/4 暗赤褐色 焼土 締り中。  
 2 5YR2/3 極暗赤褐色 焼土 締り中 赤褐色焼土粒含1%。  
 3 7.5YR2/3 極暗褐色 シルト 締り中 中礫浮石をブロックで含む。

SN103

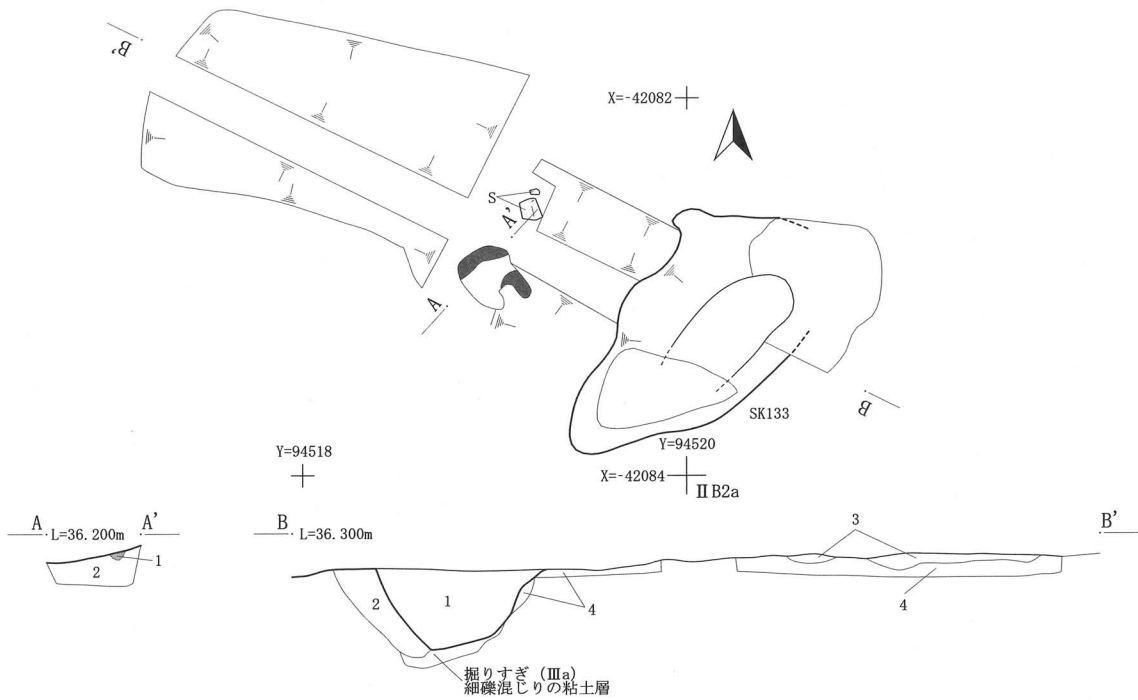


SN103 A-A'  
 層位 色調 土性  
 1 5YR5/6 明赤褐色 焼土 締り中。  
 2 10YR2/1 黒色 砂質シルト 締り中。  
 3 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り中。



第25図 焼土遺構(1) : SN 101~103

SN104



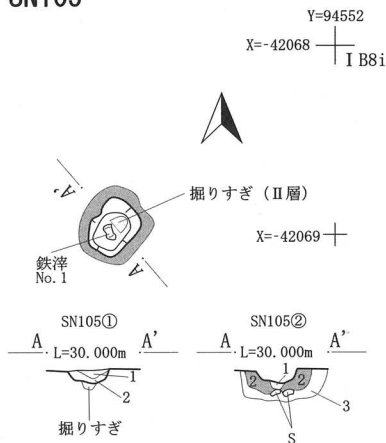
SN104 A-A'

層位 色調 土性  
 1 5YR3/6 明赤褐色 焼土 締り密。  
 2 10YR2/3 黒褐色 砂質シルト 締り密 径2cm大の小礫混入。  
 ※黒褐色土層の上で焼けている焼土面。東側にある礫も壊れている。他に周囲に礫はない。

SK133・SN104 B-B'

層位 色調 土性  
 1 10YR2/1 黒色 砂質シルト 締り中。  
 2 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト 締り中 黄色土粒含1%。  
 3 10YR2/1 黒色 砂質シルト 締り中 炭化物含1%。  
 4 10YR2/3 黒褐色 砂質シルト 締り中。  
 ※1・2層はSK133の覆土。

SN105



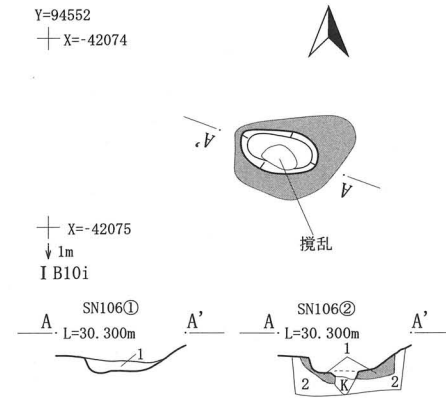
SN105① A-A'

層位 色調 土性  
 1 10YR2/1 黒色 シルト 締り中。  
 2 N2/ 黒色 シルト 締り密(還元に青みがかかって見える)。

SN105② A-A'

層位 色調 土性  
 1 10YR2/2 黒色 シルト 締りやや疎。  
 2 N2/ 黒色 シルト 締り密。  
 3 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り中(地山・II層)

SN106

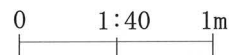


SN106① A-A'

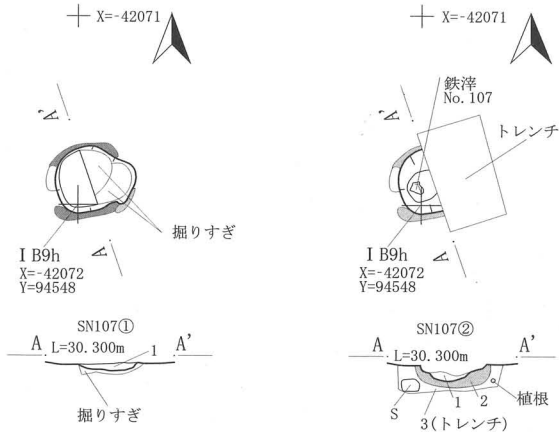
層位 色調 土性  
 1 10YR2/1 黒色 シルト 締り中。

SN106② A-A'

層位 色調 土性  
 1 10YR1.7/1 黒色 シルト 締り中。  
 2 10YR2/2 黒褐色 黒褐色 シルト 締り中(地山・II層)



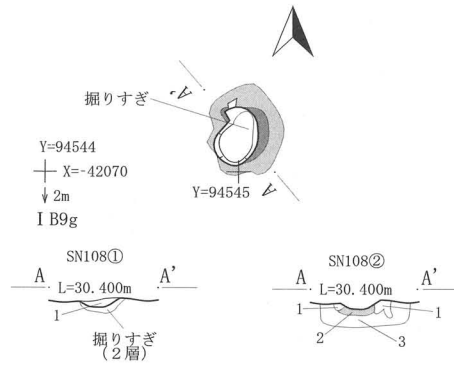
SN107



SN107① A-A'  
 層位 色調 土性  
 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り中 炭化物5%含。

SN107② A-A'  
 層位 色調 土性  
 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り中 焼土粒1%含。  
 2 N2/ 黒色 シルト 締り密(還元部)。  
 3 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り中 径10cm大の亜角礫混入。  
 ※1層の両端が焼土化している。 5YR5/8 明赤褐色～5YR5/3 灰オリーブ色。  
 地山：II層 10YR1.7/1 黒色

SN108

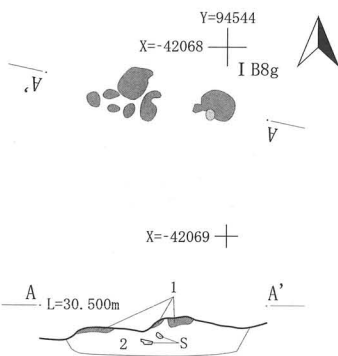


SN108① A-A'  
 層位 色調 土性  
 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り中 焼土10%含。

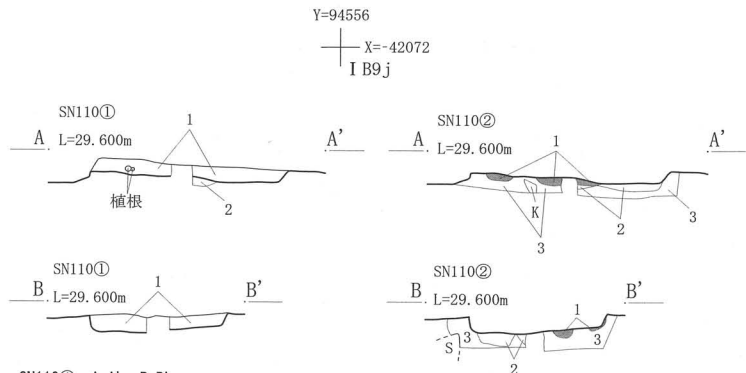
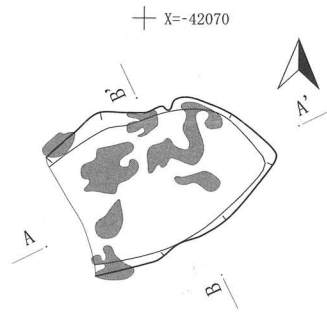
SN108② A-A'  
 層位 色調 土性  
 1 5YR5/8 明赤褐色 焼土 締り中 炭化物5%混入。  
 2 5Y2/1 黒色 シルト 締り中(還元部)。  
 3 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り中(トレンチ)。

SN110

SN109

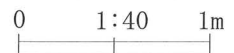


SN109 A-A'  
 層位 色調 土性  
 1 5YR5/8 明赤褐色 焼土 締り中。  
 2 10YR2/2 黒褐色 シルト 締り中 径2～3cm大の礫混入。

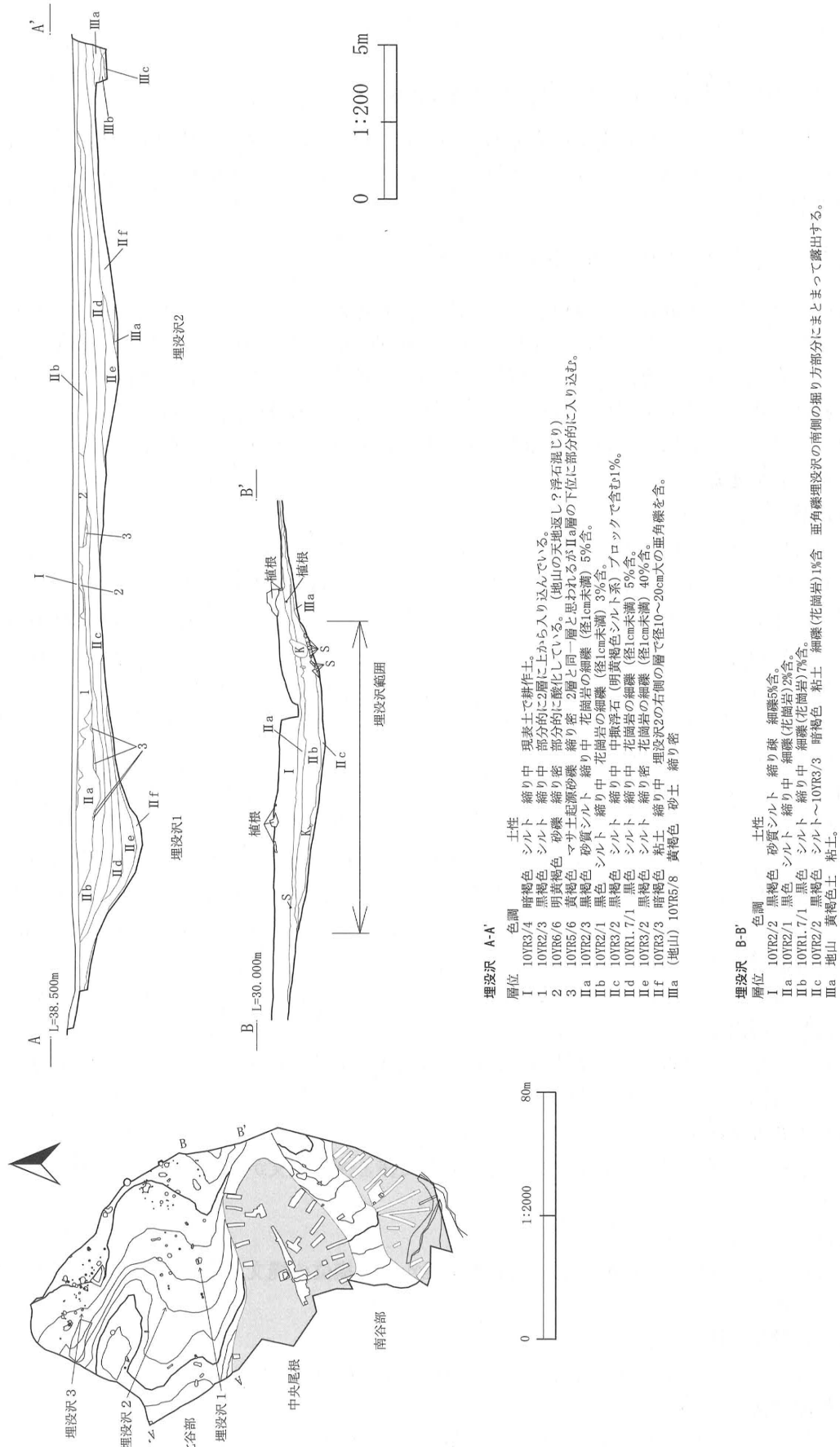


SN110① A-A'・B-B'  
 層位 色調 土性  
 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 締りやや疎 焼土粒1%含。  
 2 5YR4/6 赤褐色 焼土 締りやや密 黒褐色土10%混じる。

SN110② A-A'・B-B'  
 層位 色調 土性  
 1 5YR4/6 赤褐色 焼土 締り中 黒褐色土10%含。  
 全体的に赤褐色土と黒褐色土の混土となっている。  
 2 10YR2/1 黒色 シルト 締り中 炭化物5%。  
 3 10YR2/3 黒褐色 シルト 締り中。



第27図 焼土遺構(3) : SN 107～110



第28図 埋設沢

**埋設沢 A-A'**

層位	色調	土性	説明
I	10YR3/4 暗褐色	シルト	現表土で耕作土。部分的に2層に上から入り込んでいる。
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	部分的に酸化した。 (地山の天地返し? 浮石混じり)
2	10YR6/6 明黄褐色	砂礫	マサ土起源砂礫
3	10YR5/6 黄褐色	砂礫	2層と同一層と思われるがIIa層の下位に部分的に入り込む。
IIa	10YR2/3 黒褐色	砂礫シルト	花崗岩の細礫 (径1cm未満) 5%含。
IIb	10YR2/1 黒色	シルト	花崗岩の細礫 (径1cm未満) 3%含。
IIc	10YR3/2 黒褐色	シルト	花崗岩の細礫 (径1cm未満) 3%含。
IId	10YR1.7/1 黒色	シルト	中粒浮石 (明黄褐色シルト系) ブロックで含む1%。
IIe	10YR3/2 黒褐色	シルト	花崗岩の細礫 (径1cm未満) 5%含。
IIf	10YR3/3 暗褐色	粘土	花崗岩の細礫 (径1cm未満) 40%含。
IIIa	(地山) 10YR5/8 黄褐色	砂土	埋設沢2の右側の層で径10~20cm大の垂角礫を含。

**埋設沢 B-B'**

層位	色調	土性	説明
I	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	細礫5%含。
IIa	10YR2/1 黒色	シルト	細礫(花崗岩)2%含。
IIb	10YR1.7/1 黒色	シルト	細礫(花崗岩)7%含。
IIc	10YR2/2 黒褐色	シルト	細礫(花崗岩)1%含
IIIa	地山 黄褐色土	粘土	暗褐色(花崗岩)1%含 垂角礫埋設沢の南側の掘り方部分にまよって露出する。

## 2 出土遺物

### (1) 出土遺物の概要 (第29～41図、写真図版22～30)

出土遺物は、土器、土製品、石器、石製品、陶磁器、鉄製品、鉄滓類・動物遺存体、炭化材、炭化種実などがある。いずれも量は少ない。総量は大コンテナ (40×30×30cm) 5箱分である。以下、遺物の種別ごとに詳述する。

### (2) 土器 (第29～38図、写真図版22～25)

土器は、口径・器高・底径の計測値のうち1箇所以上計測可能なものを立体土器として登録・図化し、掲載した。破片資料については、掲載資料は、遺物の残存状況が良くないため、部位に関係なく大きさ径3cm以上のものを選んでいく。底部破片は全て掲載した。掲載した土器はすべて図・写真・観察表を掲載した。個々の土器の文様などの特徴は、第12表土器観察表に記載している。

土器は、大コンテナ2箱、総重量19,465.5gが出土している。縄文土器と弥生土器がある。

#### 縄文土器・弥生土器

##### ①観察項目

以下の項目について、観察を行った。

- ・計測値 (器高・口径・底径) ※立体土器のみ
  - ・器種：深鉢・浅鉢・ミニチュア土器など
  - ・器形：口縁部：平縁・波状縁他
  - ・文様：各部位の縄文原体と施文方法
  - ・色調：土色帳に照合する。
  - ・胎土：繊維・礫などの混入遺物
  - ・内面調整：ミガキ・ナデの有無と方向
  - ・煤の付着の有無
  - ・その他：成形の痕跡 (輪積痕)、使用の痕跡 (補修孔・煮炊の痕跡) など。
- アスファルト・朱の付着。

##### ②分類

以上の観察結果から、以下のように分類した。分類の基準としては、器形・文様要素・胎土・器種などがあげられるが、本遺跡では破片資料が大多数を占めることから、主に文様要素と胎土からみた分類となっている。既存の土器型式と比定できるものは、< >内に記述している。時期的には縄文時代早期・前期・中期、後期・晩期、弥生時代の土器が出土している。124点を図示し、掲載した。

#### 縄文時代早期の土器

口縁部は平縁で刻み目、胴部には貝殻文や沈線文が施され、底部は尖底となる土器群である。

#### 縄文時代前期の土器

胎土に繊維を含む土器群で、口縁部が外傾する器形で、文様は不整綾絡文や羽状縄文が施される。主に前期前半に属する土器群である。

#### 縄文時代中期の土器

隆沈線で渦状の文様を施した土器や、沈線による文様と充填縄文が施されている土器で、主に中葉～末葉の土器群である。

#### 縄文時代後期の土器

口縁部が外傾する深鉢で、沈線による文様帯が描かれ、横位の縄文が施されている土器で、主に前葉～中葉の土器群である。

#### 縄文時代晩期の土器

磨り消し縄文による文様が描かれた土器で、中葉の土器群である。

#### 弥生時代の土器

高坏の脚部と推定される土器片や、浅鉢の土器片がある。前葉の土器群である。

### その他の土器

上記のいずれかの時期に帰属すると思われるが、破片のために器形や文様から時期が特定しかねる土器群である。観察表では不明と記載した。

#### ③出土遺物について（1～124）

##### 竪穴住居跡出土の土器

竪穴住居跡は、竪穴としての掘り込みを確認していないため、住居跡と想定される柱穴群の覆土から出土した土器が、住居内出土土器となる。すべて小破片で図示し得たものは2点（1～3）である。いずれも縄文のみの小破片であるため時期の詳細は不明だが、後期と推定される。

##### 土坑・陥し穴状遺構出土の土器

土坑から出土したもので図示し得たものは57点（4～60）である。S K103・105・106・107・108・109・110・111・115・116・117・119・133・134・142・145・146・147土坑から出土している。いずれも破片資料が中心だが、まとまりがみられるのは、S K105・106・107・109・110・111土坑から出土した土器群で、時期は、おおむね中期末以降縄文時代後期に属する土器である。これらの土坑群は、南谷部の平坦面にまとまって見つかった土坑群であり、時期的にも同時代に設けられた可能性がある。これら土坑群と重複関係にある埋設土器や住居跡とともに集落が形成されていた可能性がある。

##### 土器埋設遺構の土器

埋設されていた土器は1個体で、口縁部から胴部上半の深鉢の破片である（62）。胎土の色調は黒褐色である。頸部に無文帯を持ち、口唇部から口縁部、胴部にR L横位の縄文が施されている。時期は後期と考えられる。

##### 柱穴群出土の土器

3点（63～65）図示した。いずれも破片資料であるが、時期は後期と推定される。

##### 遺構外出土の土器

59点（66～124）を図示した。縄文時代早期から晩期、弥生時代にかけての土器がある。66～84は埋没沢の覆土出土の土器で、66・67は同一個体で前期の土器。68～72は早期の土器で器壁がしっかりしている。72は尖底部の破片である。116は小型の土器、117～119も早期の可能性はある。出土している土器は早・前期と後期が主である。早・前期の土器はⅡBグリッド、後期の土器はⅡCグリッド、弥生時代の土器はⅠAグリッドから主に出土している。

##### 参考文献

岩手県立博物館 1982『岩手の土器』

#### （3）土 製 品（第38図、写真図版25）

6点：総重量438.5g出土している。内訳は、不明土製品1点、古代の土製品5点である。詳細は、第13表を参照されたい。

131～135は、古代の羽口の破片で、材質から土製品として報告する。2点を図化した。いずれも溶着部の破片であるが、詳細は不明である。131は溶着部・還元部が残存し、134は溶着部が残存する。図化で推定される径は9cm台である。出土地点のS K143土坑・ⅠB7i～9hグリッドは、古代と推定される鍛冶炉などの遺構がまとまって確認された地点である。関連する遺物であると推測される。

136の土製品は無文で剥落痕がある。欠損品であるため詳細は不明だが、製品や容器の脚部と推測される。

#### （4）石 器（第38図、写真図版25）

製品は26点、総重量10262.4g出土している。内訳は、石鏃5点、石匙3点、不定形石器5点、石核6点、磨製石斧2点、敲石1点・凹石1点、台石2点、石皿1点である。器種と石材の関係をみる



と、石鏃・石匙・不定形石器など剥片石器や石核は頁岩が使われており、磨製石斧は、はんれい岩・砂岩、敲石は、はんれい岩、凹石は花崗岩、台石は流紋岩・砂岩が用いられている。用途に応じて石材が使分けられている。頁岩は、北上山地産と奥羽山脈産のものが混在している。石核はすべて北上山地産の頁岩である。以下、器種ごとに概要を述べる。個々の石器の計測値・特徴などは、第14表石器観察表を参照されたい。

石鏃は5点出土している。石材は頁岩である。4点を図化した。形態で分類すると、凹基無茎鏃1点、平基無茎鏃3点、柳葉形1点である。厚さは0.2～0.6cm、重量は0.7～4.7gである。石匙は3点出土している。形態は、摘部と刃部の方向が直交する横型で、石材は頁岩である。不定形石器は5点出土している。石材は頁岩である。4点を図化した。刃部は、剥片の一側縁ないし二側縁に片面から加工されている。石核は6点出土しており、2点図化した。石材はすべて頁岩だが、色調に黒色系と赤色系がある。磨製石斧は2点出土している。石材は砂岩である。いずれも欠損品で、刃部を欠き、基部のみ残存している。磨石2点は全面すり面で欠損部がみえ、台石は被熱した痕跡が見られる。

上記の他、剥片25点：87.4gが出土している。石材をみると、頁岩23点、珪質頁岩3点である。出土地点をみると、焼土遺構・土坑のほか、埋没沢1（ⅡCグリッド）から多く出土している。埋没沢出土の剥片の層位をみると、Ⅱa～c層から出土しているが、Ⅱc層出土の剥片に赤色系の頁岩が多い傾向があり、同地点出土の石核の外観の状況とも共通する傾向がある。焼土遺構から剥片の出土が多いのは、土壌水洗を行った結果、抽出された状況が反映されたものと考えられる。

#### （5）石 製 品（第40図、写真図版27）

1点：総重量26g出土している。内訳は石製円盤1点である。171の石製品は、径4.15cm、厚さ1.05cm、重量26.0gである。厚みのある扁平な礫の周縁を打ち欠きにより整形しているようで、2側縁に自然面が残る。石材はデイサイトである。詳細は、第15表を参照されたい。

#### （6）陶 磁 器（第40図、写真図版27）

5点：総重量110gが出土している。すべて図化した。各製品の詳細は、第19表を参照されたい。出土地点にとくにまとまりはなく、すべて破片資料である。181は肥前産の染付の碗で18世紀後半のものである。182は常滑産の壺の破片か。185も同一個体と推測される。183は産地不明の輪花皿で染付が施されており、184は産地不明の茶碗で鉄釉が施されている。いずれも近世のものである。

#### （7）金 属 製 品（第40・41図、写真図版28）

20点：総重量421.4g出土している。種別による内訳は、紡錘車1点、刀子3点、鉄釘5点、目釘式手鎌1点、棒状鉄製品4点、鍵状鉄製品1点、鉄鍋1点、不明鉄製品3点、鉄銭1点である。各製品の計測値などの詳細は、第20表を参照されたい。なお、199は成分分析を行った結果を掲載した(132頁)。

出土状況をみると、191はS K 142土坑からの出土、192・193の2点はS K 143土坑からの出土、194・195の2点はS N 110焼土遺構から出土、196・197・198の3点はI B 8 f グリッド、199・200・201・202・203の5点はI B 8 g グリッドからの出土である。このように鉄製品の多く（20点中13点）は、鍛冶炉がまわって出土した地点に近接する地点から出土していることに特徴がある。各製品の時期の詳細は不明だが、おおむね鍛冶炉が機能していた時期と同じ時期の可能性が高い。

191・192は断面方形で一端が尖る鉄釘である。193は紡垂車で軸部の一端を欠く。傘部は円周が一方に垂れ下がる。200は一端（X線透過写真参照）に目釘の痕跡がある目釘式手鎌である。197・203・204は刀子の破片である。199は、断面が円形基調の棒状の鉄製品で、尖る一端に返し（まくれ？）がある。202は扁平で両端の形状が異なる。鍵状に見えるが用途は不明である。208は細長い棒状の製品で箸の先端部か。210は鉄銭で「○永通寶」の銭名が見える。銭名と素材から寛永通寶（初鑄年1739年）と判断し

た。表採資料ではあるが、陶磁器片とともに、当遺跡における近世の生活痕跡を示す資料である。

#### (8) 鉄 滓 類 (写真図版29・30)

##### 鉄滓

磁着するものと磁着しないものがある。すべての資料について表掲載を行い、一部資料について写真掲載を行った。数量的な部分の詳細は、第22～24表を参照されたい。磁着しないものは、2482.9g出土している。出土地点は、S N101・105・107焼土遺構、I Bグリッドの地点である。同地点は、鍛冶炉跡などの遺構がまとまって検出された地点であり、同地点での鍛冶作業との関連性が窺われる。他の地点での出土量が著しく減ることから、今回の調査区において同地点は鍛冶作業が行われた範囲と考えられる。大きさ・重量に個体差があり、形状は、凸凹のある塊状のものが多く、鉄生産の工程的にいわゆる鍛冶滓の範疇に収まるものである。碗形滓や碗形滓を小割したのものも含まれる。磁着するものは9721.4g出土している。出土地点は、S N101・104・105・107・108・110焼土遺構、I Bグリッドの地点である。同地点は、鍛冶炉跡などの遺構がまとまって検出された地点で、大きさ・重量に個体差があり、形状は凸凹のある塊状のものが多く、いわゆる鉄生産の工程的には鍛冶滓の範疇に収まるもので、碗形鍛冶滓も含まれる。1点について分析を行った(138頁)。全体の傾向として鍛冶滓が多く、製鉄滓が少ない傾向がある。

##### 粒状滓

総重量5.7gが出土している。出土地点は、S N105・107・110の炉跡・焼土遺構(鍛冶炉)である。各地点からの出土量は少ないが、鍛錬鍛冶の作業が行われた結果を示すものと考えられる。

粒状滓は、大小に分類して分けているが、地点により大小粒が混在するものと、そうでないものがあるが、作業内容の違いを示しているかどうかは不明である。1点について分析を行った(138頁)。

##### 鍛造剥片

総重量19.0gが出土している。出土地点は、S N101・105・106・107・108・110の炉跡・焼土遺構(鍛冶炉)・S K110土坑である。各地点からの出土量は少ないが、鍛錬鍛冶の作業が行われた結果を示すものと考えられる。

鍛造剥片は、大小に分類して分けているが、地点により大小剥片が混在するものと、そうでないものがあるが、作業内容の違いを示しているかどうかは不明である。1点について分析を行った(138頁)。

#### (9) 動物遺存体 (写真図版30)

3点: 0.4gが出土している。2点を写真掲載した。碎片のため部位は不明である。詳細は、第25表を参照されたい。すべてS N105焼土遺構からの出土で、被熱して白色化している。

#### (10) 植物遺存体 (写真図版30)

内訳は、炭化種実と炭化材がある。炭化種実は1点: 0.9g出土している。詳細は、第26表を参照されたい。種実1点は、S W101炭窯跡からの出土で、炭化している。種実同定を行った結果、モモであるとの結果を得ている。(130頁)。炭化材は、出土地点別では41点、総量507.8g出土した。これらについて肉眼による同定結果をみると、樹種は、ケヤキ・イタヤカエデ・センノキなどが見られる。詳細は第27表を参照されたい。まとまって出土したのはS W101炭窯跡内の覆土から出土した炭化材419.7gである。肉眼による樹種同定によると、樹種にはイタヤカエデ・センノキなどが見られるが、分析された樹種の主体はクリである。出土資料のうち3点について放射性炭素年代測定を行った(125頁)。

第10表 出土地点別土器重量表

竪穴住居跡 (SI)

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	SI101-PP1	北半覆土1層	2.5
2	SI101-PP1	南半覆土1層	18.3
3	SI101-PP2	北半覆土1層	9.9
4	SI101-PP2	南半覆土1層	13.5
5	SI101-PP5	南半覆土1層	4.1
6	SI101-PP7	北半覆土1層	18.0
7	SI101-PP8	南半覆土1層	9.8
8	SI101-PP9	南半覆土1層	24.8
9	SI101-PP10	南半覆土1層	4.9
10	SI101-PP11	南半覆土1層	3.2
11	SI101-PP12	南半覆土1層	4.4
12	SI101-PP13	北半覆土1層	6.1
13	SI101-PP13	南半覆土1層	17.3
14	SI101-PP14	南半覆土1層	4.0
15	SI101-PP15	南半覆土1層	26.7
合計			167.5

土坑・陥し穴状遺構 (SK)

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	SK103	2層	16.4
2	SK103	南半覆土	45.7
小計			62.1
3	SK104	北半覆土1層	11.2
小計			11.2
4	SK105	北半覆土最上位	5.2
5	SK105	南半覆土中位Pot. 1	54.8
6	SK105	南半覆土中位Pot. 2	158.4
7	SK105	東半覆土2層下位P. 1	50.8
8	SK105	東半覆土1層	29.3
9	SK105	東半覆土2層	388.2
10	SK105	東半覆土2層中央P. 2	68.0
11	SK105	東半覆土3層	63.2
12	SK105	東半覆土5層	21.9
13	SK105	東半覆土6層	23.3
14	SK105	西半覆土1層	126.9
15	SK105	西半覆土上位	17.6
16	SK105	西半覆土下位	17.7
小計			1025.3
17	SK106	東半覆土1層	27.1
18	SK106	東半覆土2層	7.9
19	SK106	東半覆土3層	8.3
20	SK106	西半覆土上位暗褐色土	117.8
小計			161.1
21	SK107	西半覆土1層	37.1
22	SK107	覆土下位黒褐色土	5.7
23	SK107	東半覆土	48.0
小計			90.8
24	SK108	西半覆土中位	111.3
小計			111.3
25	SK109	北半覆土	2.6
26	SK109	北半覆土1層	291.6
27	SK109	北半覆土2層	33.1
28	SK109	北半覆土3層	44.3
29	SK109	北半覆土9層	22.4
30	SK109	南半覆土上位黒褐色土	238.8
31	SK109	南半覆土下位黒褐色土	33.7
小計			666.5
32	SK110	北東覆土上位暗褐色土焼土の上	7.3
33	SK110	北半覆土下位	62.6
34	SK110	北半覆土焼土	2.8
35	SK110	北西覆土上位	7.3
36	SK110	南東覆土上位	9.3
37	SK110	南東覆土上位 暗褐色土	29.7
38	SK110	南東覆土下位	18.9
39	SK110	南西覆土中位	18.8
40	SK110	南西覆土下位暗褐色土	20.4
41	SK110	南北ベルト南3層	9.1
42	SK110	南北ベルト南4層	4.8
43	SK110	南北ベルト南10層	4.6
44	SK110	南北ベルト南11層	25.8
45	SK110	南北ベルト南14層	24.1
46	SK110	東西ベルト1層	1.9
47	SK110	東西ベルト2層	19.4
48	SK110	東西ベルト西6層	6.6
49	SK110	東西ベルト西8層	4.5
50	SK110	東西ベルト西13層	18.0
51	SK110	東西ベルト西側	0.8
52	SK110	南東覆土	1.1
53	SK110	北東覆土	2.1
小計			299.9
54	SK111	北東覆土上位黒褐色土	26.1
55	SK111	北東覆土下位暗褐色土	6.2
56	SK111	北西覆土上位黒褐色土	42.9
57	SK111	北西覆土下位	29.4
58	SK111	北西覆土下位褐色土	12.3
59	SK111	南東覆土上位黒褐色土	36.8
60	SK111	南東覆土下位黒褐色土	38.6
61	SK111	南東覆土下位	6.2
62	SK111	南西覆土下位	19.7
63	SK111	南西覆土下位褐色土	9.2
64	SK111	南西覆土下位	14.6
65	SK111	南北ベルト15層	39.4
66	SK111	南北ベルト16層	10.4
67	SK111	南北ベルト18層	4.1
68	SK111	南北ベルト24層	15.6
69	SK111	東西ベルト東側1層	65.3
70	SK111	東西ベルト西23層	18.9
71	SK111	15層P. 1	83.1
小計			478.8
72	SK112※1	北半覆土2層	465.0
小計			465.0
73	SK114	南半覆土上位黒褐色土	19.0
小計			19.0
74	SK115	北半覆土1層	20.7
75	SK115	北半覆土2層	10.1
小計			30.8

No.	出土地点	層位	重量(g)
76	SK116	北西覆土1層	134.8
77	SK116	南西覆土1層	4.9
78	SK116	ベルトA-A' 1層	10.2
79	SK116	ベルトB-B' 1層	5.3
80	SK116	覆土	93.5
小計			248.7
81	SK117	北西覆土1層	29.8
82	SK117	東西覆土1層	51.3
83	SK117	南北ベルト1層	206.1
84	SK117	東西ベルト3層	76.3
85	SK117	3層P. 1	23.5
小計			387.0
86	SK118	南半覆土中位暗褐色土	4.1
小計			4.1
87	SK119	北半覆土1層	30.4
小計			30.4
88	SK124	北半覆土黒褐色土上位	5.3
小計			5.3
89	SK125	北半覆土3層	8.1
小計			8.1
90	SK132	南半覆土上位	10.0
小計			10.0
91	SK133	東半覆土1層黒褐色土	52.6
92	SK133	ベルト1層	3.3
小計			55.9
93	SK134	西半覆土1層黒色土	22.2
小計			22.2
94	SK138	南半覆土1層	6.0
小計			6.0
95	SK141	北半覆土4層	1.6
小計			1.6
96	SK142	北半覆土2層	21.9
97	SK142	南半覆土中位	13.3
98	SK142	南半覆土下位	3.7
小計			38.9
99	SK145	東半覆土上位黒褐色土	9.0
100	SK145	北半覆土1層	16.8
小計			25.8
101	SK146	南半覆土上位	20.9
102	SK146	南半覆土下位	17.4
小計			38.3
103	SK147	東半覆土下位	9.0
小計			9.0
合計			4313.1

炭窯跡 (SW)

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	SW101	ベルトA-A'	2.9
合計			2.9

焼土遺構 (SN)

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	SN101	周辺Ⅲa層	6.9
小計			6.9
1	SN110	ベルトB-B' 焼土底面	5.2
2	SN110	北東覆土 1層黒褐色土	0.4
小計			5.6
合計			12.5

土器埋設遺構 (SZ)

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	SZ101※	5層	1.5
合計			1.5

柱穴 (PP)

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	PP8	東半覆土1層	9.6
2	PP8	西半覆土1層	29.2
3	PP9	東半覆土1層	22.0
4	PP33	南半覆土1層	6.3
5	PP34	北半覆土1層	6.0
6	PP34	南半覆土1層	11.4
7	PP43	北半覆土1層	47.0
8	PP58	南半覆土中位	3.4
9	PP71	北半覆土1層	4.9
合計			139.8

埋没沢 1

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	埋没沢1(ⅡB)	Ⅱd層 黒褐色土	1255.9
2	埋没沢1(ⅡB)	ベルト北側 黒褐色土	690.7
3	埋没沢1(ⅡC)	Ⅱ層	192.9
4	埋没沢1(ⅡC)	Ⅱa層	1565.9
5	埋没沢1(ⅡC)	Ⅱb層	1753.1
6	埋没沢1(ⅡC)	Ⅱb層下位	199.4
7	埋没沢1(ⅡC)	Ⅱc層	631.7
8	埋没沢1(ⅡC)	Ⅱe層	203.9
9	埋没沢1(ⅡC)	I~Ⅲa層	84.7
10	埋没沢1(ⅡC 8e)	Ⅱa層	802.0
11	埋没沢1(調査区西側)	Ⅱe層	63.6
合計			7443.8

I A

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	I A	Ⅱ層 (SN04付近)	7.7
合計			7.7

I B

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	I B 7 g	Ⅱ層-20cm	45.3
2	I B 7 g	Ⅱ層-30cm	30.0
3	I B 7 g	暗褐色土層	13.5
4	I B 7 g : P3	Ⅱ層	908.3
5	I B 7 g : P4	Ⅱ層	614.6
6	I B 7 i	Ⅱ層-30cm	140.9
7	I B 8 g	Ⅱ層-20cm	95.4
8	I B 8 g	Ⅱ層-30cm	28.0
9	I B 8 h	Ⅱ層-20cm	7.8

No.	出土地点	層位	重量(g)
10	I B 8 h	Ⅱ層-30cm	39.6
11	I B 8 i	Ⅱ層-30cm	12.1
12	I B 8 j	Ⅱ層-30cm	115.1
13	I B 9 i	Ⅱ層-10cm	40.1
14	I B 9 i	Ⅱ層-20cm	95.8
15	I B 9 i	Ⅱ層-30cm	64.7
16	I B 9 j	I層	12.5
19	I B 9 j	Ⅱa層	85.6
17	I B 9 j	Ⅱa層-10cm	9.7
18	I B 9 j	Ⅱ層-30cm	218.5
20	I B	Ⅱ層 黒褐色土	566.4
21	I B	Ⅱd層	58.3
22	I B	Ⅲ層	40.2
合計			3242.4

II A

No.	出土地点	層位	重量(g)
8	II A	I層	37.8
2	II A	Ⅱa層 黒褐色土	558.3
1	II A	I c層 暗褐色土	37.1
6	II A	Ⅱd層 黒色土	218.8
7	II A	Ⅱe層 中敷より下位	224.2
9	II A	Ⅱe層	277.8
3	II A	Ⅱ層	370.9
4	II A	Ⅱ層 黒褐色土	159.1
5	II A	Ⅱ層 暗褐色土	23.1
11	II A	表土下の黄褐色土	24.0
合計			1931.1

II B

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	II B 6 j : P2	Ⅱ層	369.4
2	II B 7 a : P1	Ⅱ層	392.1
3	II B	Ⅱ層 黒褐色土	36.6
4	II B	Ⅱ層 暗褐色土	38.8
5	II B	Ⅱe層 暗褐色土層	301.4
合計			1138.3

II C

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	II C 8 c	根周辺	56.1
2	II C	I層	4.5
3	II C南西側	Ⅲ層直上	4.9
4	II C	I~Ⅲa層	64.1
5	II C	Ⅲa層	17.0
6	II C	Ⅲa層	10.0
7	II C	I層 表土	31.9
8	II C	表探	67.3
合計			255.8

III A

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	III A	表土下の黄褐色土	48.1
合計			48.1

III C

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	III C 8 h	I層	62.2
2	III C	表探	11.8
合計			74.0

トレンチ

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	T202	黒色土層	19.3
2	T204北	表土直下	2.9
3	T204北	黒褐色土	14.0
4	T206西	不明	3.5
5	T206東	黒色土層	217.9
6	T209	黒色土層	57.8
7	T234~236間	Ⅱ層黒褐色土層	25.0
8	平坦部 西側トレンチ	不明	7.7
合計			348.1

その他

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	1区北谷	表土	11.0
2	1区北谷	Ⅱ層黒褐色土	11.3
3	SK101周辺	Ⅱ層	10.0
4	SK05付近	表土	45.2
5	南側谷部	表土	35.5
6	南側谷部	埋没沢検出	8.5
7	北側谷部	表探	30.5
8	不明	排土	14.1
9	不明	不明	172.8
合計			338.9

※1 整理時の処理を誤った可能性がある。  
 ※2 整理時の処理の誤りで埋設土器の重量は不明である。

遺構種別

No.	遺構名	重量(g)	比率(%)
1	竪穴住居跡(SI)	167.5	0.86%
2	竪穴状遺構(SKI)	0.0	0.00%
3	土坑(SK)	4,303.7	22.11%
4	陥し穴状遺構(SK)	9.4	0.05%
5	炭窯跡(SW)	2.9	0.01%
6	焼土遺構(SN)	12.5	

第11表 遺構別出土遺物一覧表(掲載No.)

No.	遺構名	土器	土製品	石鏃	石匙	不定形	磨製石斧	磨石	凹石	台石	石皿	陶磁器	鉄製品	炭化種実	鉄滓類(磁着有)	鉄滓類(磁着有)	粒状滓	鍛造剥片
1	SI101	1~3				149												
2	SK101															240		
3	SK103	4・5				150												
4	SK104	6																
5	SK105	7~18									166							
6	SK106	19~21																
7	SK107	22・23																
8	SK108	24														241		
9	SK109	25~32																
10	SK110	33~37				151									217	242		288
11	SK111	38~43																
12	SK112									164								
13	SK114			141														
14	SK115	44																
15	SK116	45・46																
16	SK117	47~50																
17	SK119	51																
18	SK133	52・53																
19	SK134	54																
20	SK138	55																
21	SK141																	
22	SK142	56・57											191		218	243		
23	SK143		131										192・193		219	244		
24	SK145	58													220	245		
25	SK146	59																
26	SK147	60																
27	SN101														211	231		281
28	SN104															232		
29	SN105														212	233・234	271	282・283
30	SN106															235		284
31	SN107														213・214	236・237	272	285
32	SN108														215			286
33	SN110	61													194・195	216	238	273
34	SZ101	62																287
35	SW101																	
36	SD101											181		311				
37	PP8	63																
38	PP9	64																
39	PP32																	
40	PP33	65																
41	PP34																	
42	PP43																	
43	PP44																	
44	PP58																	
45	PP60																	
46	PP69			142		152												

第12表 土器観察表

〈数値〉：推定値、(数値)：残存値

図版No.	写図No.	掲載No.	出土地点	層位	器種	計測値(cm)			文様(原体)の特徴	煤の付着	内面調整	胎土	時期
						器高	口径	底径					
33	22	1	SI101-PP7	北半覆土1層	深鉢	—	—	—	胴：単軸絡1(R)縦	—	N	4	不明
33	22	2	SI101-PP13	南半覆土1層	深鉢	—	—	—	胴：LR縦	—	N	3	不明
33	22	3	SI101-PP15	南半覆土1層	深鉢	—	—	—	胴：LR横?沈線	—	N	3	後期
33	22	4	SK103	2層	深鉢	—	—	—	胴：RL縦	—	N	3	中期?
33	22	5	SK103	南半覆土	深鉢	—	—	—	胴：沈線、刺突、LR縦	—	N	3	中期?
33	22	6	SK104	北半覆土1層	深鉢	—	—	—	胴：縄文?磨滅著しく詳細不明	—	N	3	不明
33	22	7	SK105	北半覆土最上位	深鉢	—	—	—	胴：沈線、LR縦	—	N	3	不明
33	22	8	SK105	南半覆土中位Pot1	深鉢	—	—	—	口唇~:RL横、沈線	○	M	3	後期
33	22	9	SK105	南半覆土中位Pot2	深鉢	—	—	—	口唇~:LR横、原体側圧LR(横位)	●	N	3	後期
33	22	10	SK105	東半覆土2層	深鉢	—	—	—	胴：LR横、沈線	—	N	3	後期
33	22	11	SK105	東半覆土2層	深鉢	—	—	—	胴：単軸絡1段R(縦)	—	N	3	中・後期?
33	22	12	SK105	東半覆土2層	深鉢	—	—	—	口：無文	—	N	3	中期?
33	22	13	SK105	東半覆土2層下位	台付鉢?	(4.1)	—	(5.8)	胴：LR横?	—	N	3	不明
33	22	14	SK105	東半覆土2層	深鉢	—	—	—	胴：LR+RL(結束第1種)横位、繊維	○	?	4	前期
33	22	15	SK105	東半覆土3層	深鉢	—	—	—	胴：LR横	—	N	2	後・後期
33	22	16	SK105	東半覆土1層	深鉢	—	—	—	口：RL縦	—	N	2	中期?
33	22	17	SK105	東半覆土6層	深鉢	—	—	—	口唇：刻目、口~:貝殻条痕文?	—	N	1	早期?
33	22	18	SK105	東半覆土下位	深鉢	—	—	—	口~:LR+RL(結束第1種)横位、繊維	—	?	4	前期
33	22	19	SK106	西半覆土上位	深鉢	—	—	—	胴：RLR縦	—	N	3	中期
33	22	20	SK106	東半覆土1層	深鉢	—	—	—	口~:LR縦	—	N	3	中期?
33	22	21	SK106	東半覆土1層	深鉢	—	—	—	口：RL縦?	—	N	3	中期?
33	22	22	SK107	東半覆土	深鉢	—	—	—	口~:無文帯、沈線、LR縦	—	N	2	中期?
33	22	23	SK107	西半覆土1層	深鉢	—	—	—	胴：無文帯、沈線、RLR横	—	N	2	中期
33	22	24	SK108	東半覆土中位	深鉢	—	—	—	口：無文帯	—	N	2	中期
33	22	25	SK109	南半覆土上位	深鉢	—	—	—	胴：単軸絡1段R(縦)	—	N	4	中期
33	22	26	SK109	南半覆土上位	深鉢	—	—	—	胴：単軸絡1段L(縦)	—	N	4	中期?
33	22	27	SK109	南半覆土上位	深鉢	—	—	—	胴：RL縦→沈線(横位)	—	N	3	後期?
33	22	28	SK109	南半覆土上位	深鉢	—	—	—	胴：単軸絡1段R(縦)、沈線	—	N	2	中期
33	22	29	SK109	北半覆土1層	深鉢	—	—	—	口~:LR縦	—	M	2	中期
33	22	30	SK109	北半覆土1層	深鉢	—	—	—	胴：RL縦?黒斑有り	—	N	2	中・後期
33	22	31	SK109	北半覆土1層	深鉢	—	—	—	口~:RLR縦	—	N	2	中期
33	22	32	SK109	北半覆土3層	深鉢	—	—	—	口：無文?	—	N	3	中期?
34	22	33	SK110	南西覆土下位	深鉢	—	—	—	口：刺突	—	N	3	中期?
34	22	34	SK110	北東覆土焼土	深鉢	—	—	—	胴：LR縦	—	N	3	中期?
34	22	35	SK110	南北ベルト3層	深鉢	—	—	—	底：網代痕?	—	N	3	不明
34	22	36	SK110	東西ベルト2層	深鉢	—	—	—	口~:LR横	—	N	3	後期
34	22	37	SK110	東西ベルト13層	深鉢	—	—	—	胴：LR縦	—	N	3	中期?
34	22	38	SK111	南西ベルト15層	深鉢	—	—	—	胴：LR横、沈線、刺突	○	N	3	後期
34	22	39	SK111	北東覆土上位	深鉢	—	—	—	胴：LR縦、底：網代痕(1本潜り1本越え)	—	N	4	中期?
34	22	40	SK111	北東覆土上位	深鉢	—	—	—	口~:LR横、沈線	—	N	3	後期
34	22	41	SK111	北東覆土上位	深鉢	—	—	—	口~:LR縦?	—	N	3	不明
34	22	42	SK111	北西覆土下位	深鉢	—	—	—	胴~:LR縦	—	—	4	不明
34	22	43	SK111	南北ベルト15層	深鉢	—	—	—	胴：単軸絡1段R(縦)	—	N	4	中期?
34	23	44	SK115	北東覆土1層	深鉢	—	—	—	胴：LR縦	—	N	3	中期?
34	23	45	SK116	北東覆土1層	深鉢	—	—	—	口~:縄文?磨滅著しく詳細不明	—	N?	2	中期?
34	23	46	SK116	北西覆土1層	深鉢	—	—	—	胴：RL縦	—	N	3	中期?
34	23	47	SK117	1層	深鉢	—	—	—	口~:LR縦	—	N	4	中期?
34	23	48	SK117	南西覆土1層	深鉢	—	—	—	胴：沈線文	—	N	3	前期
34	23	49	SK117	南北ベルト1層	深鉢	—	—	—	口~:LR縦・斜+隆沈線	—	N	3	中期?
34	23	50	SK117	東西ベルト3層	深鉢	—	—	—	胴：RL縦	—	N?	4	前期?
34	23	51	SK119	北半覆土1層	深鉢	—	—	—	胴：縄文?、磨滅著しく詳細不明	—	N	2	不明
34	23	52	SK133	東半覆土1層	深鉢	—	—	—	胴：LR横、沈線	—	N	2	後期
34	23	53	SK133	東半覆土1層黒褐色土	深鉢	—	—	—	胴：LR横・沈線・剥落多い、黒斑有り。	—	?	3	晚期
34	23	54	SK134	西半覆土1層	深鉢	—	—	—	胴：RL縦?器厚が薄い、磨滅著しい。	—	N?	2	不明
34	23	55	SK138	南半覆土1層	深鉢	—	—	—	胴：LR横?結節、繊維	—	N	4	前期
34	23	56	SK142	南半覆土中位	深鉢	—	—	—	胴：RL+結節、横、繊維	—	?	4	前期
34	23	57	SK142	北東覆土2層	深鉢	—	—	—	胴：L+LR横、繊維	—	N	4	前期
34	23	58	SK145	北半覆土1層	深鉢	—	—	—	胴：文様不明、繊維	—	?	4	前期

2 出土遺物

Main table with columns: 図版 No., 写図 No., 掲載 No., 出土地点, 層位, 器種, 計測値 (cm) (器高, 口径, 底径), 文様 (原体) の特徴, 煤の付着, 内面調整, 胎土, 時期. Contains detailed data for various archaeological artifacts.

凡例 部位の名称、口唇：口唇部、口：口縁部、頸：頸部、胴部、底：底部。  
文 縁：原形側圧、原形側圧痕、給条体圧痕、単輪給条、単輪給条体、多輪給条、半竹：半竹管、結末1：結末第1種、結末2：結末第2種、結節：結節縄文。

煤の付着、○：内面付着、●：外面付着、-：付着なし。  
内面調整、M：ミガキ、N：ナデ、-：なし。  
胎土、1：緻密である、2：細礫を含まず、砂粒を含む、3：細礫・砂粒を含む、4：細礫・砂粒を含む。

第13表 土製品観察表

(数値) : 残存値

Table for pottery observation with columns: 図版 No., 写図 No., 掲載 No., 出土地点, 層位, 器種, 計測値 (cm) (長さ, 幅, 厚さ), 重量 (g), 胎土, 特徴, 時期. Includes a '合計' row at the bottom.

第14表 石器観察表

(数値) : 残存値

Table for stone tool observation with columns: 図版 No., 写図 No., 掲載 No., 出土地点, 層位, 器種, 計測値 (cm) (長さ, 幅, 厚さ), 重量 (g), 備考, 石材, 産地等. Includes a '合計' row at the bottom.

第15表 石製品観察表

(数値) : 残存値

図版No.	写図No.	掲載No.	出土地点	層位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	備考	石材	産地等
						長さ	幅	厚さ				
40	27	171	埋没沢Ⅰ (IIc)	II b	石製円盤?	4.15	4.15	1.05	26.0	周縁加工 (打ち欠き?)・2側面に自然面残る。	F	1

第16表 石材略号一覧表

略号	石材
A	頁岩
B	流紋岩
C	砂岩
D	花崗岩
E	はんれい岩
F	デイスাইト

第18表 石器の器種別石材一覧表

No.	岩種 (産地)	器種	石鏃			石匙	不定形	石核	磨製石斧	敲磨器		石皿	台石	石製品	合計 (%)
			長さ	幅	厚さ					凹石	敲石				
A 1	頁岩 (北上山地)		2 (40.00)	3 (100.00)	3 (60.00)	6 (100.00)								14 (51.85)	
A 2	頁岩 (奥羽山脈?)		3 (60.00)		2 (40.00)									5 (18.52)	
B	流紋岩 (八木沢付近)										1 (100.00)	1 (50.00)		2 (7.41)	
C	砂岩 (北上山地)							2 (100.00)				1 (50.00)		3 (11.11)	
D	花崗岩 (北上山地)								1 (100.00)					1 (3.70)	
E	はんれい岩 (北上山地)									1 (100.00)				1 (3.70)	
F	デイスাইト (北上山地)												1 (100.00)	1 (3.70)	
合 計 (%)			5 (18.52)	3 (11.11)	5 (18.52)	6 (22.22)		2 (7.41)	1 (3.70)	1 (3.70)	1 (3.70)	2 (7.41)	1 (3.70)	27 (100.00)	

第17表 産地等略号一覧表

略号	産地等
1	北上山地 新生代古第三紀
2	北上山地 古生代末~中生代初
3	北上山地 中生代
4	北上山地 中生代白亜紀
5	奥羽山脈? 新生代新第三紀
6	八木沢付近 新生代古第三紀

第19表 陶磁器観察表

(数値) : 残存値

図版No.	写図No.	掲載No.	出土地点	層位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	磁器	釉薬	産地	時期	備考
						器高	口径	底径						
40	27	181	南谷部	覆土上位	碗	—	(3.4)	(4.4)	(83.8)	磁器	染付	肥前	18c 後半	
40	27	182	PP32	南半覆土1層	壺?	—	—	—	(7.3)	陶器	褐釉	常滑	中世 (12~17c)	
40	27	183	I B	II層	皿	—	—	—	(5.6)	磁器	染付・人工コバルト	不明? 在地?	19c	
40	27	184	II C 8 c	表土	茶碗	—	—	—	(4.2)	陶器	鉄釉 (外)・褐釉 (内)	不明? 瀬戸美濃?	17c 後半	
40	27	185	II C	I~II a層	壺?	—	—	—	(9.9)	陶器	褐釉	常滑	中世 (12~17c)	※182と同一個体

第20表 金属製品観察表

(数値) : 残存値

図版No.	写図No.	掲載No.	出土地点	層位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	特徴	時期
						長さ	幅	厚さ			
40	28	191	SK142	北半覆土3層	鉄釘	4.9	1.1	0.5	4.4	断面方形、一端が尖る。	古代
40	28	192	SK143	北半覆土2層	鉄釘	5.7	1.25	0.9	17.1	断面方形、一端が尖る。	古代
40	28	193	SK143	南半覆土上位	紡錘車	( 8.3)	5.4	0.5	( 27.8)	軸部一端を欠く、円盤部傘状に下がる。	古代
40	28	194	SN110	南西覆土1層	鉄釘?	( 2.6)	0.35	( 0.3)	( 0.5)	断面方形	古代
40	28	195	SN110	1層焼土	鉄釘?	( 2.0)	0.4	0.3	( 0.7)	断面方形、一端が尖る。	古代
41	28	196	I B 8 f	II-20cm	不明、容器?	( 3.0)	( 3.4)	1.6	( 10.0)	鏝? 湾曲あり	古代
41	28	197	I B 8 f : M4	II-30cm	刀子	(12.6)	2.0	0.5	( 24.8)	刃部先端を欠く、柄部分が折れる。	古代
41	28	198	I B 8 f : M4	II-30cm	鉄釘?	( 4.1)	1.4	1.2	( 29.2)	断面方形、一端が尖る。	古代
41	28	199	I B 8 g : M1	II	棒状鉄製品	17.3	2.2	1.2	103.8	断面円形、一端に返し(まくれ?)あり※成分分析	古代
41	28	200	I B 8 g : M2	II	目釘式手鎌	12.8	2.4	0.4	23.0	一端に目釘痕あり	古代
41	28	201	I B 8 g : M3	II-20cm	棒状鉄製品	( 9.7)	1.3	0.9	( 59.2)	断面方形、一端が湾曲する。一端を欠く	古代
41	28	202	I B 8 g	II-20cm	鍵状鉄製品	6.9	2.8	0.8	25.9	扁平で両端の形が異なる	古代
41	28	203	I B 8 g : M3	II-20cm	小刀	7.0	1.9	0.3	14.2	刃部両端を欠く	古代
41	28	204	I B 8 g : M3	II-20cm	刀子?	( 4.3)	1.4	0.4	( 4.0)	柄?	古代
41	28	205	II C	表土	不明、容器?	( 5.2)	( 3.0)	( 1.7)	( 27.1)	鏝状の張り出し?	古代
41	28	206	II C	III層直上	棒状鉄製品	( 5.4)	1.3	0.9	( 15.0)	先端が湾曲し、尖る。	古代
41	28	207	II C	IIIa層	不明	( 3.6)	( 1.2)	( 0.8)	( 5.8)	一辺が湾曲している。	古代
41	28	208	II C	IIIa層	棒状鉄製品	(10.9)	0.7	0.5	( 14.0)	断面方形、一端を欠く	古代
41	28	209	II C	I~IIIa層	鉄鍋?	( 3.0)	( 3.5)	0.4	( 13.4)	緩い湾曲あり	古代
合計									(419.9)		

第21表 銭貨観察表

(数値) : 残存値

図版No.	写図No.	掲載No.	出土地点	層位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	特徴	初鋳年
						外径	内径	厚さ			
41	28	210	表探	不明	寛永通寶	(2.0×2.3)	(0.6)	0.1	(1.5)	寛の文字を欠く	新寛永 (1739~)

第22表 鉄滓観察表 (磁着無)

写図No.	掲載No.	出土地点	層位	重量 (g)	計測値 (cm)		鉄滓の内訳	備考
					1cm以上	1cm未満		
-	-	SN101	南東覆土	0.1	○		鍛冶滓	
29	211	SN101	東半覆土1層 黒褐色土	8.2	○		鍛冶滓	
-	-	SN101	北西覆土1層 黒褐色土	2.2	○		鍛冶滓	
小計				10.5				
-	-	SN105	東半覆土1層	4.6	○	○	鍛冶滓	
29	212	SN105	南半覆土1層	13.1	○		鍛冶滓	
-	-	SN105	北半覆土1層	1.2	○		鍛冶滓	
小計				18.9				
-	-	SN107	東半覆土1層	4.1	○	○	鍛冶滓	
29	213	SN107	西半覆土1層	1.4	○	○	鍛冶滓	
29	214	SN107	北半覆土1層	2.6	○	○	鍛冶滓	
-	-	SN107	北半覆土1層	0.9	○		鍛冶滓	
小計				9.0				
29	215	SN108	東半覆土1層	0.1 未満	○		鍛冶滓	
小計				0.1				
-	-	SN110	南西覆土1層 黒褐色土	0.6	○		鍛冶滓	
-	-	SN110	北東覆土1層 黒褐色土	4.4	○		鍛冶滓	
30	216	SN110	1層焼土	15.2	○		鍛冶滓	
-	-	SN110	ベルトA-A' 焼土	0.1 未満	○		鍛冶滓	
-	-	SN110	ベルトB-B' 焼土	1.6	○		鍛冶滓	
小計				22.0				
29	217	SK110	ベルトA-A' 1層	8.7	○		鍛冶滓	
小計				8.7				

写図No.	掲載No.	出土地点	層位	重量 (g)	計測値 (cm)		鉄滓の内訳	備考
					1cm以上	1cm未満		
29	218	SK142	北半覆土3層	0.3	○		鍛冶滓	
小計				0.3				
29	219	SK143	南半覆土上位	36.5	○		鍛冶滓	
小計				36.5				
29	220	SK145	東半覆土上位 黒褐色土	10.0	○		不明	
小計				10.0				
29	221	SK156	東半覆土上位	15.6	○		不明	
小計				15.6				
29	222	PP33	南半覆土1層	61.3	○		製鉄滓	
29	223	PP34	南半覆土1層	20.5	○		不明	
29	224	PP43	南半覆土1層	194.7	○		製鉄滓 (流動滓)	
29	225	PP58	南半覆土下位	55.3	○		製鉄滓 (流動滓)	
29	226	PP60	北半覆土1層	11.6	○		不明	
小計				343.0				
-	-	I B	II層-10cm	15.2	○		製鉄滓	
29	227	I B 8 i	II層-20cm	390.1	○		炉底滓	
-	-	I B 8 i	II層-30cm	76.4	○		製鉄滓 (炉外滓)	
29	228	I B 9 h	II層-20cm	226.0	○		精錬系鍛冶滓 (炉外滓)	
29	229	I B 9 i	II a層黒褐色土	266.4	○		流動滓・炉底滓	
29	230	I B 9 j	II a層	113.2	○		炉底滓	
-	-	I B	II層黒褐色土	494.2	○		炉底滓・溶着滓	
-	-	I B	II層黒褐色土	15.4	○		炉外滓	
小計				1597.0				

第22表 鉄滓観察表 (磁着無)

写図 No.	掲載 No.	出土地点	層位	重量 (g)	計測値(cm)		鉄滓の内訳	備考
					1cm 以上	1cm 未満		
-	-	埋没沢1 (II B)	II d層黒褐色土	74.9	○		炉底滓	
小計				74.9				
-	-	II C	I層表土	13.6	○		不明	
小計				13.6				
-	-	T206東	黒色土層	11.5	○		流動滓	
-	-	T206中央	-	163.5	○		製鉄滓・炉内滓	
-	-	T211東側	黒色土層	147.8	○		流動滓	
小計				323.0				
合計				2482.9				

第22表 鉄滓観察表 (磁着有)

写図 No.	掲載 No.	出土 地点	層位	重量 (g)	MC反応				鉄滓の内訳	備考
					小破片 不要	大	中	小		
-	-	SN101	南東覆土	1.0		1.0			鍛冶滓	
29	231	SN101	南東覆土1層 黒褐色土	16.2	1.0	15.2			鍛冶滓	
-	-	SN101	北東覆土	6.9	0.1	6.8			鍛冶滓	
-	-	SN101	北西覆土1層 黒褐色土	16.7	5.0	11.7			鍛冶滓	
小計				40.8						
29	232	SN104	南半焼土	0.2	0.2				鍛冶滓	
小計				0.2						
-	-	SN105	東半覆土1層	74.1	46.5	27.6			鍛冶滓	
-	-	SN105	東半還元部	14.8	6.7	5.9	2.2		鍛冶滓	
-	-	SN105	西半還元部	0.6	0.6				鍛冶滓	
-	-	SN105	西半覆土	2.5		2.5			鍛冶滓	
29	233	SN105	北半覆土1層	43.8	17.3	17.6	8.9		鍛冶滓	
-	-	SN105	南半覆土1層	8.6		8.6			鍛冶滓	
29	234	SN105	西半覆土1層 鉄滓%1	54.8		54.8			鍛冶滓	
小計				109.2						
-	-	SN106	西半還元部	0.1 未満	0.1 未満				鍛冶滓	
29	235	SN106	南半覆土1層	0.2	0.2				鍛冶滓	
-	-	SN106	北半覆土1層	0.1	0.1				鍛冶滓	
小計				0.4						
29	236	SN107	東半覆土1層	43.3	14.4	14.5	14.4		鍛冶滓	
-	-	SN107	東半周囲の焼土	10.1	2.3	7.8			鍛冶滓	
-	-	SN107	西半覆土1層	32.4	19.8	10.5	2.1		鍛冶滓	
-	-	SN107	西半還元部	29.8	21.9	7.9			鍛冶滓	
-	-	SN107	西側焼土	11.6	5.1	6.5			鍛冶滓	
-	-	SN107	北半覆土1層	51.6	41.4	10.2			鍛冶滓	
-	-	SN107	炉底還元部	18.1	11.6	6.5			鍛冶滓	分析試料 (試料%1530)
29	237	SN107	炉底面直土	92.0			92.0		鍛冶滓 (%1)	
小計				288.9						
29	238	SN108	東半焼土	0.1 未満	0.1 未満				鍛冶滓	
小計				0.1						
-	-	SN110	南西覆土1層 黒褐色土	0.7	0.7				鍛冶滓	
-	-	SN110	北東覆土1層 黒褐色土	2.4	1.5	0.9			鍛冶滓	
-	-	SN110	1層焼土	107.9	1.3	106.6			鍛冶滓	
29	239	SN110	ベルトA-A' 焼土	90.6	0.9	8.4	81.3		鍛冶滓	
-	-	SN110	ベルトB-B' 焼土	9.7	1.9	7.8			鍛冶滓	
-	-	SN110	ベルトA-A' 1層	7.4		7.4			鍛冶滓	
小計				218.7						
-	-	SK1101 の周辺	検出面: II層	121.6			121.6		鍛冶滓	
小計				121.6						
-	-	SK101	覆土	5.5		5.5			鍛冶滓	
29	240	SK101	西半覆土1層	11.9			11.9		鍛冶滓	
小計				17.4						
29	241	SK108	西半覆土2層	175.9			175.9		鍛冶滓、 碗形滓	
小計				175.9						
29	242	SK110	ベルトA-A' 1層	1.0		1.0			鍛冶滓	
-	-	SK110	南北ベルト1層	10.4		10.4			鍛冶滓	
小計				11.4						
29	243	SK141	南半覆土中位	65.0		35.1	7.2	22.7	鍛冶滓	
-	-	SK141	北半覆土4層	19.9		3.0	2.1	14.8	鍛冶滓	
-	-	SK141	北半覆土5層	6.2		6.2			鍛冶滓	
小計				91.1						
29	244	SK142	南半覆土3層	20.4		5.7		14.7	鍛冶滓	
小計				20.4						
-	-	SK143	南半覆土上位	172.2		57.6		114.6	鍛冶滓	
-	-	SK143	北半覆土1層	15.3			15.3		鍛冶滓	
-	-	SK143	北半覆土2層	372.5		39.8		332.7	鍛冶滓	
-	-	SK143	北半覆土4層	9.5			9.5		鍛冶滓	
小計				569.5						

写図 No.	掲載 No.	出土 地点	層位	重量 (g)	MC反応				鉄滓の内訳	備考
					小破片 不要	大	中	小		
29	245	SK145	西半覆土2層	2.1			2.1		鍛冶滓	
小計				2.1						
-	-	SW101	ベルトA-A' 2層	19.2			19.2		鍛冶滓	
小計				19.2						
29	246	PP33	南半覆土1層	71.6		31.0	40.6		鍛冶滓	
-	-	PP43	南半覆土1層	480.9		2.2	263.2	215.5	鉄塊系 遺物	
29	247	PP43	北半覆土1層	2.3				2.3	鍛冶滓	
29	248	PP44	北半覆土1層	62.6				62.6	鍛冶滓	
小計				617.4						
29	249	I B 7 g	II層-30cm	11.6		6.7		4.9	鍛冶滓	
29	250	I B 7 i	II層-30cm	128.9		6.3	122.6		鍛冶滓、 碗形滓	
-	-	I B 8 f	黒褐色土	200.2				200.2	鍛冶滓	
29	251	I B 8 f	II層-20cm	245.0				245.0	鍛冶滓、 炉底滓含	
29	252	I B 8 g	II層-20cm	616.2		80.2	436.3	99.7	鍛冶滓、 炉底滓含	
29	253	I B 8 h	II層-20cm	57.6		8.7		48.9	鍛冶滓	
-	-	I B 8 h	II層-30cm	0.8		0.8			鍛冶滓	
29	254	I B 8 i	II層-20cm	1470.6		508.1	854.4	108.1	鍛冶滓、 碗形滓	
-	-	I B 8 i	II層-30cm	69.5		12.2		57.3	鍛冶滓	
29	255	I B 8 j	II層-30cm	30.9		30.9			鍛冶滓	
29	256	I B 9 h	II層-20cm	1628.1		311	882.4	435.2	鍛冶滓、 碗形滓	
-	-	I B 9 i	II a層黒褐色土	360.4		108.2	104.4	147.8	鍛冶滓	
-	-	I B 9 i	II層-10cm	89.6		31.6	47.2	10.8	炉外滓	
-	-	I B 9 i	II層-30cm	735.0		25.4	709.6		鍛冶滓、 碗形滓	
-	-	I B 9 j	II層-10cm	7.8		7.8			鍛冶滓	
-	-	I B 9 j	II層-30cm	229.8		42.3		187.5	鍛冶滓、 炉底滓含	
-	-	I B 9 j	II a層	119.1		11.0	108.1		鍛冶滓	
29	257	I B 9 j	不明	26.5		3.1		23.4	鍛冶滓	
-	-	I B	II層黒褐色土	688.9		186.9	387.4	114.6	鍛冶滓	
-	-	I B	II層-10cm	4.2		4.2			鍛冶滓	
小計				6720.7						
-	-	I C	排土	99.5			99.5		鍛冶滓、 碗形滓	
小計				99.5						
-	-	II A	I c層暗褐色土	40.6				40.6	鍛冶滓	
小計				40.6						
-	-	II B	I層黒褐色土	6.0		6.0			鍛冶滓	
小計				6.0						
-	-	II C c	I層	13.1				13.1	鍛冶滓	
-	-	II C	II層	15.4		15.4			鍛冶滓	
-	-	II C	III a層	35.9		35.9			製鉄滓	
小計				64.4						
-	-	T206西端	不明	19.9			19.9		鍛冶滓	
-	-	T206東	黒色土層	28.7			28.7		鍛冶滓	
-	-	T206中央	不明	16.5		16.5			鍛冶滓	
-	-	T206	暗褐色土層	21.6		21.6			鍛冶滓	
-	-	T209	黒色土層	309.2			235.7	73.5	精錬滓	
小計				395.9						
合計				9721.4						

第23表 粒状滓観察表

写図No.	掲載No.	出土地点	層位	重量(g)	小計(g)	計測値(cm)		備	考
						2mm以上	2mm未満		
30	271	SN105	東半覆土1層	1.0		○	○		
-	-	SN105	北半覆土1層	0.1未満	1.2		○		
-	-	SN105	東半還元部	0.2		○	○		
-	-	SN107	東半覆土1層	0.2		○			
30	272	SN107	西半覆土1層	1.5		○			
-	-	SN107	北半覆土1層	1.5		○	○		分析試料(試料No.1311)
-	-	SN107	東半周囲の焼土	0.1未満			○		
-	-	SN107	西半還元部	1		○			
-	-	SN107	炉底の還元部	0.2		○	○		
-	-	SN107	西側焼土	0.1	4.5	○			
30	273	SN110	南西覆土1層黒褐色土	0.1未満			○		
合計				5.7	5.7				

第24表 鍛造剥片観察表

写図No.	掲載No.	出土地点	層位	重量(g)	小計(g)	計測値(cm)		備	考
						1mm以上	1mm未満		
-	-	SN101	北東覆土	0.1未満		○	○		
-	-	SN101	南西覆土暗褐色土	0.1未満			○		
-	-	SN101	南東覆土1層黒褐色土	0.3		○	○		
-	-	SN101	南東覆土暗褐色土	0.1			○		
-	-	SN101	北西覆土1層黒褐色土	0.1未満		○			
30	281	SN101	北西覆土1層黒褐色土	1.3			○		
-	-	SN101	ベルトB-B' 1層	0.1未満	1.7		○		
30	282	SN105	東半覆土1層	2		○			
30	283	SN105	東半還元部	2.7			○		
-	-	SN105	東半還元部	0.1		○			
-	-	SN105	北半覆土1層	0.2			○		
-	-	SN105	西半還元部	0.1未満	5.0		○		
30	284	SN106	北半覆土1層	0.1未満		○			
-	-	SN106	西半還元部	0.1未満			○		
-	-	SN107	東半覆土1層	1.8			○		分析試料(試料No.1215)
-	-	SN107	東半周囲の焼土	0.1		○			
30	285	SN107	西半覆土1層	1.3		○			
-	-	SN107	西半覆土1層	0.2		○			
-	-	SN107	西半還元部	0.2		○			
-	-	SN107	西側焼土	0.1未満		○			
-	-	SN107	北半覆土1層	0.7		○			
-	-	SN107	炉底の還元部	0.1	4.4	○			
-	-	SN108	東半焼土	0.1未満			○		
30	286	SN108	西半覆土1層黒褐色土	0.1未満			○		
-	-	SN110	南西覆土1層黒褐色土	0.7			○		
-	-	SN110	南西覆土1層黒褐色土	0.3			○		
-	-	SN110	南西覆土1層黒褐色土	0.1		○			
-	-	SN110	北東覆土1層黒褐色土	0.4			○		
-	-	SN110	北東覆土1層黒褐色土	0.4		○			
-	-	SN110	焼土層	0.2			○		
-	-	SN110	1層焼土層	2.8			○		
30	287	SN110	1層焼土層	1.9		○			
-	-	SN110	ベルトB-B' 焼土	0.5		○	○		
-	-	SN110	ベルトA-A' 焼土	0.3	7.6		○		
-	-	SN110	A-A' 焼土層	0.1未満		○			
30	288	SK110	ベルトA-A' 1層	0.3			○		
-	-	SK110	ベルトA-A' 1層	0.1未満		○			
-	-	SK110	南北ベルト8層	0.1未満	0.3		○		
合計				19.0	19.0				

第25表 動物遺存体観察表

(数値) : 残存値

図版No.	写図No.	掲載No.	出土地点	層位	部位	計測値(cm)			重量(g)	特徴	時期
						長さ	幅	厚さ			
-	30	301	SN105	東半覆土1層	不明	-	-	-	(0.2)	被熱して白色化(一部黒色化)している。	
-	30	-	SN105	東半覆土1層	不明	-	-	-	(0.1)		
-	30	302	SN105	東半覆土1層	不明	-	-	-	(0.1)	被熱して白色化している。	
合計									(0.4)		

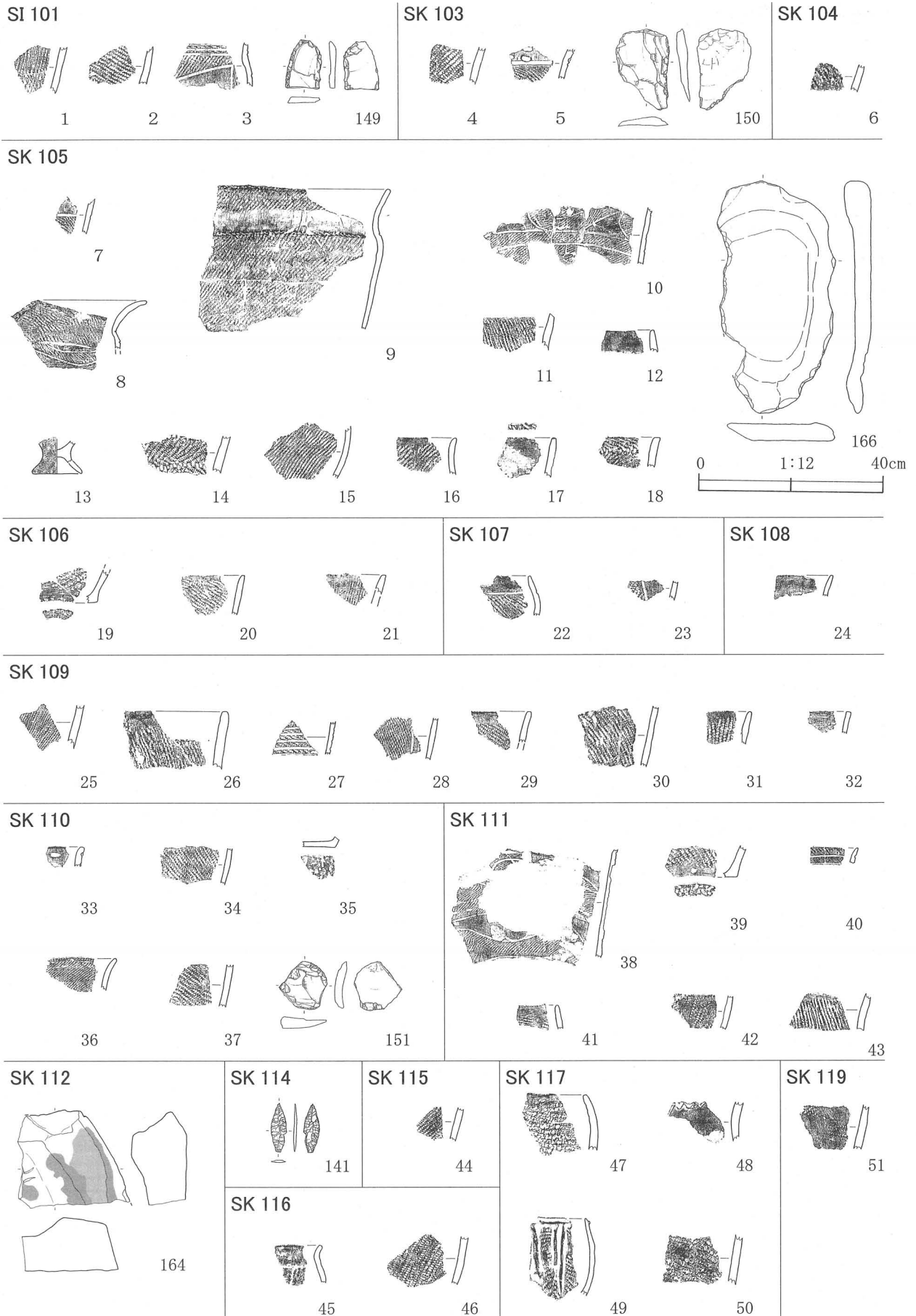
第26表 炭化種実観察表

写図No.	掲載No.	出土地点	層位	種別	重量(g)	形状	特徴・備考
30	311	SW101	ベルトA-A' 2層	モモ	0.9	完形1、破片2	種実同定(資料No.838)

第27表 炭化材観察表

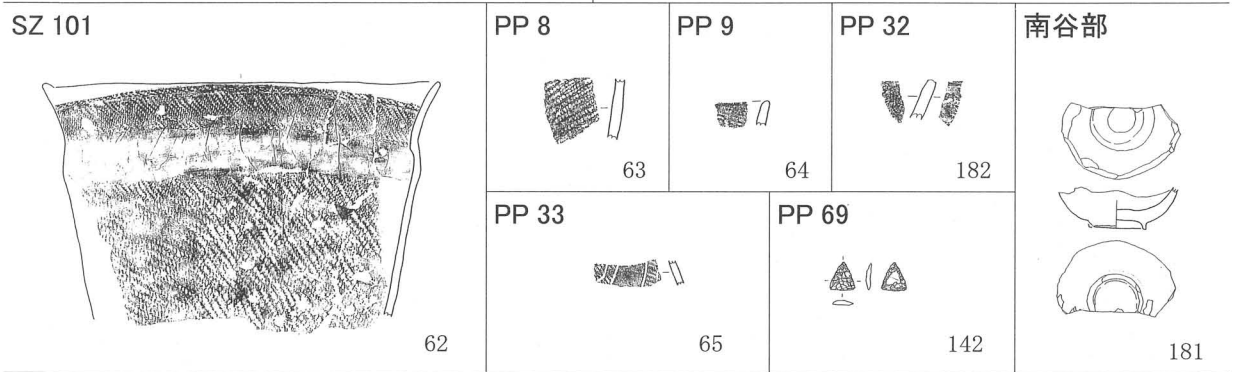
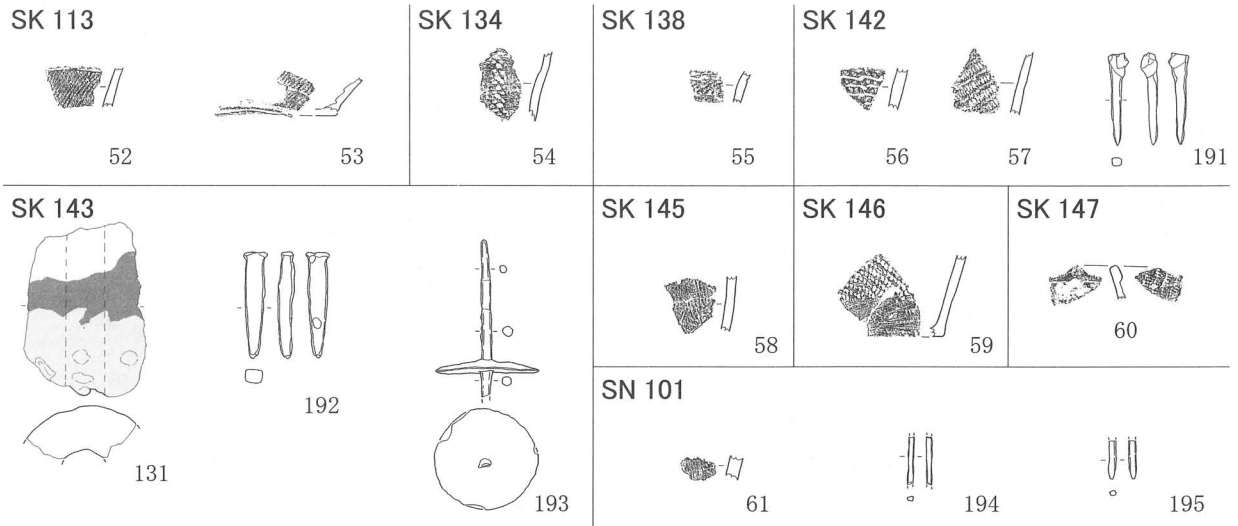
No.	出土地点	層位	樹種名	重量(g)	小計	備考
1	SKI101	ベルトA-A' 1層	ケヤキ	18.1	18.1	
2	SK104	北西覆土5層		0.7	0.7	
3	SK105	西半覆土1層		2.5		
4	SK105	東半覆土2層	ケヤキ	6.9		
5	SK105	東半覆土3層		0.3	9.7	
6	SK109	北半覆土1層		0.4		
7	SK109	北半覆土2層		1.0		
8	SK109	北半覆土3層		0.4		
9	SK109	北半覆土9層		1.5	3.3	
10	SK110	ベルトA-A' 1層		0.1		
11	SK110	南西覆土中位		0.4		
12	SK110	南東覆土下位	ケヤキ	1.8	2.3	
13	SK112	北半覆土3層		0.3	0.3	
14	SK133	東半覆土1層		1.0		
15	SK133	西半覆土1層		0.7	1.7	
16	SK136	西半覆土3層		0.8		
17	SK136	東半覆土下位	ケヤキ	5.9	6.7	
18	SK139	東半覆土1層	ケヤキ	0.9	0.9	
19	SK141	北半覆土4層		0.4		
20	SK141	南半覆土上位		0.7	1.1	
21	SK143	北半覆土4層	コナラ節	3.3		C14(資料No.821)
No.	出土地点	層位	樹種名	重量(g)	小計	備考
22	SKI143	南半覆土上位	イタヤカエデ	1.7	5.0	
23	SK145	西半覆土2層		1.9		
24	SK145	東半覆土上位		0.7	2.6	
25	SW101	西半覆土1層	イタヤカエデ	54.8		
26	SW101	南西覆土2層	クリ	179.1		C14(資料No.825)
27	SW101	東半覆土2層		15.0		
28	SW101	ベルトA-A' 2層	センノキ	170.8	419.7	
29	SN102	II層検出面	クリ	2.2	2.2	
30	SN108	焼土内	複織管束亜属	1.1	1.1	C14(資料No.831)
31	SN110	南東覆土1層黒褐色土	クリ	2.1		
32	SN110	北西覆土1層黒褐色土	センノキ	2.4		
33	SN110	ベルトA-A' 焼土		0.4		
34	SN110	1層焼土		0.9	5.8	
35	PP33	南半覆土1層		6.5	6.5	
36	PP57	北半覆土1層		1.0	1.0	
37	PP60	北半覆土1層		6.2	6.2	
38	PP62	西半覆土1層		1.0	1.0	
39	埋没沢1(IIc)	IIa層	ケヤキ	3.0		
40	埋没沢1(IIc)	IIc層		8.9	11.9	
合計				507.8	507.8	



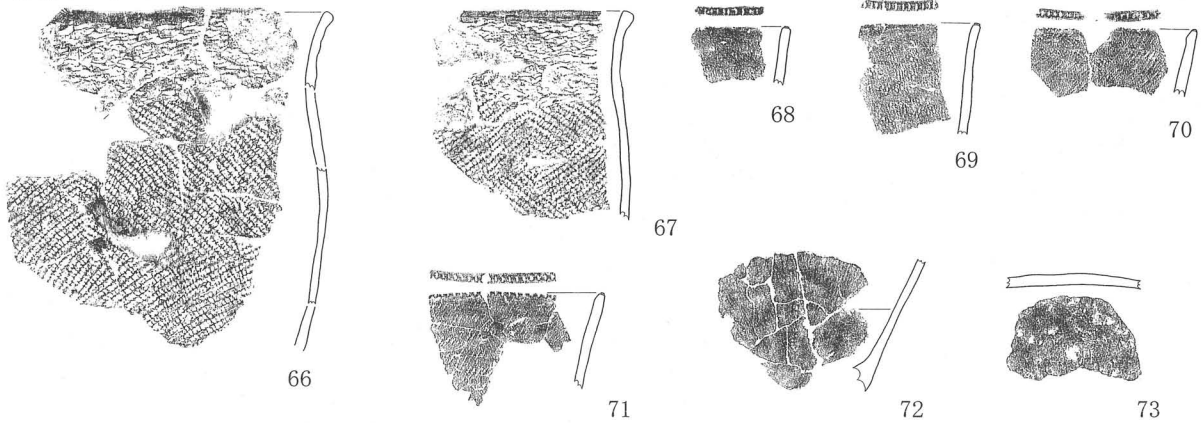


土器:1/6、土製品:1/4、剥片石器:1/4、礫石器:1/6、金屬製品:1/4

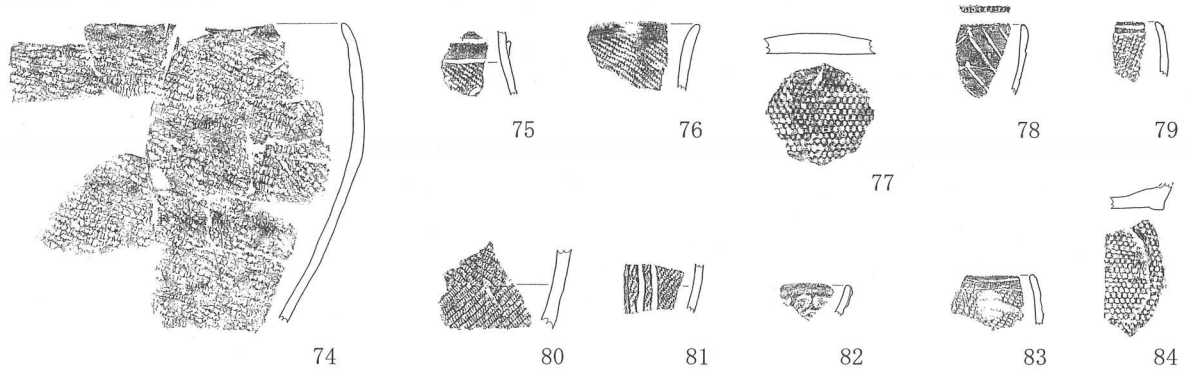
第29図 出土地点別遺物集成図(1)



埋没沢1 (ⅡB)



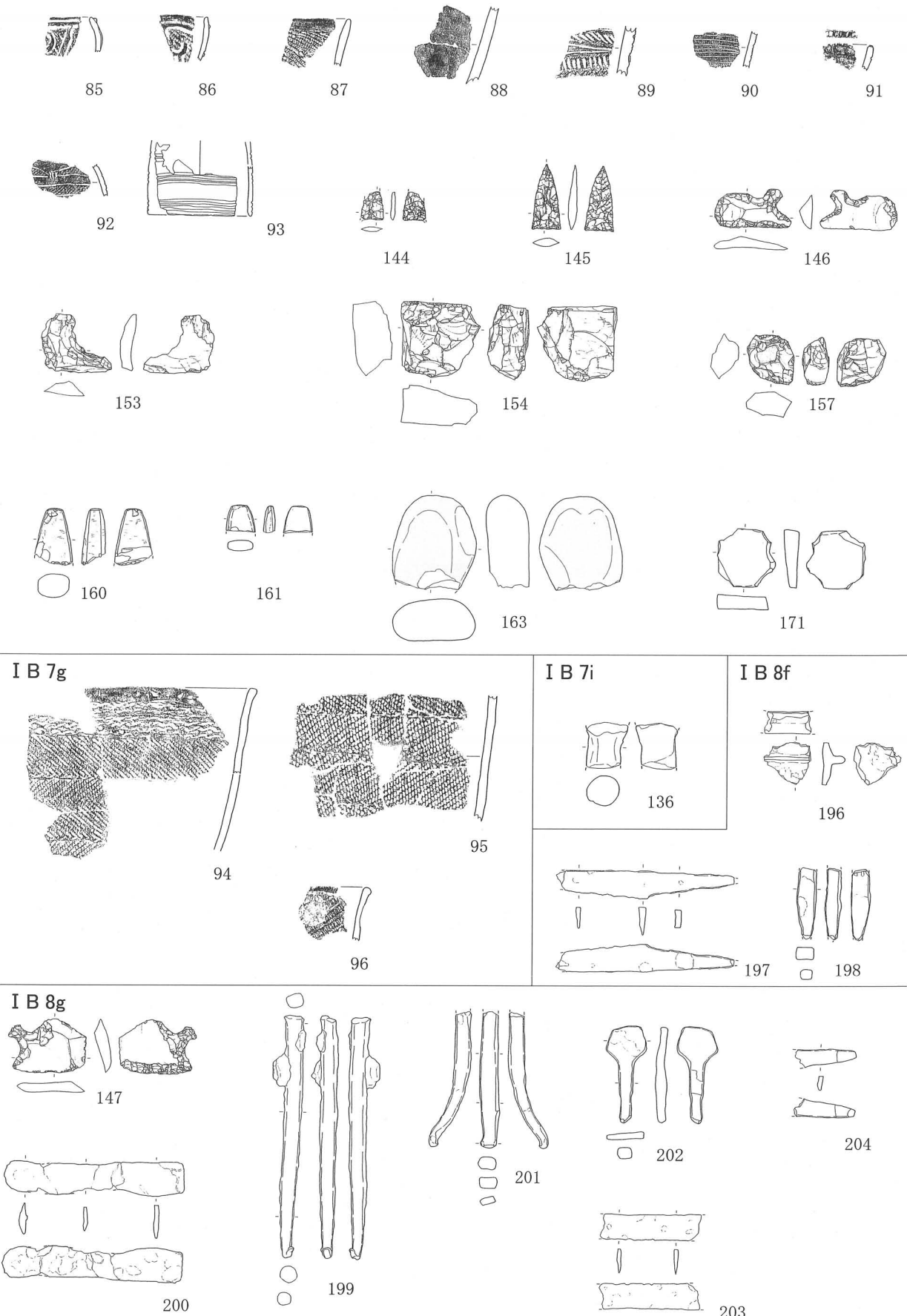
埋没沢1 (ⅡC)(1)



土器:1/6、土製品:1/4、剥片石器:1/4、礫石器:1/6、金属製品:1/4

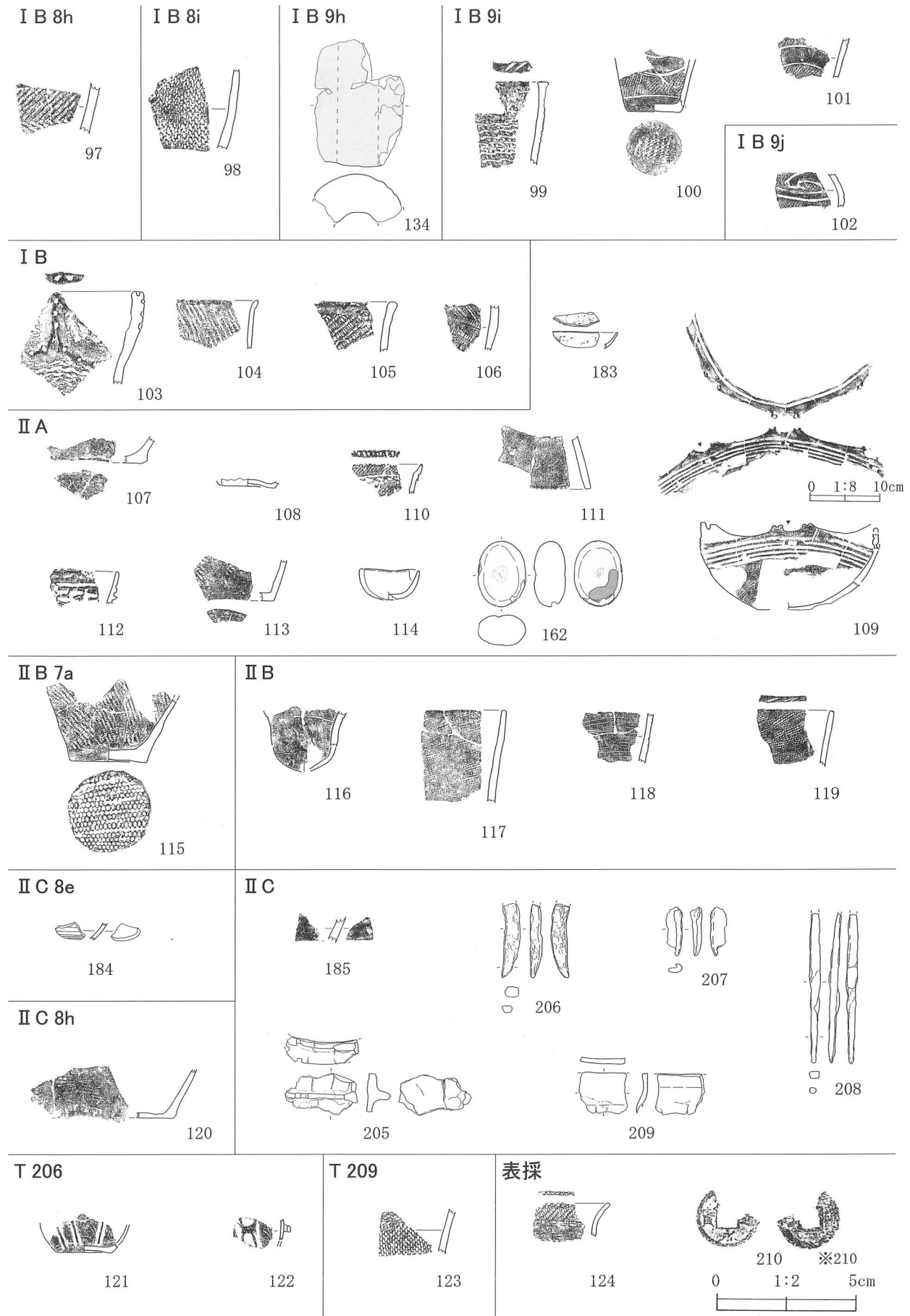
第30図 出土地点別遺物集成図(2)

埋没沢1 (II C) (2)



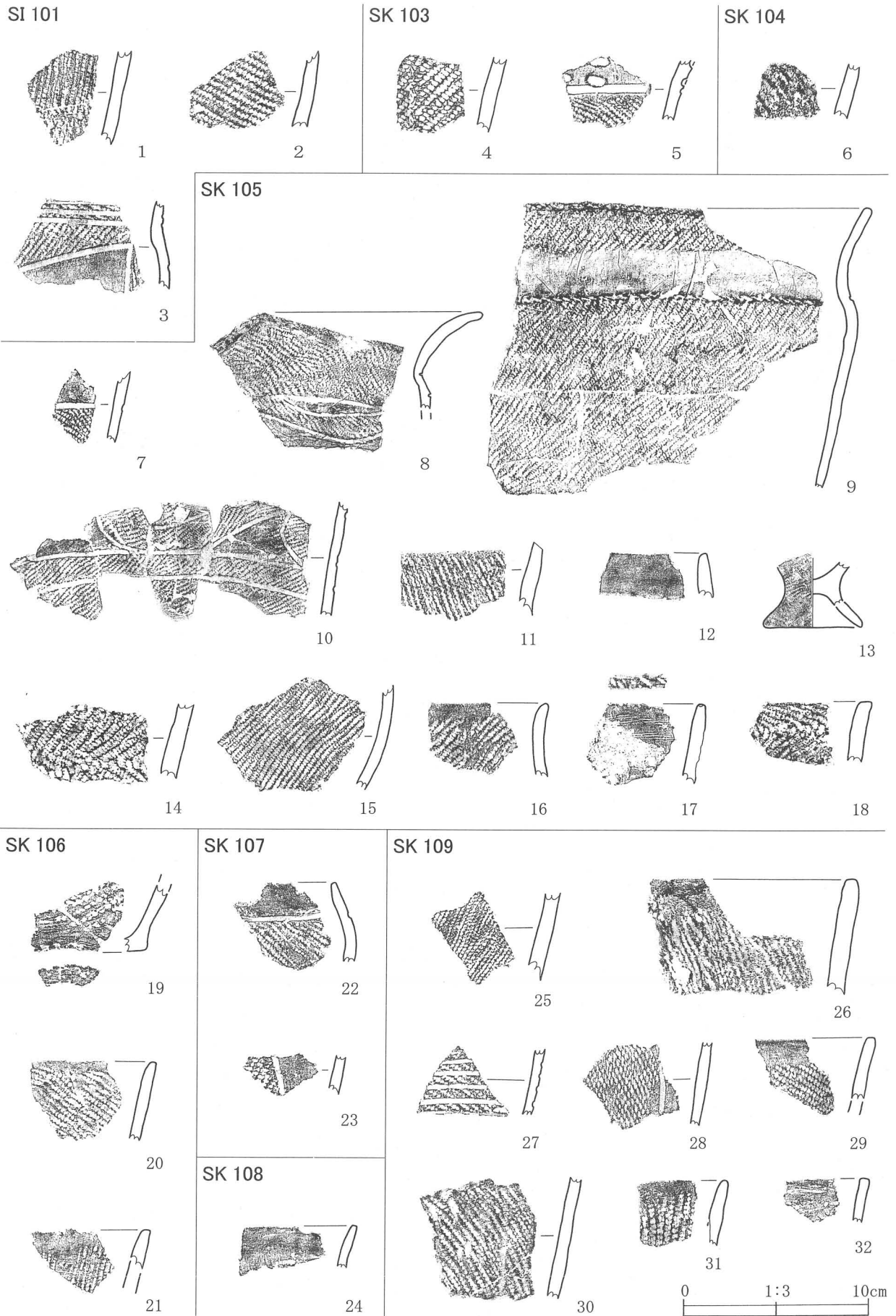
土器:1/6、土製品:1/4、剥片石器:1/4、礫石器:1/6、金属製品:1/4

第31图 出土地点別遺物集成图(3)



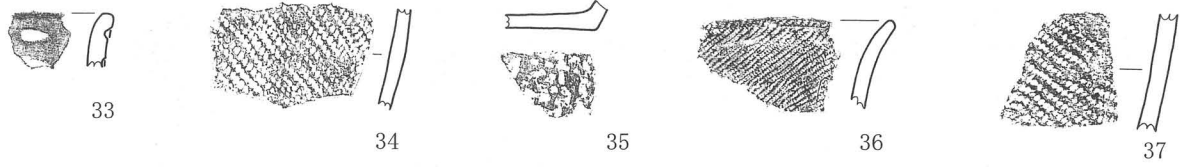
土器:1/6、土製品:1/4、剥片石器:1/4、礫石器:1/6、金属製品:1/4

第32図 出土地点別遺物集成図(4)

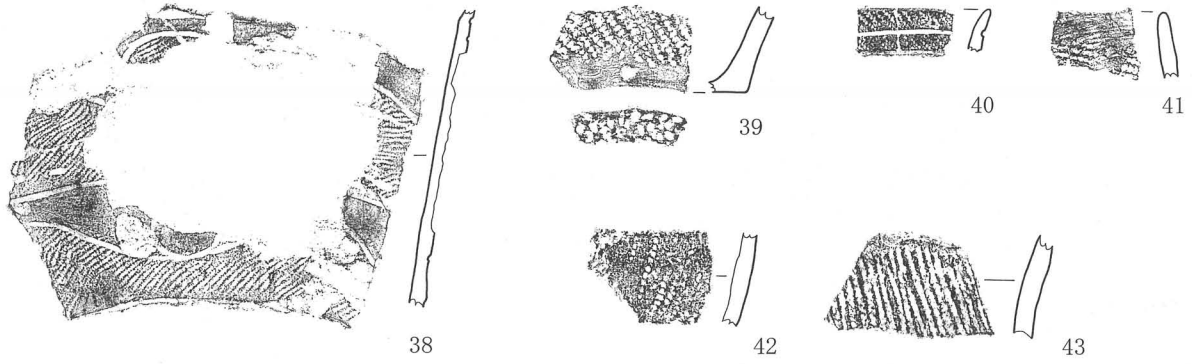


第33圖 土器(1)

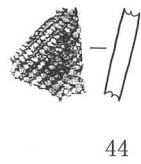
SK 110



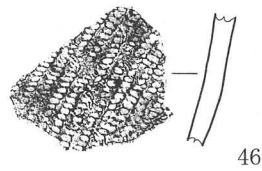
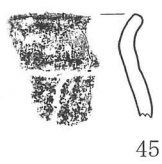
SK 111



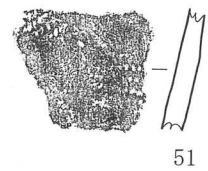
SK 115



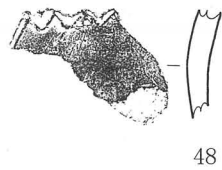
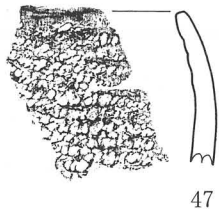
SK 116



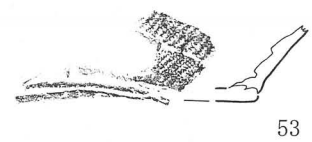
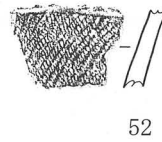
SK 119



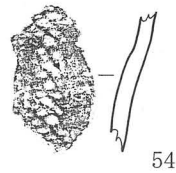
SK 117



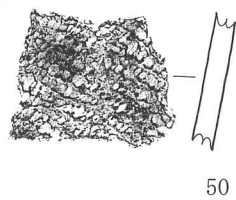
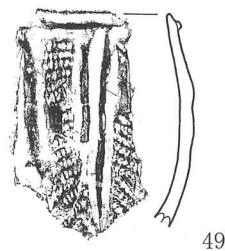
SK 133



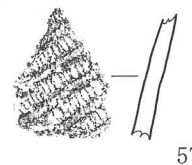
SK 134



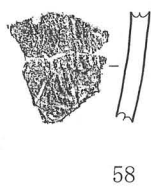
SK 142



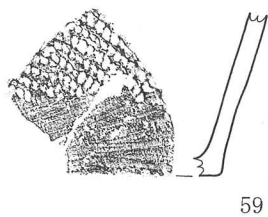
SK 138



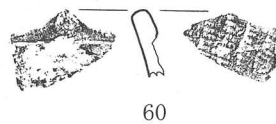
SK 145



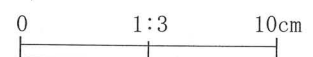
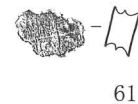
SK 146



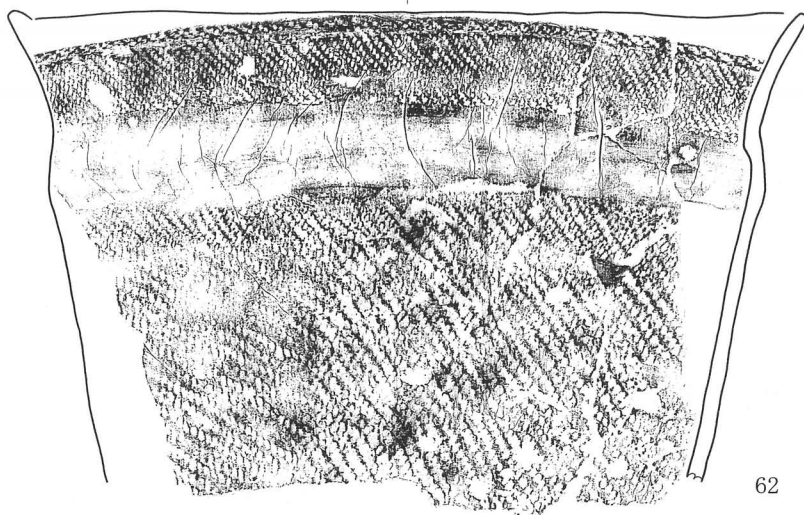
SK 147



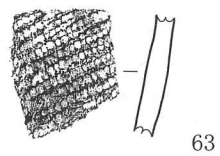
SN 101



SZ 101



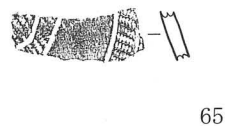
PP 8



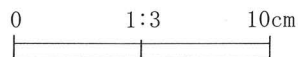
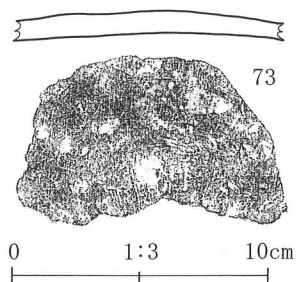
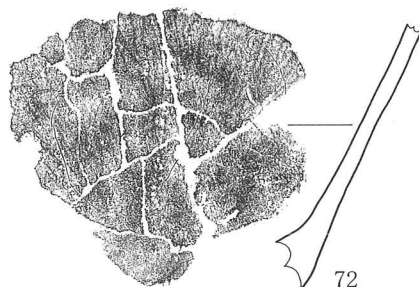
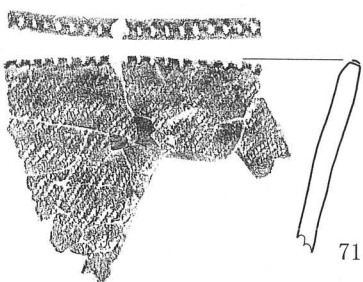
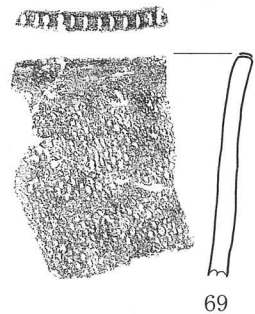
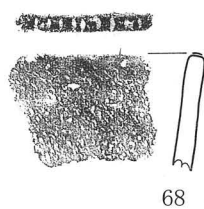
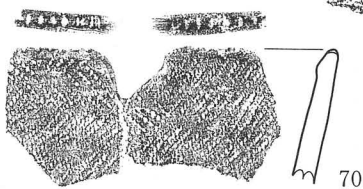
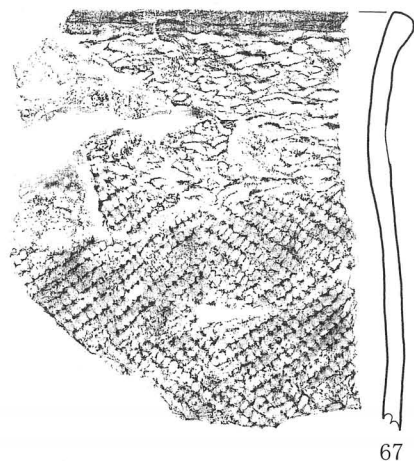
PP 9



PP 33



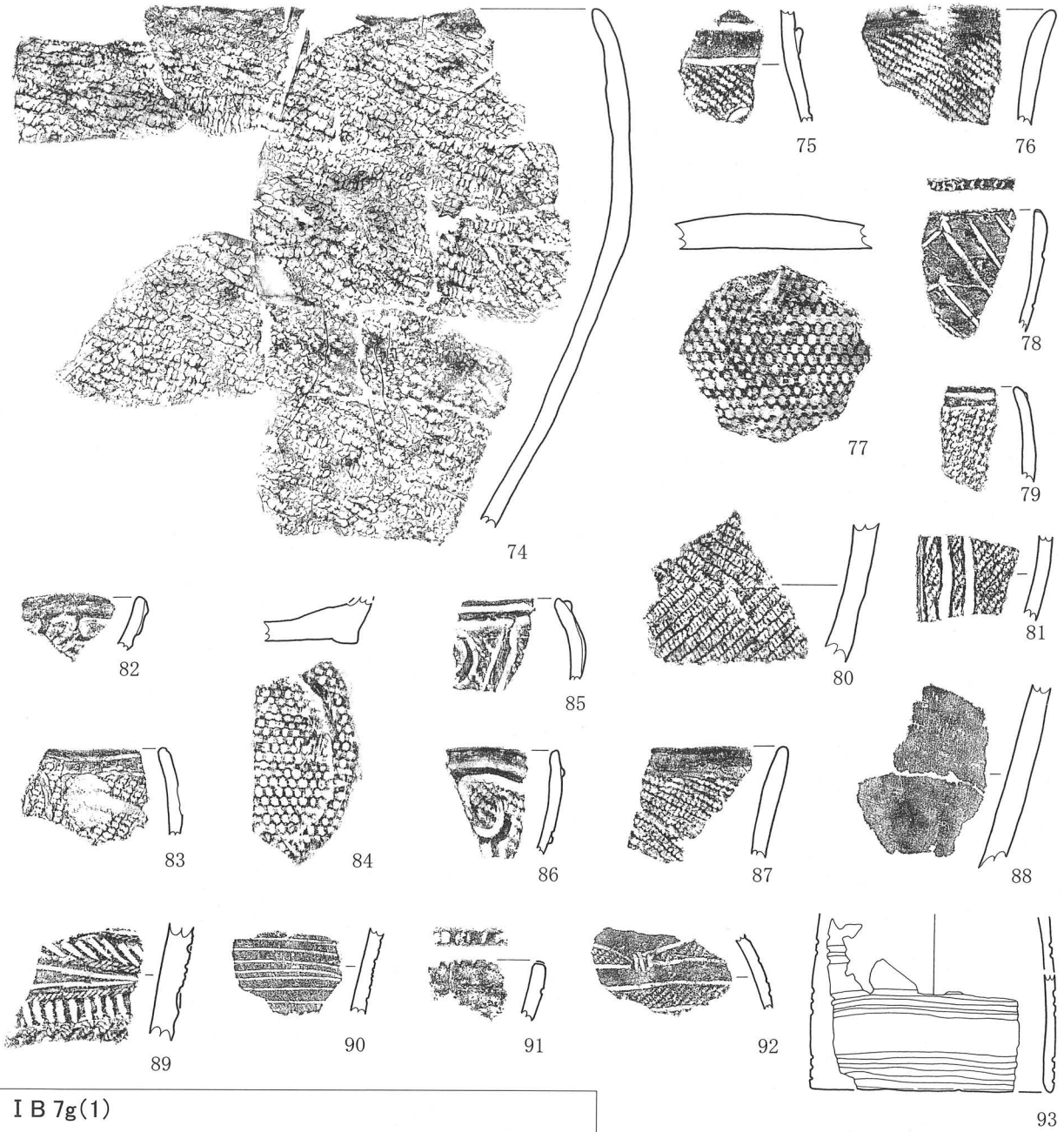
埋没沢1 (II B)



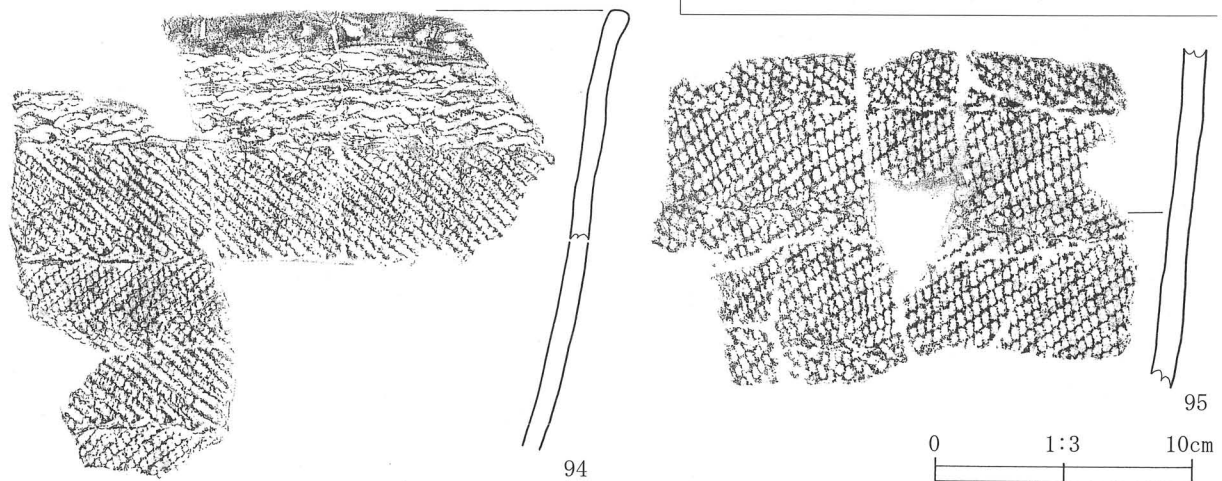
第35図 土器(3)



埋没沢1 (ⅡC)

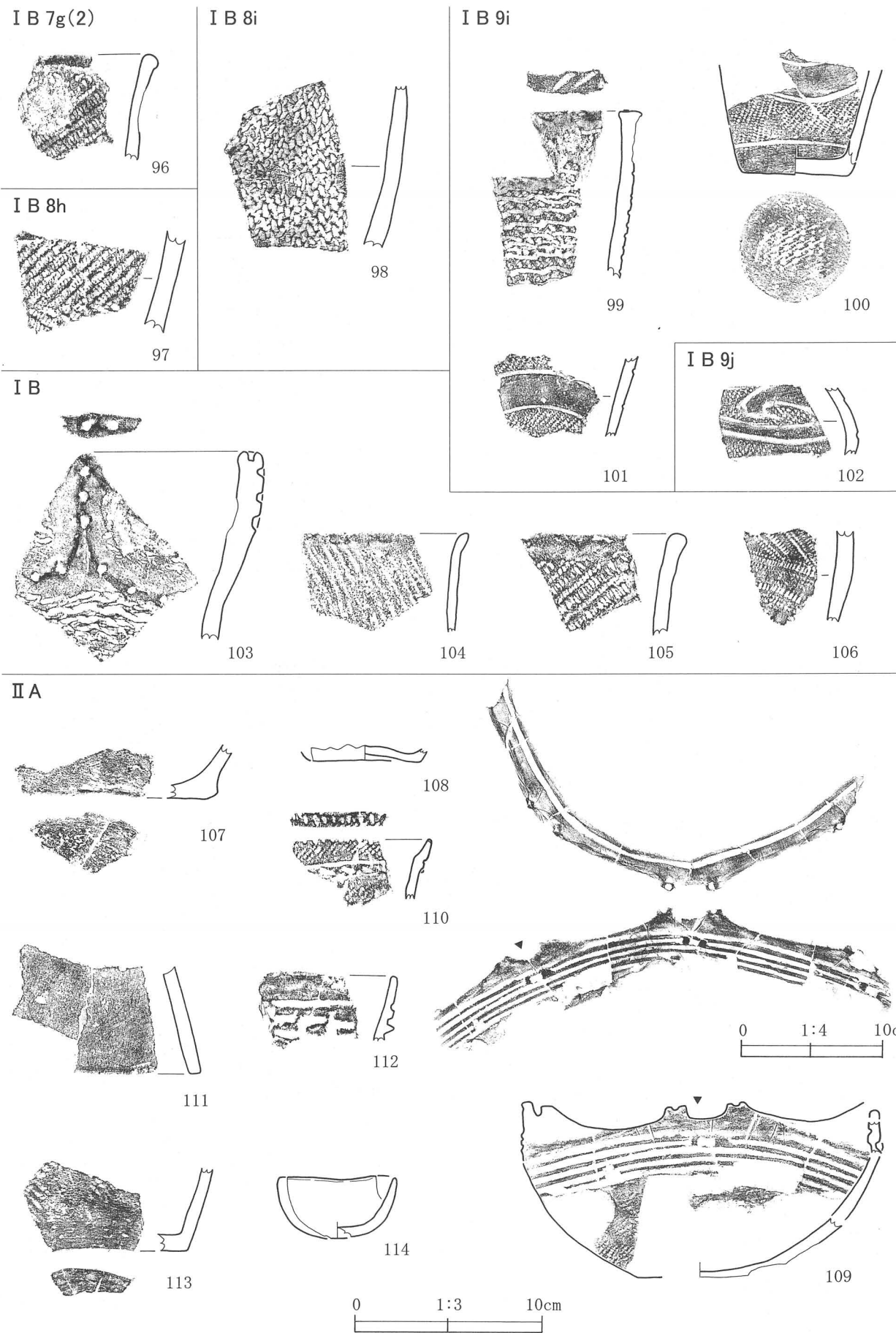


IB 7g(1)



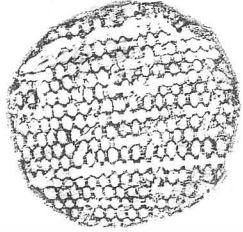
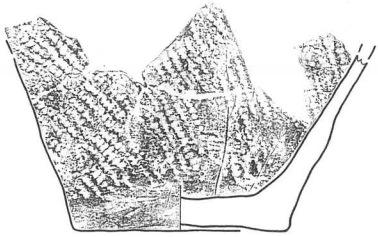
第36図 土器(4)





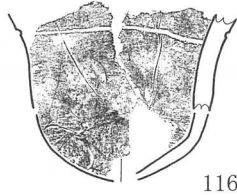
第37図 土器(5)

II B 7a

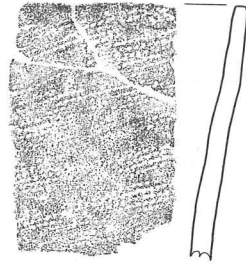


115

II B



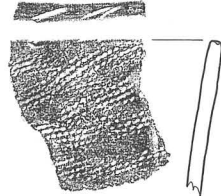
116



117

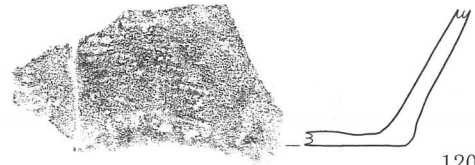


118



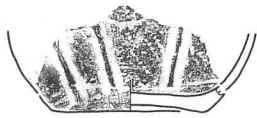
119

III C 9h



120

T 206

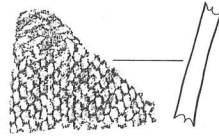


121



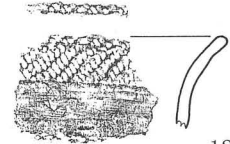
122

T 209

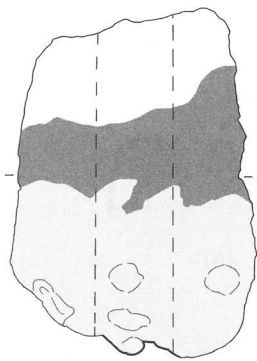
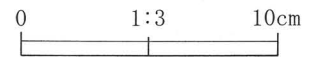


123

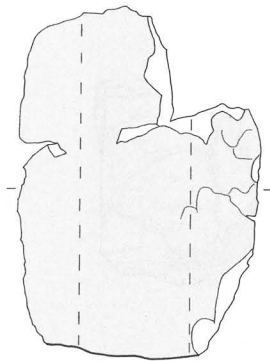
表採



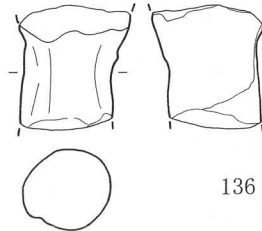
124



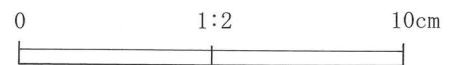
131

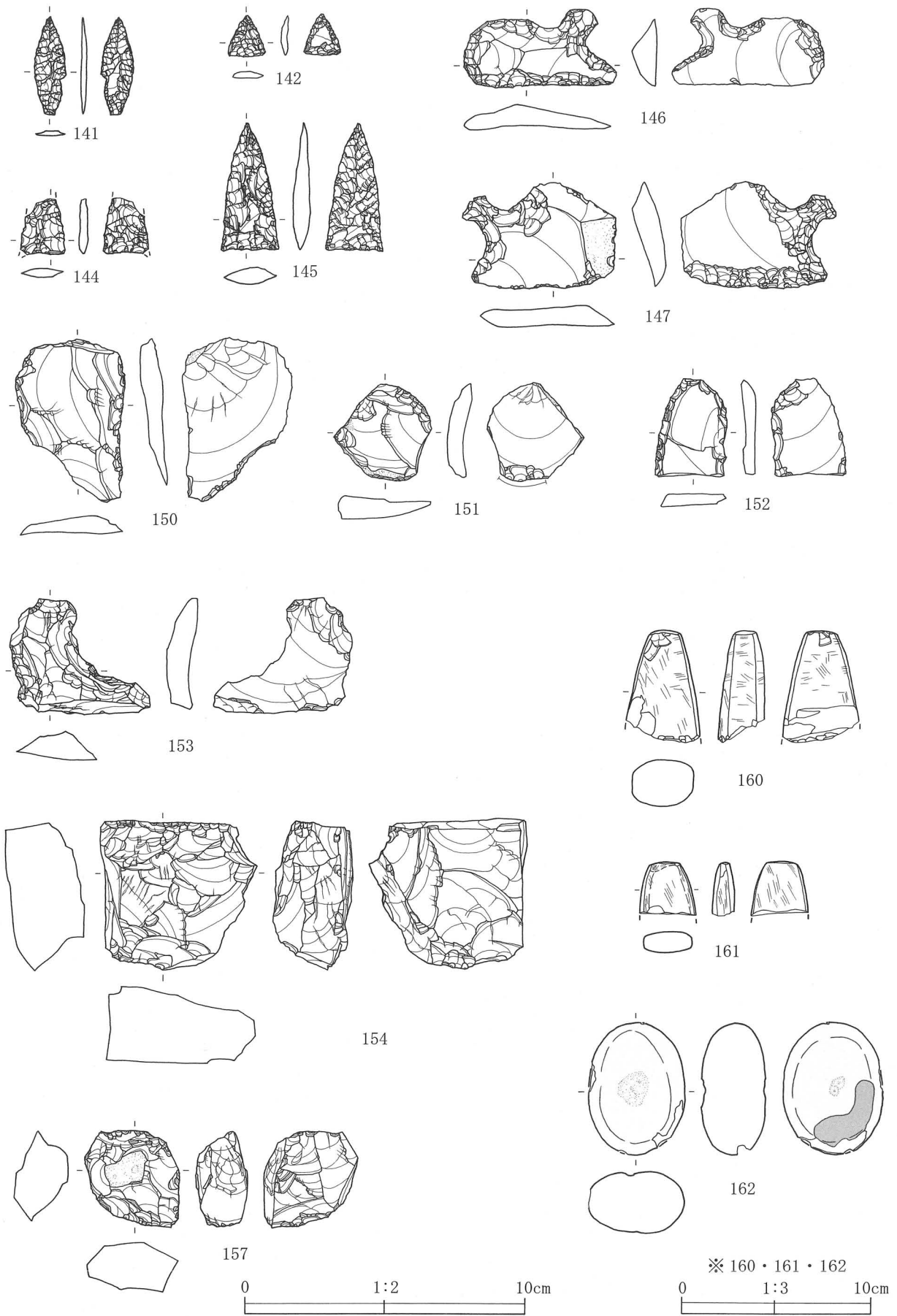


134

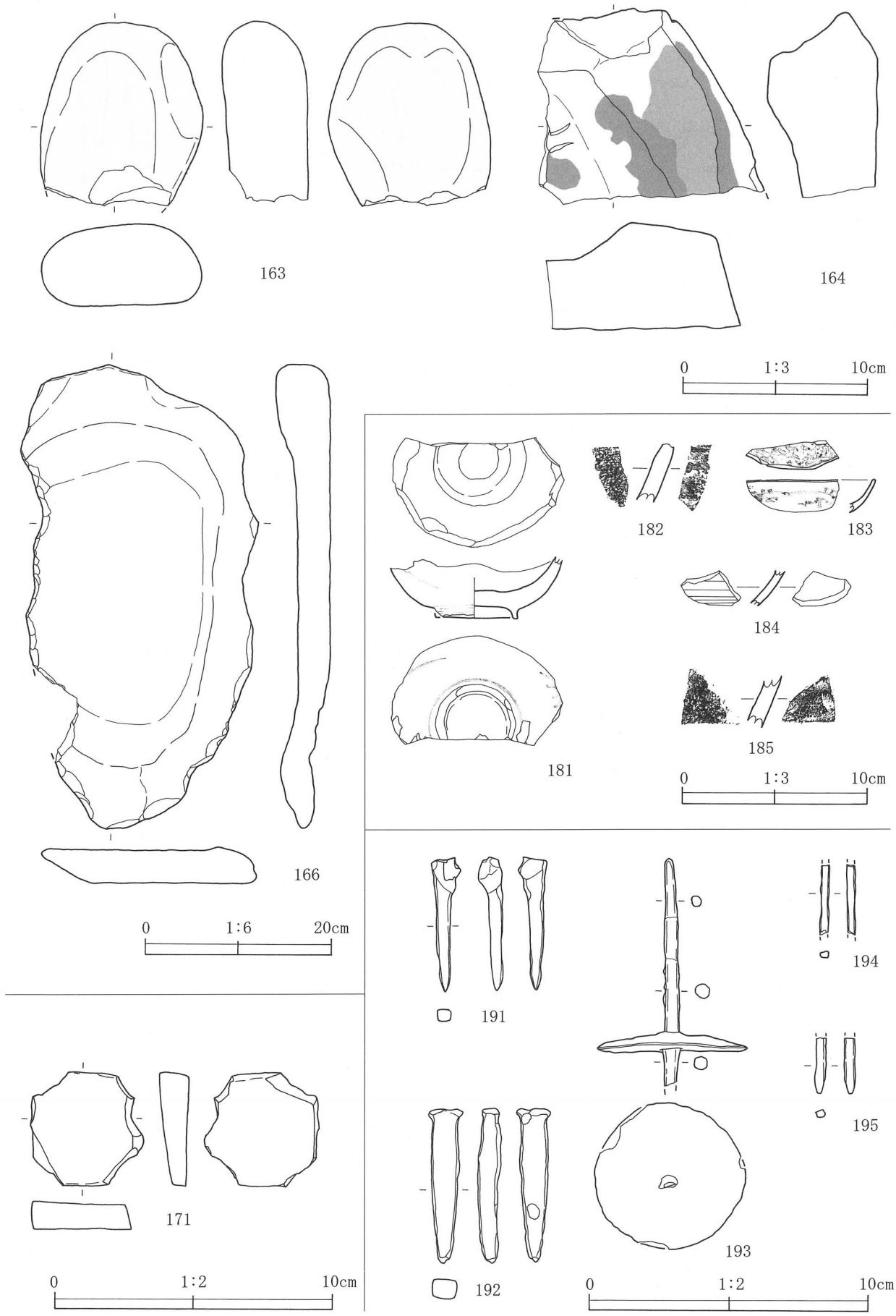


136

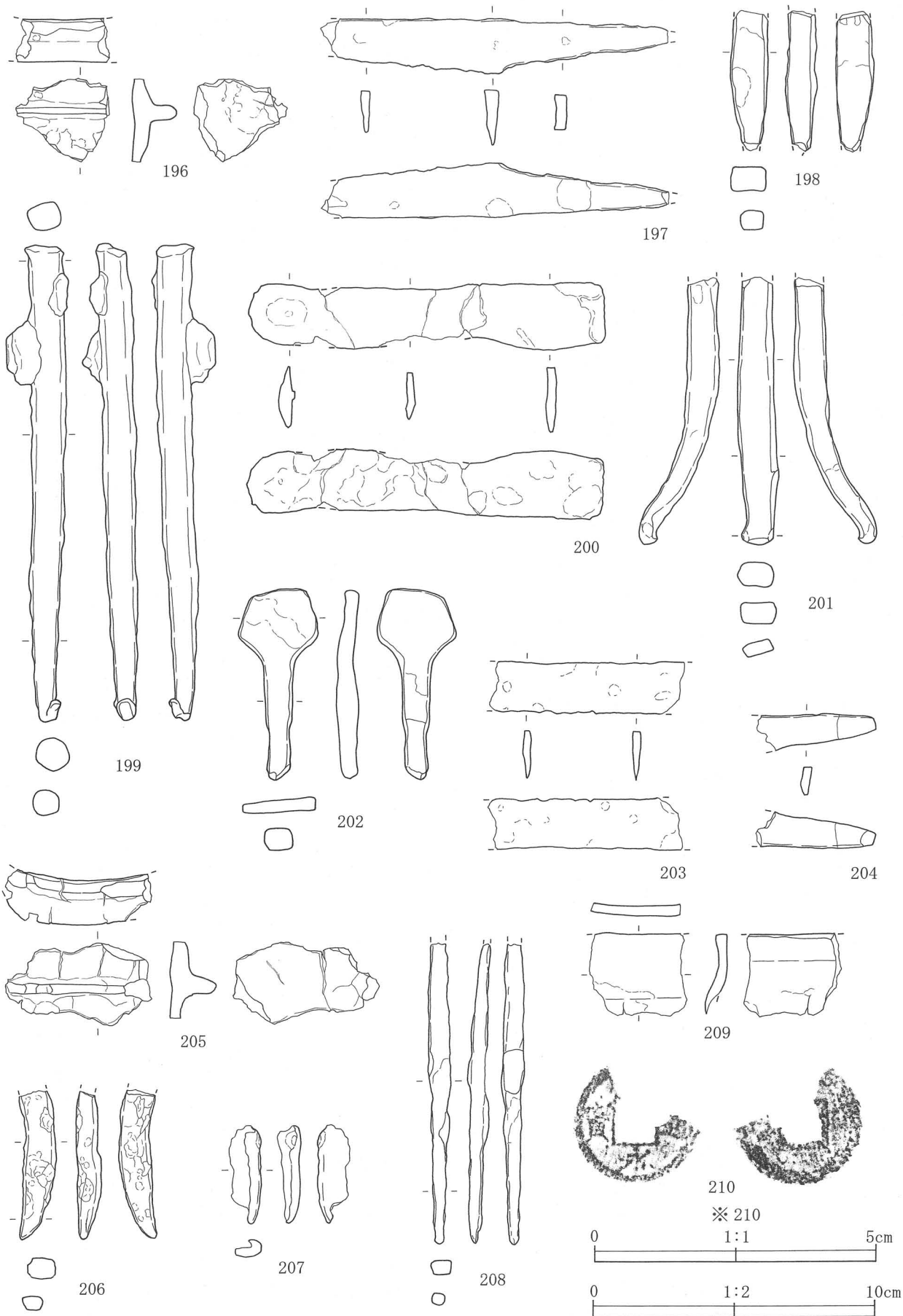




第39図 石器(1)



第40図 石器(2)、石製品、陶磁器、金属製品(1)



第41圖 金屬製品(2)

## V 八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡

### 1 検出遺構

#### (1) 検出遺構の概要(第42～56図、写真図版31・41)

今回の調査で検出された遺構は、土坑6基、陥し穴状遺構5基、炭窯跡12基、焼土遺構3基である。遺構は、尾根上から南側の緩斜面の上位にかけて分布している。遺構が検出された範囲の標高は約60～80mである。出土遺物が少なく、個々の遺構の時期を明確に示すことはできないが、定形的な土坑については縄文時代と推測される。また、炭窯跡については古代以降と推測されるものである。

#### (2) 土坑(第45・46図、写真図版33・34)

土坑は6基確認された。分布や規模・形状にまともはみられない。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。土坑6基のうち比較的定形的な土坑はSK11土坑である。SK11土坑は、調査区の中なかでは、尾根上の最も標高の高い地点につくられており、形状は平面形が円形、断面形がフラスコ状を呈する土坑である。以下、個々の遺構について詳述するが、各遺構の規模・形状や特徴については、第28表土坑観察表を参照されたい。

#### SK01土坑

遺構(第45図、写真図版34)

[位置・検出状況] III B 9 f グリッド。III層で暗褐色土と黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は開口部径120×90cm、底部径112×50cm、平面形は楕円形、深さ65cmである。

[覆土・堆積状況] 暗褐色土・黒褐色土・褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はIII層を掘り込んでつくられている。底面は西側が一段下っている。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

#### SK02土坑

遺構(第45図、写真図版34)

[位置・検出状況] IV B 1 d グリッド。III層で褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は開口部径60×56cm、底部径41×35cm、平面形は円形、深さ42cmである。

[覆土・堆積状況] 褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はIII層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

#### SK04土坑

遺構(第45図、写真図版34)

## 1 検出遺構

[位置・検出状況] III C 1 i グリッド。III層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は開口部径250×80cm、底部径236×40cm、平面形は溝状、深さ38cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・にぶい黄褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁はIII層・底面はIV層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

**遺物** なし。

**時期** 出土遺物がなく、詳細は不明である。

### S K07土坑

**遺構** (第45図、写真図版34)

[位置・検出状況] IV B 4 i ~ 4 J グリッド。III層で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は開口部径190×130cm、底部径130×85cm、平面形は楕円形、深さ65cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・暗褐色土・にぶい黄褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はIII層を掘り込んでつくられている。底面は西から東に向かってやや傾斜する。

[その他の付属施設] なし。

**遺物** なし。

**時期** 出土遺物がなく、詳細は不明である。

### S K09土坑

**遺構** (第46図、写真図版35)

[位置・検出状況] IV C 5 c グリッド。III層で褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は開口部径170×110cm、底部径150×85cm、平面形は楕円形、深さ30cmである。

[覆土・堆積状況] 褐色土・暗褐色土・褐色土で構成される。覆土中に火山灰が堆積していた。

[壁・底面] 壁・底面はIII層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

**遺物** なし

**時期** 出土遺物がなく、詳細は不明である。覆土中の火山灰を分析した結果、十和田 a 火山灰であるとの鑑定結果を得た(160頁)。分析結果によれば、古代以降ということになるが、調査時には中礫浮石と認識していたものである。今後、周辺の遺跡での類似資料と比較検討する必要がある事例であると思われる。

### S K11土坑

**遺構** (第46図、写真図版35)

[位置・検出状況] IV A 1 j グリッド。III層で暗褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] S N03焼土遺構と重複し、S N03焼土遺構に切られている。

[規模・平面形] 規模は、開口部径120×105cm、底部径130×125cm、平面形は円形、断面形が袋状に広がる。深さは90cmである。

[覆土・堆積状況] 暗褐色土・黄褐色土・褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁はⅢ層・底面はⅣ層を掘り込んでつくられている。ほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明だが、縄文時代の貯蔵穴の可能性はある。

### (3) 陥し穴状遺構 (第47～49、写真図版35・36)

陥し穴状遺構は5基確認された。規模には個体差はあるが、平面形がすべて細長い溝状の形状で、尾根上から斜面部につくられている。出土遺物はなく、覆土中に火山灰の堆積も確認でなかったことから、時期の詳細は不明だが、周辺地域の調査成果から縄文時代以降の可能性はある。以下、個々の遺構について詳述するが、個々の遺構の規模・形状などの特徴については、第29表陥し穴状遺構観察表を参照されたい。

#### S K03陥し穴状遺構

遺構 (第47図、写真図版35)

[位置・検出状況] ⅢB 6 a～7 a グリッド。中央尾根の北斜面、Ⅲ層で褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 開口部の長径×短径は380×40cm、底部の長径×短径は390×8cm、深さは110cmを測る。平面形は溝状で、中央部が最も細く、両端部に向かって丸く広がる形状である。

[覆土・堆積状況] 褐色土・暗褐色土の堆積である。

[壁・底面] 壁はⅢ層・底面はⅣ層を掘り込んでつくられている。底面は東から西に傾斜している。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 時期を判断できる遺物は出土していないが、遺構の形状から縄文時代以降と推測される。

#### S K05陥し穴状遺構

遺構 (第47図、写真図版36)

[位置・検出状況] ⅣC 9 h～10 h グリッド。尾根上で、Ⅲ層でにぶい黄褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 開口部の長径×短径は264×34cm、底部の長径×短径は254×8cm、深さは85cmを測る。平面形は溝状で、中央部より両端がやや広がる形状である。

[覆土・堆積状況] にぶい黄褐色土・褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 時期を判断できる遺物は出土していないが、遺構の形状から縄文時代以降と推測される。

#### S K06陥し穴状遺構

遺構 (第47図、写真図版36)

[位置・検出状況] ⅤD 2 a～2 b グリッド。尾根上で、Ⅲ層で暗褐色土の広がりとして検出した。



[重複関係] なし。

[規模・平面形] 開口部の長径×短径は400×55cm、底部の長径×短径は375×10cm、深さは60cmを測る。平面形は溝状で、両端から中央まで同じ幅である。

[覆土・堆積状況] 暗褐色土・褐色土・黄褐色土から構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 時期を判断できる遺物は出土していないが、遺構の形状から縄文時代以降と推測される。

### S K08陥し穴状遺構

遺構 (第48図、写真図版36)

[位置・検出状況] IVC 8 e～9 e グリッド。尾根上で、Ⅲ層で暗褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 開口部の長径×短径は(300)×70cm、底部の長径×短径は245×10cm、深さは最深部で220cmを測る。平面形は溝状と推測される。

[覆土・堆積状況] 暗褐色土・褐色土・黄褐色土から構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は中央より両端がやや下っている。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 時期を判断できる遺物は出土していないが、遺構の形状から縄文時代以降と推測される。

### S K10陥し穴状遺構

遺構 (第49図、写真図版36)

[位置・検出状況] IVC 10 j～VD 1 a グリッド。尾根上で、Ⅲ層で暗褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 開口部の長径×短径は400×45cm、底部の長径×短径は370×15cm、深さは110cmを測る。平面形は溝状で、一端が丸く広がる形状である。

[覆土・堆積状況] 暗褐色土・黄褐色土・褐色土から構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は西から東に緩く傾斜している。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 時期を判断できる遺物は出土していないが、遺構の形状から縄文時代以降と推測される。

### (4) 炭 窯 跡 (第50～55図、写真図版37～40)

炭窯跡は12基確認された。尾根上から南側の緩斜面にかけてつくられている。分布は散在している傾向がある。炭窯跡は、形態から円形ないし方形基調の炭窯と長方形基調の大きく二つに大別される。出土遺物はなく、時期の詳細は不明だが、出土した炭化材について放射性炭素年代測定を行った結果を参考にすると、おおむね古代(7世紀～9世紀頃)に機能していた炭窯跡のようである。以下、個々の遺構について詳述する。個々の遺構の規模・形状や特徴などについては、第30表 炭窯跡観察表を参照されたい。

**SW01炭窯跡****遺構**（第50図、写真図版37）

- [位置・検出状況] IV A 8 g グリッド。南斜面のⅢ層で褐色土の広がりとして検出した。
- [重複関係] 東側で風倒木痕と重複しており、切られている。
- [規模・平面形] 規模は開口部径160×130cm、底部径100×100cm、平面形は円形、深さは40cmである。
- [覆土・堆積状況] 褐色土・暗褐色土・炭化材を含む黒色土で構成される。
- [壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられ、壁・底面とも焼成痕がある。底面は緩く湾曲する。
- [その他の付属施設] なし。

**遺物**（写真図版42）

- [出土状況] 覆土3層から炭化材、土器（4.7g）が出土している。
- [炭化材] 炭化材（331）。総量1641.8g。樹種はケヤキ・ナラ・センノキである。

**時期** 時期を判断できる出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。

**SW02炭窯跡****遺構**（第50図、写真図版37）

- [位置・検出状況] Ⅲ B 9 h グリッド。東斜面のⅢ層で黒褐色土の広がりとして検出した。
- [重複関係] なし。
- [規模・平面形] 規模は、開口部径120×105cm、底部径80×70cm、平面形は円形、深さは40cmである。
- [覆土・堆積状況] 黒褐色土・褐色土・炭化材を含む黒褐色土で構成される。
- [壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられ、壁・底面とも焼成痕がある。底面は緩く湾曲し、西から東に緩く傾斜する。
- [その他の付属施設] なし。

**遺物**（写真図版42）

- [出土状況] 覆土3層から炭化材が出土している。
- [炭化材] 炭化材（332）。総量423g。樹種はクリ・ケヤキである。

**時期** 時期を判断できる出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。出土した炭化材について放射性炭素年代測定を行った結果、calAD622～659（7世紀）との結果が示されている（156頁）。

**SW03炭窯跡****遺構**（第50図、写真図版37）

- [位置・検出状況] IV B 9 j h グリッド。東斜面のⅢ層で暗褐色土の広がりとして検出した。
- [重複関係] なし。
- [規模・平面形] 規模は開口部径80×80cm、底部径50×50cm、平面形は円形、深さは70cmである。
- [覆土・堆積状況] 暗褐色土・黒褐色土・炭化材を含む黒色土で構成される。
- [壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。壁に焼成痕がある。底面は緩く湾曲する。
- [その他の付属施設] なし。

**遺物**（写真図版42）

- [出土状況] 覆土3層から炭化材が出土している。
- [炭化材] 炭化材（333）。総量265.2g。樹種はクリ・ケヤキである。

**時期** 時期を判断できる出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。

### SW04炭窯跡

遺構（第50図、写真図版37）

〔位置・検出状況〕ⅢC 7 d～8 d グリッド。東斜面のⅢ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕規模は、開口部径140×（110）cm、底部径（110）×（60）cm、平面形は円形と推測される。深さは10cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒褐色土・暗褐色土・炭化材を含む黒褐色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられ、壁に焼成痕がある。底面は北西から南東に傾斜する。

〔その他の付属施設〕なし。

遺物（写真図版42）

〔出土状況〕覆土1～3層から炭化材が出土している。

〔炭化材〕炭化材（334）。総量620g。樹種はケヤキである。

時期 時期を判断できる出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。

### SW05炭窯跡

遺構（第51図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕ⅣA 3 j グリッド。中央尾根のⅢ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕規模は開口部径70×56cm、底部径48×26cm、平面形は円形、深さは15cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒褐色土・暗褐色土・炭化材を含む黒褐色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられ、壁に焼成痕がある。底面は西から東に傾斜している。

〔その他の付属施設〕なし。

遺物（写真図版42）

〔出土状況〕覆土1～3層から炭化材が出土している。

〔炭化材〕炭化材（335）。総量31.8g。樹種はウルシである。

時期 時期を判断できる出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。

### SW06炭窯跡

遺構（第51図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕ⅣB 2 f グリッド。中央尾根のⅢ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕規模は開口部径130×115cm、底部径90×80cm、平面形は円形、深さは30cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒褐色土・褐色土・炭化材を含む暗褐色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられており、焼成痕がある。底面はほぼ平坦である。

〔その他の付属施設〕なし。

遺物（写真図版42）

〔出土状況〕覆土1～5層から炭化材が出土している。

〔炭化材〕炭化材（336）。総量6.2g。樹種はクリである。

時期 時期を判断できる出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。

**SW07炭窯跡****遺構**（第51図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕ⅣA 3 j～ⅣB 3 a グリッド。中央尾根のⅢ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕規模は開口部径152×135cm、底部径90×80cm、平面形は円形、深さは65cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒褐色土・褐色土・炭化材を含む黒色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられており、焼成痕がある。底面はほぼ平坦である。

〔その他の付属施設〕なし。

**遺物**（写真図版42）

〔出土状況〕覆土1～4層から炭化材が出土している。

〔炭化材〕炭化材（337）。総量2022g。樹種はクリである。

**時期** 時期を判断できる出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。出土した炭化材について放射性炭素年代測定を行った結果、calAD649～683（7世紀）との結果が得られている（156頁）。

**SW08炭窯跡****遺構**（第52図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕ⅣB 4 e グリッド。中央尾根のⅢ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕規模は開口部径160×160cm、底部径110×100cm、平面形は円形、深さは60cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒褐色土・褐色土・炭化材を含む暗褐色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられ、壁・底面に焼成痕がある。底面はほぼ平坦である。

〔その他の付属施設〕なし。

**遺物**（写真図版42）

〔出土状況〕覆土1～6層から炭化材が出土している。

〔炭化材〕炭化材（338）。総量192.8g。樹種はクリ・ケヤキである。

**時期** 時期を判断できる出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。

**SW09炭窯跡****遺構**（第52図、写真図版39）

〔位置・検出状況〕ⅢB 10 d グリッド。中央尾根のⅢ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕覆土上位にSN01焼土遺構が形成されていた。SN01焼土遺構に切られている。

〔規模・平面形〕規模は開口部径130×110cm、底部径106×74cm、平面形は隅丸方形、深さ40cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒褐色土・褐色土・炭化材を含む黒色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられており、焼成痕がある。底面はほぼ平坦である。

〔その他の付属施設〕なし。

**遺物**（写真図版42）

〔出土状況〕主に覆土3層から炭化材、土器（4.0g）が出土している。

〔炭化材〕炭化材（339）。総量1799.9g。樹種はクリ・ケヤキである。

**時期** 時期を判断できる出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。出土した炭化材について放射性炭素年代測定を行った結果、calAD608～651（7世紀）との結果が得られている（156頁）。

### SW10炭窯跡

遺構（第53図、写真図版39）

〔位置・検出状況〕ⅢC 1 i～2 i グリッド。東斜面のⅢ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕規模は開口部径430×90cm、底部径200×65cm、平面形は隅丸長方形、深さ20cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒褐色土・褐色土・にぶい黄褐色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられており、焼成痕がある。底面は西から東に傾斜している。

〔その他の付属施設〕なし。

遺物（写真図版42）

〔出土状況〕覆土1・2層から炭化材が出土している。

〔炭化材〕炭化材（340）。総量221.1g。樹種はクリ・ケヤキである。

時期 時期を判断できる出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。出土した炭化材（樹皮）について放射性炭素年代測定を行った結果、calAD1294～1389年（13～14世紀）との結果が得られている（156頁）。

### SW11炭窯跡

遺構（第53図、写真図版39）

〔位置・検出状況〕IVB 5 j グリッド。東斜面のⅢ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕規模は、開口部径140×116cm、底部径102×90cm、平面形は隅丸長方形である。深さは65cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒褐色土・明黄褐色土・暗褐色土で構成される。

〔壁・底面〕壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられ、焼成痕がある。底面は南から北に傾斜している。

〔その他の付属施設〕なし。

遺物（写真図版42）

〔出土状況〕覆土1・2層から炭化材が出土している。

〔炭化材〕炭化材（341）。総量36.8g。樹種はクリ・ケヤキである。

時期 時期を判断できる出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。

### SW12炭窯跡

遺構（第54・55図、写真図版40）

〔位置・検出状況〕VD 3 C～4 C グリッド。中央尾根の南斜面のⅢ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕規模は、開口部径675×165cm、底部径620×100cm、平面形は隅丸長方形である。深さは65cmである。

〔覆土・堆積状況〕黒褐色土・明黄褐色土・黒褐色土で構成される。

〔壁・底面〕壁はⅢ層・底面はⅣ層を掘り込んでつくられている。壁・底面に焼成痕がある。底面の西側の壁・底面がより焼成している。底面はほぼ平坦である。

〔その他の付属施設〕なし。

**遺物**（写真図版42）

〔出土状況〕主に覆土5層から炭化材が出土している。

〔炭化材〕炭化材（342）。総量10759.9g。樹種はクリ・ケヤキ・センノキである。

**時期** 出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。出土した炭化材について放射性炭素年代測定を行った結果、calAD720～868年（8～9世紀）との結果が得られている（156頁）。

**（5）焼土遺構**（第56図、写真図版41）

焼土遺構は3基確認された。いずれも地床炉で、尾根上から検出された。周囲に柱穴など関連する遺構が確認できなかったことから、単独の焼土遺構として報告する。以下、個々の遺構について詳述するが、個々の遺構の規模・形状や特徴などについては、第30表 焼土遺構観察表を参照されたい。

**S N01焼土遺構**

**遺構**（第56図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕ⅢB9c～9dグリッド。中央尾根で、SW09炭窯跡の覆土上位に形成されていた。

〔重複関係〕SW09炭窯跡の覆土上位に形成されており、S N01焼土遺構がSW09炭窯跡を切っている。

〔規模・平面形〕径55×40cmの不整形である。

〔被熱土〕赤褐色の焼土で、厚さは14cmほどである。

〔所属施設〕なし。

**遺物** 焼土中より炭化材（15.7g）が出土している。

**時期** 出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。

**S N02焼土遺構**

**遺構**（第56図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕ⅣB6hグリッド。中央尾根で、Ⅲ層で明赤褐色土の焼土として検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕径28×15cmの範囲に不整な形状で散在する。

〔被熱土〕明赤褐色の焼土で、厚さは6cmほどである。

〔所属施設〕なし。

**遺物** なし。

**時期** 出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。

**S N03焼土遺構**

**遺構**（第56図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕ⅣA2hグリッド。中央尾根で、Ⅲ層で明赤褐色土の焼土として検出した。

〔重複関係〕SK11を切ってつくられている。

〔規模・平面形〕径18×12cmの範囲で不整な形状の焼土が散在する。

〔被熱土〕明赤褐色の焼土で、厚さは3cmほどである。

〔所属施設〕なし。

**遺物** なし。

**時期** 出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。

第28表 土坑観察表

(数値) : 残存値

図版No.	写図No.	遺構名	位置	検出面	平面形	規模 (cm)			底面のレベル(m)	覆土の堆積状況 (上位→下位)	重複関係 (旧→新)	性格	付属施設	備考	時期
						開口部	底部	深さ							
45	34	SK01	III B 9 f	III層	楕円形	120×90	112×50	65.0	77.000	暗褐色土・黒褐色土・褐色土	なし	不明	なし	不明	
45	34	SK02	IV B 1 d	III層	円形	60×56	41×35	42.0	80.000	褐色土	なし	不明	なし	不明	
45	34	SK04	III C 1 i	III層	溝状	250×80	236×40	38.0	62.000	黒褐色土・にぶい黄褐色土	なし	不明	なし	不明	
45	34	SK07	IV B 4 i ~ 4 j	III層	楕円形	190×130	130×85	65.0	71.000	黒褐色土・暗褐色土・にぶい黄褐色土	なし	不明	なし	不明	
46	35	SK09	IV C 5 c	III層	楕円形	170×110	150×85	30.0	70.100	褐色土・暗褐色土・褐色土	なし	不明	なし	不明	
46	35	SK11	IV A 1 i	III層	円形	120×105	130×125	90.0	81.000	暗褐色土・黄褐色土・褐色土	SK11→SN03	貯	なし	火山灰分析 縄文?	

第29表 陥し穴状遺構観察表

(数値) : 残存値

図版No.	写図No.	遺構名	位置	検出面	平面形	規模 (cm)			底面のレベル(m)	覆土の堆積状況 (上位→下位)	重複関係 (旧→新)	性格	付属施設	備考	時期
						開口部	底部	深さ							
47	35	SK03	III B 6 a ~ 7 a	III層	溝状	380×40	390×8	110.0	75.900	褐色土・暗褐色土	なし	陥	なし	なし	不明
47	36	SK05	IV C 9 h ~ 10 h	III層	溝状	260×34	254×8	85.0	69.150	にぶい黄褐色土・褐色土	なし	陥	なし	なし	不明
47	36	SK06	VD 2 a ~ 2 b	III層	溝状	400×55	375×10	60.0	68.600	暗褐色土・褐色土・黄褐色土	なし	陥	なし	なし	不明
48	36	SK08	IV C 8 e ~ 9 e	III層	溝状	(300)×70	245×10	220.0	68.000	暗褐色土・褐色土・黄褐色土	なし	陥	なし	なし	不明
49	36	SK10	IV C 10 j ~ V D 1 a	III層	溝状	400×45	370×15	110.0	68.000	暗褐色土・黄褐色土・褐色土	なし	陥	なし	なし	不明

第30表 炭窯跡観察表

(数値) : 残存値

図版No.	写図No.	遺構名	位置	検出面	平面形	規模 (cm)			底面積 (㎡)	底面のレベル(m)	軸長比	焼土の堆積状況	焼土重量 (g)	炭化材	重複関係 (旧→新)	付属施設	備考	時期
						開口部	底部	深さ										
50	37	SW01	IV A 8 g	III層	円形	160×130	100×100	40	1	73.200	-	褐色土・暗褐色土・黒色土	○	1641.8	クヤキ・サラ・ゼンノキ	なし	西側風倒木	古代?
50	37	SW02	III B 9 h	III層	円形	120×105	80×70	40	0.56	75.500	-	黒褐色土・褐色土・黒褐色土	○	423.0	クリ・ケヤキ	なし	C 1 4	古代
50	37	SW03	III B 9 j	III層	円形	80×80	50×50	70	0.25	70.000	-	暗褐色土、黒褐色土、黒色土	○	265.2	クリ・ケヤキ	なし		古代?
50	37	SW04	III C 7 d ~ 8 d	III層	円形	140×(110)	110×(60)	10	0.66	69.000	-	黒褐色土、暗褐色土、黒褐色土	○	620.0	ケヤキ	なし		古代?
51	38	SW05	IV A 3 j	III層	円形	70×56	48×26	15	0.12	81.200	-	黒褐色土、暗褐色土、黒褐色土	○	31.8	ウルシ	なし		古代?
51	38	SW06	IV B 2 f	III層	円形	130×115	90×80	30	0.72	81.100	-	黒褐色土、褐色土、暗褐色土	○	6.2	クリ	なし	C 1 4	古代?
51	38	SW07	IV A 3 j ~ IV B 3 a	III層	円形	152×135	90×80	65	0.72	77.000	-	黒褐色土、褐色土、黒色土	○	2022.0	クリ	なし	C 1 4	古代
52	38	SW08	IV B 4 e	III層	円形	160×160	110×100	60	1.1	78.300	-	黒褐色土、褐色土、暗褐色土	○	192.8	クリ・ケヤキ	なし		古代?
52	39	SW09	III B 10 d	III層	隅丸方形	130×110	106×74	40	0.78	80.400	-	黒褐色土、暗褐色土、黒色土	○	1799.9	クリ・ケヤキ	なし	C 1 4	古代
53	39	SW10	III C 1 j ~ 2 i	III層	隅丸長方形	430×90	200×65	20	1.3	61.000	4.7	黒褐色土、黒色土、にぶい黄褐色土	○	221.1	クリ・ケヤキ	なし	C 1 4	古代
53	39	SW11	IV B 5 j	III層	隅丸方形	140×116	102×90	65	0.91	72.000	-	黒褐色土、明黄褐色土、暗褐色土	○	36.8	クリ・ケヤキ	なし		中世?
54・55	40	SW12	VD 3 c ~ 4 c	III層	隅丸長方形	675×165	620×100	65	6.2	68.000	4.1	黒褐色土、暗褐色土、褐色土	○	10759.9	クリ・ケヤキ・ゼンノキ	なし	C 1 4	古代

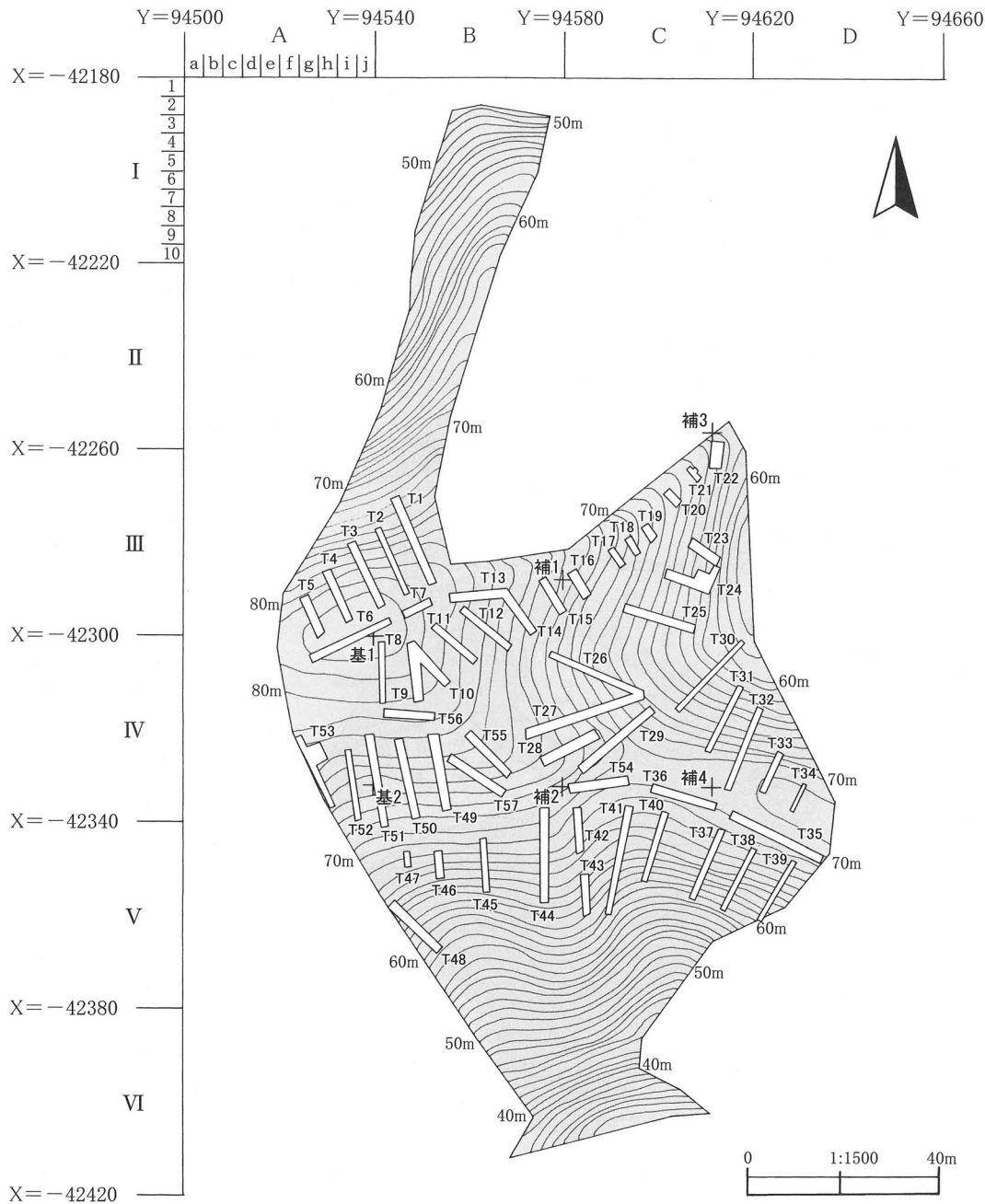
※短軸に対する長軸の長さ (底部で計測)

第31表 焼土遺構観察表

(数値) : 残存値

図版No.	写図No.	遺構名	位置	焼成面	平面形	形態	規模 (cm)		状況 (焼土・還元の状態)	備考	出土遺物	時期
							平面	厚さ				
56	41	SN01	III B 9 c ~ 9 d	遺構内覆土	不整形	A	55×40	14	80.720	赤褐色の焼土	なし	古代以降?
56	41	SN02	IV B 6 h	III層	散在	A	28×15	6	75.700	明赤褐色の焼土	なし	不明
56	41	SN03	IV A 2 h	III層	散在	A	18×12	3	82.150	明赤褐色の焼土	なし	不明

※平面形：A = 掘り込みをたないもの、B = 掘り込みをもつもの



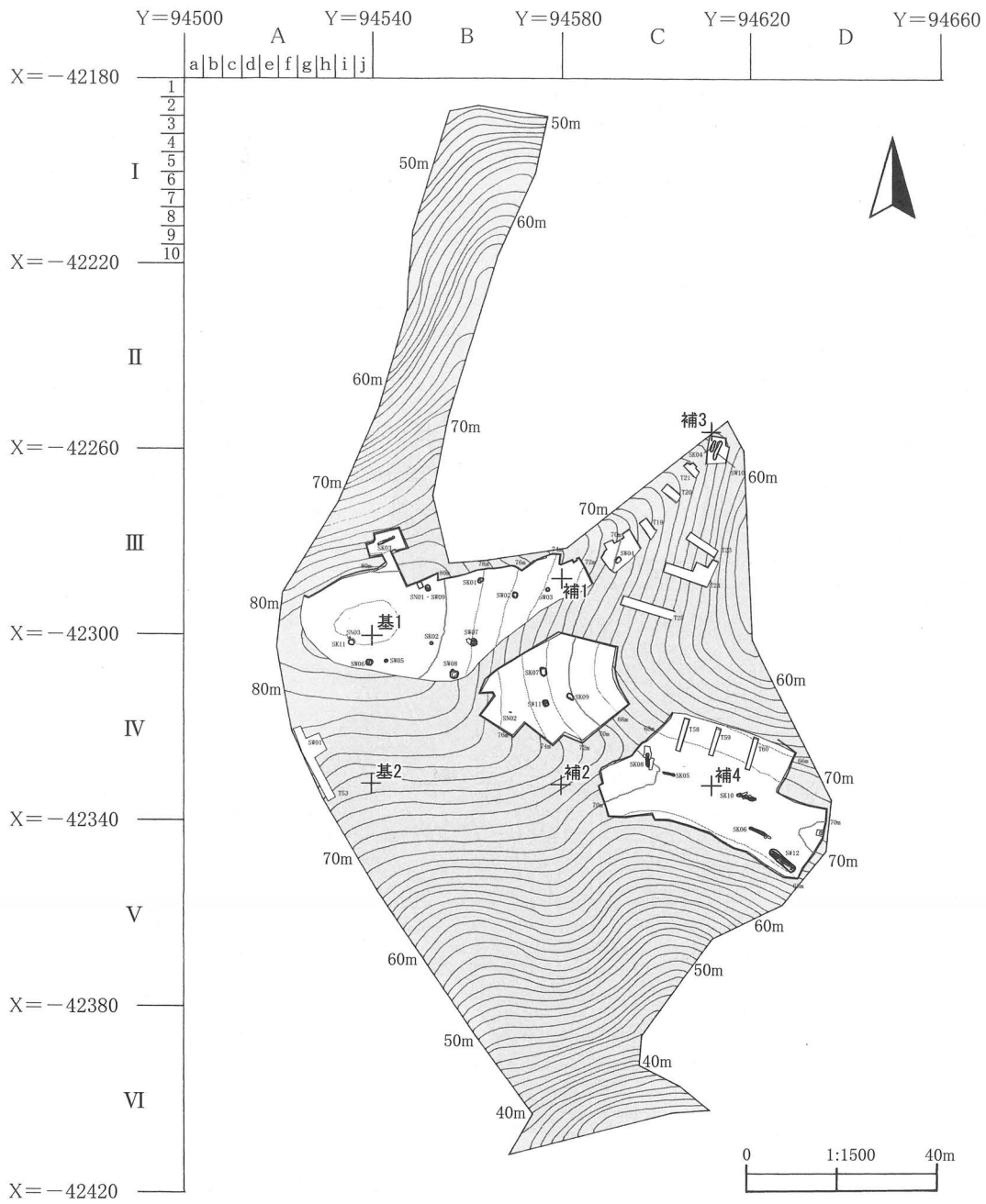
トレンチ一覧表

トレンチ No.	遺構	遺物	備考	トレンチ No.	遺構	遺物	備考	トレンチ No.	遺構	遺物	備考
1	なし	なし		20	なし	なし		38	陥し穴1	なし	
2	陥し穴1	なし		21	なし	なし		39	なし	なし	
3	なし	なし		22	陥し穴1、炭窯?1	なし		40	なし	なし	
4	なし	炭化種子		23	なし	なし		41	竪穴状?1	なし	
5	なし	縄文土器片		24	土坑?1	なし		42	なし	なし	
6	焼土1	なし		25	なし	なし		43	なし	なし	
7	なし	縄文土器片		26	土坑5	なし		44	なし	なし	
8	土坑?1、柱穴1	なし		27	土坑3、中搬浮石	なし		45	なし	なし	
9	なし	なし		28	土坑1、中搬浮石	土器片		46	なし	なし	
10	土坑?1、柱穴1	なし		29	土坑3、陥し穴1、中搬浮石	なし		47	土坑1、陥し穴1	土器片	
11	なし	なし		30	なし	土器片	東端で基本層序を確認	48	土坑2	なし	土坑の一つの覆土に焼土・炭化材
12	土坑?1	なし		31	土坑5	なし		49	掘乱あり	なし	
13	柱穴	なし	耕作痕の覆土に焼土ブロックが含まれる	32	土坑1	なし		50	柱穴1	なし	
14	土坑?1	なし		33	なし	なし		51	陥し穴1	なし	
15	陥し穴1、耕作痕?数条	なし		34	土坑1	なし		52	柱穴?2	なし	
16	なし	なし		35	土坑3、住居?1	縄文土器片(円筒上層)		53	土坑2	土器片	
17	土坑?2	なし		36	陥し穴2	なし		54	なし	土器片	
18	なし	なし		37	土坑?1	なし		55	なし	土器片	
19	なし	なし						56	なし	なし	周辺より鉄滓出土表探資料

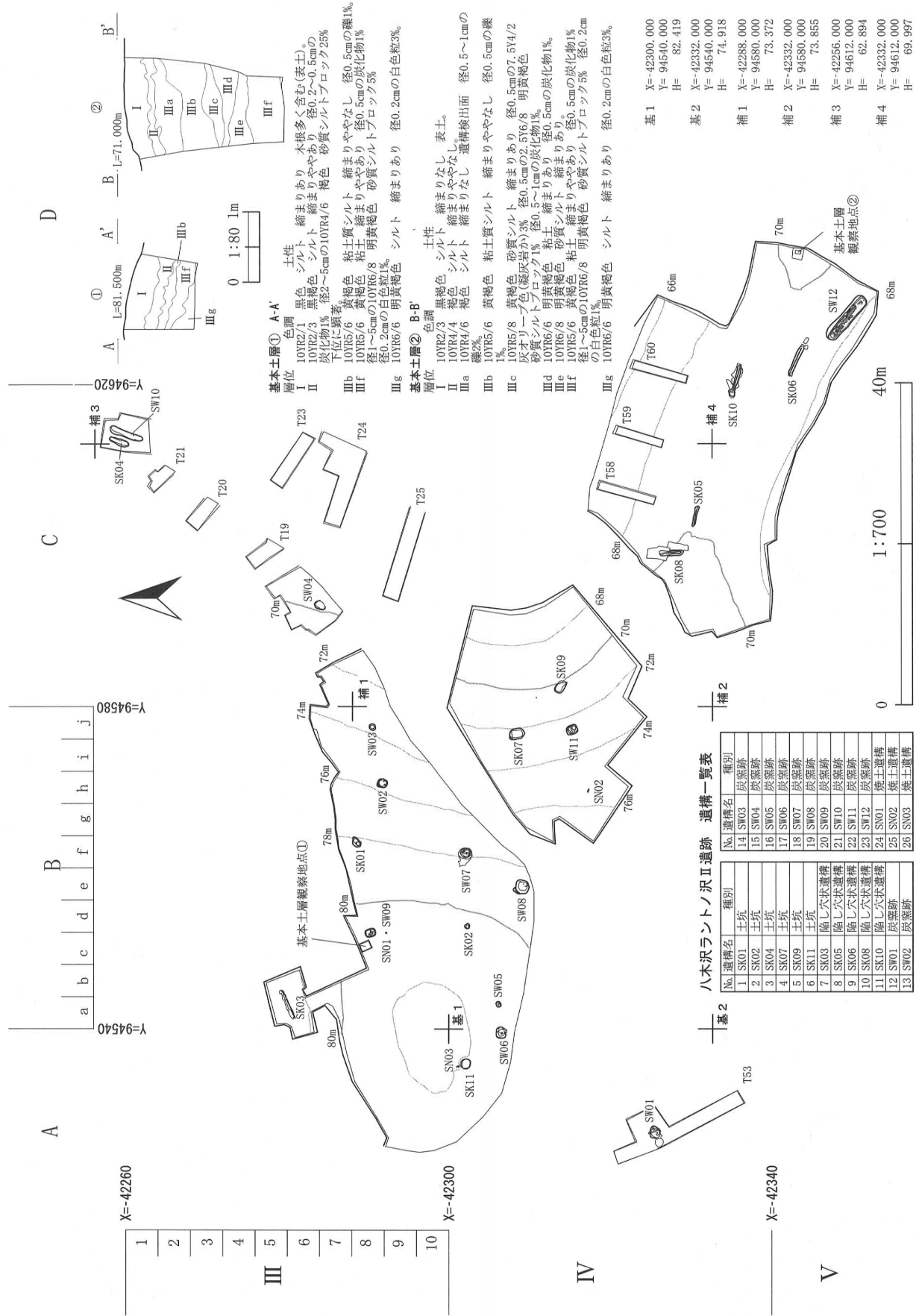
第42図 トレンチ位置図



1 検出遺構



第43図 調査区位置図



**基本土層① A-A'**  
 層位 I 黒色 シルト 締まりあり 木根多く含む(表土)。  
 II 黒褐色 シルト 締まりやややなし 径0.2~0.5cmの炭化物1% 径2~5cmの10VR4/6 褐色 砂質シルトプロック25% 下に顕著

**基本土層② B-B'**  
 層位 I 黒褐色 粘土質シルト 締まりやややなし 径0.5cmの炭化物1%  
 II 黄褐色 粘土質シルト 締まりやややなし 径0.5cmの炭化物1%  
 IIIa 黄褐色 粘土質シルト 締まりやややなし 径0.5cmの炭化物1%  
 IIIb 黄褐色 粘土質シルト 締まりやややなし 径0.5cmの炭化物1%  
 IIIc 黄褐色 粘土質シルト 締まりやややなし 径0.5cmの炭化物1%  
 IIId 黄褐色 粘土質シルト 締まりやややなし 径0.5cmの炭化物1%  
 IIIe 黄褐色 粘土質シルト 締まりやややなし 径0.5cmの炭化物1%  
 IIIf 黄褐色 粘土質シルト 締まりやややなし 径0.5cmの炭化物1%  
 IIIg 明黄褐色 シルト 締まりあり 径0.2cmの白色粒3%  
 10VR6/6 明黄褐色 シルト 締まりあり 径0.2cmの白色粒3%  
 10VR5/6 黄褐色 粘土質シルト 締まりやややなし 径0.5cmの炭化物1%  
 10VR5/8 黄褐色 砂質シルト 締まりあり 径0.5cmの7.5Y4/2 灰オリーブ色(凝灰岩が)3% 径0.5cmの2.5Y6/8 明黄褐色 砂質シルトプロック1% 径0.5~1cmの炭化物1%  
 10VR6/6 明黄褐色 粘土質シルト 締まりあり 径0.5cmの炭化物1%  
 10VR6/8 明黄褐色 砂質シルト 締まりあり 径0.5cmの炭化物1%  
 10VR5/6 黄褐色 粘土質シルト 締まりやややなし 径0.5cmの炭化物1%  
 10VR5/8 黄褐色 粘土質シルト 締まりやややなし 径0.5cmの炭化物1%  
 10VR6/6 明黄褐色 シルト 締まりあり 径0.2cmの白色粒3%  
 10VR6/8 明黄褐色 シルト 締まりあり 径0.2cmの白色粒3%

基1 X=-42300.000  
 Y=94540.000  
 H= 82.419

基2 X=-42332.000  
 Y=94540.000  
 H= 74.918

補1 X=-42288.000  
 Y=94580.000  
 H= 73.372

補2 X=-42332.000  
 Y=94580.000  
 H= 73.855

補3 X=-42256.000  
 Y=94612.000  
 H= 62.894

補4 X=-42332.000  
 Y=94612.000  
 H= 69.997

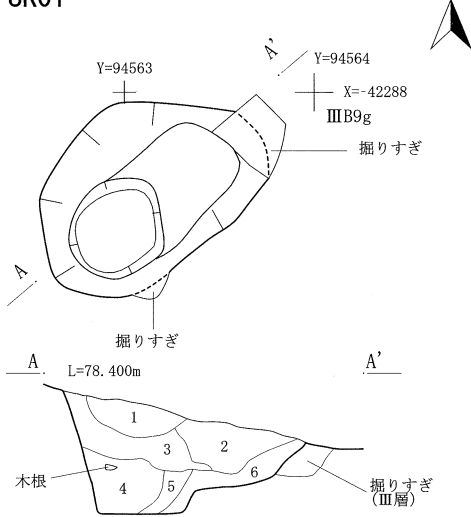
八木沢ラントノ沢II遺跡 遺構一覧表

No.	遺構名	種別
1	SK01	土坑
2	SK02	土坑
3	SK04	土坑
4	SK07	土坑
5	SK09	土坑
6	SK11	土坑
7	SK03	陥し穴状遺構
8	SK05	陥し穴状遺構
9	SK06	陥し穴状遺構
10	SK08	陥し穴状遺構
11	SK10	陥し穴状遺構
12	SN01	炭窯跡
13	SN02	炭窯跡
14	SN03	炭窯跡
15	SN04	炭窯跡
16	SN05	炭窯跡
17	SN06	炭窯跡
18	SN07	炭窯跡
19	SN08	炭窯跡
20	SN09	炭窯跡
21	SN10	炭窯跡
22	SN11	炭窯跡
23	SN12	炭窯跡
24	SN01	焼土遺構
25	SN02	焼土遺構
26	SN03	焼土遺構

第44図 遺構配置図

1 検出遺構

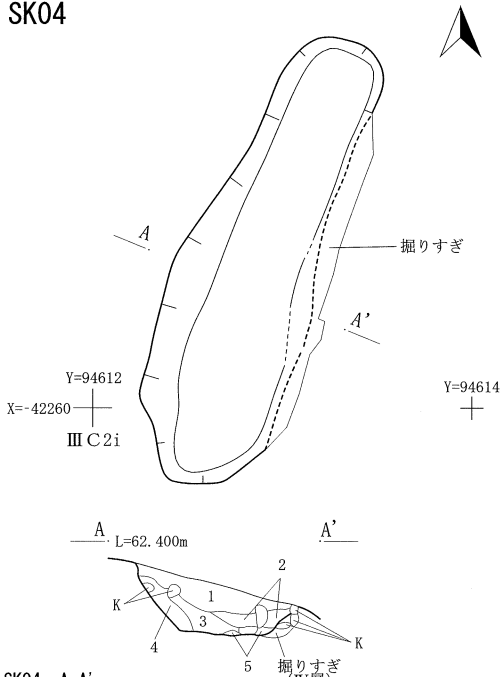
SK01



SK01 A-A'

- 層位 色調 土性
- 10YR3/4 暗褐色 シルト 締まり中 径0.5cmの炭化物1%
  - 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 締まりややあり 径0.2cmの炭化物2% 径0.5cmの10YR4/6 褐色シルトブロック2%
  - 10YR4/3 褐色 砂質シルト 締まり中 径0.2cmの炭化物1% 径0.5~1cmの10YR4/6 褐色シルトブロック5%
  - 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 締まり中 径1cmの炭化物1% 10YR4/6 褐色シルト25%(径1~5cm)
  - 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 締まり中 径1cmの10YR4/6 褐色シルトブロック1%
  - 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 締まり中 径1cmの10YR4/6 褐色シルトブロック3% 径0.2cmの炭化物1%未満。
- 掘りすぎ 10YR4/6 褐色 シルト 締まりややあり。

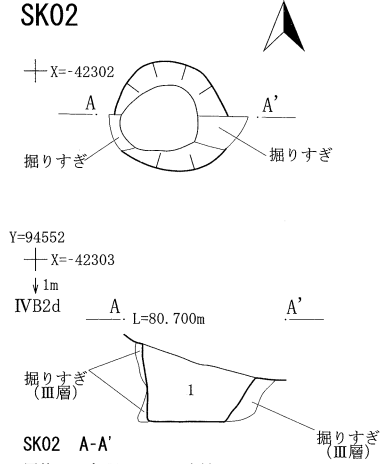
SK04



SK04 A-A'

- 層位 色調 土性
- 10YR2/2 黒褐色 シルト 締まりややあり 径0.2cmの炭化物1%未満砂質シルトブロック。
  - 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト 締まりあり 径1~2cmの10YR4/3 にぶい黄褐色5%
  - 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト 締まり中 径0.2cmの炭化物1% 径1~2cmの10YR4/3 にぶい黄褐色ブロック5%
  - 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 締まりなし 径1cmの10YR2/2 黒褐色 砂質シルトブロック10% 径1cmの2.5Y7/4 浅黄色(マサ土)ブロック1%
  - 10YR3/1 黒褐色 砂質シルト 締まり中 径0.5~1cmの2.5Y 浅黄色(マサ土)ブロック3%。
- 掘りすぎ 2.5Y6/4 にぶい黄色 砂質シルト 締まりあり。

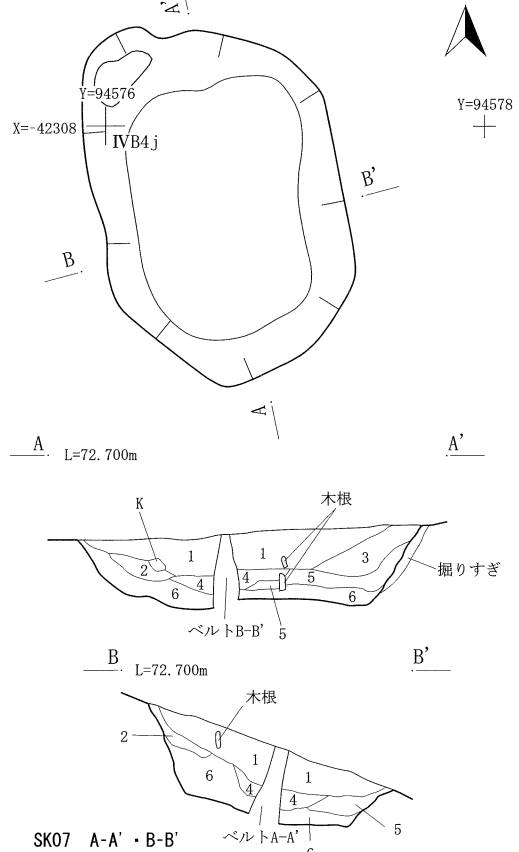
SK02



SK02 A-A'

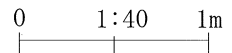
- 層位 色調 土性
- 10YR4/3 褐色 砂質シルト 締まりあり 径3cmの10YR4/4砂質シルトブロック5% 径1~5cmの10Y4/6粘土質シルトブロック7% 径0.2cmの炭化物1%未満。
- 掘りすぎ 10YR4/6 粘土質シルト 締まりあり。

SK07

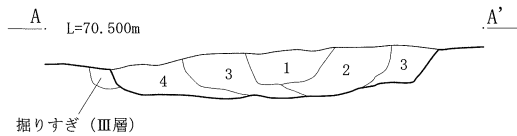
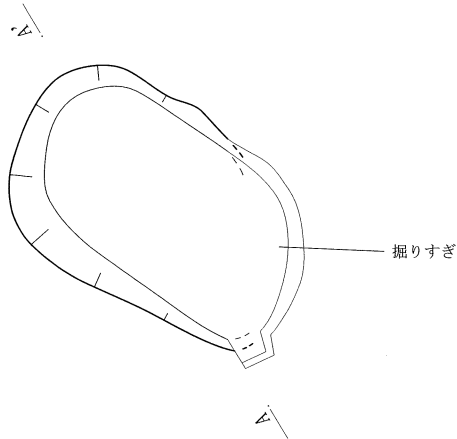


SK07 A-A'・B-B'

- 層位 色調 土性
- 10YR2/3 黒褐色 シルト 締まりややあり 径0.3cmの炭化物1% 径0.5~5cmの10YR3/4 暗褐色 シルトブロック5% 10YR7/8 黄褐色(径0.3cm)ブロック1%
  - 10YR5/6 黄褐色 シルト 締まりあり 10YR4/4(径0.5~1cm)3%
  - 10YR3/3 暗褐色 シルト 締まり中 径0.3~1cmの10YR6/6 明黄褐色 シルトブロック1%
  - 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 締まり中 径0.3cm 炭化物1% 径1cmの礫1% 径0.2~0.3cmの5YR5/6 明赤褐色 焼土1% 径 cmの10YR4/6 褐色 シルトブロック1%
  - 10YR4/4 黄褐色 シルト 締まりあり 径1~3cmの10YR5/6 黄褐色 シルトブロック10% 径0.5~2cmの10YR3/3 暗褐色 シルトブロック5%
  - 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 締まりあり 10YR6/6 明黄褐色 粘土5%(下位に多い)。

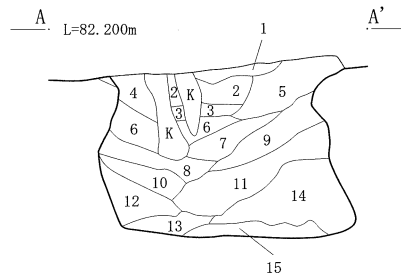
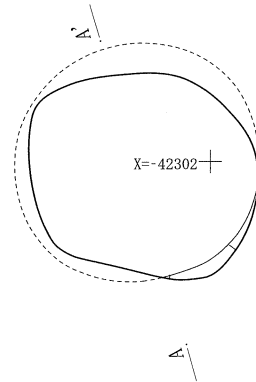
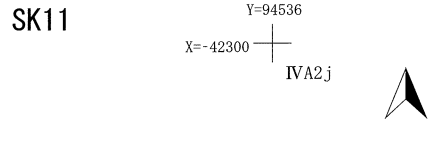


第45図 土坑(1) : SK 01・02・04・07



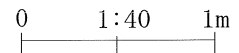
SK09 A-A'

- | 層位 | 色調          | 土性   |
|----|-------------|--|
| 1  | 10YR4/4 褐色  | シルト 締まりあり 径1~2cmの10YR4/6 褐色シルトブロック3% 径2cmの10YR3/4 暗褐色 シルトブロック7% 径0.2~2cmの2.5Y5/3 黄褐色 砂質シルトブロック5% 径0.2~0.5cmの2.5Y7/8 シルトブロック1%(火山灰?) 径0.5cmの炭化物1% |
| 2  | 2.5Y5/3 黄褐色 | 砂質シルト 締まりあり 径1~2cmの10YR3/4 暗褐色ブロック5% 径1~2cmの1層土ブロック3% 径0.5~1cmの2.5Y7/8 黄色 シルトブロック5%(下位では帯状に入る)。  |
| 3  | 10YR3/4 暗褐色 | シルト 締まりややなし 径0.5~1cmの10YR4/6 褐色 シルトブロック30% 径0.2~0.5cmの2.5Y7/8 黄色 シルトブロック3% 径0.2~0.5cmの炭化物1%。   |
| 4  | 10YR4/6 褐色  | シルト 締まりあり 径 cm の10YR3/4 暗褐色シルトブロック20% 径0.2cmの2.5Y7/8 黄色 シルトブロック1%未満。   |



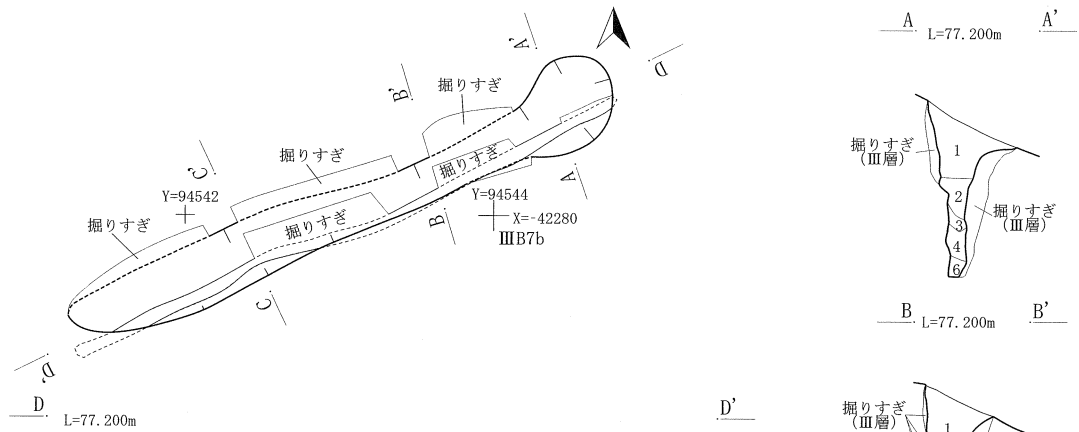
SK11 A-A'

- | 層位 | 色調             | 土性   |
|----|----------------|--|
| 1  | 10YR3/3 暗褐色    | 粘土質シルト 締まりあり 径0.2~1cmの炭5% 径3cmの10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルトブロック15%。   |
| 2  | 10YR4/4 褐色     | 砂質シルト 締まりあり 径0.5~2cmの炭5% 径3cmの10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルトブロック5% 径0.3cmの礫1%。  |
| 3  | 2.5Y5/6 黄褐色    | 粘土質シルト 締まりあり 径0.3cmの炭化物1% 径0.5cmの10YR7/8 黄褐色砂1%。   |
| 4  | 10YR4/6 褐色     | 粘土質シルト 締まりあり 径0.3cmの炭化物1%。   |
| 5  | 10YR5/6 黄褐色    | 粘土質シルト 締まりあり 径0.2~0.5cmの炭化物1% 径0.2~0.5cmの礫1%。  |
| 6  | 10YR4/4 褐色     | 粘土質シルト 締まりややなし 径0.2~0.5cmの炭化物1% 径0.5cmの10YR8/6 黄褐色 砂シB1%。  |
| 7  | 10YR5/4 にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 締まりややなし 径0.2~0.5cmの炭7% 10YR6/6 明黄褐色 砂シB(φ0.5cm)3%。  |
| 8  | 10YR5/6 黄褐色    | 粘土質シルト 締まり中 径0.5cmの炭化物1% 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルトB10%。   |
| 9  | 10YR3/4 暗褐色    | 粘土質シルト 締まりなし 径0.2~0.5cmの炭化物3% 径0.5cmの10YR6/6 明黄褐色 砂質シルト3% 径2cmの10YR5/6 黄褐色 粘土質シルトブロック5% 径0.2cmの10YR8/6黄褐色 砂質シルト1%。 |
| 10 | 10YR4/4 褐色     | 粘土質シルト 締まりややなし 径0.2~0.5cmの炭化物1% 径1cm10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト3%。  |
| 11 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 締まりややなし 径0.2~0.5cmの炭化物1% 径1~2cmの10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト5% 径0.2cmの10YR8/6 黄褐色1%。                                  |
| 12 | 10YR5/8 黄褐色    | 粘土質シルト 締まりややなし。  |
| 13 | 10YR4/6 褐色     | 粘土質シルト 締まりあり 径2cmの10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト7%。  |
| 14 | 10YR3/4 暗褐色    | 粘土質シルト 締まりなし 径0.2~0.5cm炭化物1% 径1~2cmの10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト10% 径1~3cmの10YR8/6 黄褐色 砂質シルト3%。                              |
| 15 | 10YR5/6 黄褐色    | 粘土質シルト 締まりあり 径4cmの10YR8/6 黄褐色 砂質シルト3%。   |



第46図 土坑(2) : SK 09・11

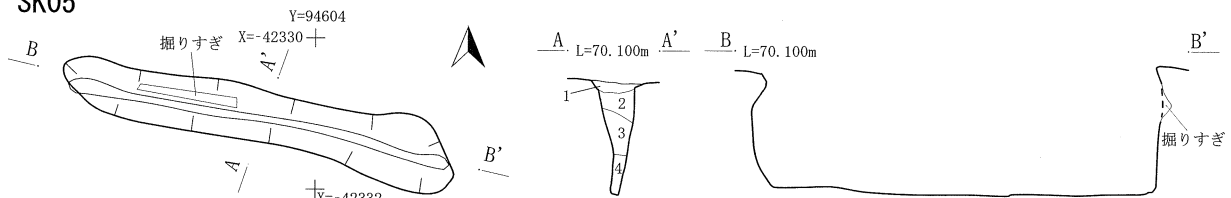
SK03



SK03 A-A'・B-B'・C-C'

- | 層位 | 色調              | 土性   |
|----|-----------------|--|
| 1  | 10YR3/4 褐色      | 砂質シルト 縮まりややなし 径3cmの10YR4/6 褐色シルトブロック10% 径0.2cmの炭化物1% |
| 2  | 10YR4/4 褐色      | シルト 縮まりなし。   |
| 3  | 10YR4/6 褐色      | シルト 縮まりなし 径0.2cmの炭化物1%。                              |
| 4  | 7.5YR4/4~4/6 褐色 | 砂質シルト 縮まり中 径2cmの10YR5/8 黄褐色 シルトブロック5%径0.2cmの炭化物1%。   |
| 5  | 10YR4/6 褐色      | 砂質シルト しまり中。  |
| 6  | 10YR3/3 暗褐色     | 砂質シルト 縮まりあり 径2cmの10YR4/6 褐色 シルトブロック10%。              |

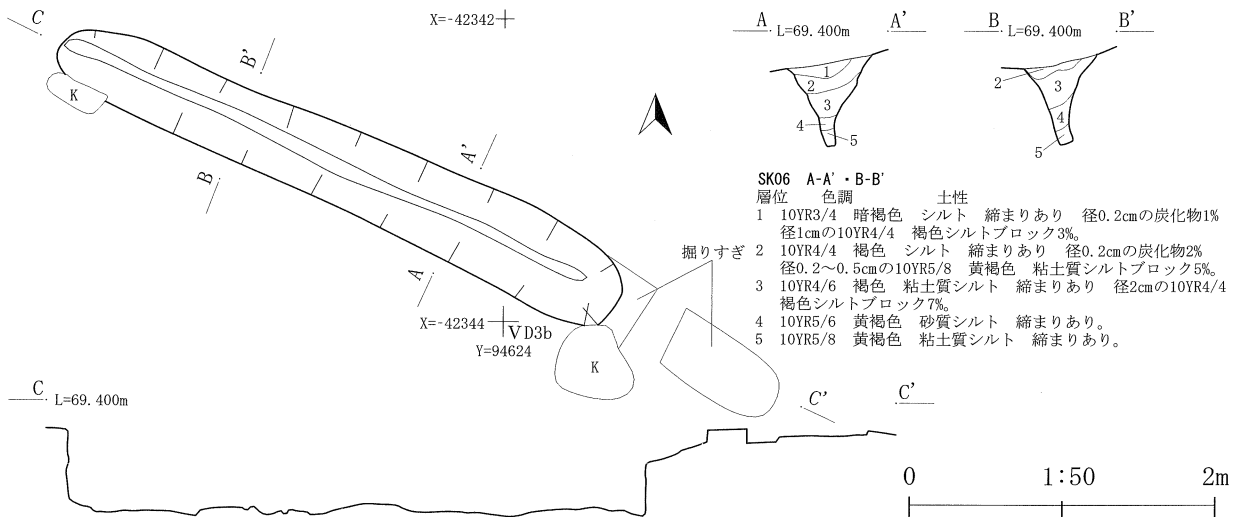
SK05



SK05 A-A'

- | 層位 | 色調             | 土性  |
|----|----------------|---|
| 1  | 10YR5/4 にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 縮まりややあり 径0.5cmの10YR5/6 黄褐色シルトブロック5%。                 |
| 2  | 10YR4/4 褐色     | シルト 縮まりあり 径0.2cmの炭化物1% 径1cmの10YR5/8 黄褐色シルトブロック1%。           |
| 3  | 10YR4/6 褐色     | 砂質シルト 縮まりややあり 径0.5~1cmの10YR5/8 黄褐色シルトブロック5% 径0.2~1cmの炭化物1%。 |
| 4  | 10YR4/4 褐色     | シルト 縮まり中。   |

SK06

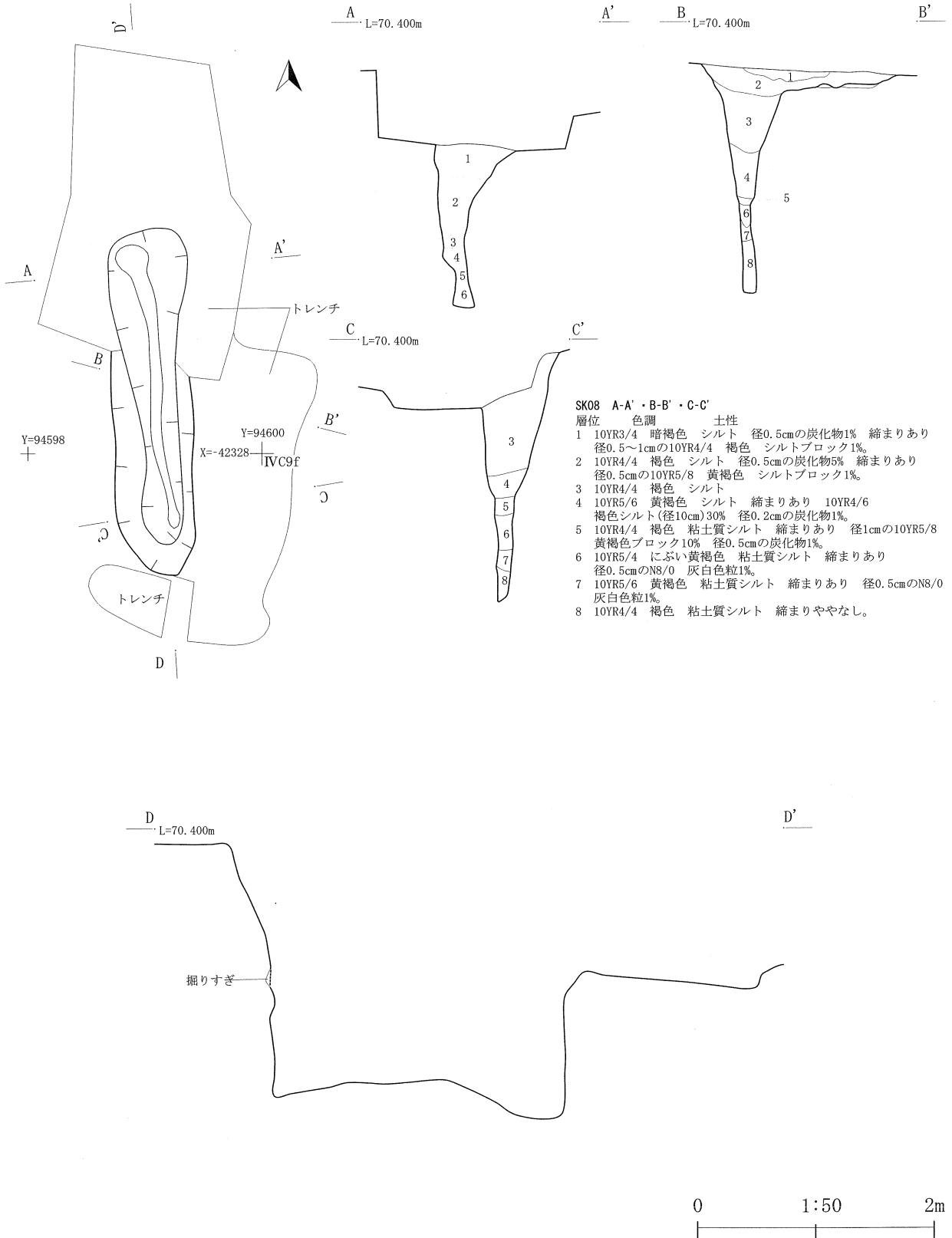


SK06 A-A'・B-B'

- | 層位 | 色調          | 土性  |
|----|-------------|---|
| 1  | 10YR3/4 暗褐色 | シルト 縮まりあり 径0.2cmの炭化物1% 径1cmの10YR4/4 褐色シルトブロック3%。            |
| 2  | 10YR4/4 褐色  | シルト 縮まりあり 径0.2cmの炭化物2% 径0.2~0.5cmの10YR5/8 黄褐色 粘土質シルトブロック5%。 |
| 3  | 10YR4/6 褐色  | 粘土質シルト 縮まりあり 径2cmの10YR4/4 褐色シルトブロック7%。                      |
| 4  | 10YR5/6 黄褐色 | 砂質シルト 縮まりあり。  |
| 5  | 10YR5/8 黄褐色 | 粘土質シルト 縮まりあり。   |

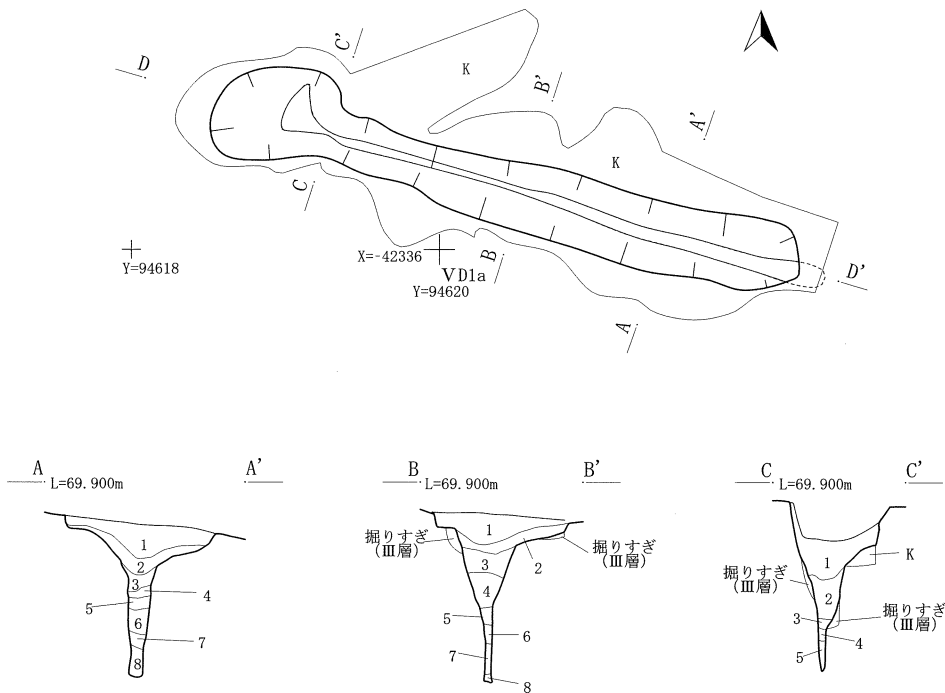
第47図 陥し穴状遺構(1) : SK 03・05・06

SK08



第48図 陥し穴状遺構(2) : SK08

SK10



SK10 A-A'・B-B'

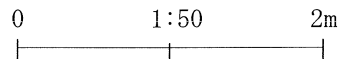
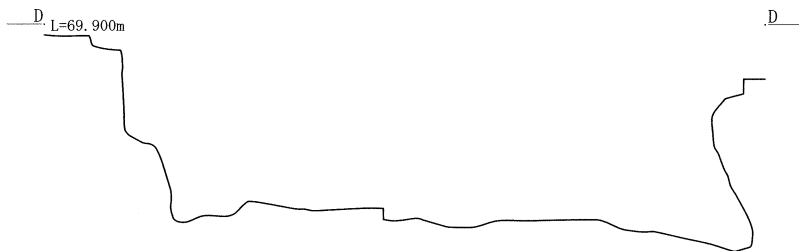
層位 色調 土性

- 1 10YR3/4 暗褐色 シルト 縮まりややあり 径0.5cmの炭化物1% 径1cmの10YR4/4 褐色 砂質シルトブロック 5%。
- 2 10YR4/4 褐色 砂質シルト 縮まりあり 径2cmの10YR3/4 暗褐色 シルトブロック15%。
- 3 10YR5/6 黄褐色 縮まりややあり 径2cmの10YR5/8 黄褐色 粘土質シルトブロック5%。
- 4 10YR4/4 褐色 縮まりあり 径0.2~0.5cmの炭化物1% 径1cmの10YR5/8 黄褐色 シルトブロック5%。
- 5 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 縮まりややなし 径0.5cmの炭化物1% 径1cmの10YR5/8 黄褐色 シルトブ
- 6 2.5Y4/6 オリーブ褐色 砂質シルト 縮まりややあり 径1cmの10YR5/8 黄褐色 シルトブロック7%。
- 7 10YR4/6 褐色 粘土質シルト 縮まりなし。
- 8 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 縮まりややなし。

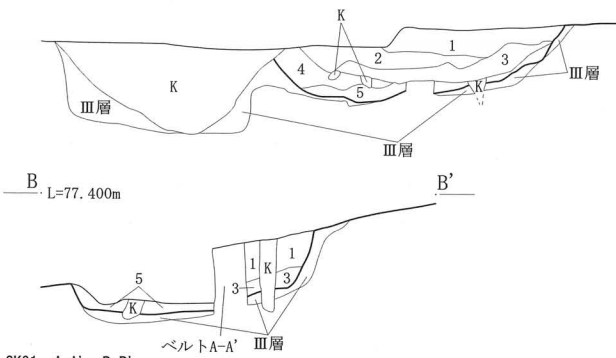
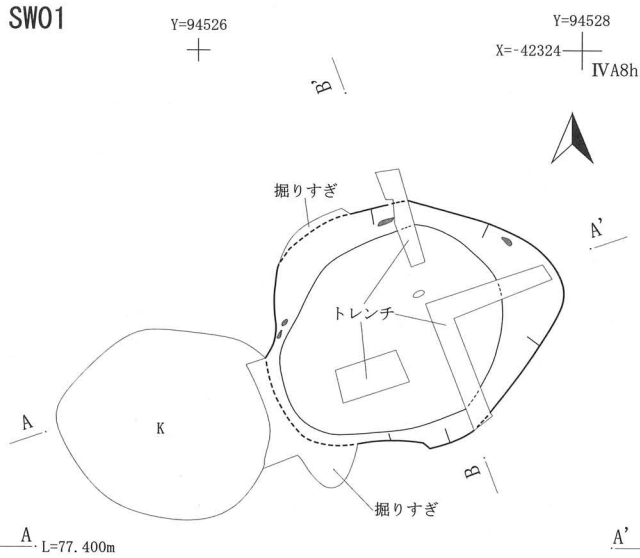
SK10 C-C'

層位 色調 土性

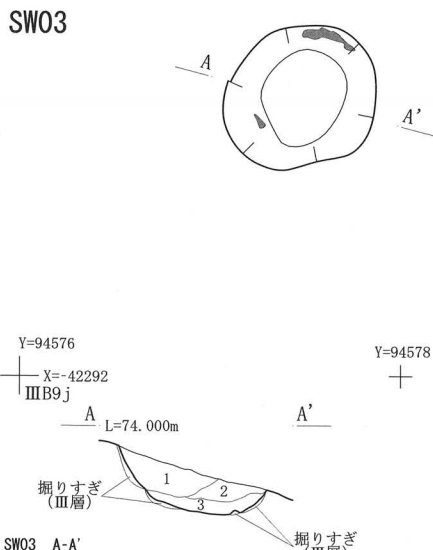
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 縮まり中 径0.2~0.5cmの炭化物1% 径0.5~2cmの10YR5/6 黄褐色 粘土質シルトブロック5%。
- 2 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 縮まりあり 径0.2cmの炭化物1% 径2cmの10YR5/6 粘土質シルト10%。
- 3 10YR5/6 黄褐色 粘土 縮まりあり 10YR4/4 褐色 粘土質シルト10%。
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 縮まりややあり 径1cmの10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック1%。
- 5 10YR3/4 暗褐色 砂質シルト 縮まりなし。



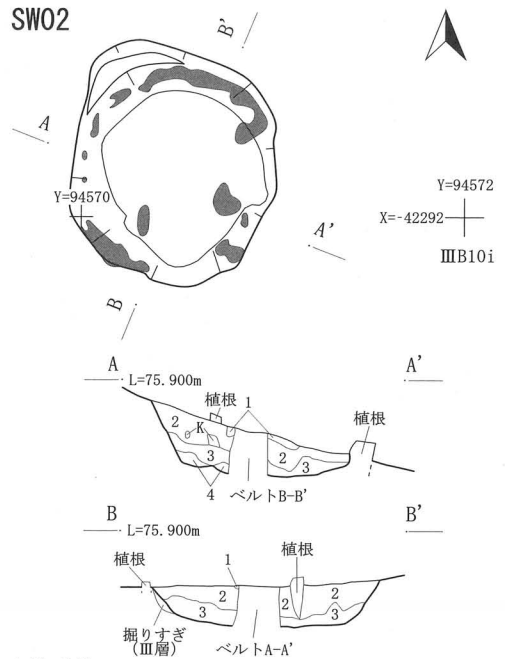
第49図 陥し穴状遺構(3) : SK 10



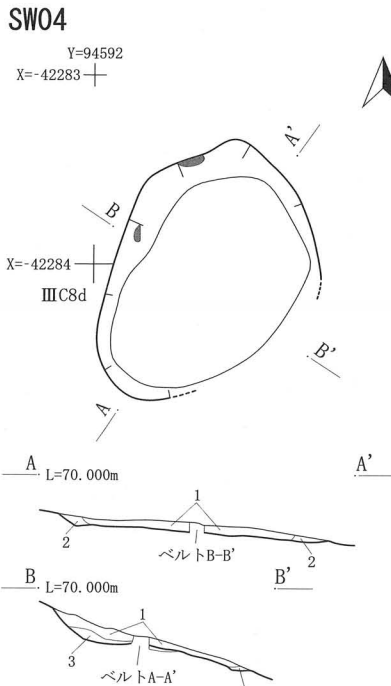
- SK01 A-A'・B-B'
- | 層位 | 色調          | 土性   |
|----|-------------|--|
| 1  | 10YR4/4 褐色  | 砂質シルト 縮まりややあり 径0.5~1cmの炭化物5%。                                      |
| 2  | 10YR3/3 暗褐色 | 砂質シルト 縮まり中 径0.5~2cmの炭化物7%。   |
| 3  | 10YR2/1 黒色  | 砂質シルト 縮まりややあり 径0.5~3cmの炭化物25% 径0.5~1cmの10YR4/6 褐色シルトブロック1%。        |
| 4  | 10YR4/6 褐色  | シルト 縮まりあり 径0.5cmの炭化物1%。  |
| 5  | 10YR3/3 暗褐色 | 砂質シルト 縮まりややあり (径0.5~2cmの炭化物5% Aベルトに顕著) 径0.5~1cmの2.5YR5/8 焼土ブロック1%。 |



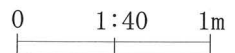
- SW03 A-A'
- | 層位 | 色調          | 土性   |
|----|-------------|--|
| 1  | 10YR3/3 暗褐色 | 砂質シルト 縮まりなし 木根少量 径5mm程度の炭化物1%。                             |
| 2  | 10YR2/3 黒褐色 | 砂質シルト 縮まりなし 木根少量 径0.5~1cm程度の炭化物3%。                         |
| 3  | 10YR2/1 黒色  | シルト 縮まりなし 径0.5~2cmの10YR5/6 黄褐色 砂質シルトブロック3% 径0.5~1cmの炭化物5%。 |
- 掘りすぎ 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト。



- SW02 A-A'・B-B'
- | 層位 | 色調          | 土性   |
|----|-------------|--|
| 1  | 10YR2/3 黒褐色 | 砂質シルト 縮まりあり 径0.5cmの炭化物1%。  |
| 2  | 10YR4/4 褐色  | 砂質シルト 縮まりややあり 径0.5~1cmの炭化物1%。  |
| 3  | 10YR2/2 黒褐色 | 砂質シルト 縮まり中 径0.5cmの炭化物15% 径2cmの10YR5/6 砂質シルトブロック7% 径0.5~1cmの焼土(5YR4/8 赤褐色)7%。 |
| 4  | 10YR5/6 黄褐色 | 砂質シルト 縮まり中 径1cmの10YR2/3 黒褐色 砂質シルト20% 径0.5cm 炭化物2%。                           |



- SW04 A-A'・B-B'
- | 層位 | 色調          | 土性   |
|----|-------------|--|
| 1  | 10YR2/3 黒褐色 | シルト 縮まり中 径0.5~1cmの炭化物1% 径1cmの10YR3/2 黒褐色ブロック(シルト)1%。   |
| 2  | 10YR3/4 暗褐色 | シルト 縮まり中。  |
| 3  | 10YR2/1 黒色  | シルト 縮まりややなし 径0.5cmの炭化物7% (精査中に炭化物が入った落ち込みではないかと思った部分)。 |

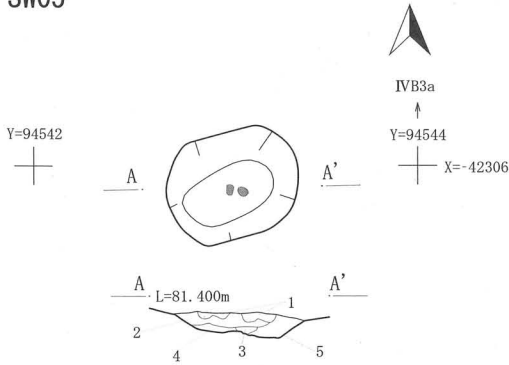


第50図 炭窯跡(1) : SW 01~04



1 検出遺構

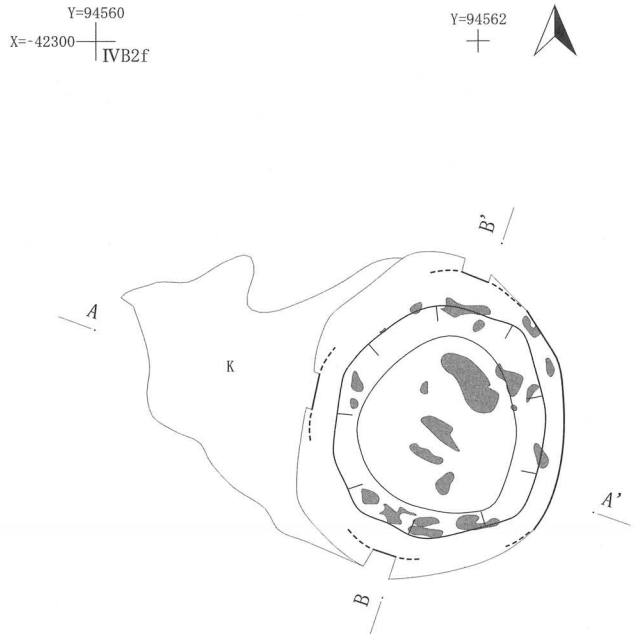
SW05



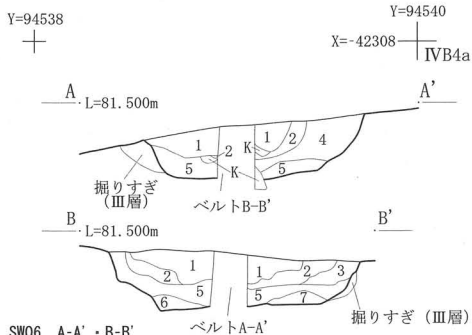
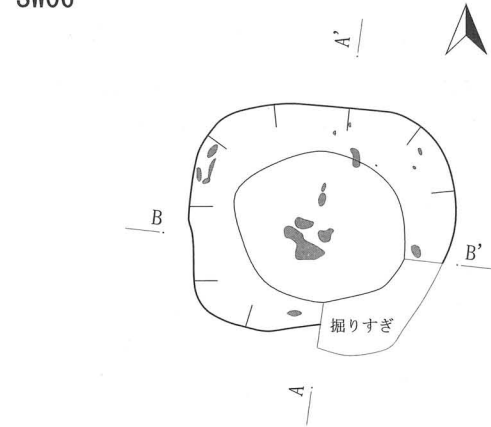
SW05 A-A'

- 層位 色調 土性
- 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト 縮まり中 径0.5~2cmの10YR5/6 黄褐色砂質シルト3% 径0.5cmの炭化物1%。
  - 10YR3/14 暗褐色 砂質シルト 縮まりややあり 径1mmの焼土粒1% 径1mmの炭化物1%。
  - 10YR2/3 黒褐色 砂質シルト 縮まり中 径0.5cmの炭化物10%。
  - 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト 縮まりややあり 径1cmの10YR4/3 にふい黄褐色砂質シルトブロック7%。
  - 10YR2/3 黒褐色 砂質シルト 縮まりややなし 径0.5cmの炭化物2% 径1~2cmの10YR5/6砂質シルトブロック15%。

SW07

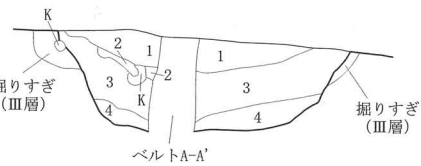
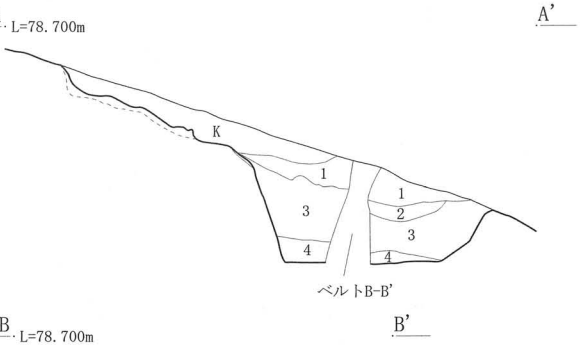


SW06



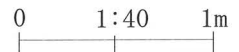
SW06 A-A'・B-B'

- 層位 色調 土性
- 10YR2/2 黒褐色 シルト 縮まりあり 径0.5cmの炭化物1% 径0.1cmの焼土粒(2.5YR5/8 明赤褐色)1%未満 径1~2cmの10YR4/6 褐色ブロック2%。
  - 10YR2/3 黒褐色 シルト 縮まりややあり 径0.2cmの焼土粒(2.5YR5/8 明赤褐色)1% 径0.5cmの炭化物粒2% 径2~5cmの10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルトブロック10%。
  - 10YR4/4 褐色 砂質シルト 縮まりあり 径2cmの10YR4/6 褐色ブロック10% 径0.5cmの炭化物5% 径0.2cmの焼土粒1%。
  - 10YR3/4 暗褐色 シルト 縮まり中 径1~3cmの10YR5/6 黄褐色シルトブロック3% 径3cmの10YR2/2 黒褐色シルトブロック2% 径0.2cmの炭化物1%。
  - 10YR4/3 にふい黄褐色 シルト 縮まりややあり 径0.2cmの焼土粒1% 径0.5cmの炭化物2% 径1~3cmの10YR4/6 褐色ブロック5%。
  - 10YR3/3 暗褐色 シルト 縮まり中 帯状の10YR4/6 褐色シルト30% 径1cm 焼土粒1% 径0.5cmの炭化物1%。
  - 10YR3/3 暗褐色 シルト 縮まり中 径4cmの10YR4/6 褐色シルト30% 径0.5cmの焼土1% 径0.5cm炭化物1%。



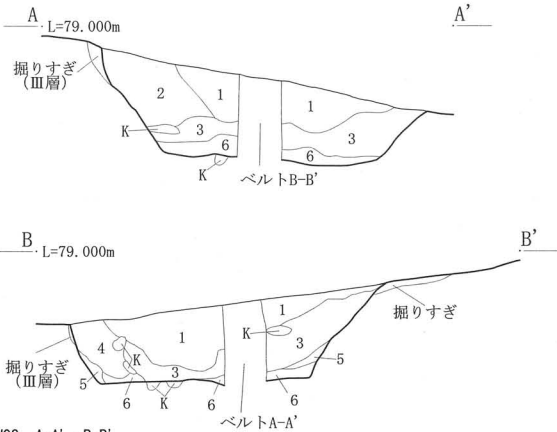
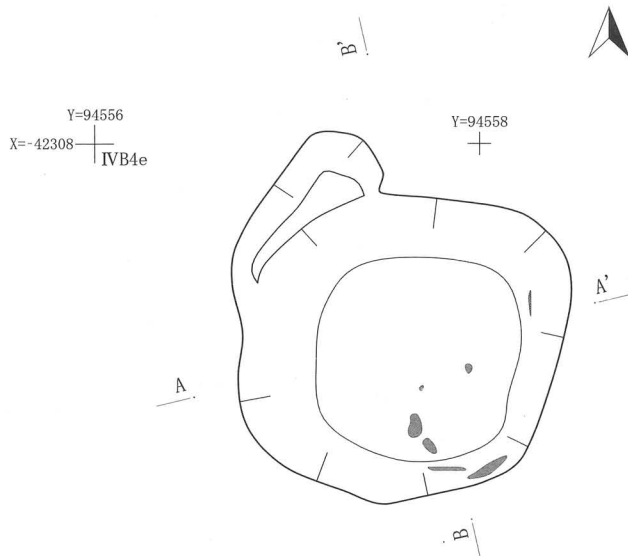
SW07 A-A'・B-B'

- 層位 色調 土性
- 10YR3/2 黒褐色 シルト 縮まり中 0.5~1cmの炭化物10% (A-A' 西側に径3cmの10YR5/8 黄褐色 シルトブロック混入 径3cmの10YR3/4 暗褐色シルト混入)。
  - 10YR4/4 褐色 シルト 縮まりなし 径1cmの10YR5/8 黄褐色シルトブロック3%。
  - 10YR3/4 暗褐色 シルト 縮まり中 径1~2cmの10YR3/3 暗褐色シルトブロック20% 径0.5cmの炭化物1%。
  - 10YR2/1 黒色 シルト 縮まりややなし 炭化物層(径0.5~2cm)。



第51図 炭窯跡(2) : SW 05~07

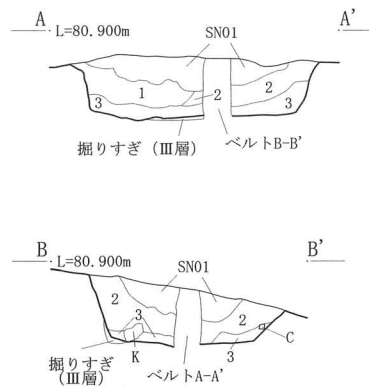
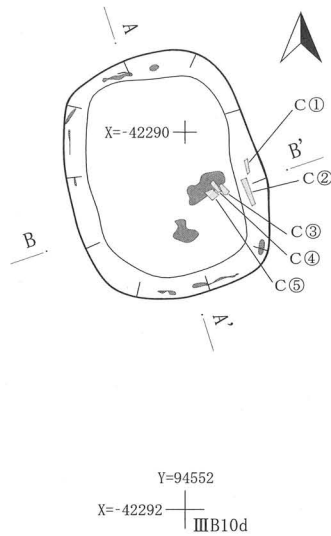
SW08



SW08 A-A'・B-B'

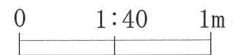
- | 層位 | 色調          | 土性   |
|----|-------------|--|
| 1  | 10YR2/2 黒褐色 | シルト 締まり中 径1~3cmの10YR4/6 褐色シルトブロック3% 径2cmの10YR2/1 黒色シルトブロック7% 径0.5cmの炭化物1%  |
| 2  | 10YR4/4 褐色  | シルト 締まりなし 径2~5cmの10YR4/6 褐色ブロック7% 径0.5cmの炭化物1%   |
| 3  | 10YR3/3 暗褐色 | 砂質シルト 締まり中 径0.5~1cmの炭化物1% 径5cmの10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルトブロック10% 径1~5cmの10YR4/6 暗褐色砂質シルトブロック5% 径0.5cmの2.5YR 明赤褐色 焼土ブロック1%未満。 |
| 4  | 10YR3/4 暗褐色 | シルト 締まり中 径5cmの10YR4/6 褐色シルトブロック5% 径5cmの10YR2/3 黒褐色 シルトブロック10% 径2mmの炭化物1%未満。  |
| 5  | 10YR4/4 褐色  | 砂質シルト 締まりなし 径0.2~1cmの炭化物2% 0.2cmの焼土粒1%。  |
| 6  | 10YR3/4 暗褐色 | シルト 締まりなし 10YR2/2 黒褐色シルト(径3cm) ブロック7% 径0.2cmの焼土粒1% 径0.2cmの炭化物粒1%。  |

SW09



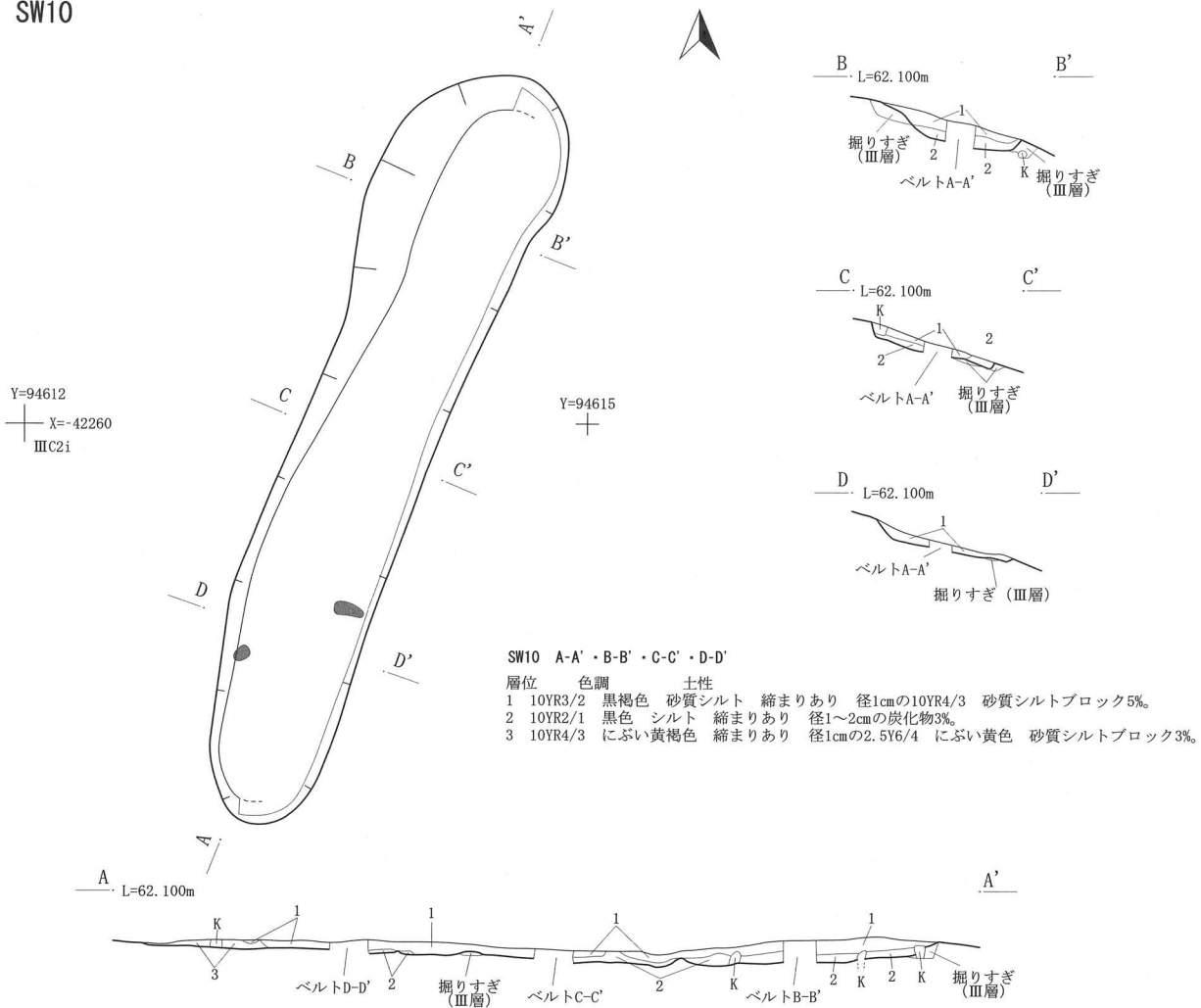
SW09 A-A'・B-B'

- | 層位 | 色調          | 土性  |
|----|-------------|---|
| 1  | 10YR2/2 黒褐色 | シルト 締まりなし 径0.5cmの炭化物1% 径0.2cmの5YR4/8 赤褐色 焼土ブロック1%未満。                                |
| 2  | 10YR3/4 暗褐色 | シルト 締まりなし 径0.2~0.5cmの炭化材1% 径0.2~1cmの10YR4/6 褐色 シルトブロック3%。                           |
| 3  | 10YR2/1 黒色  | シルト 締まりなし 径0.5~1cmの炭化物20% 径1~4cmの10YR4/6 褐色 シルトブロック7% 径0.5cmの5YR4/8 赤褐色 焼土ブロック1%未満。 |

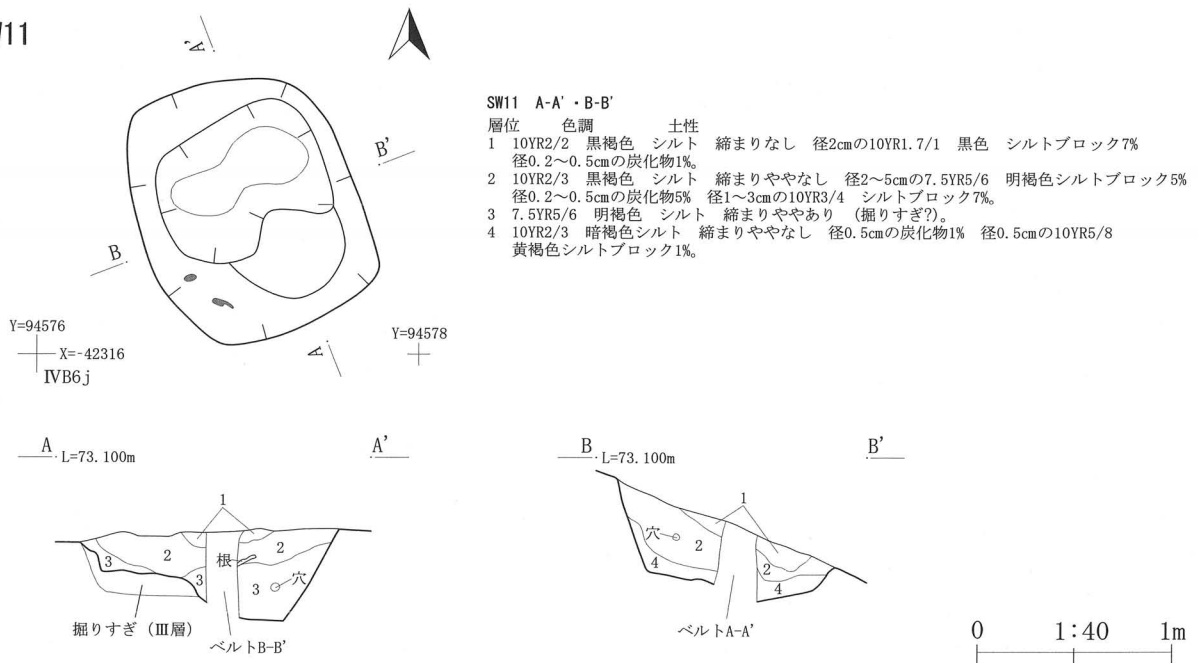


1 検出遺構

SW10



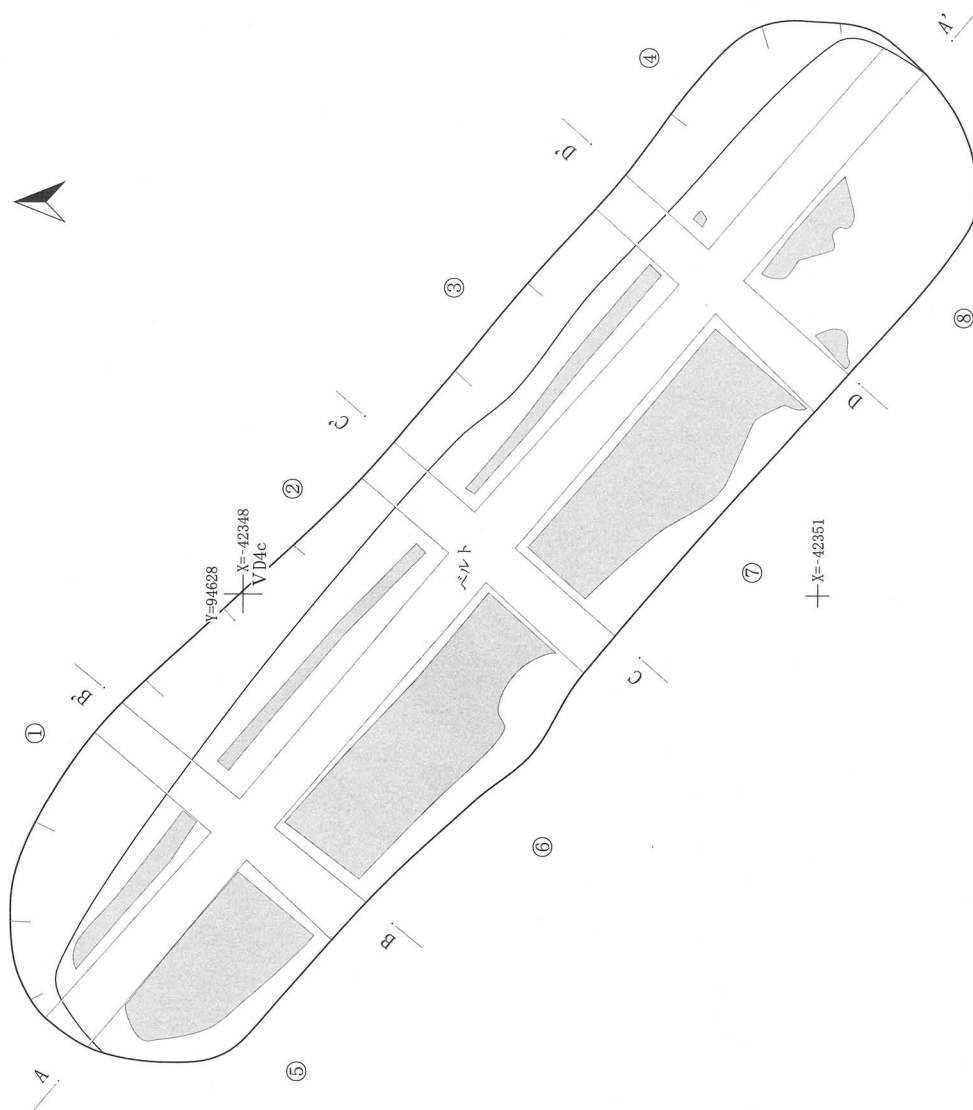
SW11



第53図 炭窯跡(4) : SW 10・11

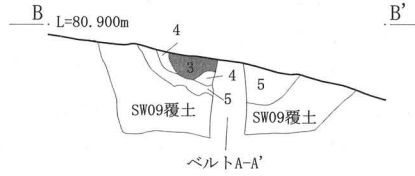
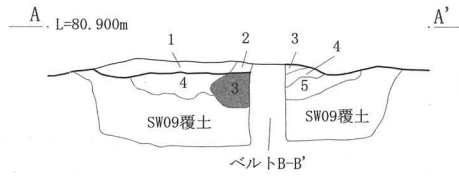
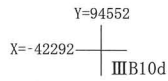
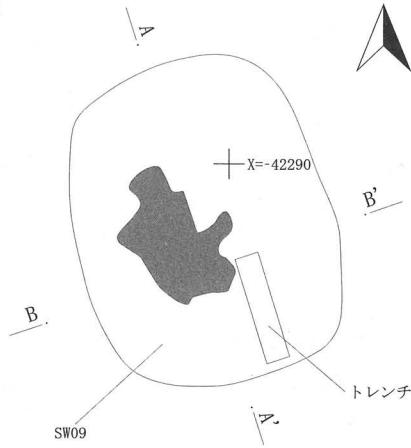


SW12 炭化材出土状況  
①～⑧遺物採取の区割



第55図 炭窯跡(6) : SW 12(2)

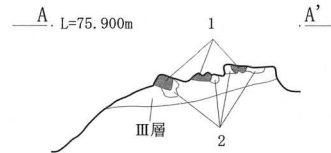
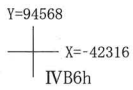
SN01



SN01 A-A'・B-B'

- | 層位 | 色調          | 土性  |
|----|-------------|---|
| 1  | 10YR2/1 黒褐色 | シルト 縮まり中 径1cmの5YR4/8 赤褐色焼土ブロック3%                            |
| 2  | 10YR2/3 黒褐色 | シルト 縮まりややなし 径0.2~0.5cmの5YR4/8 赤褐色 焼土ブロック2%                  |
| 3  | 5YR4/8 赤褐色  | 焼土 縮まりややなし  |
| 4  | 10YR3/1 黒褐色 | シルト 縮まりややなし 全体的に焼土が混じっているように見える                             |
| 5  | 10YR2/3 黒褐色 | シルト 縮まりなし 径2cmの10YR3/4 シルトブロック2% 径0.5cmの5YR4/8 赤褐色 焼土ブロック1% |

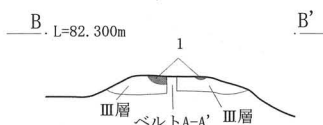
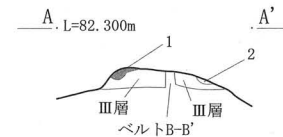
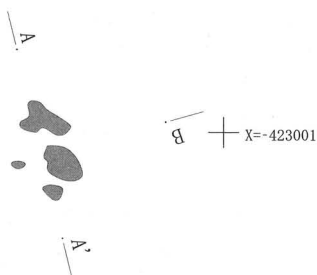
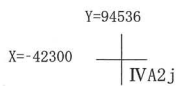
SN02



SN02 A-A'

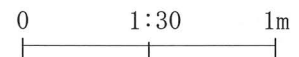
- | 層位 | 色調            | 土性   |
|----|---------------|--|
| 1  | 5YR5/8 明赤褐色   | 焼土 縮まりあり 7.5YR4/6 明褐色シルトブロック (径0.5~1cm) 15% (木根の入り込みか)。  |
| 2  | 5YR4/3 にぶい赤褐色 | 焼土 縮まりややあり 7.5YR4/6 明褐色シルトブロック50% ※検出時、1番西側の1層直上に炭化物が出土。 |

SN03



SN03 A-A'・B-B'

- | 層位 | 色調          | 土性                                   |
|----|-------------|--------------------------------------|
| 1  | 5YR5/6 明赤褐色 | 焼土 縮まりあり 10YR4/6 褐色シルトブロック20%。       |
| 2  | 5YR6/6 橙色   | シルト 縮まりややあり 径0.1cm 5YR5/6 明赤褐色 焼土1%。 |



第56図 焼土遺構：SN01~03

## 2 出土遺物

### (1) 出土遺物の概要 (第57図、写真図版42)

今回の調査で出土した遺物は、縄文土器・鉄滓・炭化材である。いずれも量は少ない。総量は大コンテナ (40×30×30cm) 3箱分である。以下、遺物の種別ごとに詳述する。

### (2) 土器 (第57図、写真図版42)

土器は、重量計測を行った後に接合を行い、口径・器高・底径の計測値のうち1箇所以上計測可能なものを立体土器として登録・図化し、掲載した。破片資料はすべて実見し、以下の基準で選別した。掲載資料は、遺物の残存状況が良くないため、部位に関係なく大きさ径3cm以上のものを選んでいく。底部破片は全て掲載した。掲載した土器はすべて図・写真・観察表を掲載した。個々の土器の文様などの特徴は、第33表土器観察表に記載している。

土器はすべて縄文土器で、小コンテナ1箱、総重量1155.7kgが出土している。分布に特に傾向は見られないが、遺構内からの出土はなく、すべて遺構外からの出土で、試掘時の遺構検出作業中に出土したものが多く。

図化したのは7点である。312・318は、同一個体と考えられる破片で、貼り付けられた隆帯上に工具による刻み目が施されている。縄文時代中期の円筒上層b式期か、大木7式期の土器と判断される。313・314は横位に沈線が巡る同一個体と思われる破片で、縄文時代晩期から弥生時代と推定される。

その他の土製品として、焼成粘土塊は総重量61.2g出土している。SW01・06炭窯跡の覆土やSN03焼土遺構など、燃焼行為が行われた遺構から多く出土している。塊の形状は不整形で、大きさは径2～3cmほど、重量は1～5gほどである。意図的に整形されたような痕跡はみられない。本報告では文章のみの報告とし、図・写真は掲載していない。個々の土製品の出土状況などについては、第32表に記載している。

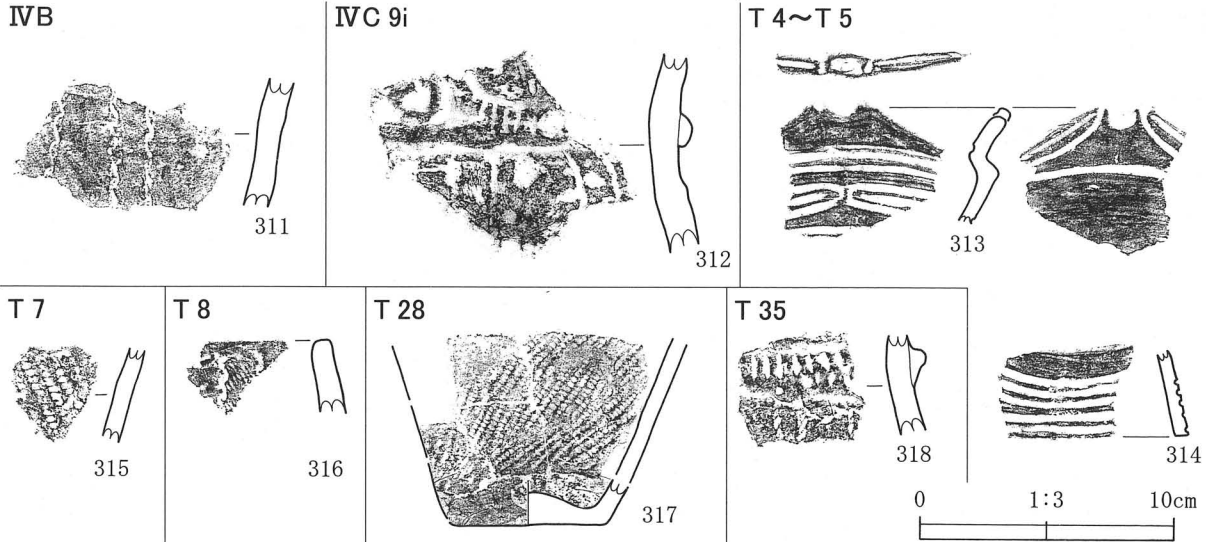
### (3) 鉄滓類 (写真図版42)

今回の調査で出土した鉄滓は1点 (224.7g) である。トレンチ56付近の出土であり、遺構に伴うものではない。鉄滓は磁着しないもので、製鉄関連の鉄滓である可能性がある。今回の調査区では、製鉄及び鍛冶関連の遺構は確認されていないが、調査区周辺に関連する遺構が存在する可能性を示唆している。出土した鉄滓の特徴は、第34表鉄滓類観察表に記載している。

### (4) 植物遺存体 (写真図版42)

植物遺存体としては炭化材が総量18055.7g出土している。炭窯跡の覆土中から出土したものが多く、全体量の99%以上である。遺構ごとの内訳を見ると、長方形基調のSW12炭窯跡：10759.9g (59%)、円形基調の炭窯ではSW07炭窯跡：2022g (11%)の出土量が多い。炭化材の出土量の多寡の差は、炭窯跡の規模の大小に対応しているようである。

炭化材の樹種をみると、樹種同定を行った5点 (SW02・07・09・10・12)は、クリであり (156頁)、肉眼観察を行った樹種には、クリ・ケヤキ・センノキ・ナラ・ヤマブキ・ウルシなどがある。各炭窯跡の樹種をみると、複数の樹種が確認されるものもあるが、SW01：ケヤキ・ナラ・センノキ、SW02・03・08・09・10・11：クリ・ケヤキ、SW04：ケヤキ、SW05：ウルシ、SW06・07：クリ、SW12：クリ・ケヤキ・センノキとなり、クリ・ケヤキの占める割合が高い。同定結果を重視すれば、樹種の主体はクリと判断される。個々の炭化材の特徴については、第35表炭化材観察表に記載している。



第57図 土器

第32表 出土地点別土器重量表

炭窯跡 (SW)

No.	出土地点	層位	重量 (g)
1	SW01	覆土2層	4.7
		小計	4.7
2	SW09	覆土1層黒色土	3.0
3	SW09	1~2層	1.0
		小計	4.0
		合計	8.7

グリッド

No.	出土地点	層位	重量 (g)
1	III B (中央)	III層 検出面	1.1
		小計	1.1
2	IV A (中央尾根部西側)	焼土周辺の南東区・埋土下位	2.6
3	IV A (中央尾根部南側)	III層 検出面	16.7
4	IV A (北東部)	III層 検出面	102.6
		小計	121.9
5	IV B 6 g	III層 検出面	4.3
6	IV B (中央尾根部南側)	III層 検出面	100.5
7	IV B (北西部)	III層 検出面	4.6
8	IV B (北東部)	III層 検出面	9.0
		小計	118.4
9	IV C 8 i	III層 検出面	24.5
10	IV C 9 i	落ち込み	111.7
11	IV C 9 i	III層 検出面	33.2
12	IV C (北斜面)	III層 検出面	8.8
		小計	178.2
		合計	419.6

トレンチ

No.	出土地点	層位	重量 (g)
1	T 4・5・6 拡張部木根	I層	42.8
2	T 4・5 間拡張部遺構?	検出	67.4
3	T 6	検出中	5.6
4	T 7	検出面	9.8
5	T 8	検出中	11.0
6	T 8	I層 黒褐色土	23.3
7	T 8	III a層検出面	8.5
8	T 8?	クリーニング	4.7
9	T 8 (作業道)	攪乱	4.9
10	T 28	I~III a層検出面	21.8
11	T 28	II層 暗褐色土	158.8
12	T 30西側	III a層 黒色土上位	3.1
13	T 35付近	I層	39.3
14	T 35	I層~III a層	165.0
15	T 35	III a層検出面	13.9
16	T 47	III a層検出面	2.3
17	T 53	III層上面	5.8
18	T 53	I層	15.8
19	T 54	III層直上	3.6
20	T 55	III層上面	0.4
		合計	607.8

その他

No.	出土地点	層位	重量 (g)
1	攪乱	-	3.1
2	中央尾根部	I層	39.6
3	中央尾根部	III層 検出面	62.5
4	中央尾根部南端	I層	11.8
5	南端土坑?	黒色土の広がり	2.6
		合計	119.6

遺構種別

No.	出土地点	重量 (g)	比率 (%)
1	炭窯跡	8.7	1%
2	グリッド	419.6	36%
3	トレンチ	607.8	53%
4	その他	119.6	10%
	合計	1155.7	100%

焼成粘土塊

No.	出土地点	層位	重量 (g)
1	SW01	南半炭化物層	1.7
2	SW01	Bベルト3層	5.0
		小計	6.7
3	SW06	南西部埋土	10.6
4	SW06	Bベルト1層	1.9
5	SW06	Aベルト2層	0.8
6	SW06	Aベルト4層	1.5
7	SW06	Aベルト5層	21.2
8	SW06	Bベルト6層	3.3
		小計	39.3
9	SN03南西部周辺	-	1.2
10	SN03北西部周辺	-	1.0
11	III B (中央尾根部北東側)	III層検出面	2.8
12	IV G 7 g	III層検出面	5.6
13	T 8	検出中	4.4
14	中央尾根部攪乱	-	0.2
		小計	15.2
		合計	61.2

第33表 土器観察表

〈数値〉: 推定値、(数値): 残存値

図版 No.	写図 No.	掲載 No.	出土地点	層位	器種	計測値 (cm)			文様 (原体) の特徴	煤の付着	内面調整	胎土	時期
						器高	口径	底径					
57	42	311	IV B (中央尾根部南側)	III層検出面	深鉢	-	-	-	胴: L結節 (縦)	-	N	4	中期
57	42	312	IV C 9 i	落ち込み	深鉢	-	-	-	胴: 隆帯貼付 (横位・円文) + 刻目、単軸絡1 (L) 縦?、磨滅著しい。	-	N	4	中期
57	42	313	T 4・T 5 間拡張部	III層検出面	浅鉢	-	-	-	口唇: 2個一対の突起、沈線、口~: 沈線	-	M	1	弥生?
57	42	314	T 4・T 5 遺構?	III層検出面	高坏?	-	-	-	脚: 沈線	-	M	1	弥生?
57	42	315	T 7	III層検出面	深鉢	-	-	-	胴: LR縦	-	?	4	不明
57	42	316	T 8	III層検出中	深鉢	-	-	-	口: L結節 (縦)	-	N	4	不明
57	42	317	T 28	暗褐色土	深鉢	(7.2)	-	6.0	胴: LR横	-	N	4	不明
57	42	318	T 35	I層~III a層検出面	深鉢	-	-	-	胴: 隆帯貼付 (横位) + 刻目、縄文 (単軸絡1 (L) 縦?)、磨滅著しい。	-	N	3	中期

凡例 部位の名称、口唇: 口唇部、口: 口縁部、頸: 頸部、胴: 胴部、底: 底部。  
 文様、原体側圧: 原体側面圧痕、絡条体圧: 絡条体圧痕、単軸絡: 単軸絡条体、多軸絡: 多軸絡条体、半竹: 半竹管、結束1: 結束第1種、結束2: 結束第2種、結節: 結節縄文。  
 煤の付着、○: 内面付着、●: 外面付着、-: 付着なし。  
 内面調整、M: ミガキ、N: ナデ、-: なし。  
 胎土、1: 緻密である。2: 細礫を含まず、砂粒を含む。3: 細礫・砂粒を僅かに含む。4: 細礫・砂粒を含む。



2 出土遺物

第34表 鉄滓類観察表

写図No.	掲載No.	出土地点	層位	重量(g)	計測値 (cm)		磁着の有無		鉄滓の内訳	備考
					1 cm以上	1 cm未満	有	無		
42	321	T56	表土	224.7	○			○	製鉄滓?	

第35表 炭化材観察表

写図No.	掲載No.	出土地点	層位	樹種名	重量(g)	比率 (%)	備考	写図No.	掲載No.	出土地点	層位	樹種名	重量(g)	比率 (%)	備考
-	-	SK03	底面直上層	クリ	0.8			42	339	SW09	炭化材②	クリ	21.1		C14分析 (試料No.895)
-	-	SK06	Bベルト3層	クリ	0.4			-	-	SK06	Bベルト3層	クリ	0.4		
-	-			小計	1.6			-	-	SW09	炭化材③	ケヤキ	1.9		
-	-	SW01	Aベルト1層		12.7			-	-	SW09	炭化材④	クリ	6.2		
-	-	SW01	Aベルト2層	ケヤキ	23.8			-	-	SW09	炭化材⑤	クリ	13.2		
42	331	SW01	Aベルト3層 土壌サンプル	ナラ	586.4			-	-	SW09	ベルト③3層		221.6		
-	-	SW01	Aベルト5層	ケヤキ	6.9			-	-	SW09	Aベルト3層		547.2		
-	-	SW01	Aベルト暗褐色土層(焼土混入)		0.5			-	-	SW09	Bベルト床面直上		1.0		
-	-	SW01	Bベルト1層	センノキ	11.5			-	-	SW09	Bベルト2層		40.3		
-	-	SW01	Bベルト3層 土壌サンプル		131.2			-	-	SW09	Bベルト3層		15.2		
-	-	SW01	Bベルト暗褐色土(焼土混入)		1.9			-	-	SW09	③の下		3.0		
-	-	SW01	南東部土壌サンプル		96.9			-	-	SW09	北東部埋土上位		0.9		
-	-	SW01	南西部炭化物層土壌サンプル		144.9			-	-	SW09	北西部埋土下位		8.4		
-	-	SW01	北東部炭化物層サンプル		102.5			-	-	SW09	北西部炭化物層		242.6		
-	-	SW01	北西部炭化物層土壌サンプル		30.4			-	-	SW09	北東部炭化物層サンプル		68.3		
-	-	SW01	南半炭化物層サンプル		454.3			-	-	SW09	北東部暗褐色土層サンプル		99.5		
-	-	SW01	南半炭化物層		37.9			-	-	SW09	北東部暗褐色土層		0.9		
-	-			小計	1641.8	9%		-	-	SW09	南西部埋土上位		1.6		
42	332	SW02	Aベルト3層 土壌サンプル	ケヤキ	145.5		C14分析 (試料No.826)	-	-	SW09	南西部暗褐色土5層サンプル		75.9		
-	-	SW02	Bベルト3層 土壌サンプル	クリ	106.8			-	-	SW09	南西部暗褐色土サンプル		14.8		
-	-	SW02	北西部埋土上位		13.8			-	-	SW09	南西部炭化物層サンプル		195.2		
-	-	SW02	北西部土壌サンプル		54.0			-	-	SW09	南東部埋土上位		9.7		
-	-	SW02	南西部土壌サンプル		102.9			-	-	SW09	南東部埋土下位 炭化物層		5.8		
-	-			小計	423.0	2%		-	-	SW09	南東部暗褐色土層		127.7		
-	-	SW03	北半2層 土壌サンプル	クリ	37.5			-	-	SW09	南東部炭化物層		76.7		10%
42	333	SW03	北半3層 土壌サンプル	クリ	77.5			42	340	SW10	Aベルト1層		54.8		
-	-	SW03	埋土(炭化物層)	ケヤキ	11.0			-	-	SW10	Aベルト2層	樹皮	45.2		C14分析 (試料No.923)
-	-	SW03	南半炭化物層 土壌サンプル		139.2			-	-	SW10	Bベルト2層	ケヤキ	9.0		
-	-			小計	265.2	1%		-	-	SW10	Cベルト1層	ケヤキ	8.5		
-	-	SW04	Aベルト1層	ケヤキ	40.9			-	-	SW10	Dベルト1層		11.8		
-	-	SW04	Bベルト1層		164.6			-	-	SW10	南東覆土1/4	クリ	24.9		
42	334	SW04	Bベルト3層サンプル	ケヤキ	56.8			-	-	SW10	北西覆土1/4		7.8		
-	-	SW04	南西部炭化物層(3層)		72.0			-	-	SW10	北東覆土1/4		31.5		
-	-	SW04	南西部土壌サンプル		107.1			-	-	SW10	南西覆土1/4		27.6		
-	-	SW04	北西部土壌サンプル		111.5			-	-			小計	221.1		1%
-	-	SW04	北東部土壌サンプル		67.1			-	-	SW11	Aベルト2層		21.2		
-	-			小計	620.0	3%		-	-	SW11	Bベルト1層	クリ	0.6		
-	-	SW05	北半1層土壌サンプル		6.7			-	-	SW11	南東覆土1/4		9.1		
42	335	SW05	北半2層土壌サンプル		13.6			-	-	SW11	北東部埋土上位		0.6		
-	-	SW05	北半3層土壌サンプル	ウルシ	6.7			-	-	SW11	南西部埋土上位	ケヤキ	5.3		
-	-	SW05	南半埋土下位 炭化物層		3.5			-	-			小計	36.8		
-	-	SW05	下位炭化物層		1.3			-	-	SW12	Aベルト1層		2.7		
-	-			小計	31.8			-	-	SW12	Aベルト2層	ケヤキ	23.0		
-	-	SW06	Aベルト1層	クリ	0.2			-	-	SW12	Aベルト3層	クリ	324.8		
-	-	SW06	Aベルト4層	クリ	0.9			-	-	SW12	Aベルト4層		54.1		
42	336	SW06	Aベルト5層		2.8			42	342	SW12	Aベルト5層	クリ	4104.9		C14分析 (試料No.948)
-	-	SW06	Bベルト1層		0.5			-	-	SW12	Bベルト2層		44.3		
-	-	SW06	南西部埋土		0.5			-	-	SW12	Bベルト3層		42.8		
-	-	SW06	北東部埋土		0.5			-	-	SW12	Bベルト5層		852.4		
-	-	SW06	北西部埋土下位	クリ	0.8			-	-	SW12	Cベルト3層		215.8		
-	-			小計	6.2			-	-	SW12	Cベルト5層		392.8		
-	-	SW07	Aベルト1層サンプル		360.1			-	-	SW12	Dベルト1層		5.3		
-	-	SW07	Aベルト4層サンプル		239.4			-	-	SW12	Dベルト4層	クリ	56.9		
-	-	SW07	Bベルト1層サンプル		232.3			-	-	SW12	Dベルト5層		349.3		
-	-	SW07	Bベルト3層サンプル		6.4			-	-	SW12	南東部埋土上位		10.6		
-	-	SW07	Bベルト4層サンプル	クリ	342.7		C14分析 (試料No.861)	-	-	SW12	①埋土		9.4		
-	-	SW07	北西部埋土上位		17.9			-	-	SW12	②埋土		6.4		
-	-	SW07	北西部土壌サンプル⑨		27.4			-	-	SW12	③埋土		7.7		
-	-	SW07	北西部土壌サンプル⑤		5.7			-	-	SW12	④埋土下位		2.6		
-	-	SW07	北東部埋土上位		12.2			-	-	SW12	⑤埋土		363.2		
-	-	SW07	北東部土壌サンプル⑤		22.9			-	-	SW12	⑥埋土下位		182.8		
-	-	SW07	北東部土壌サンプル⑦		55.0			-	-	SW12	⑥埋土		265.8		
-	-	SW07	北東部土壌サンプル		223.8			-	-	SW12	埋土下位	センノキ	25.4		
42	337	SW07	南西部埋土上位		59.9			-	-	SW12	⑥埋土下位		1532.9		
-	-	SW07	南西部土壌サンプル①		83.1			-	-	SW12	⑦埋土		194.8		
-	-	SW07	南東部埋土上位		8.0			-	-	SW12	⑦埋土下位		1542.5		
-	-	SW07	南東部土壌サンプル①		139.3			-	-	SW12	⑧埋土		107.0		
-	-	SW07	南東部土壌サンプル②		49.0			-	-	SW12	⑧埋土下位		39.7		
-	-	SW07	南東部土壌サンプル④		59.3			-	-			小計	10759.9		59%
-	-	SW07	南東部土壌サンプル		7.7			-	-	SN01	2層焼土サンプル	クリ	0.7		
-	-	SW07	南東部土壌サンプル①		69.9			-	-	SN01	北西部焼土サンプル		15.0		
-	-			小計	2022.0	11%		-	-			小計	29.7		
-	-	SW08	Aベルト4層		15.8			-	-	T5	III a層直上	種子	0.3		
-	-	SW08	Aベルト6層		2.3			-	-	T4・5・6 拡張部	I層		0.1		
-	-	SW08	Bベルト1層		0.9			-	-	T50	III層直上		0.5		
-	-	SW08	Bベルト4層		1.5			-	-	SN03南 西部周辺	-		1.0		
42	338	SW08	Aベルト5層	クリ	2.9			-	-		-	攪乱		1.7	
-	-	SW08	Aベルト6層	ケヤキ	4.0			-	-	IV A北東 部	III層検出面		0.3		
-	-	SW08	北西部焼土混入層サンプル		5.0			-	-			小計	3.9		
-	-	SW08	北西部炭化物層サンプル		35.3			-	-			合計	18055.7	100%	
-	-	SW08	北西部炭化物層		3.8			-	-						
-	-	SW08	南西部底面直上		1.7			-	-						
-	-	SW08	南西部土壌サンプル②		114.8			-	-						
-	-	SW08	南西部炭化物層サンプル		2.5			-	-						
-	-	SW08	南西部底面直上		1.0			-	-						
-	-	SW08	南東部炭化物層サンプル		1.3			-	-						
-	-			小計	192.8	1%		-	-						

## VI 総 括

### 1 八木沢Ⅱ遺跡

#### (1) 立 地

八木沢Ⅱ遺跡は、八木沢川の東側に接する、小起伏山地上に立地する。調査範囲は、尾根部と谷部が連続する地形で、標高は約30～50mである。調査区付近の地形をみると、北谷部・中央尾根部・南谷部に大別され、沢筋に広い平坦面が形成されている北谷部から遺構の多くがみつかった。現在、北谷部の北側を東流する沢は、北谷部の北東側で、遺跡の東側を南流する沢と合流しているが、かつては、北側を東流する沢が、今回の調査区を横切るように南東方向に流れていたようである。その痕跡が北谷部で確認された埋没沢であり、その東側に並行して北西―南東方向に延びる小さく隆起した小尾根であった。遺構は、この埋没沢の周辺部で確認されている。

#### (2) 検 出 遺 構

##### a 竪穴住居跡

竪穴住居跡は1棟確認された。炉跡とその周辺から確認された柱穴から、その存在が推測されるものであり、住居跡の規模や平面形など詳細は不明である。出土遺物や遺構の新旧関係から縄文時代後期と推測される。周辺から見つかっている貯蔵穴群と同じ立地条件で位置しており、調査区の東側を南流する沢寄りの平坦面に竪穴住居跡や貯蔵穴などからなる集落跡が形成されていたのだと推測される。

##### b 土坑

土坑は44基確認された。そのうち北谷部の平坦面（ⅡCグリッド付近）でまとまって確認された定形的な円形基調の土坑は、貯蔵穴としての可能性が考えられる土坑群である。詳細にみると、より比較的大形の土坑が沢寄りに位置してつくられている傾向があり、調査区域外も含めて南流する沢筋に土坑群がつけられていた可能性がある。時期は、縄文時代後期と推測される。

##### c 陥し穴状遺構

陥し穴状遺構は7基確認された。分布に特に連続するようなまとまりは見いだせないが、北谷部・南谷部の両地点で確認された。ほそ長い溝状の形状の陥し穴と、隅丸方形状の陥し穴があり、いずれにも底面に逆茂木を立てたと推測される副穴が確認された。

##### d 炉跡・焼土遺構

炉跡・焼土遺構は10基確認された。そのうち7基は、北谷部の北東側（ⅠBグリッド付近）にまとまって分布している。調査区内では、もっとも標高の低い沢寄りの低地である。炉跡・焼土遺構の形態は大別して2種類ある。ひとつは地床炉で平坦面が赤く焼土化しているもの。ひとつは掘り方を伴うもので、凹部及び周辺が青黒く硬く締まり、還元しているものである。7基中5基の炉跡・焼土遺構から、鍛造剥片や粒状滓、あるいは鉄滓が出土しており、分析結果を併せて考えると、始発原料を砂鉄とする精錬鍛冶（大鍛冶）・鍛錬鍛冶（小鍛冶）が行われた痕跡を示すものであると推測される。

なお、今回の調査では、炉跡・焼土遺構の周辺から付属する施設は確認できなかった（註1）。

#### (3) 出 土 遺 物

縄文土器・土製品・石器・石製品・陶磁器類・鉄製品・鉄滓類・動物遺存体・植物遺存体などが出土している。縄文時代の遺物としては、縄文土器・土製品・石器・石製品がある。縄文土器の時間幅は、早期から晩期まで幅広く出土している。遺構との関連性では、後期が主体となるが、調査区域外を含めた周辺地域では、より時間幅のある縄文時代の遺構が存在する可能性がある。

古代の遺物としては、羽口など土製品や鉄滓類、鉄製品がある。これらの遺物は、北谷部の北東側の平坦面にある遺構及びその周辺に出土地点が限定されることに特徴がある。鉄滓類のなかには、炉跡・焼土遺構から出土した鍛造剥片があり、同地点は、精錬鍛冶(大鍛冶)・鍛錬鍛冶(小鍛冶)が行われていた場所であったことが推測される。また、出土した鉄滓類の内容から調査区域外を含めた周辺地域には製鉄・精錬に関連する遺構が存在している可能性がある。また、土師器が出土していないことは、住居跡を含む集落の位置が異なっていたことを推測させる。

## 2 八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡

### (1) 立地

八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡は、八木沢川の東側に接する、小起伏山地上に立地する。調査範囲は、尾根上から谷部に向かう斜面地で、標高約82~50mの範囲である。調査区付近の微地形は尾根部と斜面部に大別され、中央尾根が西から東方向に延び、南側と北側は急斜面、東側は緩斜面となっている。

### (2) 検出遺構

検出された遺構は、土坑6基、陥し穴状遺構5基、炭窯跡12基、焼土遺構3基である。いずれも尾根部から緩斜面の上位にかけてつくられている。

#### a 陥し穴状遺構

陥し穴状遺構は5基確認された。大きさに差はあるものの、すべて溝状のほそ長い形態のものである。尾根筋から斜面にかけて広範囲に分布しているが、この傾向は周辺地域における調査遺跡の遺構の分布のあり方と共通するものである。今回の調査範囲では、竪穴住居跡は検出されておらず、主に狩猟の場として用いられていた場所であることが判明した。時期は、出土遺物はなく、覆土中に火山灰の堆積も確認できなかったことから詳細は不明であるが、縄文時代と推測される。

#### b 炭窯跡

炭窯跡は12基確認された。形態・規模をみると、径1m前後の円形または方形を基調とした炭窯跡と、短軸・長軸比が1:4以上の隅丸長方形の炭窯跡のふたつの形態に大別される。内訳は円形または方形基調が10基、長方形基調が2基である。立地をみると、調査区全体に散在し、形状による分布の違いも明瞭に認められないが、いずれの炭窯跡も尾根からやや下がる緩斜面の上位にかけて設けられている傾向がある。

炭窯跡の内部をみると、壁面・底面が焼けているものがほとんどで、遺構内で燃焼作業を行い、木炭生産が行われたことを示している。覆土の状態をみると、黒色・黒褐色土が上位に少量堆積するものもあるが、主体はⅢ層黄褐色土の地山起源の黄褐色土で、底面直上に炭化材が比較的多く含まれる暗褐色土層が堆積している事例が多い。

時期は、出土遺物がなく詳細は不明だが、放射性炭素年代測定を行った結果、古代(7世紀頃)から中世(13世紀頃)にかけての年代が示されている。ただし、中世とされた試料は樹皮のために由来の異なる可能性が指摘されている。確認された炭窯跡は、古代(7~9世紀頃)に行われた木炭生産の痕跡であったと推測される(註2)。

#### c 焼土遺構

焼土遺構は3基確認された。いずれも地床炉で出土遺物はない。時期の詳細は不明であるが、炭窯跡との直接的な関連性は低いものと推測される。

### (3) 出土遺物

縄文土器・鉄滓類・炭化材が出土した。縄文土器はすべて磨滅した破片資料である。遺構内から出

土した土器はなく、詳細は不明だが、該当する時期の集落跡が、調査区周辺に存在する可能性はある。鉄滓類は1点出土しており、調査区周辺で製鉄関連の遺構が存在する可能性がある。今回の調査区では、鉄生産の燃料としての木炭を生産した炭窯跡が検出された。今後、周辺地域における同遺構の立地条件について比較検討していく必要があるが、鉄生産の炉跡を設ける空間と、燃料を供給する空間の場の使い分けがあった可能性もある。炭化材は、科学的分析結果と肉眼による分析結果との間に若干の差異はあるが、確認された樹種の多くはクリ材であり、木炭の樹種の主体はクリ材であったと推測される（註3）。

### 3 ま と め

八木沢Ⅱ遺跡は、今回の調査で、縄文時代の集落跡、狩猟の場、古代では小鍛冶が行われた鉄生産の場であったことがわかった。陥し穴状遺構は広範囲に分布し、縄文時代の竪穴住居跡や貯蔵穴群は、沢筋の南面の平坦地につくられている。一方、古代の鍛冶炉跡や関連する土坑群は、さらに一段低い沢筋の北東側の平坦面につくられている。時期と施設の性格の違いにより、場の使い分けがあったことが推測される。

八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡は、今回の調査で、狩猟の場と木炭生産の場として使用されていた場所であったことがわかった。狩猟の場として使用された時期の詳細は不明だが、縄文時代の可能性がある。木炭生産の場として使用された時期は、古代と推測される。土地利用の在り方として、このように山間部に炭窯跡がまとまってつくられていたことは注目される。遺跡範囲に対して限定された調査区であるため、推測の域を出ないが、集落や鉄生産に関連する遺構は、尾根が続く、調査区の東西方向に残されている可能性がある。燃料の供給先としては、遺跡周辺及び隣接する八木沢Ⅱ遺跡との関連性についても考慮する必要があり、また今後の周辺地域を調査する際、鉄生産に関連する施設の存在に留意していく必要がある。

八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡とも、遺構・遺物とも量的にそれほど多くはないが、時代により遺構の占地が異なるなど、貴重な資料を得ることができた。今後は、周辺遺跡の調査成果と合わせて、当該地域の遺構の立地について、さらに検討していくことが課題となる。

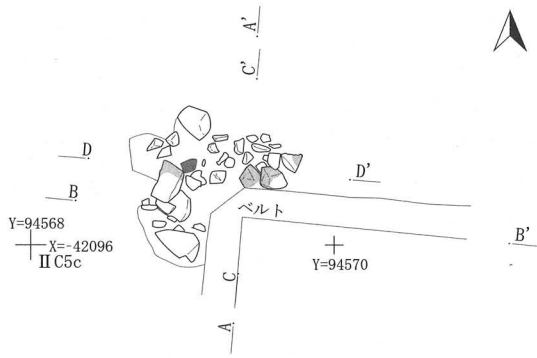
#### 註

- (1) 細越Ⅰ遺跡では、廃棄された古代の竪穴住居跡の埋土を利用して、鍛冶炉（小鍛冶）がまとまって設けられていた事例が確認されている（宮古市1992）。鍛冶炉の埋土内からハンマースケール（鍛造剥片）が出土している。
- (2) 木戸井内Ⅲ遺跡（宮古市1999）・島田Ⅱ遺跡（岩手県2001）では、炭窯跡の詳細な分析が行われている。今後は、製鉄関連遺跡のなかで、炉跡との関わりで木炭窯の位置づけを行っていくことが必要であろう。この視点で炭窯跡についても課題は多く残されている。  
なお、本報告では、遺構の命名にあたり、製炭土坑ではなく、従来どおり炭窯跡の呼称を用いた。
- (3) 周辺地域で調査が行われた炭窯跡出土の樹種を鑑定した結果をみると、多くはクリ材との結果が得られている（島田Ⅱ遺跡・木戸井内Ⅲ遺跡・下大谷地Ⅰ遺跡など）。今回の分析結果もこれまでの宮古地域で確認されている木炭の樹種試料を追認するものである。

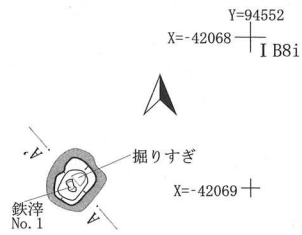
#### 引用・参考文献

- |                |  |
|----------------|--|
| (財) 岩手県文化振興事業団 | 2001『島田Ⅱ遺跡』岩文振第368集                                  |
| (財) 岩手県文化振興事業団 | 2004『島田Ⅱ遺跡』岩文振第450集                                  |
| (財) 岩手県文化振興事業団 | 2008「可能性あり⑩」『平成19年度発掘調査報告書』岩文振第524集                  |
| (財) 岩手県文化振興事業団 | 2008『賽の神Ⅱ遺跡・賽の神遺跡・下大谷地Ⅰ遺跡・八木沢野来遺跡第1次発掘調査報告書』岩文振第511集 |
| (財) 岩手県文化振興事業団 | 2009『八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡』岩文振第528集                     |
| 岩手県宮古市教育委員会    | 1992『細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅱ遺跡』第36集                                |
| 岩手県宮古市教育委員会    | 1999『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡』第56集                          |
| 岩手県宮古市教育委員会    | 2006『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込Ⅰ遺跡』第67集                     |
| 岩手県宮古市教育委員会    | 2006『木戸井内Ⅳ遺跡』第68集                                    |
| 岩手県教育委員会       | 2006『岩手の製鉄遺跡』岩手県文化財調査報告書第122集                        |

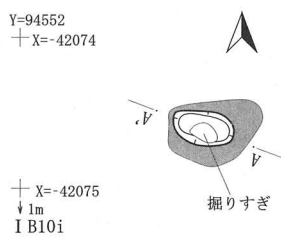
SN101



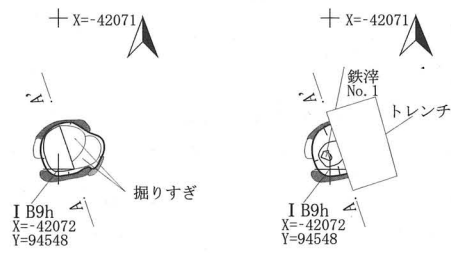
SN105



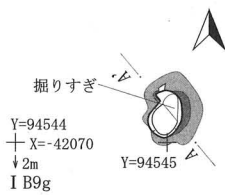
SN106



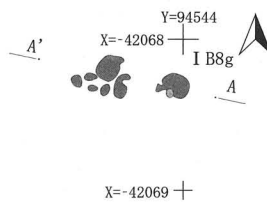
SN107



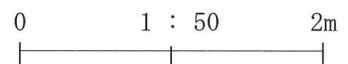
SN108



SN109

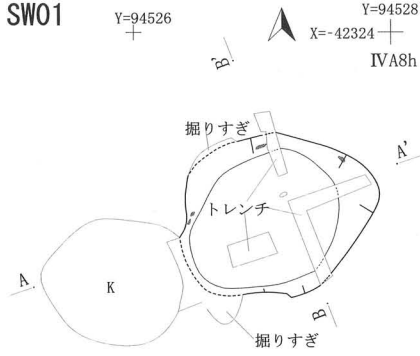


SN110

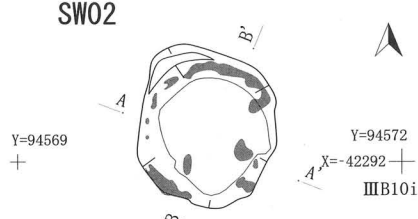


第58図 炉跡・焼土遺構集成図

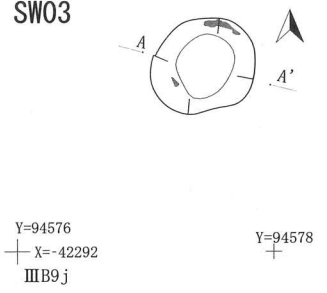
SW01



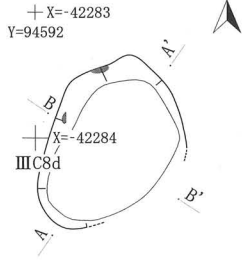
SW02



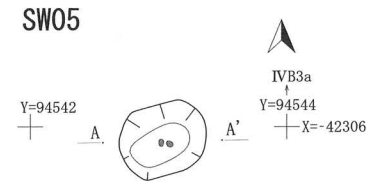
SW03



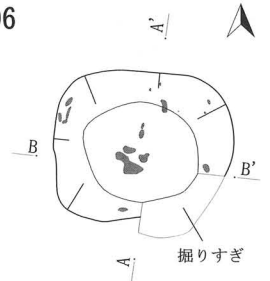
SW04



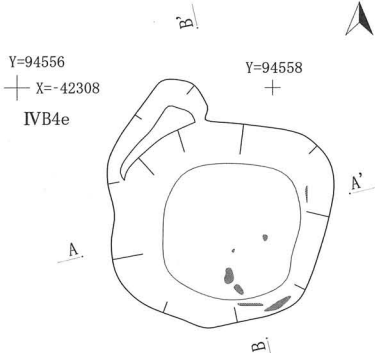
SW05



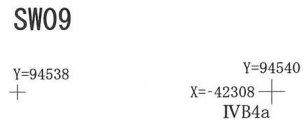
SW06



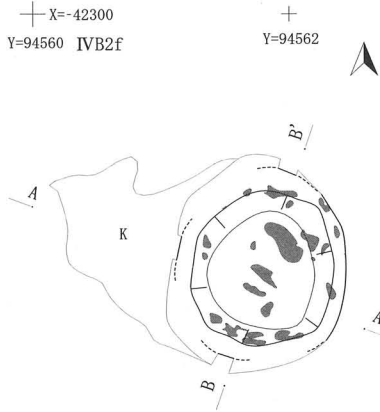
SW08



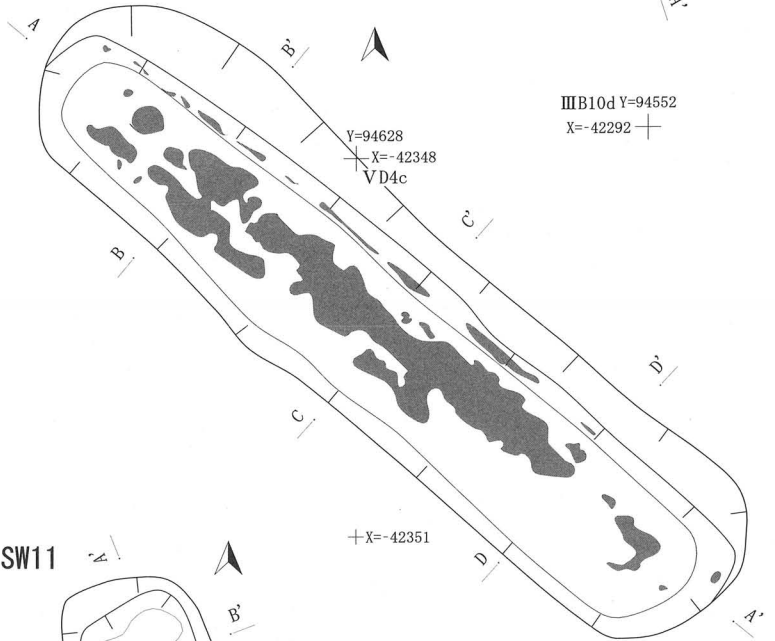
SW09



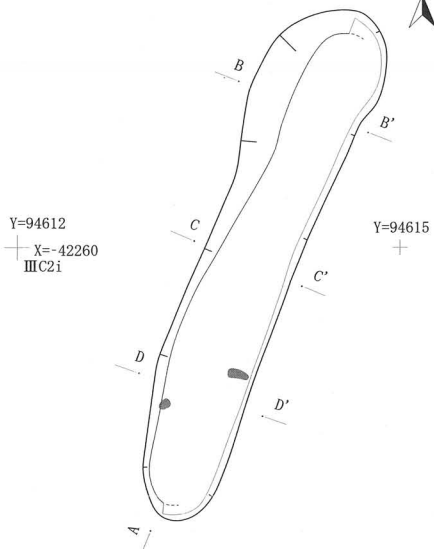
SW07



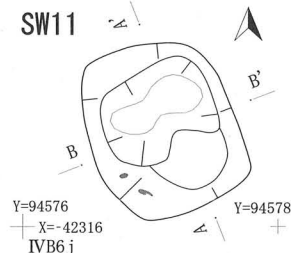
SW12



SW10

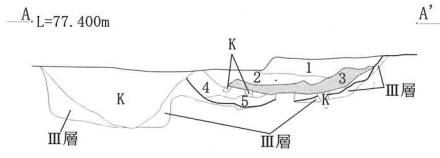


SW11

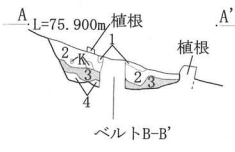


第59図 炭窯跡集成図(1)

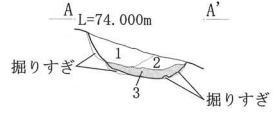
SW01



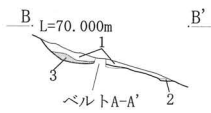
SW02



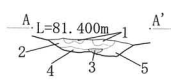
SW03



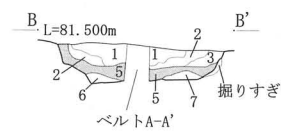
SW04



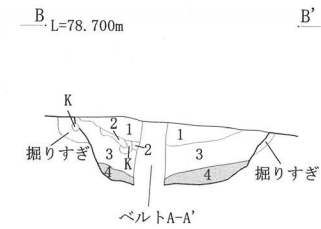
SW05



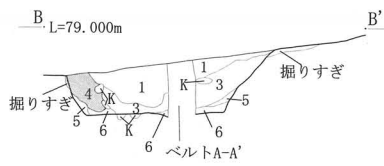
SW06



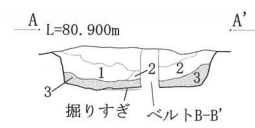
SW07



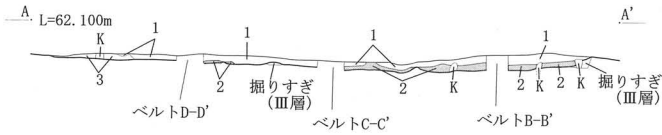
SW08



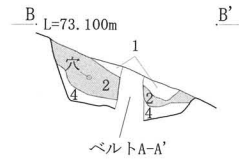
SW09



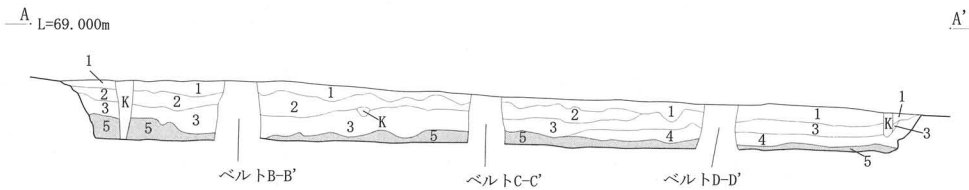
SW10



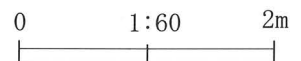
SW11



SW12



炭化物を含む黒色土・黒褐色土・暗褐色土層



第60図 炭窯跡集成図(2)

## VII 分析・鑑定

### 1 八木沢Ⅱ遺跡

#### (1) 放射性炭素年代測定・樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

宮古市八木沢Ⅱ遺跡は、八木沢川左岸（西岸）の山地緩斜面に立地する。今回の発掘調査により、縄文時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構、土器埋設遺構、古代の炭窯跡、鍛冶炉などが検出されている。今回の分析調査では、古代の炭窯や鍛冶炉から出土した炭化材を対象として、遺構の構築年代に関する資料を得るために放射性炭素年代測定を行うとともに、木材利用を明らかにするために樹種同定を実施する。

#### 試料

試料は、鍛冶炉に伴う土坑（S K143）、古代の炭窯跡（S W101）、古代の鍛冶炉（S N108）から出土した炭化材各1点の合計3点（資料No. 821, 825, 831）である。

#### 分析方法

##### (1) 放射性炭素年代測定

炭化材に土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HC1により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HC1によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO<sub>2</sub>を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO<sub>2</sub>と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、放射性炭素年代は、 $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いて同位体効果の補正を行った値（補正值）と、補正前の値を併記する。

補正年代を用いて、暦年較正を実施する。暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5730±40年）を較正することである。暦年較正には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用いる。



その際、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表す。いずれも炭化材を試料としていることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差  $\sigma$ 、 $2\sigma$  双方の値を計算する。 $\sigma$  は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 $2\sigma$  は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 $\sigma$ 、 $2\sigma$  の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

## (2) 樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を複製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴については、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にす。また、日本産木材の組織配列については、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にす。

## 結果

### (1) 放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定結果を表1、暦年較正結果を表2に示す。同位体効果の補正を行った年代値は、SK143No. 821が $910 \pm 30$ BP、SW101No. 825が $970 \pm 30$ BP、SN108No. 831が $880 \pm 30$ BPを示す。また、測定誤差を $\sigma$ として計算させた暦年較正結果は、SK143No. 821が calAD1, 104-1, 167、SW101No. 825が calAD1, 021-1, 149、SN108No. 831が calAD1, 058-1, 214である。

### (2) 樹種同定

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は、針葉樹1分類群(マツ属複維管束亜属)、広葉樹2分類群(コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

#### ・マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxylon*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成されるが、水平樹脂道やエピセリウム細胞はほとんどが壊れて空壁として残るのみである。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1～15細胞高。

#### ・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

#### ・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

## 考察

各遺構から出土した炭化材の年代をみると、SK143の炭化材が calAD1, 044～1, 167、SW101の炭化

材がcalAD1, 021～1, 149、SN108の炭化材がcalAD1, 058～1, 214であった。SK143およびSW101は、暦年較正結果からほぼ同時期の遺構であり、平安時代後期頃に構築された可能性がある、一方SN108は、他の2基と同時期かそれよりやや新しい時期の遺構と考えられる。

各遺構から出土した炭化材の樹種は、SK143がコナラ節、SW101がクリ、SN108が複雑管束亜属である。SK143は鍛冶炉に伴う土坑?とされており、試料が炭化していることを考慮すれば、燃料材の可能性はある。今回の樹種同定結果から、重硬で強度が高く、火持ちの良いコナラ節の木材が利用されたことが推定される。

SW101は古代の炭窯とされていることから、炭化材は炭窯内で製炭された木炭の一部に由来する可能性がある。また、SN108は古代の鍛冶炉とされており、炭化材は燃料材の可能性はある。クリは重硬で強度が高いが、木炭にすると柔らかく燃焼性の良い炭になる。複雑管束も松脂を多く含み、燃焼性が高い。クリと複雑管束亜属の木炭は、民俗事例で共に鍛冶燃料材として利用される種類である(岸本・杉浦, 1980)。本遺跡の周辺地域では、島田Ⅱ遺跡で、古代の炭窯と鍛冶炉から出土した炭化材がクリに同定された例があり(高橋, 2001, 2004)、クリ炭が鍛冶燃料材として利用されていたことが推定される。複雑管束亜属が確認された事例は確認できないが、今回の結果から鍛冶用燃料材として利用されていたことが推定される。また炭窯では、クリを製炭していたことが推定されるが、クリ炭が鍛冶も含めて本遺跡でどのような用途に利用されたのかは不明であり、島田Ⅱ遺跡と同様に鍛冶用燃料材として利用されていたのかは今後の課題である。

## 引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東 隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東 隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東 隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東 隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東 隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 岸本 定吉・杉浦 銀治, 1980, 日曜炭やき師入門. 総合科学出版, 250p.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.
- 伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E.(2004) *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].
- 島地 謙・伊東 隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
- 高橋 利彦, 2001, 宮古市島田Ⅱ遺跡出土炭化材の樹種. 「島田Ⅱ遺跡発掘調査報告書—宮古短大地区宅地造成事業に係る発掘調査—」, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第368集, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 223-224.
- 高橋 利彦, 2004, 島田Ⅱ遺跡出土炭化材の樹種. 「島田Ⅱ遺跡第2～4次発掘調査報告書—宮古短大地区宅地造成事業に係る発掘調査—第二分冊(遺物・まとめ・付編)」, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第450集, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 342-347.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E.(1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

表 1 放射性炭素年代測定結果

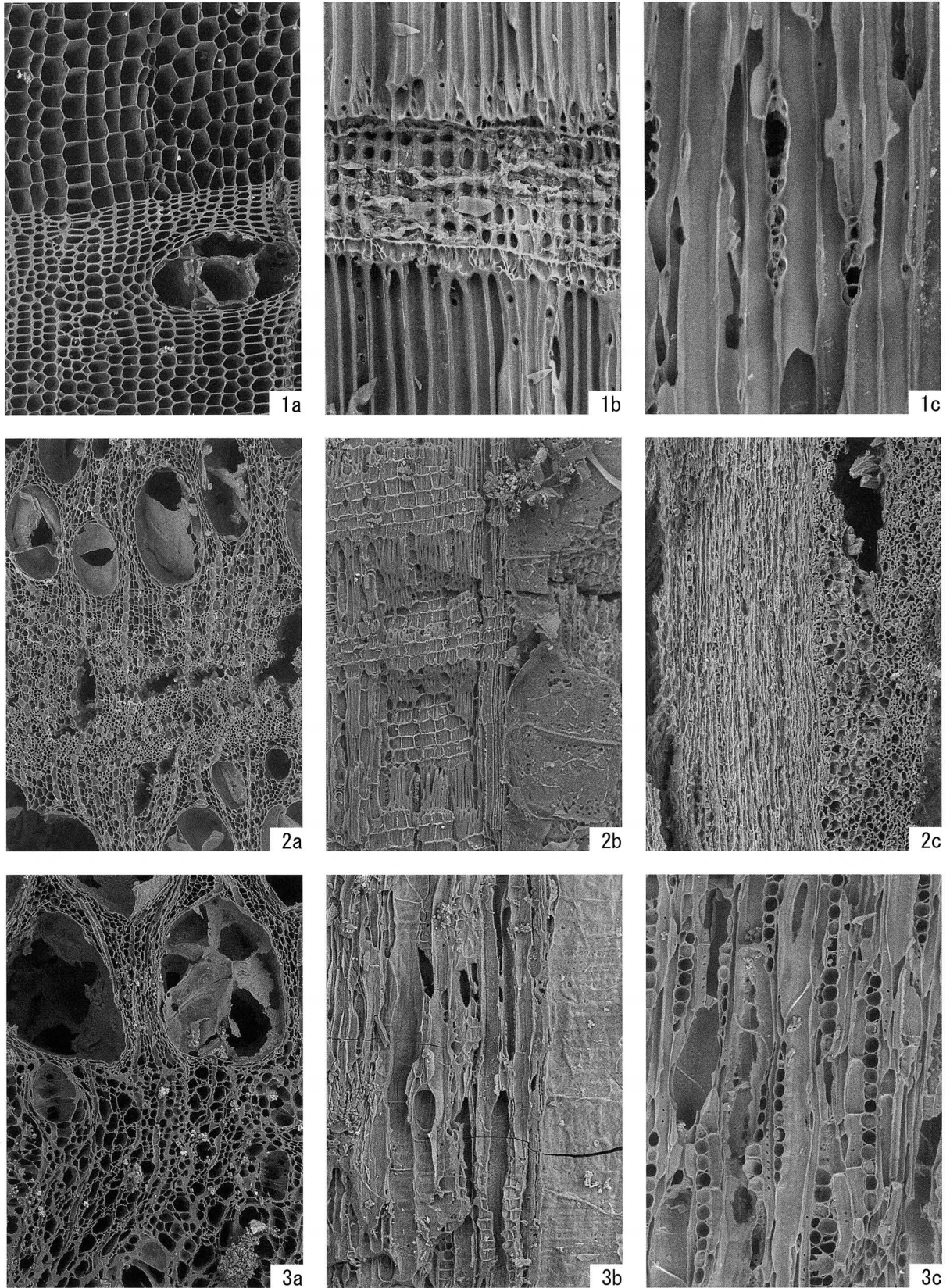
資料No.	遺構	位置・層位	種類	樹種	補正年代	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代 B P	Code No.	Measurement No.
No.821	SK143	北半覆土4層	炭化材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	910±30	-27.47±0.52	950±30	10214-1	IAAA-81316
No.825	SW101	北西覆土2層	炭化材	クリ	970±30	-26.09±0.64	990±30	10214-2	IAAA-81317
No.831	SN108	東半焼土内	炭化材	マツ属複雑管束亜属	880±30	-28.78±0.73	940±30	10214-3	IAAA-81318

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$ （測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

表 2 暦年較正結果

資料No.	遺構	補正年代 (B P)	暦年較正年代 (cal)						相対比	Code No.	
			$\sigma$	cal AD 1,044 - cal AD 1,098	cal AD 1,119 - cal AD 1,142	cal AD 1,147 - cal AD 1,167	cal BP 906 - 852	cal BP 831 - 808			cal BP 803 - 783
No.821	SK143	908±30	$\sigma$	cal AD 1,021 - cal AD 1,046	cal AD 1,090 - cal AD 1,121	cal AD 1,139 - cal AD 1,149	cal BP 929 - 904	cal BP 860 - 829	cal BP 811 - 801	0.448	10214-1
			$2\sigma$	cal AD 1,036 - cal AD 1,191	cal AD 1,196 - cal AD 1,207	cal BP 914 - 759	cal BP 754 - 743	0.966	0.034		
No.825	SW101	972±29	$\sigma$	cal AD 1,058 - cal AD 1,072	cal AD 1,155 - cal AD 1,214	cal BP 892 - 878	cal BP 795 - 736	0.099	0.901	10214-2	
			$2\sigma$	cal AD 1,016 - cal AD 1,155	cal BP 934 - 795	1.000					
No.831	SN108	877±28	$\sigma$	cal AD 1,044 - cal AD 1,101	cal AD 1,119 - cal AD 1,143	cal BP 906 - 849	cal BP 831 - 807	0.236	0.076	10214-3	
			$2\sigma$	cal AD 1,146 - cal AD 1,222	cal BP 804 - 728	0.638					

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を使用した。
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は $\sigma$ は68%、 $2\sigma$ は95%である
- 5) 相対比は、 $\sigma$ 、 $2\sigma$ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。



1. マツ属複維管束亜属(SN108;試料No.831)  
 2. コナラ属コナラ亜属コナラ節(SK143;資料No.821)  
 3. クリ(SW01;資料No.825)  
 a:木口,b:柁目,c:板目

200  $\mu$  m:2-3a  
 200  $\mu$  m:1a,2-3b,c  
 100  $\mu$  m:1b,c

## (2) 種 実 同 定

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

岩手県宮古市八木沢Ⅱ遺跡は、八木沢川左岸(西岸)の山地緩斜面に立地し、これまでの発掘調査により、縄文時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構、土器埋設遺構、古代の炭窯跡、鍛冶炉などが検出されている。今回の分析調査では、古代の炭窯跡から出土した種実の同定を実施し、当時の植物利用に関する情報を得る。

### 試料

試料は、古代の炭窯跡SW101のベルトA-A' 2層(資料No. 838)から出土した、種実1点(0.9g)である。

### 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)等との対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。分析後は、種実を袋に戻し、容器に入れて返却する。

### 結果

落葉広葉樹のモモの核に同定された。以下に、形態的特徴を記す。

・モモ(*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核(内果皮)の完形1個、破片2個が確認された。炭化しており黒色。広楕円体でやや扁平。完形個体は、側面の一部を欠損しており、長さ19.09mm、幅14.51mm。破片個体は、完形個体の欠損部分と思われ、大きさは最大11.48mm。核の基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1本の明瞭な縦の縫合線が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。核の内側表面は平滑で、種子1個が入る楕円状の窪みがみられる。

### 考察

モモは、中国から栽培のために持ち込まれた渡来種で、古墳時代では確実な栽培植物とされる(南木, 1991)。モモは、観賞用の他、果実や核の中にある仁(種子)などが食用、薬用等に広く利用されることから、当時の八木沢Ⅱ遺跡および周辺域における利用が推定される。

栽培植物のモモの核が、古代の炭窯跡とされるSW101より炭化した状態で出土したことから、利用後の廃棄や何らかの理由により火熱を受け炭化したことが推定される。ただし、炭窯内で製炭時に炭化したのか、別の場所で炭化した核が炭窯内に廃棄されたのかについては、不明である。

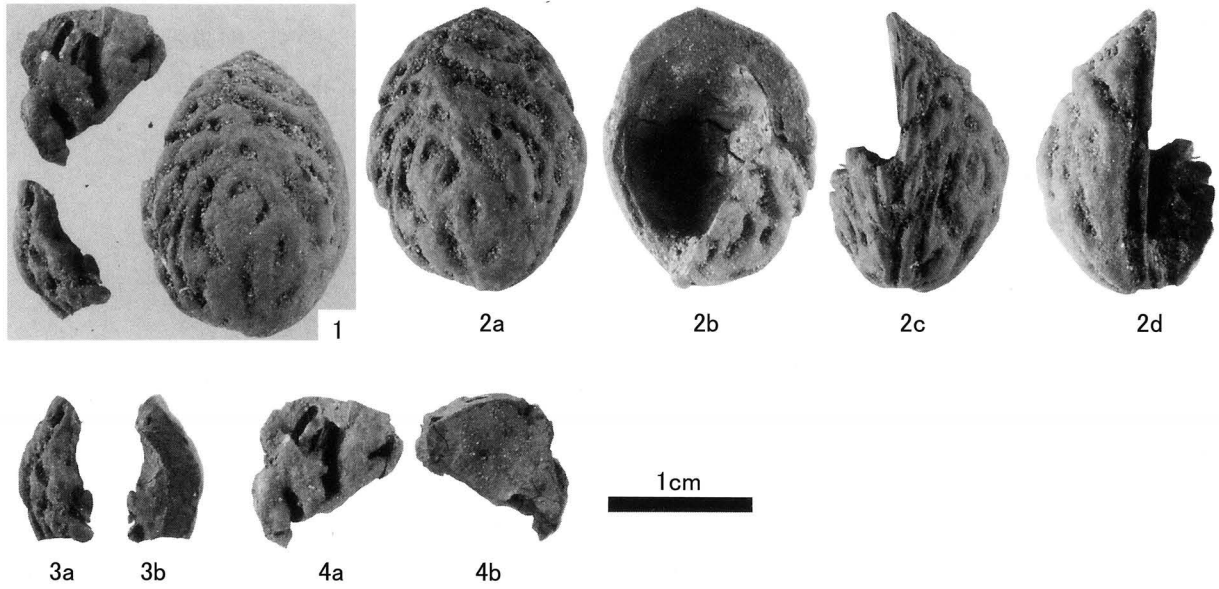
なお、前回の分析調査結果報告書では、SW101の出土炭化材がクリに同定され、炭窯内で製炭された木炭の用材にクリが選択されていた可能性を指摘している。また、出土炭化材の年代測定値が cal AD1, 021~1, 149であることから、平安時代後期頃に操業された炭窯である可能性を指摘している。

引用文献

石川 茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.

南木 睦彦, 1991, 栽培植物, 古墳時代の研究 4 生産と流通 I, 石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編, 雄山閣, 165-174.

中山 至大・井之口希秀・南谷 忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.



1. モモ 核(資料No.838 SW01 ベルトA-A' 2層)    2. モモ 核(資料No.838 SW01 ベルトA-A' 2層)  
 3. モモ 核(資料No.838 SW01 ベルトA-A' 2層)    4. モモ 核(資料No.838 SW01 ベルトA-A' 2層)

図版1 種実遺体

### (3) 鉄製品の成分分析及び保存処理

#### a 成分分析

川鉄テクノロジー株式会社 分析・評価事業部 埋蔵文化財調査研究室

#### はじめに

岩手県宮古市八木沢Ⅱ遺跡から出土した鉄製品遺物（棒状、角形）について、顕微鏡組織観察にもとづく調査を依頼された。遺物の特徴、製造方法などを調査した結果について報告する。

#### 調査項目および試験・観察方法

##### (1) 調査項目

調査項目は棒状鉄製品端部のC方向とL方向の断面顕微鏡観察と化学成分分析である。

##### (2) 調査方法

###### a 化学成分分析

化学成分分析は鉄鋼に関するJIS分析法に準じて行っている。

###### b 顕微鏡組織観察

資料の一部を切り出し樹脂に埋め込み、細かい研磨剤などで研磨（鏡面仕上げ）する。金属鉄はナイタール（5%硝酸アルコール液）で腐食後、顕微鏡で観察しながら代表的な断面組織を拡大して写真撮影し、顕微鏡組織および介在物（不純物、非金属鉱物）の存在状態等から製鉄・鍛冶工程の加工状況や材質を判断する。原則として100倍および400倍で撮影を行う。

#### 調査結果および考察

##### 資料番号605 棒状鉄製品

**外観：**端に大きな銹化瘤の見られる角釘と思われる棒状鉄製品である。頭と思われる太い側の端部は打撃によると見られるまくれが生じている。既に泥土や付着物が丁寧に除去されており、きれいな黒銹が出ており、光沢のある滑らかな表面に仕上げられている。金属鉄の遺存状態は非常に良好である。頭部と思われる部分を半裁し、C方向断面（長手方向に対して垂直な断面）とL方向断面（長手方向に対して平行な断面）を顕微鏡観察により調査した。

**顕微鏡組織：**C方向断面：顕微鏡写真①～④に示す。①、②では結晶粒界に初析のセメンタイト（Fe<sub>3</sub>C、鉄炭化物）が析出し、素地はセメンタイトが比較的多いパーライト組織の一般的な過共析鋼（C>0.8%）組織である。また、③、④のようなセメンタイトが球状化している部分もある。800℃～900℃の温度域に比較的に長く置かれた可能性がある。黒く見える介在物は一方向に伸びていない。

L方向断面：顕微鏡写真③、④に示す。ともに基本的な差はなく、結晶組織は過共析鋼の組織で①とほぼ同じである。介在物は紙面に対して横方向に伸びており、紙面に対して直角方向から鍛造されている。C断面の介在物の変形の仕方と併せると資料が伸びるように鍛造されたと考えられ、球状化セメンタイトが見られることから焼きならしなどの熱処理がなされた可能性もある。

**化学成分：**化学成分分析の結果を表1に示す。炭素含有量が1.23%で、過共析鋼の炭素含有量である。Pは0.017%と低い。Sは0.050%と低い。Siが0.033%、Alが0.010%、Caが0.013%と少量検出さ



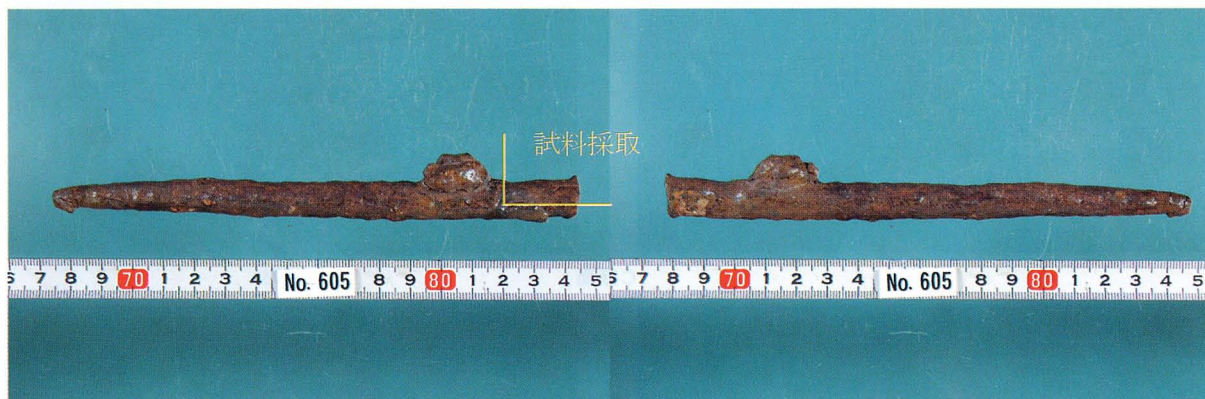
れ、これらは当時の製鉄技術では還元されないで滓などに起因する。検出量は少なく、これは滓の分離が精錬過程で良くなされたことを伺わせる。Ti、Vも検出されているが非常に少なく、砂鉄に起因（始発原料が砂鉄）するか否か判断はできない。

表1 棒状鉄製品部の化学成分分析結果

C	Si	Mn	P	S	Cu	Ni	Co	Al	V	Ti	Ca	Mg
1.23	0.033	0.003	0.017	0.050	0.009	0.007	0.021	0.010	0.002	0.006	0.013	0.002

まとめ

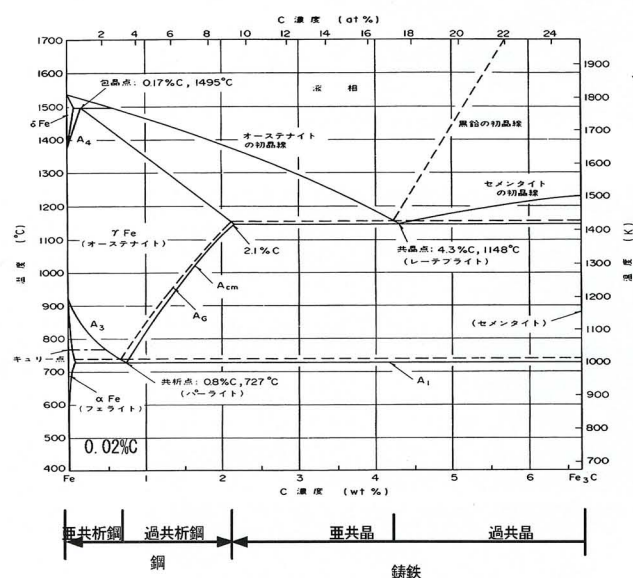
本資料は鍛造により作られた角釘状の棒状鉄製品でCは1.23%とやや高く、過共析鋼である。焼きならしが施されている。



外観 資料No. 605

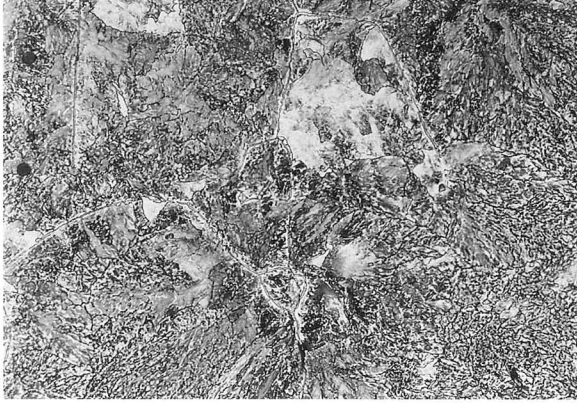
参考

(1) 鉄-炭素系平衡状態図





1 八木沢Ⅱ遺跡

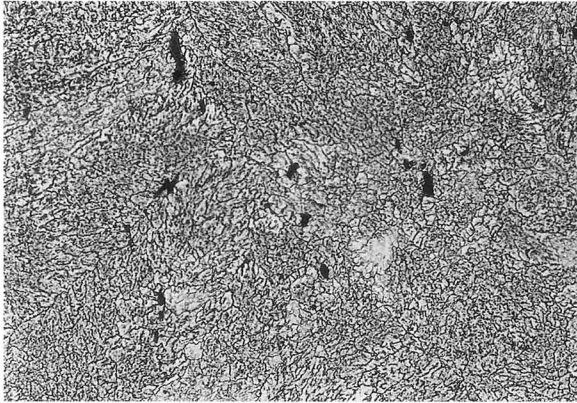


× 100

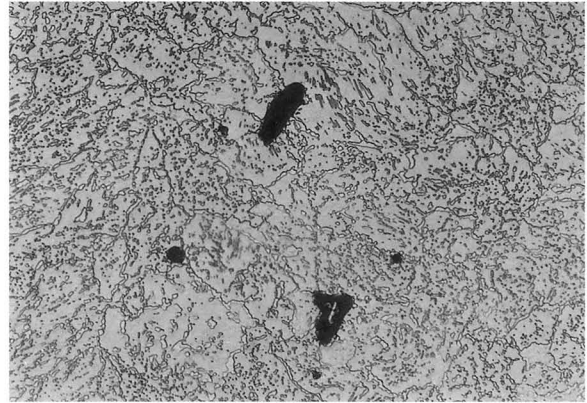


C断面

× 400

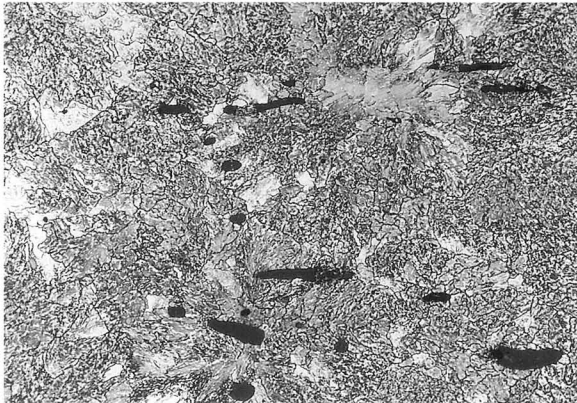


× 100

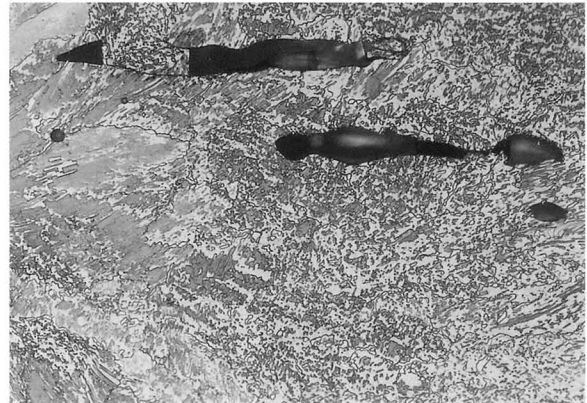


C断面

× 400



× 100



L断面

× 400



× 100



L断面

× 400

## b 保存処理

J F Eテクノロジー株式会社 分析・評価事業部 埋蔵文化財調査研究室

(財) 岩手県文化振興事業団殿のご依頼による表記出土品の保存処理業務が完了し、ここにその経緯について報告する。

## 受託内容と経過概略説明

- (1) 金属製品15点について、可能な限り現状維持での保存処理をしたいとのご要望があり、保存処理を行った。
- (2) 基本的に折損部の接続が確認できるものは接合することで修復した。
- (3) 鉄製品については脱塩処理を施した。
- (4) 資料609については分析調査も実施した。結果は別途報告済みである。

## 事前調査

## (1) 外観写真撮影

外観写真はmm単位まであるスケールを同時写しこみ撮影した。  
デジタルカメラにて撮影した。

## (2) X線透過写真撮影

装置	(株) 理学電機製 RF250EGS-2
電圧・電流	110~160Kvp・5mA
焦点・フィルム間距離	800mm
露出時間	0.2~0.5min
使用フィルム	フジX線フィルム #50
現像条件	28℃ 5min

## (3) 外観観察・計測・計重

保存処理に先立ち、重量計測は電子天秤（大和製衡（株）YAD-1200卓上秤量器）を使用して行い、小数点2位で四捨五入した。金属反応、外観観察は下記の装置を用いて実施した。

京都衡器（株）製MR-50金属探知機・巻尺・ルーペその他を使用した。

## 保存処理

## (1) クリーニング

エアブラシ・筆等を用いて外観写真を参考にしながら、付着土砂・銹瘤・白錆・緑青などの除去を行った。

## (2) 脱塩処理・防錆処理・乾燥処理

鉄製品に関しては脱塩処理を実施した。脱塩の基本操作は、遺物資料総重量の5倍量の純水に浸漬させながら、40℃に加温し、定期的に純水を交換し、脱塩の進行を確認するために吸光光度計で脱塩処理水の塩化物イオン（Cl<sup>-</sup>）濃度を測定した。塩化物イオン濃度（Cl<sup>-</sup>）が1ppm（1万分の1%）以下になった時点で脱塩終了とした。（表1~3、図1~3参照）。

①吸光光度法；（吸光光度計；島津製作所UV-160A）検液約100mlをろ過し、ろ液20mlを100mlメスフラスコ2個に分液した。1個はブランク対照液用とした。残った方に（1+2）硝酸5ml、2%硝酸銀溶液1mlを加え一定量とし、15分間放置後、直ちに波長390nmにおける吸光度を測定し、塩化物イオン（Cl<sup>-</sup>）濃度を求めた。

表1～3及び図1～3に示すように、鉄製品の錆化を促進する陰イオン濃度（遺物の重量基準）の推移に注目して処理作業を進め、脱塩化物イオン（Cl<sup>-</sup>）の積分曲線が略脱塩平衡に値に達したことを見極めて脱塩処理は十分に行われたと判断した。

脱塩速度の促進を図るため、脱塩処理時間初期（16日間）にセスキ炭酸ナトリウム（Na<sub>2</sub>CO<sub>3</sub>・NaHCO<sub>3</sub>）2%水溶液中に浸漬させた。

上記脱塩処理後、各遺物資料はエタノールに浸漬させ水分を十分置換脱水させたのち風乾した。更に乾燥器内60℃で乾燥を行った後、自然除冷した。

### （3）接合・補填

錆瘤を除去し、可能な限り復元して保存処理をするとの方針で研削・接合することとし、補填作業は数次に分けて行った。

ミニルーターによる研削・アラルダイド接着・人口木材補填作業を同時に進行させた。

### （4）樹脂含浸

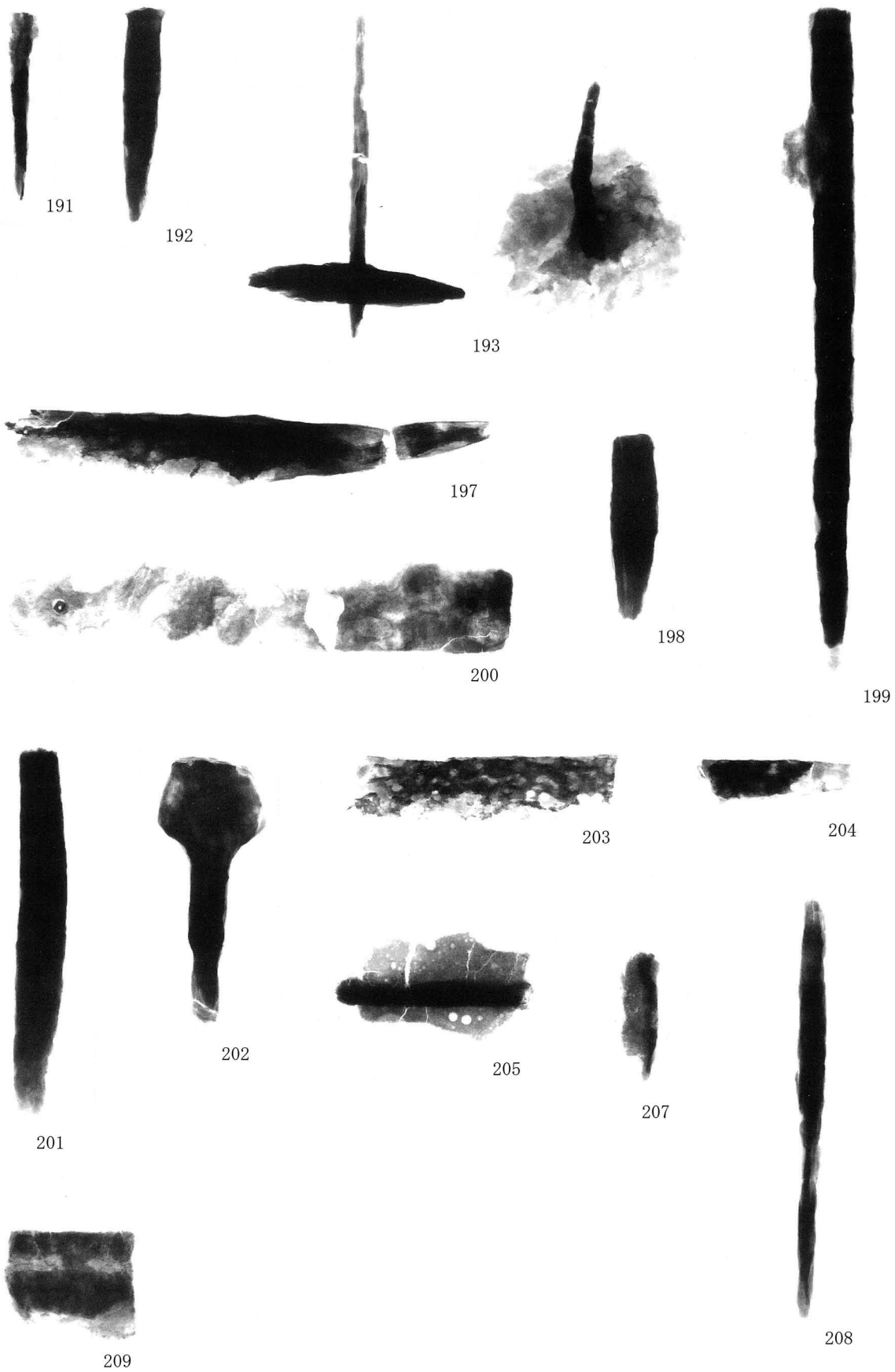
アクリル樹脂（パラロイドB-72）の15%キシレン溶液を用い真空含浸装置内で30mmHgに減圧して概ね24時間樹脂含浸させた。この作業を3回行った。なお、遺物の強度を得るため樹脂濃度を大きくしたので、多少のてかりは発生せざるを得なかった。

### （5）部分彩色・補彩・保存処理

樹脂含浸後、アクリル顔料を用い微小な樹脂補填部の古色（色合わせ）および艶消しを行った後、乾燥器（60℃）で乾燥し、発錆の有無、仕上り状況の不具合等の確認を行った。その後、脱酸素剤と共にハイパックに収め、発送に備えた。

## 終わりに

- （1）本来、樹脂含浸処理を行っても樹脂は残存金属の中までは浸透せず、錆化部との間に樹脂皮膜を形成して空気中の酸素による酸化・発錆を阻止したり、遅らせる目的で実施するものである。脱塩素処理や樹脂含浸処理を完全に行ったとしても、その後の保管状況（例えば、温度差の激しいところに展示・保管したり、湿気が多い室内での観察などの繰り返し）によって、遺物そのものが膨張・収縮を繰り返して厳密な意味での気密性が損なわれ、透過性の強い水分子や腐食性のあるガス等により再び錆化が始まることも十分注意しなければならない。
- （2）折損部を接合修復した場合、今回は小型遺物であったため比較的軽作業で済んだが、運送・移動の際は十分な注意が肝要である。



#### (4) 鉄滓類の成分分析

JFEテクノロジー株式会社 分析・評価事業部 埋蔵文化財調査研究室

##### はじめに

(財)岩手県文化振興財団殿から宮古市八木沢に所在する八木沢Ⅱ遺跡から出土した鉄関連遺物について、化学成分分析を含む自然科学的観点での調査を依頼された。出土鉄滓の化学成分分析、外観観察、ミクロ組織観察、X線回折等に基づき、資料の製造工程上の位置づけおよび始発原料などを中心に調査した。その結果について報告する。

##### 調査項目および試験・観察方法

###### (1) 調査項目

調査資料の記号、出土遺構・注記および調査項目を表1に示す。

###### (2) 調査方法

###### a 重量計測、外観観察および金属探知調査

資料重量の計量は電子天秤を使用して行い、少数点2位で四捨五入した。各種試験用試料を採取する前に、資料の外観をmm単位まであるスケールを同時に写し込みで撮影した。資料の出土位置や資料の種別等は提供された資料に準拠した。

着磁力調査については、直径30mmのリング状フェライト磁石を使用し、6mmを1単位として35cmの高さから吊した磁石が動きは始める位置を着磁度として数値で示した。遺物内の残存金属の有無は金属探知機(MC: metal checker)を用いて調査した。金属検知にあたっては参照標準として直径と高さを等しくした金属鉄円柱(1.5mmφ x 1.5mmH、2.0mmφ x 2.0mmH、5mmφ x 5mmH、10mmφ x 10mmH、16mmφ x 16mmH、20mmφ x 20mmH、30mmφ x 30mmH)を使用し、これとの対比で金属鉄の大きさを判断した。

###### b 化学成分分析

化学成分分析は鉄鋼に関するJIS分析法に準じて行っている。

- ・全鉄(T.Fe) : 三塩化チタン還元-二クロム酸カリウム滴定法。
- ・金属鉄(M.Fe) : 臭素メタノール分解-EDTA滴定法。
- ・酸化第一鉄(FeO) : 二クロム酸カリウム滴定法。
- ・酸化第二鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) : 計算。 ・化合水(C.W.) : カールフィッシャー法。
- ・炭素(C)、イオウ(S) : 燃焼-赤外線吸収法。
- ・ライム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化マンガン(MnO)、酸化ナトリウム(Na<sub>2</sub>O)、珪素(Si)、マンガン(Mn)、リン(P)、銅(Cu)、ニッケル(Ni)、コバルト(Co)、アルミニウム(Al)バナジウム(V)、チタン(Ti) : ICP発光分光分析法。
- ・シリカ(SiO<sub>2</sub>)、アルミナ(Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、酸化カルシウム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、二酸化チタン(TiO<sub>2</sub>)、酸化リン(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)、酸化カリウム(K<sub>2</sub>O) : ガラスビード蛍光X線分析法。  
但しCaO, MgO, MnOは含有量に応じてICP分析法またはガラスビード蛍光X線分析法を選択。
- ・酸化ナトリウム(Na<sub>2</sub>O) : 原子吸光法。

なお、鉄滓中成分は、18成分(全鉄T.Fe、金属鉄M.Fe、酸化第一鉄FeO、酸化第二鉄Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、シリカSiO<sub>2</sub>、アルミナAl<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、ライムCaO、マグネシアMgO、酸化ナトリウムNa<sub>2</sub>O、酸化カリウムK<sub>2</sub>O、

二酸化チタンTiO<sub>2</sub>、酸化マンガンMnO、酸化リンP<sub>2</sub>O<sub>5</sub>、コバルトCo、化合水C.W.、炭素C、ヴァナジウムV、銅Cu)を化学分析している。分析は各元素について分析し、酸化物に換算して表示している。鉄製品中成分の化学分析は、13成分（炭素C、シリコンSi、マンガンMn、リンP、イオウS、銅Cu、ニッケルNi、コバルトCo、アルミニウムAl、ヴァナジウムV、チタンTi、カルシウムCa、マグネシウムMg)を化学分析している。

### c 顕微鏡組織観察

資料の一部を切り出し樹脂に埋め込み、細かい研磨剤などで研磨（鏡面仕上げ）する。金属鉄はナイトール（5%硝酸アルコール液）で、鍛造剥片は王水でそれぞれ腐食後、顕微鏡で観察しながら代表的な断面組織を拡大して写真撮影し、顕微鏡組織および介在物（不純物、非金属鉱物）の存在状態等から製鉄・鍛冶工程の加工状況や材質を判断する。原則として100倍および400倍で撮影を行う。必要に応じて実体顕微鏡（5倍～20倍）による観察も行う。

### d X線回折測定

試料を粉砕して板状に成形し、X線を照射すると、試料に含まれている化合物の結晶の種類に応じて、それぞれに固有な反射（回折）された特性X線を検出（回折）できることを利用して、試料中の未知の化合物を同定することができる。多くの種類の結晶についての標準データが整備されており、ほとんどの化合物が同定される。

測定装置 理学電気株式会社製 ロータフレックス (RU-300型)

測定条件

① 使用X線	Cu-K α (波長=1.54178 Å)
② K β線の除去	グラファイト単結晶モノクロメーター
③ 管電圧・管電流	55kV・250mA
④ スキャンング・スピード	4.0°/min
⑤ サンプリング・インターバル	0.020°
⑥ D.S.スリット	1°
⑦ R.S.スリット	0.15mm
⑧ S.S.スリット	1°
⑨ 検出器	シンチレーション・カウンタ

### 調査結果および考察

調査資料と調査項目を7頁の表1に、表2に試料の化学成分分析結果を、表3にX線回折結果を、それぞれ示した。全資料の外観写真と拡大外観写真を12～17頁に、顕微鏡組織は18～37頁に、X線回折チャートは39～40頁に示した。鉱物組織の英文、化学式は一括して参考に示した。

#### 試料No. 1125 砂鉄⇒ 鉄滓等の微小粒子

**外観観察：**外観を外観写真1に示す。やや薄褐色を帯びた黒灰色の微粒子である。通常の砂鉄のような光沢がない。着磁は強く、砂鉄のようにさらさら流れず、流動性が悪い。砂鉄とは異なる。拡大外観写真1に約40倍に拡大した外観（撮影は100倍）を示す。丸い粒状滓や不定型な滓の微粒子で、表面はざらざらとして荒れており、光沢はない。鉄滓の微粒子である。

**顕微鏡組織**：顕微鏡組織を顕微鏡写真1-1～1-4に示す。金属鉄粒を内包する粒状滓、内部が空洞の粒状滓、マグネタイトの鉱物組織が明瞭に観察される。鉄滓の小片、錆の小片、磁鉄鉱砂鉄粒子などが観察される。砂鉄粒子は少なく、大部分は鉄滓の小粒子である。

**X線回折**：結果を表3、X線回折チャート1に示す。マグネタイト(Magnetite:Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>)の回折線が高強度で、石英の弱い回折線が認められ、ヘマタイト(Hematite:Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、ウスタイト(Wustite:FeO)、金属鉄が微弱な回折線により確認される。

**化学成分**：分析結果を表2に示す。全鉄61.8%に対して金属鉄は0.63%である。FeOは23.9%、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は60.9%、SiO<sub>2</sub>は7.83%、TiO<sub>2</sub>は1.89%であり始発原料は砂鉄と判断される。本試料は鉄滓粒子の集合体なので一固体としての判断は必ずしも適切ではないが、滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図1、2、3は図で見ると低TiO<sub>2</sub>砂鉄の精錬鍛冶滓の位置にある。八木沢Ⅱ遺跡は賽の神遺跡、島田Ⅱ遺跡、山口館跡、近内館遺跡など閉伊川流域の低チタン砂鉄に係わる鉄関連遺跡の近隣にあり低チタン砂鉄を始発原料と考えることは自然である。

図4に近隣遺跡出土鉄滓の砂鉄の指標成分であるTiO<sub>2</sub>とMnOについてT.Feで規格化して整理したMnO/T.FeとTiO<sub>2</sub>/T.Feの関係を示す。各所の滓と同じ分布の中にあり、また各所の砂鉄よりも左下にある。従って同種の砂鉄が原料として使用された鍛冶系の滓と推察される。

以上の結果から、本試料は低TiO<sub>2</sub>砂鉄を始発原料とする精錬滓の微小粒子と判断される。

#### 資料番号1215 鍛造剥片、着磁度：強、メタル反応：なし

**外観観察**：典型的な鍛造剥片で、片面は銀灰色を呈し、反対面が暗褐色を呈するものが大部分である。一部には反対面が鉄錆の茶褐色を呈するものがあり、剥離時に随伴した金属鉄が錆化した可能性がある。光沢、厚さなどから鍛錬中期以降の生成と思われる。この中から下表の4ヶの試料を選択肢顕微鏡観察を行った。拡大した外観写真を拡大外観写真2-1～2-4に示す。観察結果は下表に記した。

No.	形状			色調	表	裏	磁着	気孔
	長軸	短軸	厚さ					
2-1	4.6	3.5	0.34	暗褐色	平滑である。 光沢なし。	やや凸凹あり。 光沢なし。	強	あり
2-2	4.5	2.2	0.18	銀灰色～ 暗褐色	平滑である。 やや光沢あり。	平滑である。 光沢あり。	強	なし
2-3	3.6	2.2	0.17	銀灰色～ 暗褐色	平滑である。 やや光沢あり。	平滑である。 光沢あり。	強	なし
2-4	5.0	2.5	0.2	暗褐色	平滑である。 光沢なし。	やや凸凹ある。 やや光沢がある。	強	なし

**顕微鏡組織**：顕微鏡組織を顕微鏡写真2-1～2-4に示す。いずれも王水腐食をして観察した。試料2-1では3層構造がはっきりせず、ヘマタイト(Hematite:Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)とマグネタイト(Magnetite:Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>)の2層構造のように見える。試料2-2では3層構造が明瞭で気孔もすくない。外層は白色で非常に薄いヘマタイト(Hematite:Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)で、中間層はやや黄色のマグネタイト(Magnetite:Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>)、これより

内層は非晶質に近いウスタイト (Wustite:FeO) 組織となっている。内層のウスタイト (Wustite:FeO) はマグネタイト (Magnetite:Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>) との混晶の可能性もある。試料 2-3 も 3 層構造でほぼ試料 2-2 と同じだがウスタイト層が結晶粒の痕跡が残っている。試料 2-4 は 3 層構造を示し、ウスタイト層はほぼ非晶質だがマグネタイトが分散して混在している。これらの試料はいずれも鍛錬の中期以降の生成物とおもわれる。

**X線回折**：結果を表 3、X線回折チャート 2 に示す。マグネタイト (Magnetite:Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>) が強い回折線を、ウスタイト (Wustite:FeO) が弱い回折線を示し、ヘマタイト (Hematite:Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、ファイヤライト (Fayalite:2FeO・SiO<sub>2</sub>)、金属鉄微弱な回折線により確認される。

以上より、本試料は鍛錬鍛冶の中期以降に生成した鍛造剥片と思われる。

#### 試料番号1311 粒状滓、着磁：強～なし、メタル度：なし

**外観観察**：大部分が暗褐色で穴の開いた粒状滓で磁の強いものからないもの、粒径も 3 mm 位から 1 mm 位のものまで様々である。精錬段階のものが多いように思われる。着磁の強弱と大きさから下表の 7 個の粒状滓を選択し、顕微鏡観察した。実体顕微鏡で撮影した拡大外観写真を拡大外観写真 3-1～3-6 に示す。外観観察結果は表に記した。

記号	直径(mm)	色 調	形状および表面性状	磁着	気孔
3-1L	3.3	黒色	ほぼ球形。滑らかな表面だが光沢はない。	強	あり
3-1M	2.5	黒褐色	いびつな球形。凹凸多く、光沢はない。	強	あり
3-1S	1.6	黒褐色	いびつな球形。微粒付着物がおおく、光沢なし。	強	あり
3-2L	2.9	黒褐色	やや楕円型。表面滑らかだが光沢はない。	中	なし
3-2S	1.8	暗褐色	ほぼ球形。小さな凹凸が多く、光沢はない。	なし	なし
3-3S	1.8	暗褐色	ほぼ球形。小さな凹凸多く、光沢はない。	なし	なし

#### 顕微鏡組織

**試料3-1L**：ほぼ全面がマグネタイトでわずかに多角形状のウルボスピネルが観察され、始発原料は砂鉄と判断される。精錬末期の生成物と思われる。

**試料3-1M**：熔融粘土に錆が巻き込まれている。生成時に随伴した金属鉄が錆化したと思われる。精錬末期～鍛錬初期の生成物であろう。

**試料3-1S**：中空の粒状滓で錆の固まりである。鍛錬時の生成物と思われる。

**試料3-2L**：全面に樹枝状のマグネタイトと粒状のウスタイトが観察され、ウスタイト中には微細なごま粒状にウルボスピネルが観察される。

**試料3-1S**：粘土汁に微粒の金属鉄が、表面には随伴した金属鉄粒の錆化物が付着している。

**試料3-3S**：試料3-2Sと同じ粘土汁に金属鉄粒が巻き込まれている。

**X線回折**：結果を表 3、X線回折チャート 3 に示す。マグネタイト (Magnetite:Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>) が強い回折線を、石英 (Quartz:SiO<sub>2</sub>) が中程度の回折線を示しウスタイト (Wustite:FeO)、アノーサイト (Anorthite-CaAl<sub>2</sub>Si<sub>2</sub>O<sub>8</sub>)、金属鉄微弱な回折線により確認される。



これらの粒状滓はいずれも精錬鍛冶工程の末期から鍛錬鍛冶工程初期の生成物と思われる。

**試料1529 精錬滓（粒径のやや大きいもの）、着磁度：弱、メタル反応：なし**

**外観観察：**外観を外観写真4-1に示す。精錬末期～鍛錬鍛冶時初期の派生品と思われる暗褐色で、皺の多い滓である。加熱時に酸化されて十分温度が上がらぬまま垂れたり、はじき飛ばされたものように見える。実質的には粒状滓などと同時期の生成物と思われる。写真はやや大きめの滓片である。片面が溶けて滑らかで、反対面が引き剥がされたようにも見える。大きめの試料2個を選び顕微鏡観察した。残りは化学分析とX線回折に供した。

**顕微鏡組織：**顕微鏡組織を顕微鏡写真4-1～4-4に示す。試料4-1-1では写真4-1のように多角形結晶ウルボスピネル(Ulvospinel:2FeO・TiO<sub>2</sub>)が圧倒的に多く、その背面に短冊状のファイヤライト(Fayalite:2FeO・SiO<sub>2</sub>)が観察される部分や写真4-2に示すような、繭玉状ウスタイト(Wustite:FeO)と多角形結晶ウルボスピネル(Ulvospinel:2FeO・TiO<sub>2</sub>)が半々の部分などがある。組織としては砂鉄系精錬鍛冶滓である。試料4-2では顕微鏡写真4-3、4-4に見られるように凝集状のウスタイト(Wustite:FeO)で精錬末期から鍛錬の工程の滓組織である。

**X線回折：**結果を表3、X線回折チャート4に示す。マグネタイト(Magnetite:Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>)とファイヤライト(Fayalite:2FeO・SiO<sub>2</sub>)の弱い回折線が認められ、ウスタイト(Wustite:FeO)と錆化鉄のゲーサイト(Goethite-α FeOOH)、レピドクロサイト(Lepidocrocite:β FeOOH)の微弱な回折線が検出される。

**化学成分：**分析結果を表2に示した。全鉄41.8%に対して金属鉄は0.20%である。FeOは19.2%、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は38.14%、SiO<sub>2</sub>は25.3%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は7.93%含まれる。滓成分が多い。化合水は3.35%と比較的多く含まれゲーサイトなどの鉄さびが含まれている。TiO<sub>2</sub>は0.61%と少なく始発原料は砂鉄か否か判断できない。燐は0.384%と多く含まれる。本試料は鉄滓粒子の集合体なので一固体としての判断は必ずしも適切ではないが、滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図1、2、3は図で見ると鉍石系の製錬滓に近い位置にある。砂鉄の精錬鍛冶滓に粘土などが多く含まれた滓と判断される。

図4に近隣遺跡出土鉄滓の砂鉄の指標成分であるTiO<sub>2</sub>とMnOについてT.Feで規格化して整理したMnO/T.FeとTiO<sub>2</sub>/T.Feの関係を示す。各所の滓と同じ分布の中にあり、また各所の砂鉄よりも左下にある。従って同種の低TiO<sub>2</sub>砂鉄が原料として使用された鍛冶系の滓と推察される。

以上の結果から、本試料は低TiO<sub>2</sub>砂鉄を始発原料とする精錬滓の小破片と判断される。

**試料1529 精錬滓（小さな滓片）、着磁度：弱、メタル反応：なし**

**外観観察：**外観を外観写真4-2に示す。やや大きめの粒状滓、滓片などの小破片からなる。一部には錆化鉄片も混じっている。顕微鏡観察に重点を置き調査する。90%は着磁があるが残りは磁着が無く錆の印象である。滓としては精錬末期から鍛錬初期とおもわれる。不定型な試料2個を選び顕微鏡観察した。残りは化学分析に供した。

**顕微鏡組織：**顕微鏡組織を顕微鏡写真4-5～4-8に示す。4-5～4-6はいずれもファイヤライト(Fayalite:2FeO・SiO<sub>2</sub>)の素地にマグネタイト(Magnetite:Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>)と錆化鉄のゲーサイト(Goethite-α FeOOH)が浸入している組織である。写真4-7ではファイヤライト(Fayalite:2FeO・SiO<sub>2</sub>)と錆化鉄のゲーサイト(Goethite-α FeOOH)で、写真4-8ではファイヤライト(Fayalite:2FeO・SiO<sub>2</sub>)と繭玉状のウスタイト(Wustite:FeO)が観察される。

**化学成分**：分析結果を表2に示した。全鉄40.5%に対して金属鉄は0.23%である。FeOは26.4%、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は28.2%、SiO<sub>2</sub>は25.8%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は8.13%含まれる。滓成分が多い。化合水は3.35%と比較的多く含まれゲーサイトなどの鉄さびが含まれている。TiO<sub>2</sub>は1.16%含まれ始発原料は砂鉄と判断できる。燐は0.421%と多く含まれる。本試料は鉄滓粒子の集合体なので一固体としての判断は必ずしも適切ではないが、滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図1、2、3は図で見ると鉍石系の製錬滓に近い位置にある。低TiO<sub>2</sub>砂鉄の精錬鍛冶滓に粘土などが多く含まれた滓と判断される。図4に近隣遺跡出土鉄滓の砂鉄の指標成分であるTiO<sub>2</sub>とMnOについてT.Feで規格化して整理したMnO/T.FeとTiO<sub>2</sub>/T.Feの関係を示す。各所の滓と同じ分布の中にあり、また各所の砂鉄よりも左下にある。従って同種の砂鉄が原料として使用された鍛冶系の滓と推察される。

以上の結果から、本試料は低TiO<sub>2</sub>砂鉄を始発原料とする精錬滓の小破片と判断される。

## まとめ

### (1) 遺跡の性格

本調査ではいずれも精錬鍛冶滓と鍛造剥片の鍛錬鍛冶滓であった。精錬鍛冶から鍛錬鍛冶が行われていたものと推察される。

### (2) 始発原料

本調査の鉄滓にはTiO<sub>2</sub>鉍物のウルボスピネルが観察されていることから、始発原料は砂鉄と判断される。また、近隣遺跡のデータと比較し、同種の低TiO<sub>2</sub>濃度砂鉄が使用されたと推察される。

## 参考

(1) **鉄滓の顕微鏡組織について**：鉄滓を構成する化合物結晶には、一般的に表A1のような鉍物組織がある。酸化鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>、FeO)、二酸化ケイ素 (シリカ：SiO<sub>2</sub>)、アルミナ (Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) および二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) を組み合わせた化合物 (固溶体) が多く、これら鉍物結晶は含有量にも依存するが、X線回折により検出され確認できる。鉄滓中の低融点化合物がガラス相 (非晶質) を形成することがあり、X線回折では検出されない。

表A1 鉄滓の顕微鏡鉍物組織とその観察状況

鉍物組織名 (和)	鉍物名 (英)	化学式	偏光顕微鏡観察状況
ヘマタイト	Hematite	$\alpha$ -Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	赤褐色～赤紫色
マグネタイト	Magnetite	Fe <sub>3</sub> O <sub>4</sub>	白青色、四角または多角盤状
ウスタイト	Wustite	FeO	灰白色、繭玉状または樹枝状
ファイヤライト	Fayalite	2FeO·SiO <sub>2</sub>	薄い青灰色、短冊状の長い結晶
ウルボスピネル	Ulvospinel	2FeO·TiO <sub>2</sub>	白色、四角～角形板状結晶
イルメナイト	Ilmenite	FeO·TiO <sub>2</sub>	白色、針状・棒状の長い結晶
シュードブルッカイト	Pseudobrookite	FeO·2TiO <sub>2</sub>	白色、針状の結晶
ゲーサイト	Goethite	$\alpha$ -FeOOH	白～黄色、リング状が多い。
石英 (シリカ)	Silica	$\alpha$ -SiO <sub>2</sub>	白色～半透明

## 図表・写真

表1 調査資料と調査項目

資料No.	出土位置・層位	種類	着磁度	MC反応	外観写真	化学成分	組織写真	X線写真
1125	SN107炉跡 炉底の還元部	微小滓片	○	○	○	○	○	○
1215	SN107炉跡 東半覆土1層	鍛造剥片	○	○	○		○	○
1311	SN107炉跡 北半覆土1層	粒状滓	○	○	○		○	○
1529 (大)	SN107炉跡 北半覆土1層	精錬鍛冶滓	○	○	○	○	○	○
1529 (小)	SN107炉跡 北半覆土1層	精錬鍛冶滓	○	○	○	○	○	○

表2 鉄滓の化学成分分析結果 (%)

資料No.	T.Fe	M.Fe	FeO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	Na <sub>2</sub> O	比率(%)	
											FeO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>
1125	61.8	0.63	23.9	60.90	7.83	2.72	1.02	0.72	0.32	0.21	28.2	71.8
1529	41.8	0.20	19.2	38.14	25.30	7.93	2.64	0.74	1.50	1.11	66.5	33.5
1529	40.5	0.23	26.4	28.24	25.80	8.13	3.27	1.18	1.38	1.01	51.7	48.3

表2 鉄滓の化学成分分析結果(つづき) (%)

資料No.	TiO <sub>2</sub>	MnO	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	Zr	C.W.	C	V	Cu	TiO <sub>2</sub> / T.Fe	MnO/ TiO <sub>2</sub>	造滓 成分 %
1125	1.89	0.17	0.410	0.007	1.19	0.35	0.097	0.004	0.031	0.090	12.82
1529	0.61	0.09	0.384	0.015	3.35	0.40	0.038	0.002	0.015	0.148	39.22
1529	1.16	0.15	0.421	0.037	2.12	0.94	0.091	0.003	0.029	0.129	40.77

C.W.= 化合水、造滓成分 = SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> + CaO + MgO + Na<sub>2</sub>O + K<sub>2</sub>O

表3 X線回折結果

試料No.	同定鉱物種と回折強度
1125	M: 強、Q: 弱、H,W: 微、Ir: 有
1215	M: 強、W: 弱、H,F,Ir: 微
1311	M: 強、Q: 中、W,An,Ir: 微状
1529	M,F: 弱、W,Go,Lep: 微

鉱物記号: W (ウスタイト:Wustite-FeO)、M (マグネタイト:Magnetite-Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>)、  
 F (ファイヤライト:Fayalite-Fe<sub>2</sub>SiO<sub>4</sub>)、Go (ゲーサイト: Goethite- $\alpha$  FeOOH)、  
 Q,Cb (シリカ、クristバライト:Quartz- SiO<sub>2</sub>)、H (ヘマタイト: Hematite-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、  
 An (アノーサイト:Anorthite-CaAl<sub>2</sub>Si<sub>2</sub>O<sub>8</sub>)、Lep (Lepidocrocite:  $\beta$  FeOOH)、  
 Ir (金属鉄: Iron Fe)

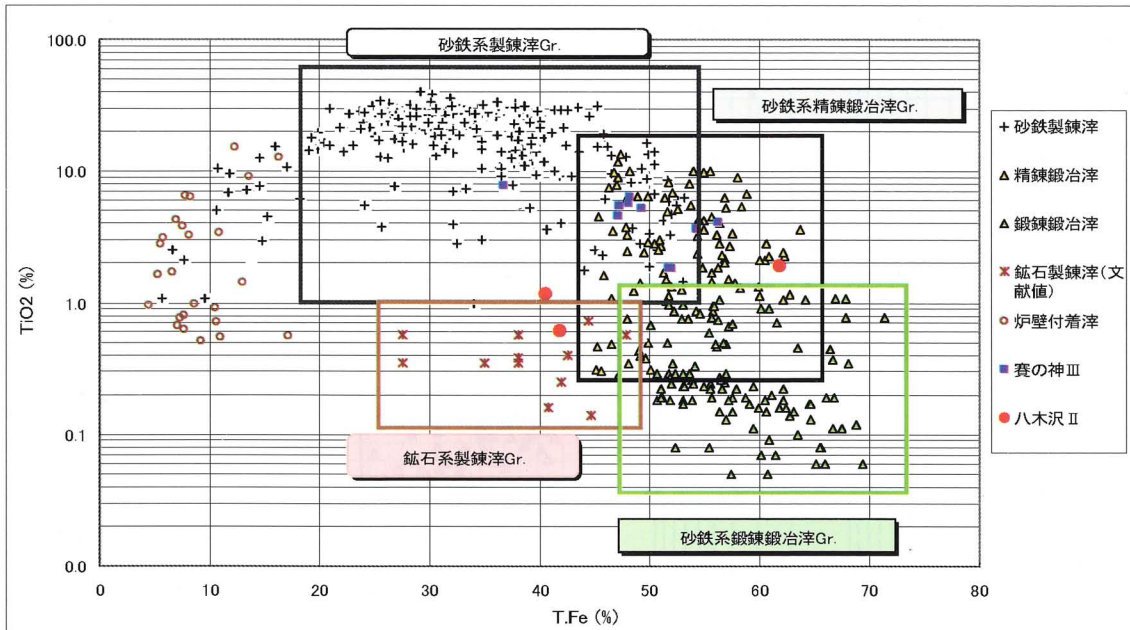


図1 鉄滓のTiO<sub>2</sub>とT.Feの分布

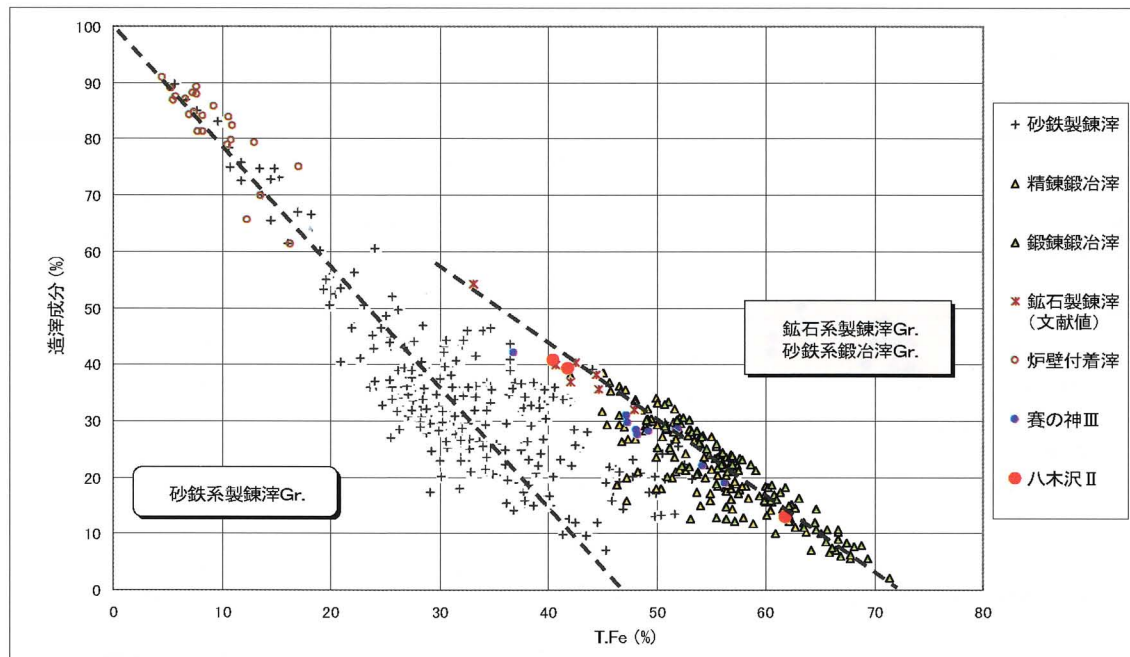


図2 鉄滓のT.Feと造滓成分の関係

(造滓成分 = SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> + CaO + MgO + K<sub>2</sub>O + Na<sub>2</sub>O)

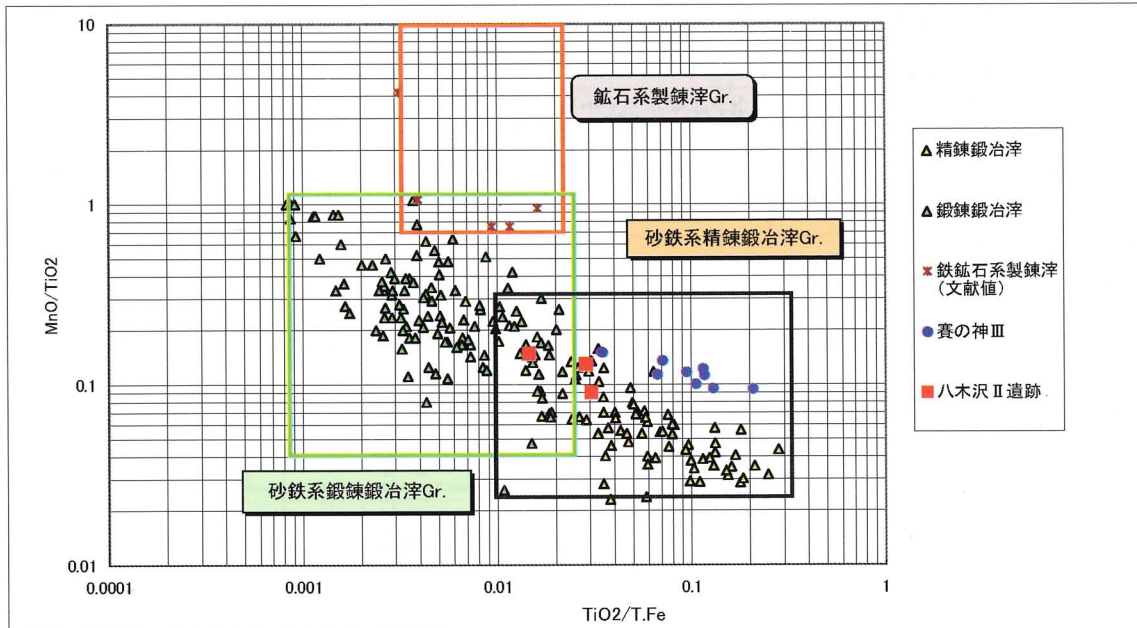


図3 滓のMnO/TiO<sub>2</sub>とTiO<sub>2</sub>/T.Feの関係

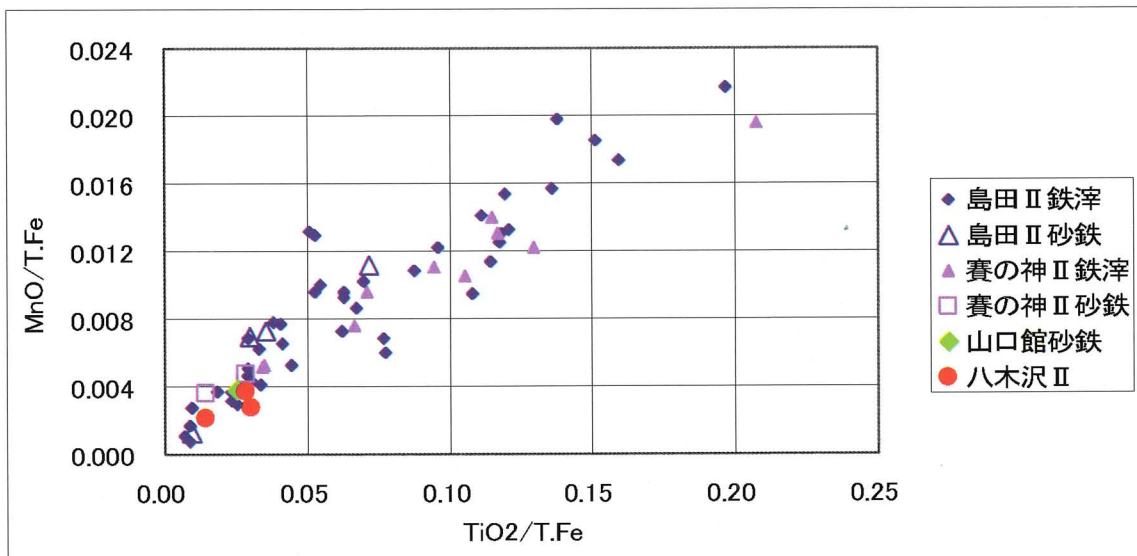


図4 砂鉄と滓のMnO/T.FeとTiO<sub>2</sub>/T.Feの関係





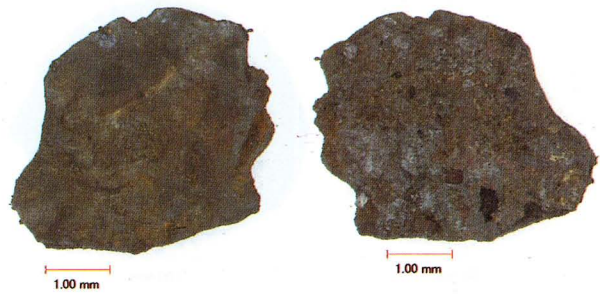
外観写真 1 (試料No.1125)



拡大外観写真 1-2 (試料No.1125)



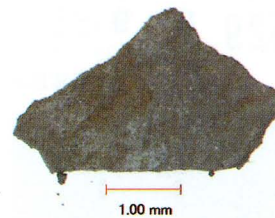
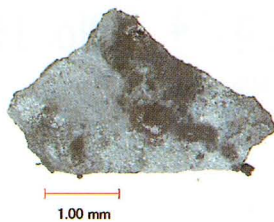
外観写真 2 (試料No.1215)



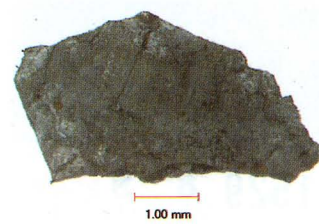
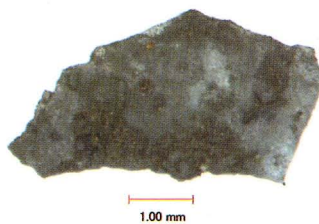
拡大外観写真 2-1 (試料No. 2-1)



拡大外観写真 2-2 (試料No. 2-2)



拡大外観写真 2-3 (試料No. 2-3)



拡大外観写真 2-4 (試料No. 2-4)





外観写真3 (試料No.1311)



拡大外観写真3-1 (試料No.3-1-L)



拡大外観写真3-2 (試料No.3-1-M)



拡大外観写真3-3 (試料No.3-1-S)

拡大外観写真3-4 (試料No.3-2-L)



拡大外観写真3-5 (試料No.3-2-S)



拡大外観写真3-6 (試料No.3-3-S)

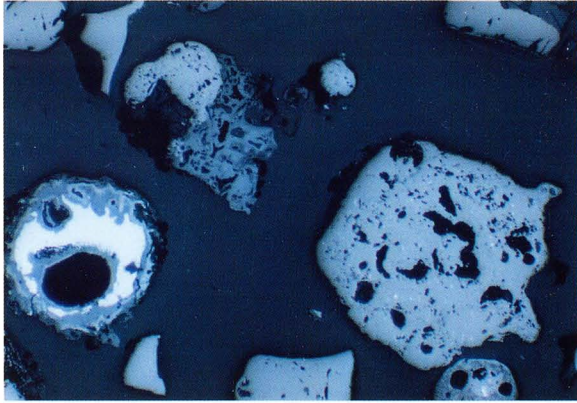


外観写真4-1 (試料No.1529)

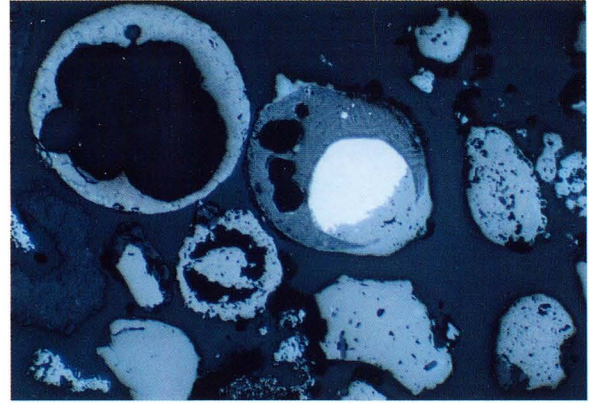


外観写真4-2 (試料No.1529)



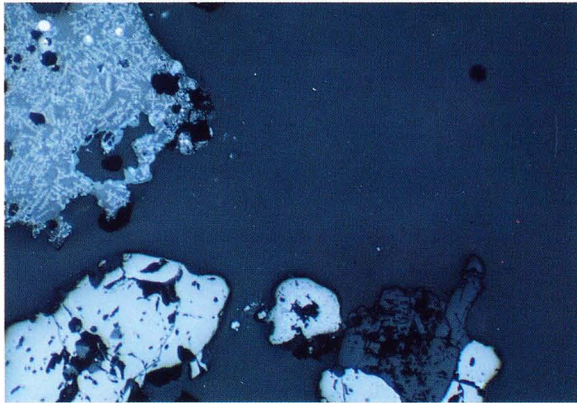


× 100

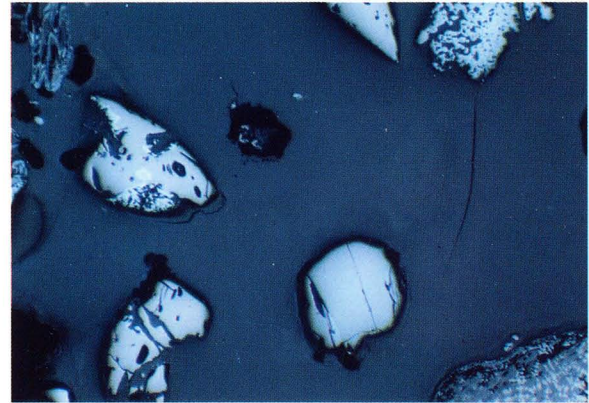


× 100

試料No. 1

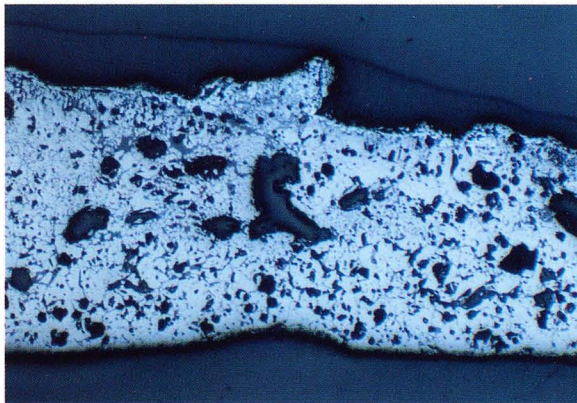


× 100

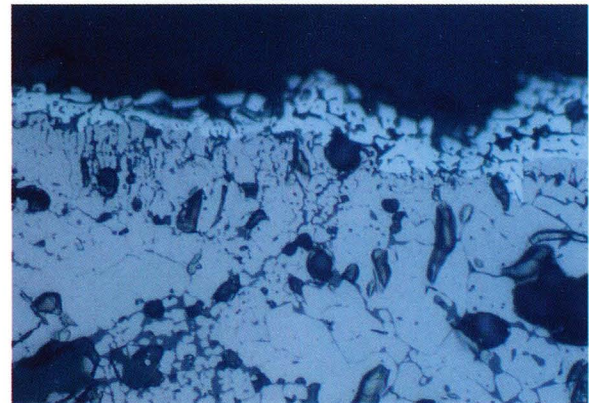


× 100

試料No. 1

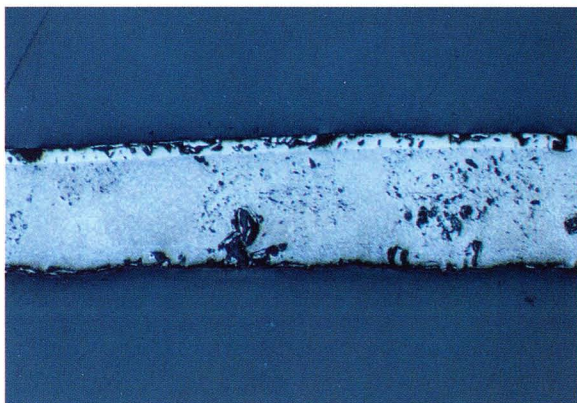


× 100

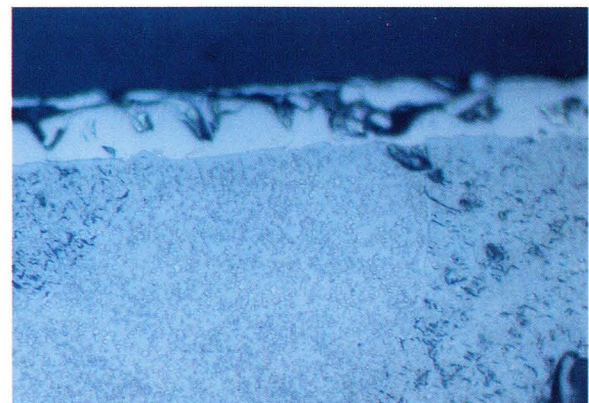


× 400

試料No. 2-1



× 100

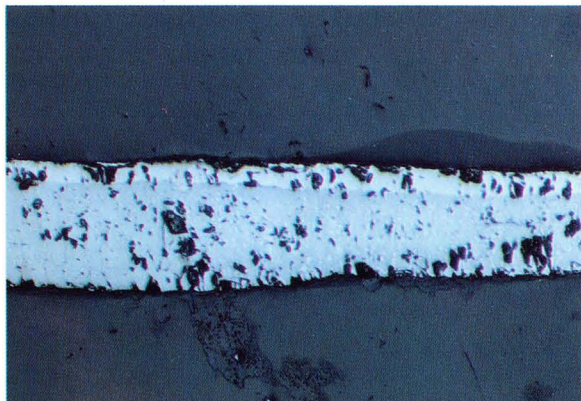


× 400

試料No. 2-2

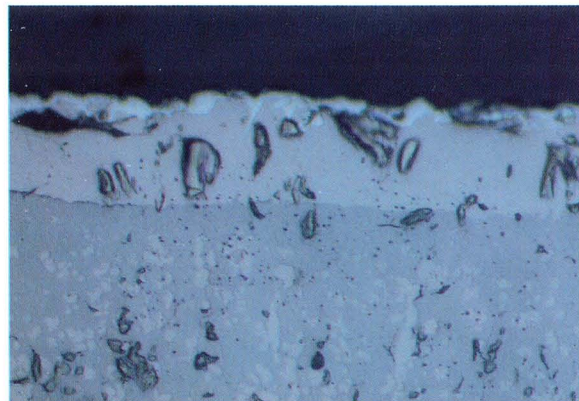


1 八木沢Ⅱ遺跡



× 100

試料No. 2-3

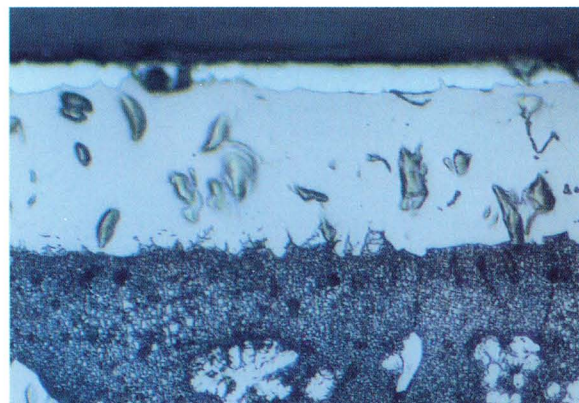


× 400

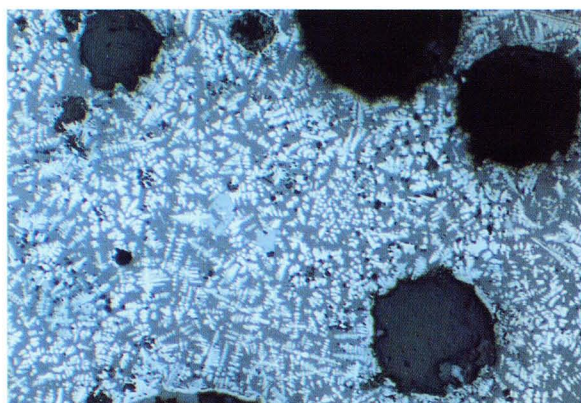


× 100

試料No. 2-4

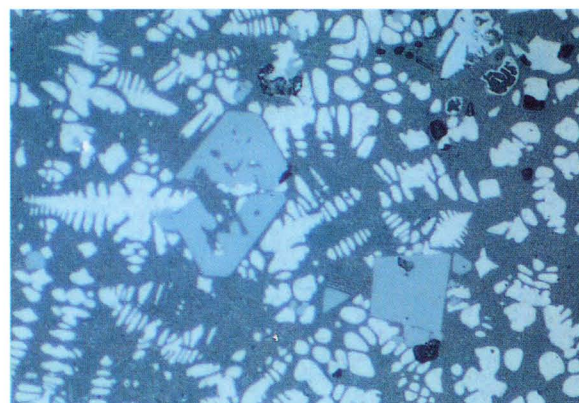


× 400

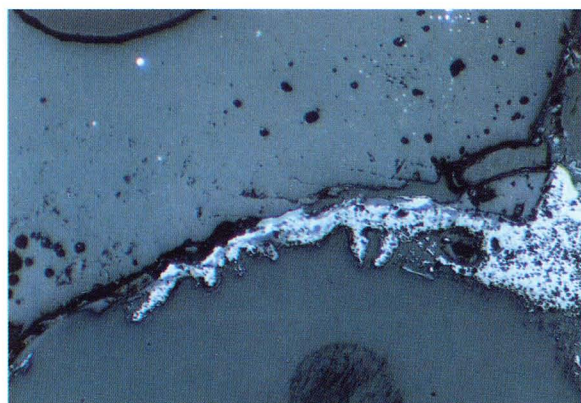


× 100

試料No. 3-1 L

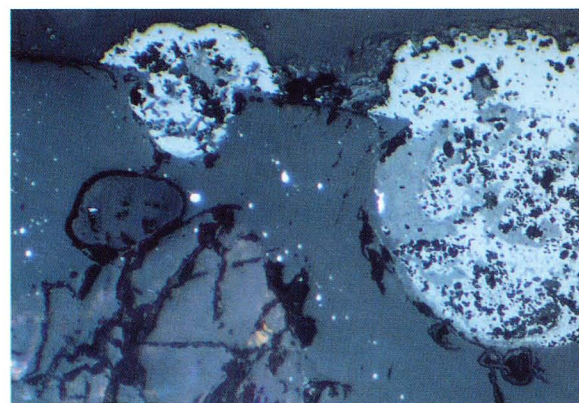


× 400



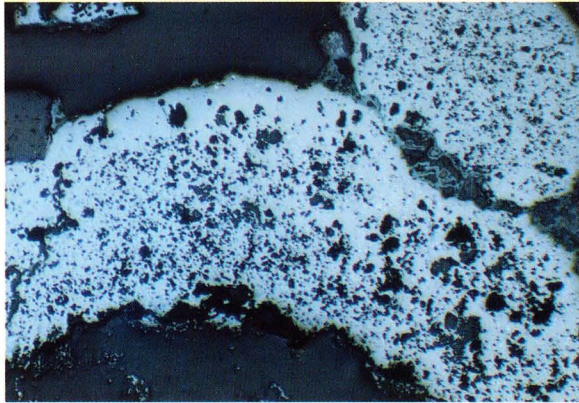
× 100

試料No. 3-1 M



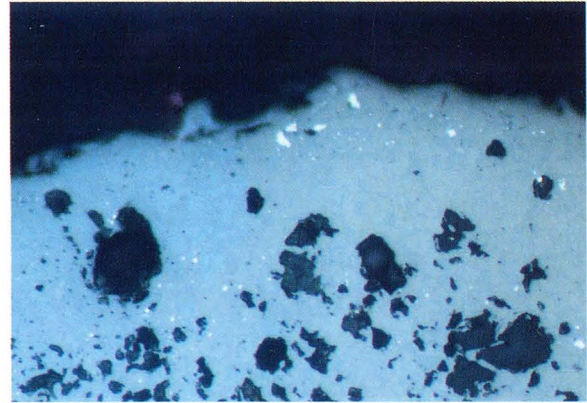
× 200



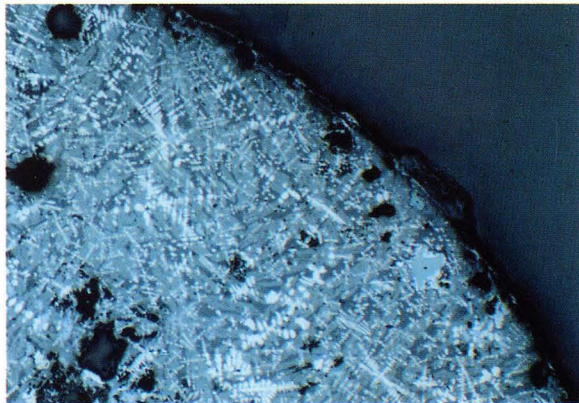


× 100

試料No. 3-1 S

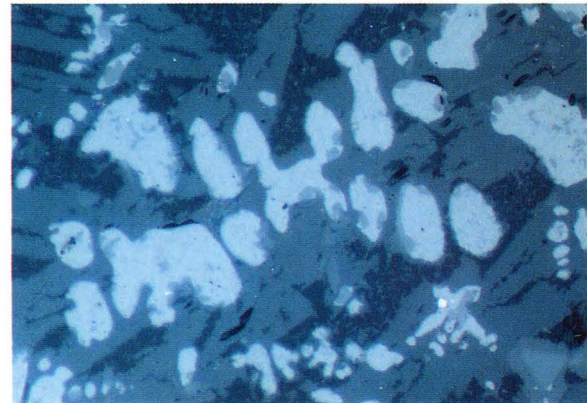


× 400

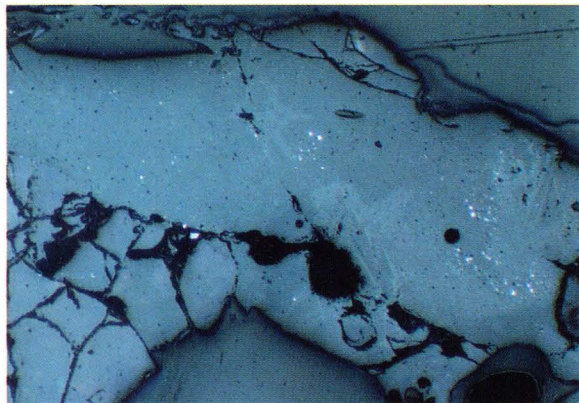


× 100

試料No. 3-2 L

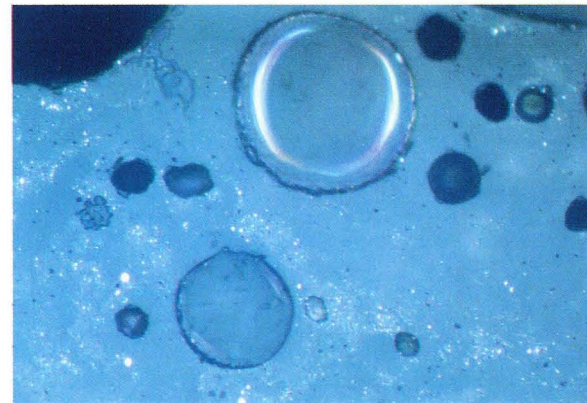


× 400

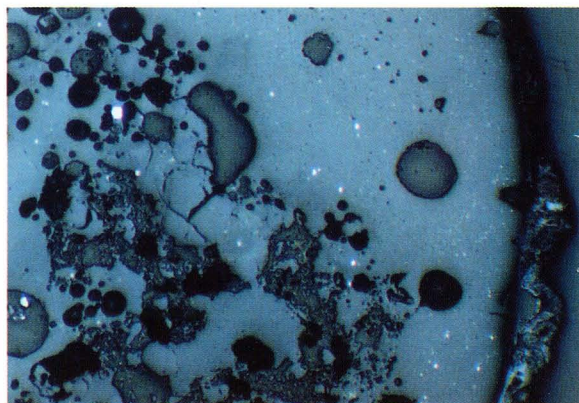


× 100

試料No. 3-2 S

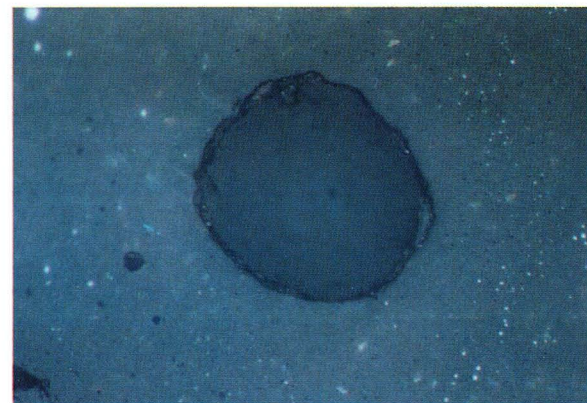


× 400



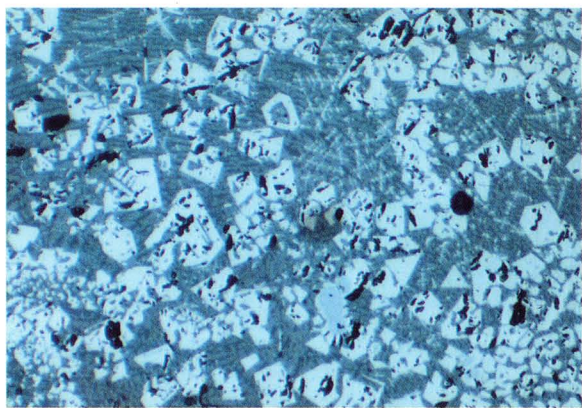
× 100

試料No. 3-3 S



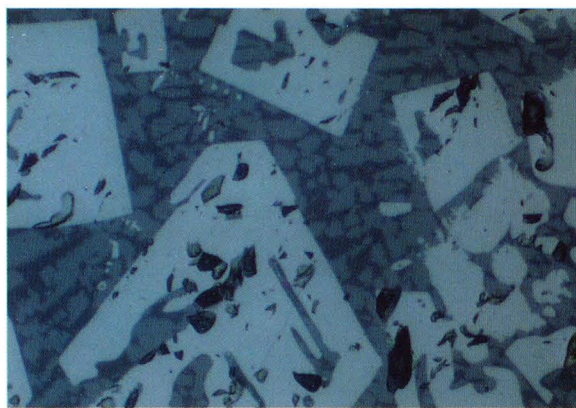
× 400



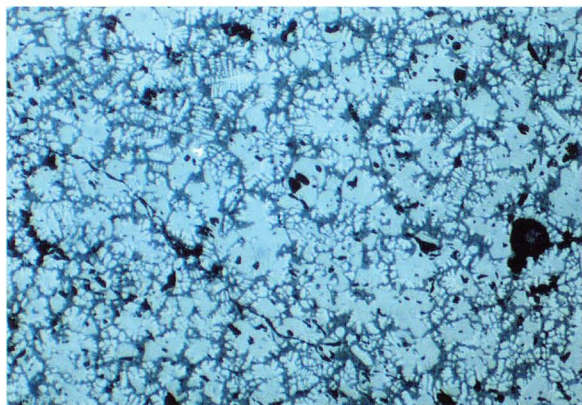


× 100

試料No. 4-1-1

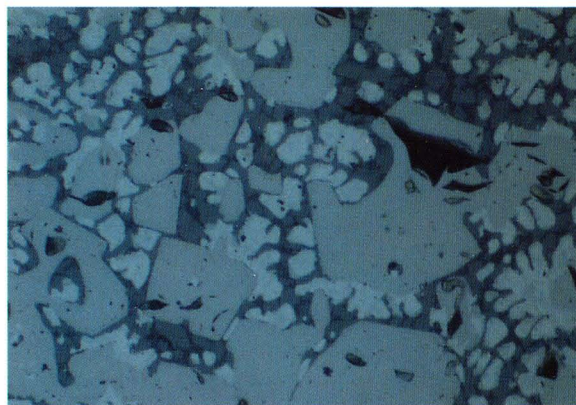


× 400

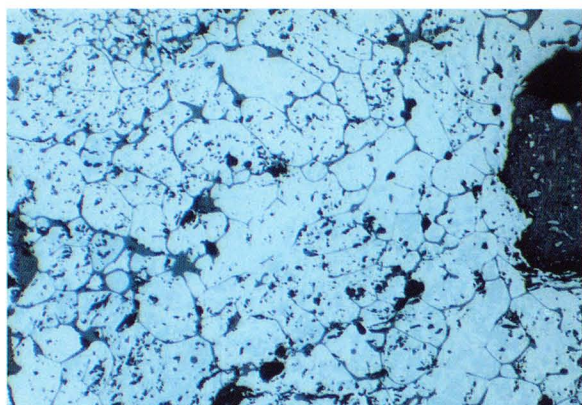


× 100

試料No. 4-1-1

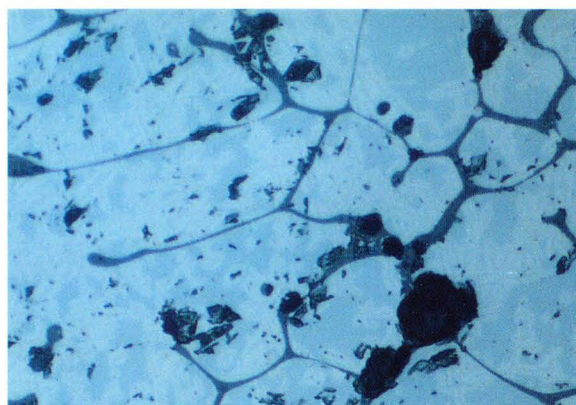


× 400

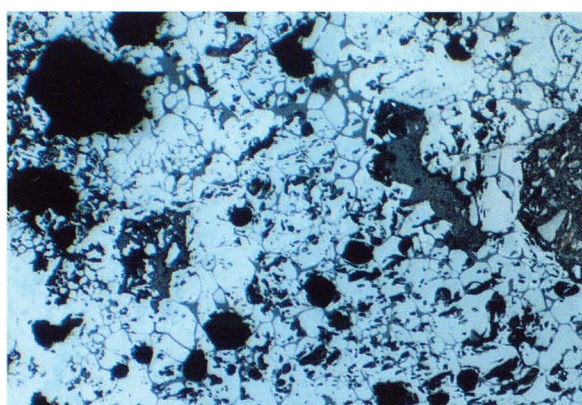


× 100

試料No. 4-1-2

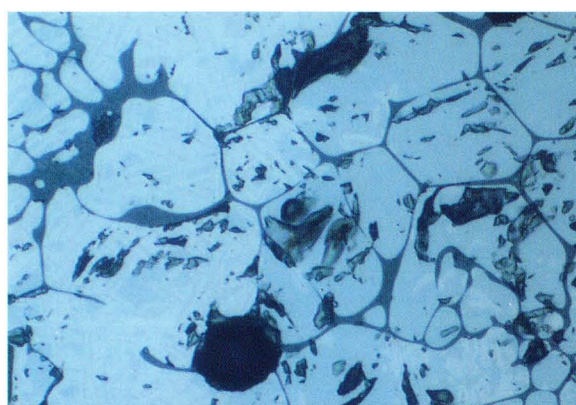


× 400



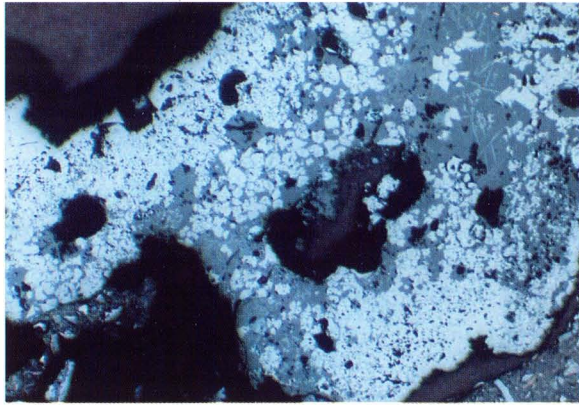
× 100

試料No. 4-1-2



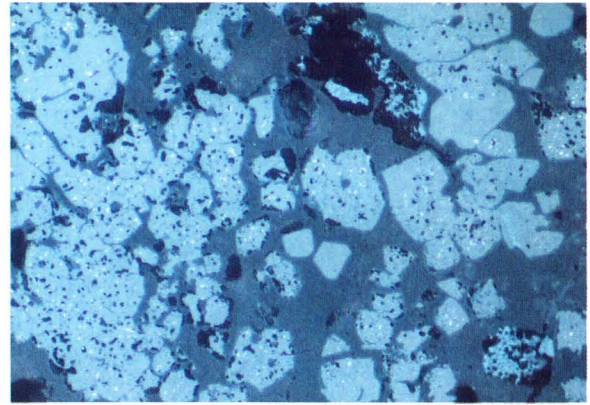
× 400



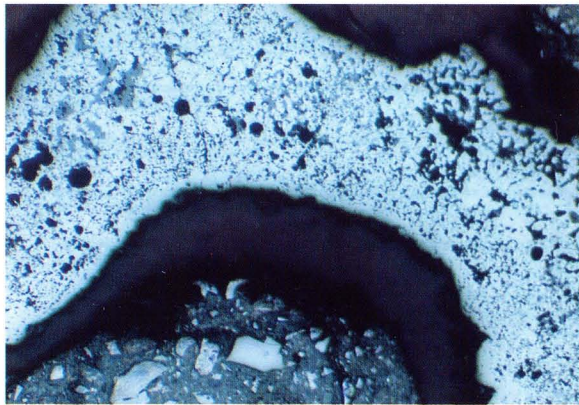


× 100

試料No. 4-2-1

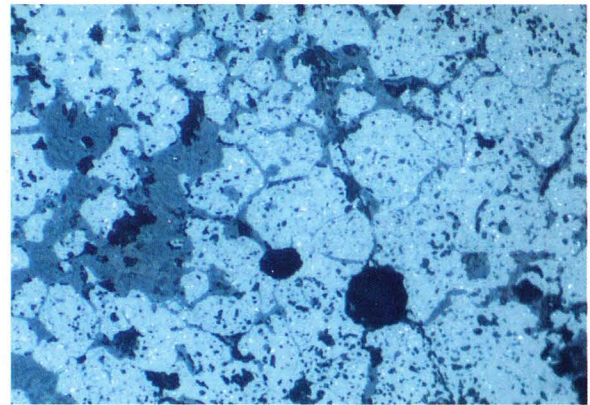


× 400

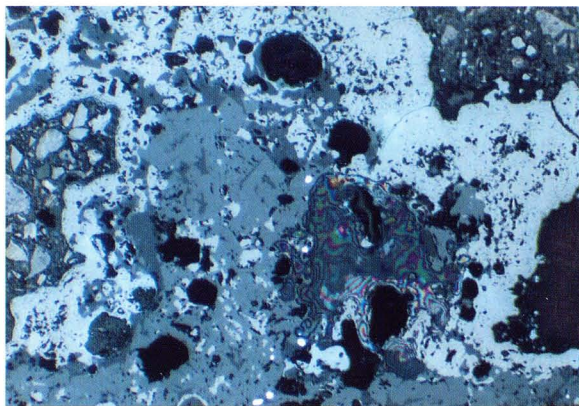


× 100

試料No. 4-2-1

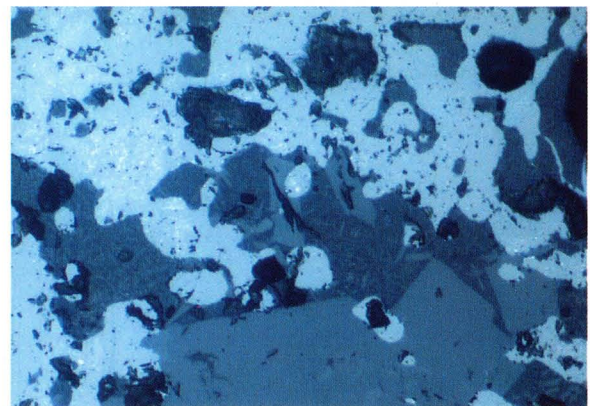


× 400

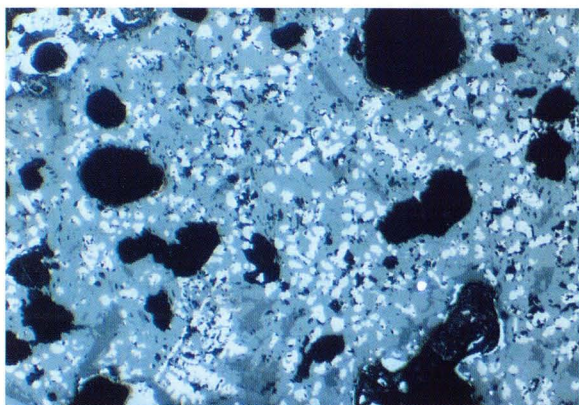


× 100

試料No. 4-2-2

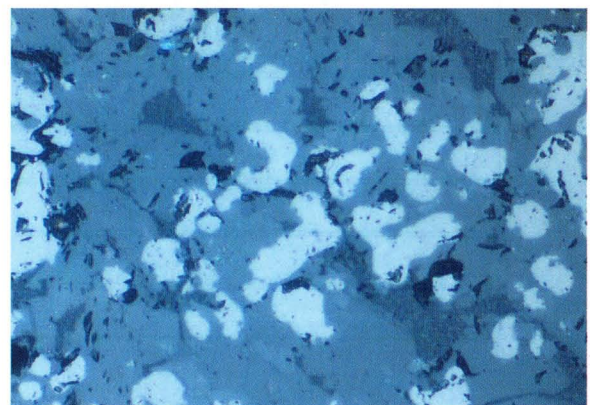


× 400

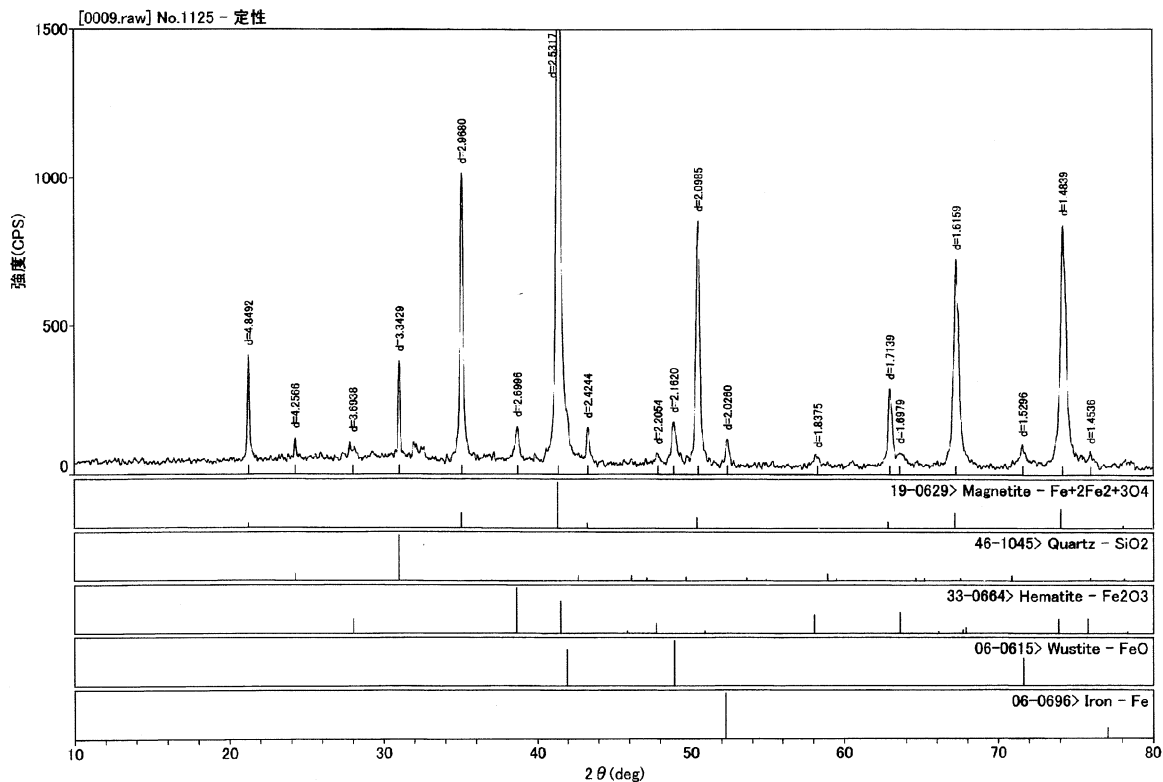


× 100

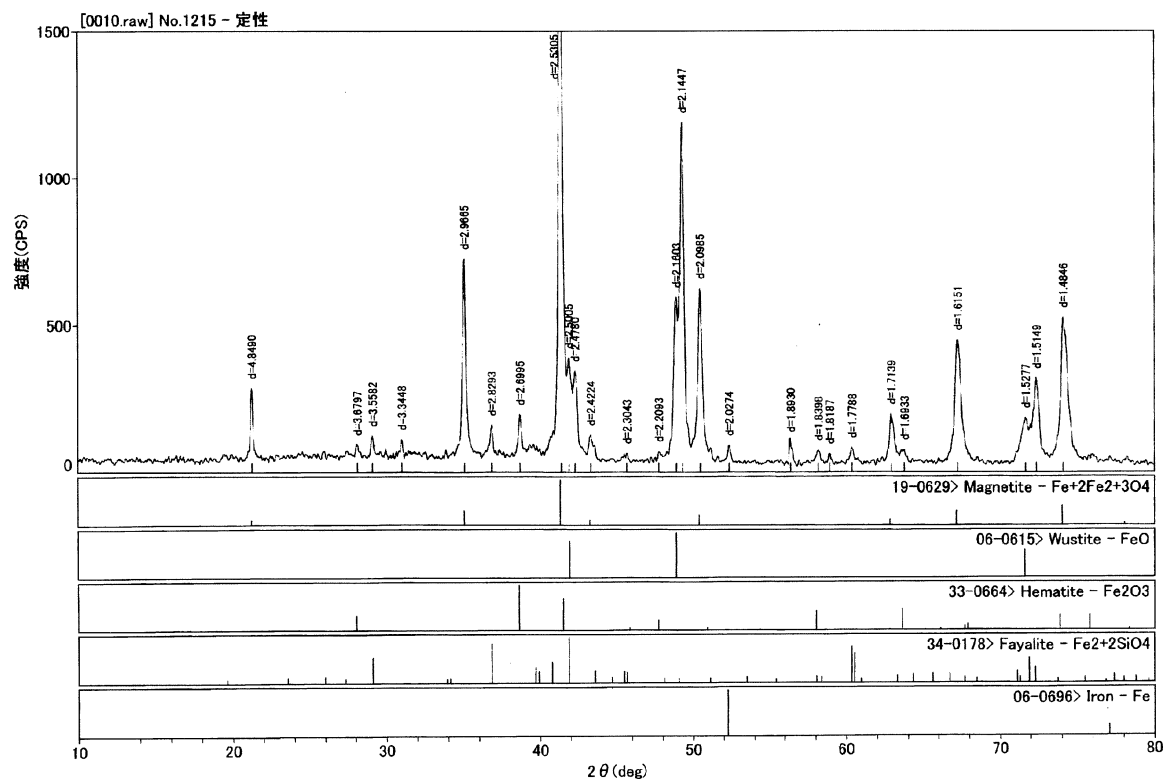
試料No. 4-2-2



× 400

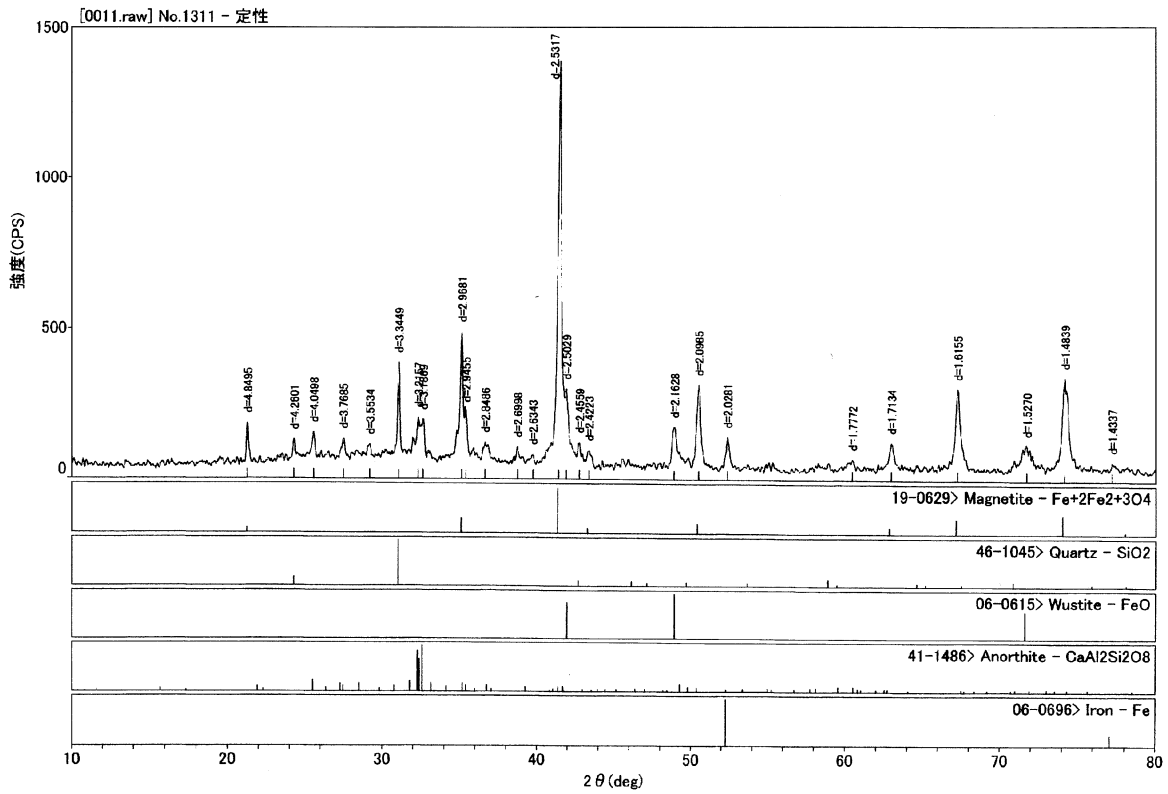


X線回折チャート 1 (試料No.1125)

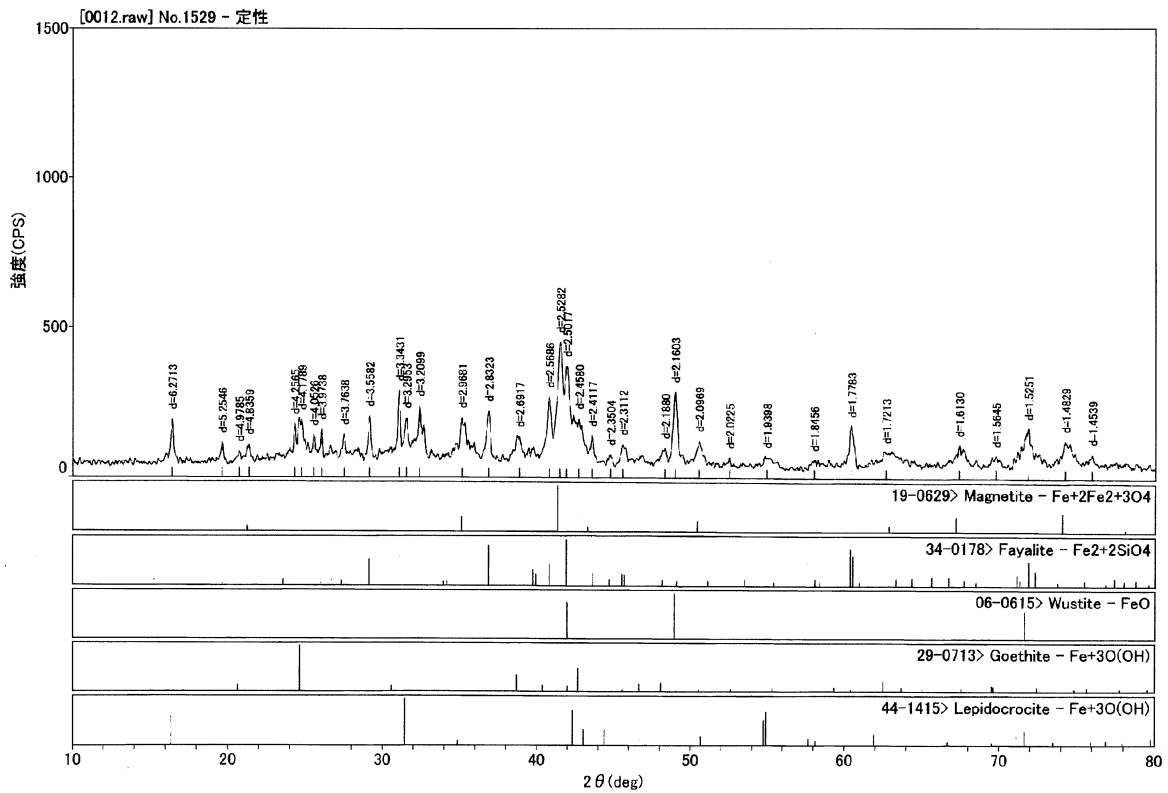


X線回折チャート 2 (試料No.1215)





X線回折チャート 3 (試料No.1311)



X線回折チャート 4 (試料No.1529)

## 2 八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡

### (1) 放射性炭素年代測定・樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡は、八木沢川左岸(西岸)の山地尾根から斜面にかけて立地する。今回の発掘調査では、時代時期不明の炭窯跡が検出されている。

今回の分析調査では、これらの炭窯跡から出土した炭化材を対象として、遺構の年代資料を得るために放射性炭素年代測定を実施し、木材利用を明らかにするために樹種同定をそれぞれ実施する。

#### 試料

試料は、5基の炭窯跡(SW02, 07, 09, 10, 12)から出土した炭化材各1点、合計5点である。それぞれ、同じ試料を分割して年代測定と樹種同定を実施する。なお、受領時に添付された一覧表ではSW12炭窯跡出土試料が2点(No.826・948)表記されていたが、送付試料の注記番号を確認したところSW02(No.826)とSW12(No.948)が各1点であった。ここでは便宜上、試料に直接付された注記番号を優先して、以下の報告を行うことしたい。

#### 分析方法

##### (1) 放射性炭素年代測定

炭化材に土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理)。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(Ⅱ)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO<sub>2</sub>を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO<sub>2</sub>と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-Ⅱ)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma:68%)に相当する年代である。なお、放射性炭素年代は、 $\delta^{13}C$ の値を用いて同位体効果の補正を行った値(補正值)と、補正前の値を併記する。

補正年代を用いて、暦年較正を実施する。暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い(14Cの半減期5730±40年)を較正することである。暦年較正には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用いる。

その際、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表す。いずれも炭化材を試料としていることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差  $\sigma$ 、 $2\sigma$  双方の値を計算する。 $\sigma$  は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 $2\sigma$  は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 $\sigma$ 、 $2\sigma$  の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

## (2) 樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴については、島地・伊東(1982)およびWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にする。

## 結果

### (1) 放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定結果を表1、暦年較正結果を表2に示す。同位体効果の補正を行った年代値は、試料SW02炭窯跡No. 826が $1,400 \pm 30\text{BP}$ 、SW07炭窯跡No. 861が $1,350 \pm 30\text{BP}$ 、SW09炭窯跡No. 895が $1,420 \pm 30\text{BP}$ 、SW10炭窯跡No. 923が $640 \pm 30\text{BP}$ 、SW12炭窯跡No. 948が $1,230 \pm 30\text{BP}$ を示す。また、測定誤差を $\sigma$ として計算させた暦年較正結果は、SW02炭窯跡No. 826がcalAD622-659、SW07炭窯跡No. 861がcalAD649-683、SW09炭窯跡No. 895がcalAD608-651、SW10炭窯跡No. 923がcalAD1,294-1,389、SW12炭窯跡No. 948がcalAD720-868である。

### (2) 樹種同定

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は、SW10炭窯跡No. 923が樹皮であり、木部の組織配列が観察できないために樹種の同定に至らない。その他の4点は、いずれも落葉広葉樹のクリに同定された。解剖学的特徴等を記す。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

## 考察

炭窯跡は、尾根上から南側の緩斜面にかけて散在して検出されており、平面形が円形の炭窯跡10基と長楕円形の炭窯跡2基がある。古代の遺構との指摘もあるが、いずれも土器などの遺物を伴わないため、時期の詳細は不明である。出土した炭化材の年代測定結果をみると、SW02炭窯跡、SW07炭窯跡、SW09炭窯跡は、遺構によって若干の違いはあるが、いずれも7世紀代の年代を示している。年代の違いは、構築・使用時期の違いを示している可能性はあるが、数十年程度の差は樹齢の誤差の範囲でもあることから、ほぼ同時期に稼働していた可能性もある。SW12炭窯跡は、これらの炭窯よりもやや新しく、8～9世紀の年代を示している。また、SW10炭窯跡は、13世紀末～14世紀の年代を示しているが、この試料のみが樹皮であり、由来の異なる炭化物が混入している可能性もある。

炭窯跡のうち、SW10炭窯跡を除く4基から出土した炭化材は、全て落葉広葉樹のクリに同定され、



クリ炭を製炭していたことが推定される。クリは、重硬で強度・耐朽性が高いが、製炭すると柔らかく立ち消えする炭になり、燃焼性が良いためにマツ炭と共に鍛冶に利用される(岸本・杉浦, 1980)。本遺跡周辺では、八木沢Ⅱ遺跡でも炭窯から出土した炭化材にクリが認められている(未公表資料)。また、島田Ⅱ遺跡では、古代の炭窯と鍛冶炉から出土した炭化材がクリに同定されており(高橋, 2001, 2004)、クリ炭が鍛冶燃料材として利用されていたことが明らかにされている。八木沢Ⅱ遺跡でも鍛冶炉の炭化材について樹種同定が行われているが、クリではなく針葉樹の複維管束亜属が確認されており、クリ炭がどのような用途に利用されていたのかは不明である。島田Ⅱ遺跡の事例を考慮すれば、本遺跡の炭窯は鍛冶用のクリ炭を製炭していたことが示唆される。クリ炭の利用状況については、さらに鍛冶炉等の炭化材に関する資料を蓄積していくことがのぞまれる。

## 引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東 隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東 隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東 隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東 隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東 隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 岸本 定吉・杉浦 銀治, 1980, 日曜炭やき師入門. 総合科学出版, 250p.
- 島地 謙・伊東 隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
- 高橋 利彦, 2001, 宮古市島田Ⅱ遺跡出土炭化材の樹種. 「島田Ⅱ遺跡発掘調査報告書 一宮古短大地区宅地造成事業に係る発掘調査一」, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第368集, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 223-224.
- 高橋 利彦, 2004, 島田Ⅱ遺跡出土炭化材の樹種. 「島田Ⅱ遺跡第2~4次発掘調査報告書 一宮古短大地区宅地造成事業に係る発掘調査一 第二分冊(遺物・まとめ・付編)」, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第450集, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 342-347.
- Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

表1 放射性炭素年代測定結果

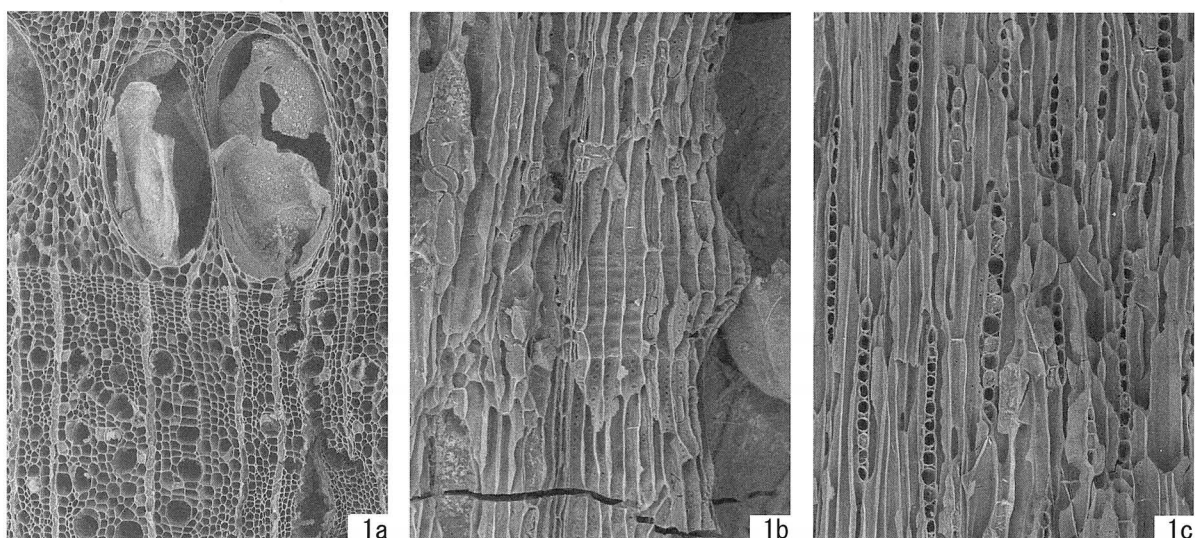
AMS No.	試料No.	遺構	層位	種類	樹種	補正年代BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代BP	Code No.	Measurement No.
AMS-1	No.826	SW02炭窯跡	Bベルト3層	炭化材	クリ	1,400±30	-30.65±0.82	1,490±30	10264-1	IAAA-82012
AMS-2	No.861	SW07炭窯跡	Bベルト4層	炭化材	クリ	1,350±30	-27.67±0.88	1,390±30	10264-2	IAAA-82013
AMS-3	No.895	SW09炭窯跡	底面直上	炭化材	クリ	1,420±30	-26.04±0.96	1,440±30	10264-3	IAAA-82014
AMS-4	No.923	SW10炭窯跡	Aベルト2層	炭化材	樹皮	640±30	-24.96±0.82	640±30	10264-4	IAAA-82015
AMS-5	No.948	SW12炭窯跡	Aベルト5層	炭化材	クリ	1,230±30	-29.54±0.72	1,300±30	10264-5	IAAA-82016

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$  (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表2 暦年較正結果

AMS No.	試料No.	補正年代(BP)	暦年較正年代 (cal)				相対比	Code No.	
			$\sigma$	cal AD	cal AD	cal BP			
AMS-1	No.826	1,399±31	$\sigma$	622	- cal AD 659	cal BP 1,328	- 1,291	1.000	10264-1
			$2\sigma$	597	- cal AD 670	cal BP 1,353	- 1,280	1.000	
AMS-2	No.861	1,348±32	$\sigma$	649	- cal AD 683	cal BP 1,301	- 1,267	1.000	10264-2
			$2\sigma$	636	- cal AD 718	cal BP 1,314	- 1,232	0.897	
AMS-3	No.895	1,422±35	$\sigma$	742	- cal AD 769	cal BP 1,208	- 1,181	0.103	10264-3
			$2\sigma$	608	- cal AD 651	cal BP 1,342	- 1,299	1.000	
AMS-4	No.923	635±31	$\sigma$	571	- cal AD 662	cal BP 1,379	- 1,288	1.000	10264-4
			$2\sigma$	cal AD 1,294	- cal AD 1,317	cal BP 656	- 633	0.393	
AMS-5	No.948	1,225±33	$\sigma$	cal AD 1,354	- cal AD 1,389	cal BP 596	- 561	0.607	10264-5
			$2\sigma$	cal AD 1,285	- cal AD 1,331	cal BP 665	- 619	0.420	
AMS-5	No.948	1,225±33	$\sigma$	cal AD 1,338	- cal AD 1,397	cal BP 612	- 553	0.580	10264-5
			$2\sigma$	cal AD 720	- cal AD 741	cal BP 1,230	- 1,209	0.179	
AMS-5	No.948	1,225±33	$\sigma$	cal AD 769	- cal AD 830	cal BP 1,181	- 1,120	0.555	10264-5
			$2\sigma$	cal AD 836	- cal AD 868	cal BP 1,114	- 1,082	0.266	
AMS-5	No.948	1,225±33	$\sigma$	cal AD 689	- cal AD 752	cal BP 1,261	- 1,198	0.279	10264-5
			$2\sigma$	cal AD 761	- cal AD 886	cal BP 1,189	- 1,064	0.721	

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を使用。
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は $\sigma$ は68%、 $2\sigma$ は95%である。
- 5) 相対比は、 $\sigma$ 、 $2\sigma$ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。



1. クリ(SW02炭窯跡,試料No.826)  
a:木口,b:柁目,c:板目

200  $\mu$  m:a  
200  $\mu$  m:b,c

図版1 炭化材

## (2) 火山灰同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡は、宮古湾南部西岸に河口を持つ八木沢川中流域左岸に広がる山地の緩斜面上に立地する。今回の分析調査では、緩斜面上部の尾根上で検出された土坑の覆土から、火山灰(テフラ)とされる堆積物が認められたことから、その碎屑物の性状を明らかにする。テフラである場合には、噴出年代の明らかにされている指標テフラとの対比を行い、遺構の年代に関わる資料を作成する。

### 試料

試料は、調査区内の尾根状を呈する地形上で検出された、土坑SK09の覆土より採取されたにぶい黄橙色を呈する砂混じりのシルト1点である。試料名は、「SK09西半覆土2層火山灰サンプル」とされている。SK09は、現表土下の黄褐色土上面より検出され、発掘調査所見より縄文時代の土坑の可能性があるとされている。

### 分析方法

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

屈折率の測定は、火山ガラスを対象とし、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

### 結果

処理後に得られた砂分からは、多量の火山ガラスと少量の軽石および極めて微量のスコリアが検出された。火山ガラスは、無色透明の軽石型が多く、これに微量の褐色を呈する軽石型と無色透明のバブル型および極めて微量の褐色を帯びたバブル型が混在する。なお、黒色でガラス光沢を呈する黒曜石片も極めて微量であるが認められた。軽石は、径約0.7mm、白色を呈し、発泡は良好～やや良好である。スコリアは、径約0.5mm、黒色を呈し発泡やや不良のものと赤褐色を呈し発泡不良のものが認められた。

火山ガラスの屈折率測定結果を図1に示す。主体となる無色透明の軽石型火山ガラスのレンジは $n_{1.503} \sim 1.507$ 、モードは $n_{1.505} \sim 1.506$ であるが、褐色を呈する厚手の軽石型火山ガラスについては、 $n_{1.500}$ 前後という低い屈折率を示した。

### 考察

今回の試料は、多量の火山ガラスから構成されることから、火山ガラス質テフラの降下堆積物が土

坑覆土中に保存されたものである可能性が高い。火山ガラスは、形態の特徴とその屈折率および黒曜石片や白色軽石を伴うこと、さらにこれまでに研究された東北地方におけるテフラの産状(町田ほか(1981;1984)、Arai et al. (1986)、町田・新井(2003)など)との比較から、十和田aテフラ(To-a)に由来する可能性がある。To-aは、平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラであり、給源周辺では火砕流堆積物と降下軽石からなるテフラとして、火砕流の及ばなかった地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のほぼ全域で確認されている(町田ほか, 1981)。また、町田ほか(1981)は、淡緑色・淡褐灰色を呈する $n_{1.502}$ 以下の低い屈折率の火山ガラスを主体とするTo-aの上部火山灰層は、南方へは広がらず十和田周辺とその東方地域に分布に限られるとしているが、今回の試料で認められた褐色を呈する低屈折率の火山ガラスは、これに相当する可能性もある。

To-aの噴出年代については、早川・小山(1998)による詳細な調査によれば、西暦915年とされているから、今回の試料が採取されたSK09覆土2層の堆積年代は、その頃である可能性がある。すなわち、10世紀初め頃にはSK09は既に埋積していたと考えられることから、その構築年代はそれよりも古いと考えられる。ただし、現時点では、発掘調査所見より想定されている縄文時代であることを直接示す資料とはならない。

なお、町田・新井(2003)などから、縄文時代頃に宮古市付近まで降灰した可能性のあるテフラとして、約6000年前にTo-aと同じ十和田カルデラから噴出した十和田中掬テフラ(To-Cu)をあげることができる。しかし、To-Cuの火山ガラスの屈折率は $n_{1.510}$ - $n_{1.514}$ とされることから、今回の試料より検出された火山ガラスがTo-Cuに相当する可能性は低いと考えられる。

## 引用文献

- Arai, F.・Machida, H.・Okumura, K.・Miyuchi, T.・Soda, T.・Yamagata, K, 1986, Catalog for late quaternary markertephtras in Japan II - Tephtras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido-. Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21, 223-250.
- 古澤 明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別. 地質学雑誌, 101, 123-133.
- 早川由紀夫・小山真人, 1998, 日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日-十和田湖と白頭山-. 火山, 43, 403-407.
- 町田 洋・新井房夫, 2003, 新編 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広, 1981, 日本海を渡ってきたテフラ. 科学, 51, 562-569.
- 町田 洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦, 1984, テフラと日本考古学-考古学研究と関連するテフラのカタログ-. 渡辺直経(編)古文化財に関する保存科学と人文・自然科学. 同朋舎, 865-928

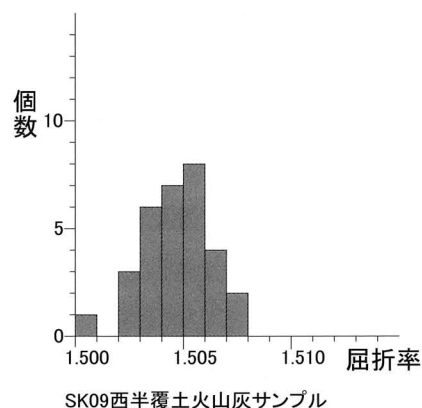
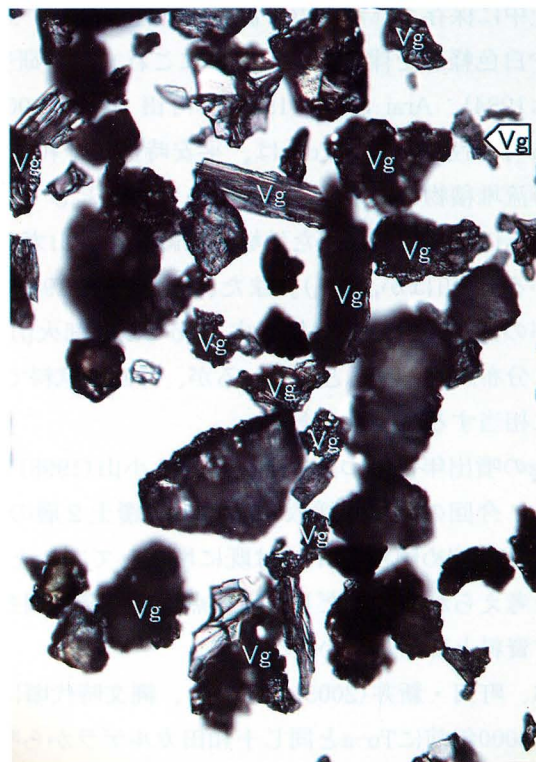


図1 火山ガラスの屈折率測定結果



1.To-aの軽石(SK09西半覆土火山灰サンプル)  
Vg:火山ガラス.



2.To-aの火山ガラス(SK09西半覆土火山灰サンプル)



図版1 テフラ

## 写 真 図 版

八木沢Ⅱ遺跡 ..... 写真図版 1～30

八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡 ..... 写真図版31～42







調査区遠景（南から）



調査区全景（西から）



北谷部現況（南から）



北谷部全景（南から）



中央尾根部現況（南西から）



中央尾根部全景（南西から）



南谷部現況（北東から）



南谷部全景（北東から）



I Bグリッド全景（南東から）



中央尾根部北斜面T214~218平面（北から）





中央尾根部南斜面 T 219~227 平面 (北から)



南谷部 T 230~241 平面 (北から)



Ⅱ B グリッド埋没沢断面 (北東から)



Ⅱ C グリッド埋没沢断面 (西から)



中央尾根部基本土層断面 (北東から)



Ⅱ A グリッド基本土層断面 (北東から)



Ⅰ B グリッド基本土層①断面 (南西から)



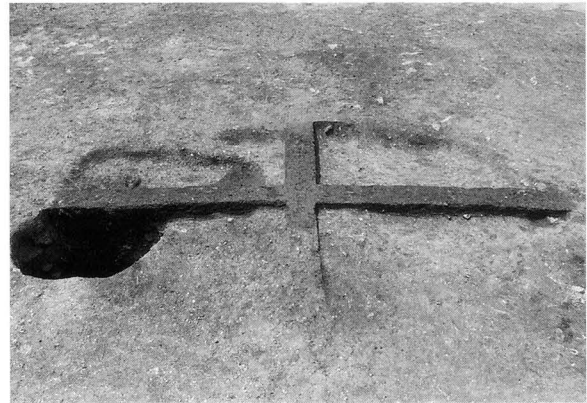
南谷部基本土層断面 (北東から)



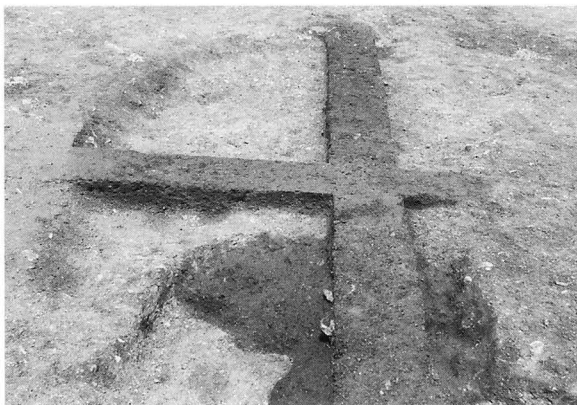
SI 101平面 (南東から)



SKI 101・SW 101平面 (北東から)



SKI 101・SW 101断面A-A' (北東から)



SKI 101・SW 101断面B-B' (南東から)



SW 101炭化材出土状況 (北東から)

写真図版4 竪穴住居跡：SI 101、竪穴状遺構：SKI 101、炭窯跡：SW 101





SK 101平面 (北西から)



SK 101断面B-B' (北東から)



SK 102平面 (南から)



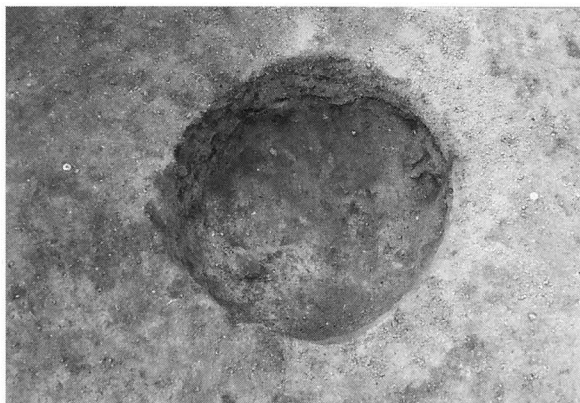
SK 102断面B-B' (東から)



SK 103平面 (南東から)



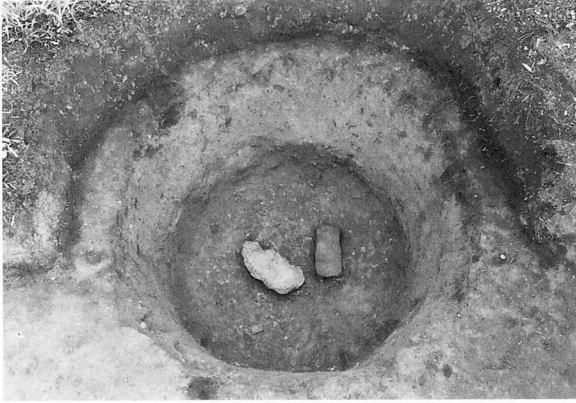
SK 103断面 (南東から)



SK 104平面 (南東から)



SK 104断面 (南東から)



SK 105平面 (西から)



SK 105断面 (西から)



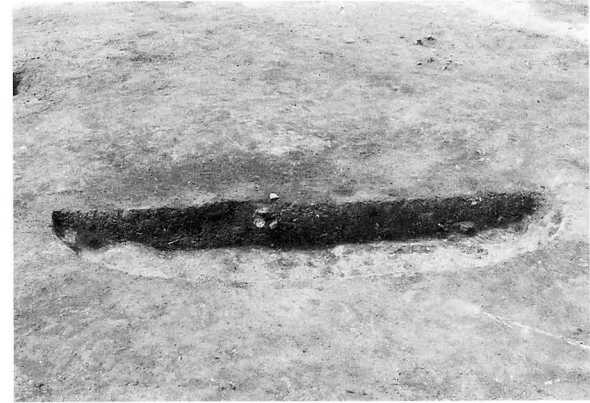
SK 106平面 (西から)



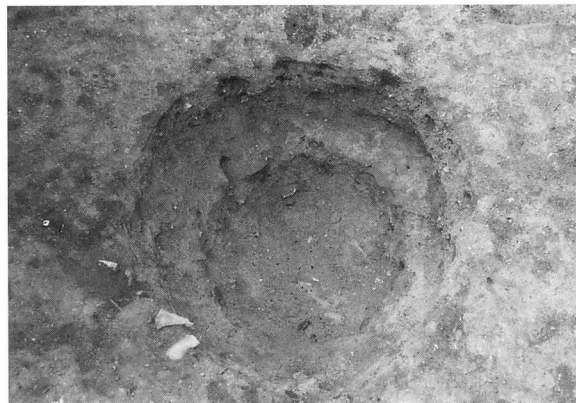
SK 106断面 (西から)



SK 107・108平面 (東から)



SK 107・108断面 (東から)

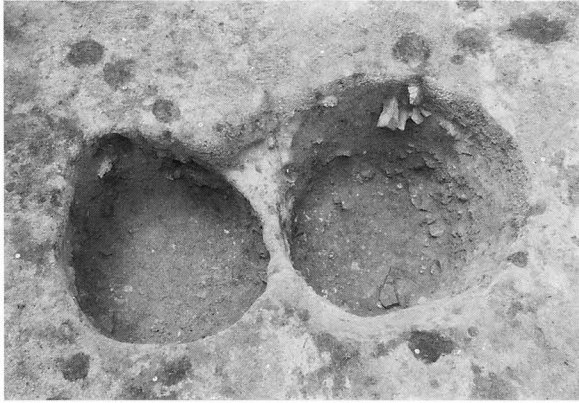


SK 109平面 (南東から)

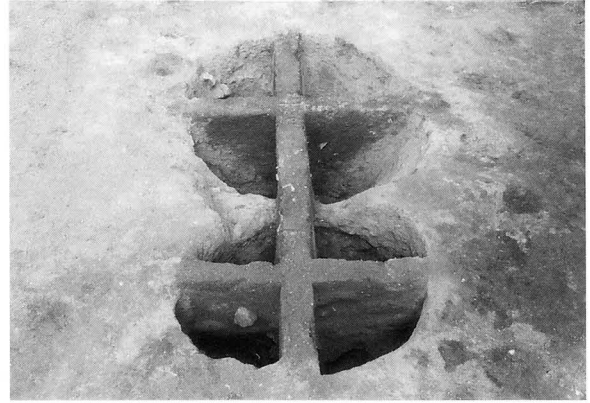


SK 109断面 (南東から)





SK 110・111平面（北東から）



SK 110・111断面A-A'、B-B'（南東から）



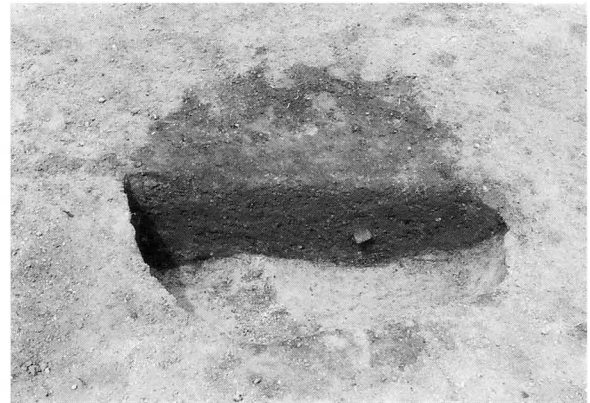
SK 110・111断面C-C'（北東から）



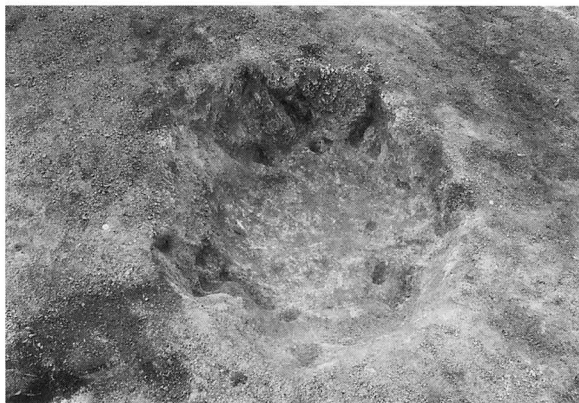
SK 110・111精査風景



SK 112平面（南東から）



SK 112断面（南東から）



SK 113平面（南東から）

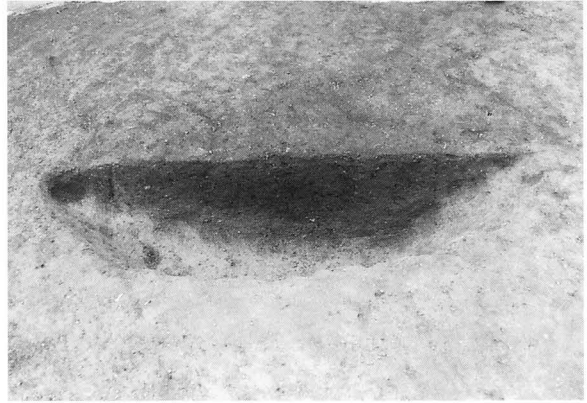


SK 113断面（南東から）





SK 114平面 (南東から)



SK 114断面 (南東から)



SK 115平面 (南東から)



SK 115断面 (南東から)



SK 116平面 (南東から)



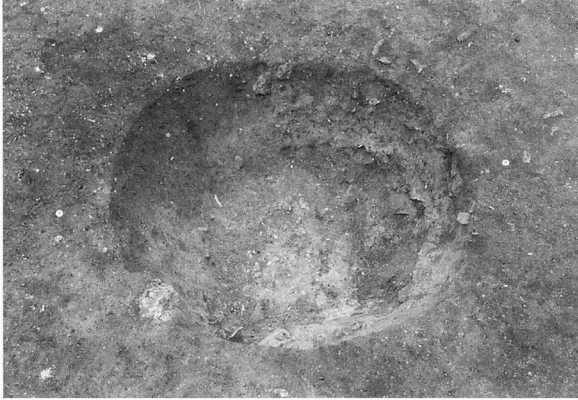
SK 116断面A-A' (南東から)



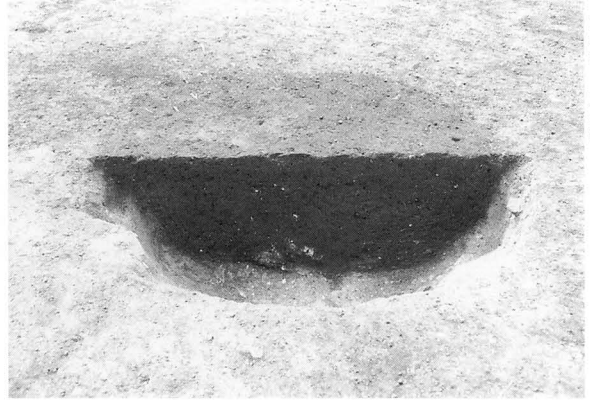
SK 117平面 (南東から)



SK 117断面A-A' (南東から)



SK 119平面 (南東から)



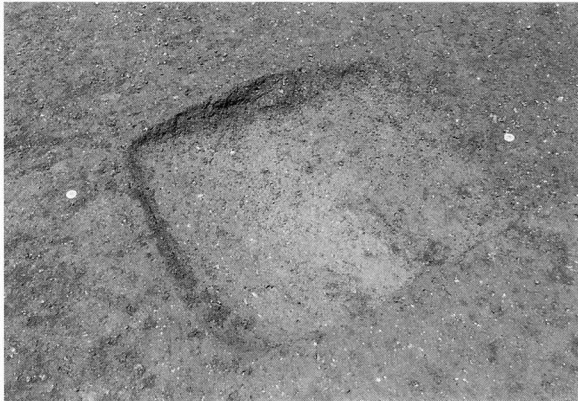
SK 119断面 (南東から)



SK 120平面 (東から)



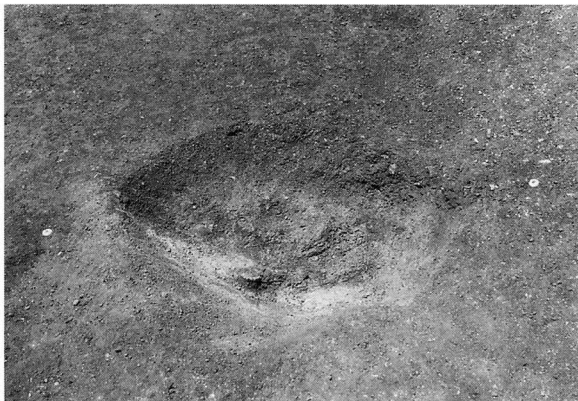
SK 120断面 (東から)



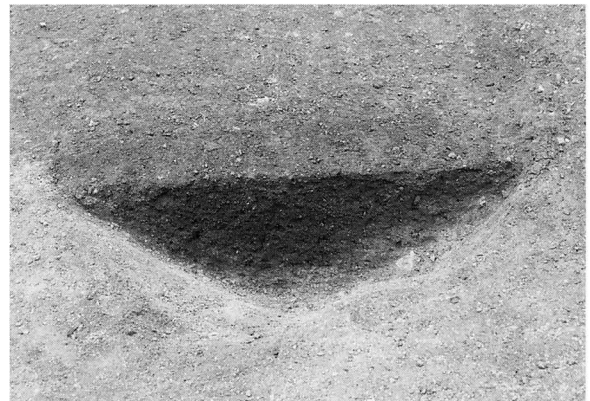
SK 121平面 (東から)



SK 121断面 (東から)



SK 122平面 (東から)

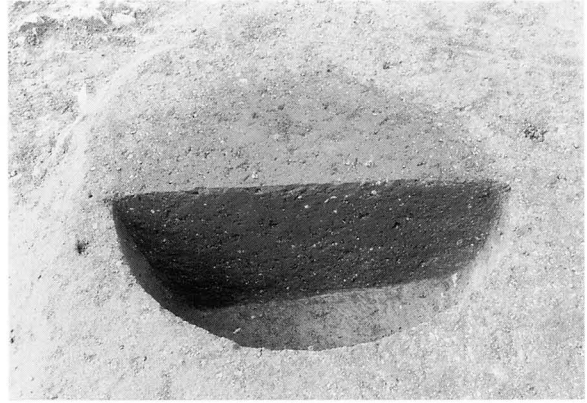


SK 122断面 (東から)





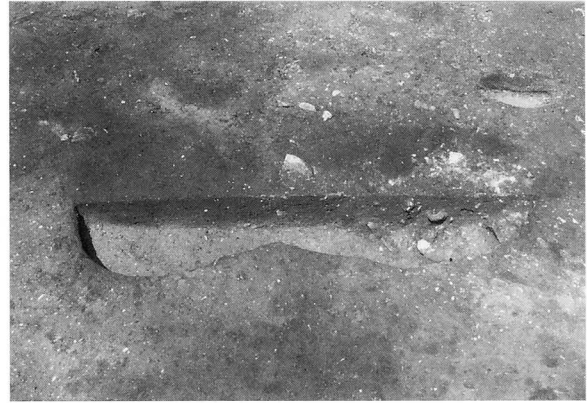
SK 125 平面 (南から)



SK 125 断面 (南から)



SK 130・131 平面 (東から)



SK 130・131 断面 (東から)



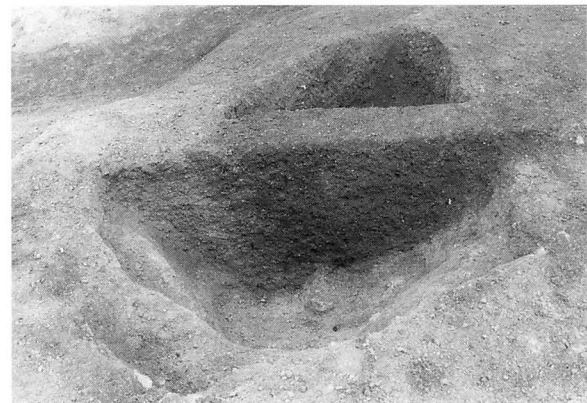
SK 132 平面 (東から)



SK 132 断面 (東から)



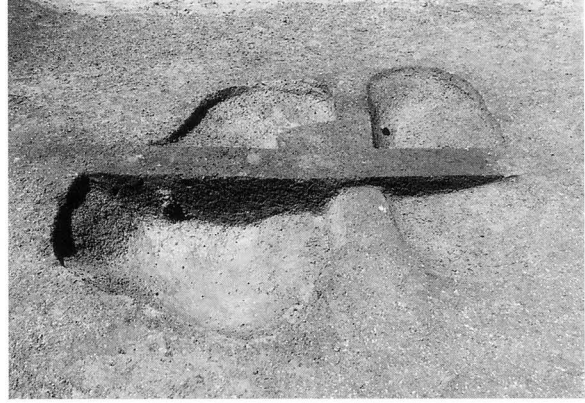
SK 133 平面 (北東から)



SK 133 断面 (北東から)



SK 134・135平面（東から）



SK 134・135断面（東から）



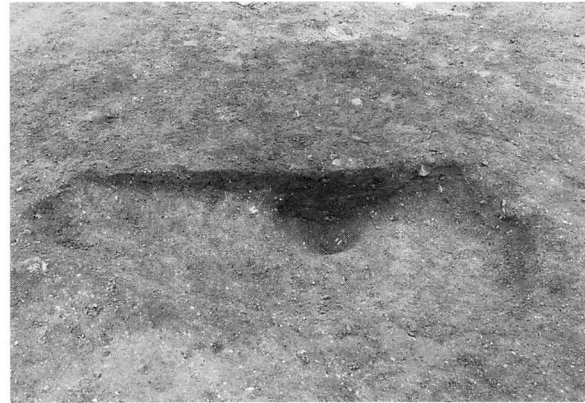
SK 136平面（北東から）



SK 136断面（北東から）



SK 137平面（南から）



SK 137断面（南から）



SK 138平面（南東から）

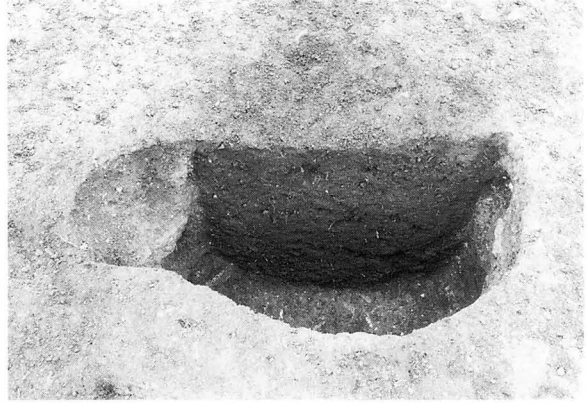


SK 138断面（南東から）





SK 139平面（北東から）



SK 139断面（北東から）



SK 140平面（南東から）



SK 140断面（南東から）



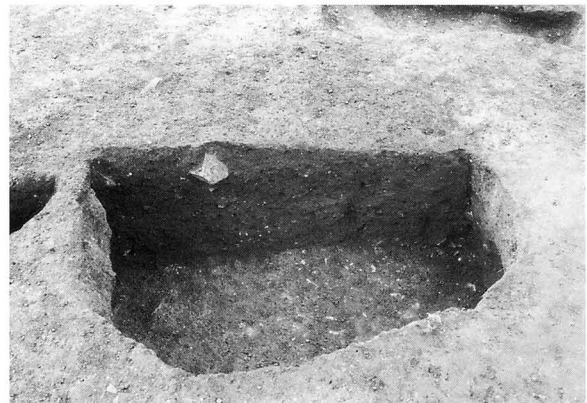
SK 141・142平面（南東から）



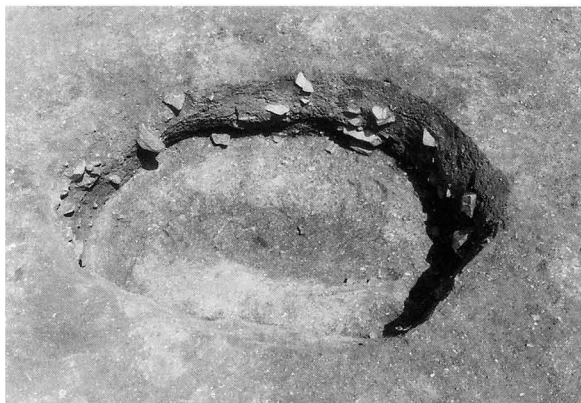
SK 141・142断面（南東から）



SK 143平面（南東から）



SK 143断面（南東から）



SK 144平面 (南から)



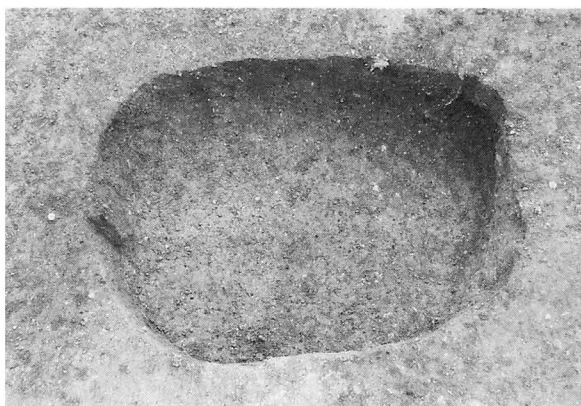
SK 144断面A-A' (南から)



SK 144断面B-B' (南から)



SK 144作業風景



SK 145平面 (北東から)



SK 145断面 (北東から)



SK 146平面 (南から)

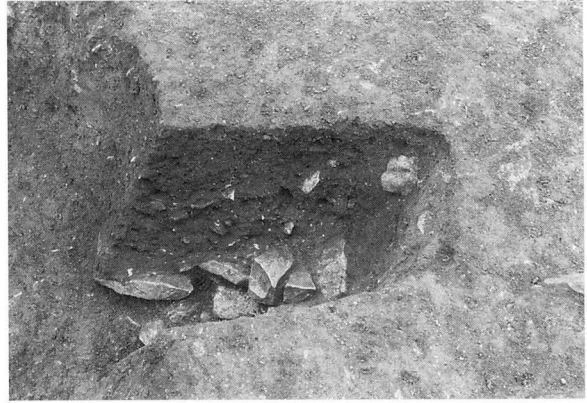


SK 146断面 (南から)





SK 147平面 (東から)



SK 147断面 (東から)



SK 149平面 (北東から)



SK 149断面 (北東から)



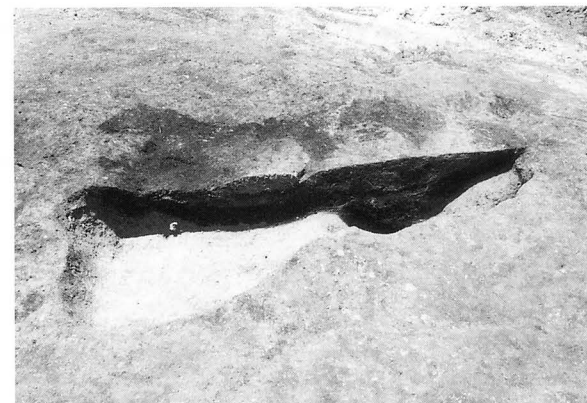
SK 150平面 (北東から)



SK 150断面 (北東から)



SK 151・152平面 (南東から)



SK 151・152断面 (南東から)





SK 153平面 (南東から)



SK 153断面 (南東から)



SD 101平面 (北東から)



SD 101断面A-A' (北東から)



SZ 101平面① (北東から)



SZ 101断面 (北東から)



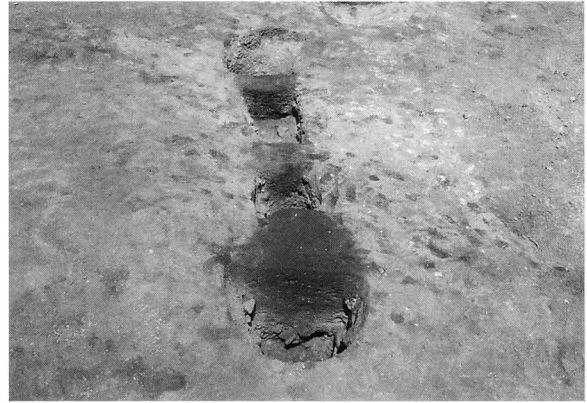
SZ 101平面② (北東から)



SZ 101平面③ (北東から)



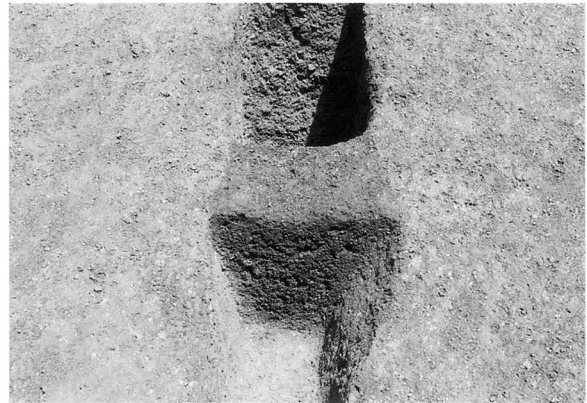
SK 118平面 (南から)



SK 118断面A-A'、B-B'、C-C' (南から)



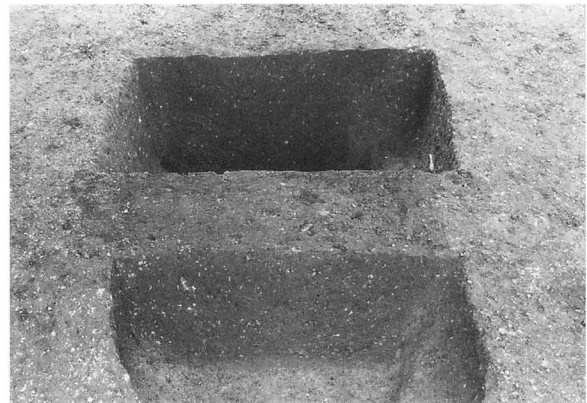
SK 123平面 (南から)



SK 123断面 (南から)



SK 124平面 (東から)



SK 124断面A-A'、B-B' (東から)

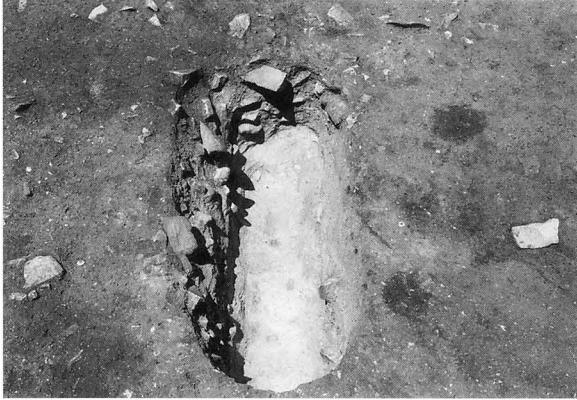


SK 126平面 (南東から)



SK 126断面 (南東から)





SK 127 平面 (南東から)



SK 127 断面 (南東から)



SK 127 副穴断面 (北東から)



SK 127 作業風景



SK 128 平面 (東から)



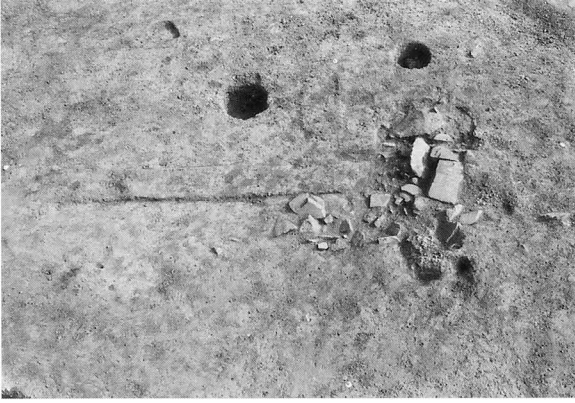
SK 128 断面 (東から)



SK 148 平面 (南西から)



SK 148 断面 (南西から)



SN 101平面（北から）



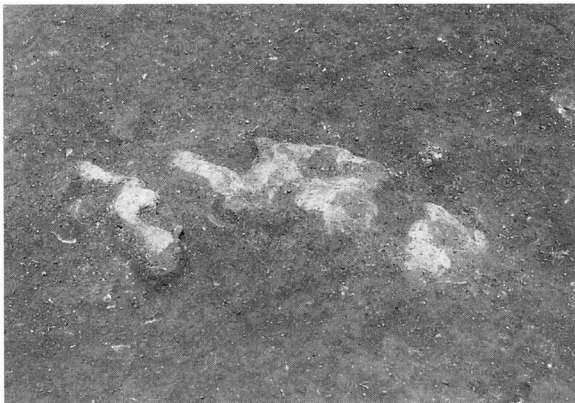
SN 101断面D-D'（南から）



SN 102平面（南から）



SN 102断面（南から）



SN 103平面（東から）



SN 103断面（東から）



SN 104平面（東から）



SN 104断面（南東から）

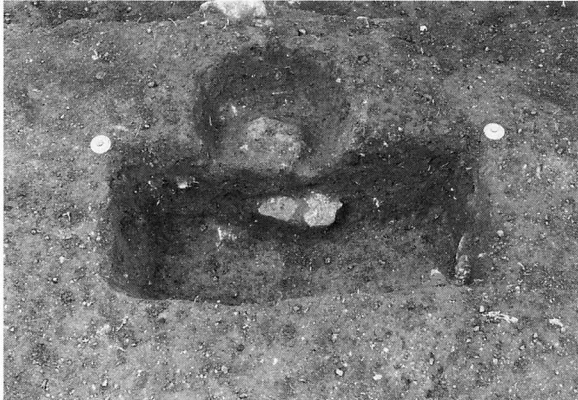




SN 105平面 (北東から)



SN 105覆土断面 (北東から)



SN 105断面 (北東から)



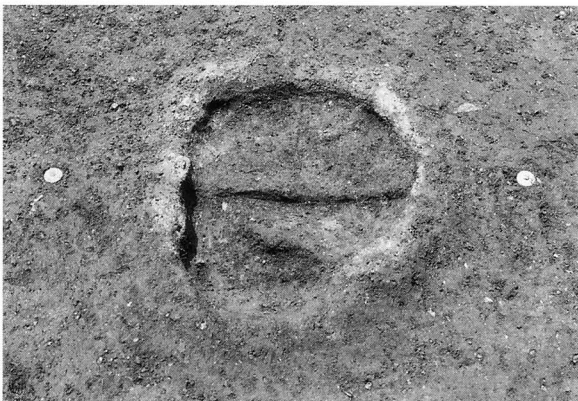
SN 106平面 (北から)



SN 106覆土断面 (北から)



SN 106断面 (北から)



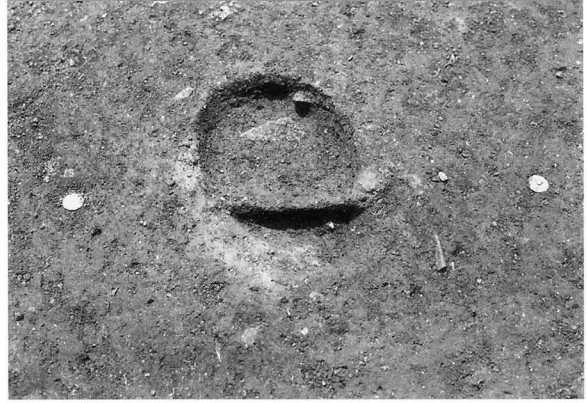
SN 107平面 (東から)



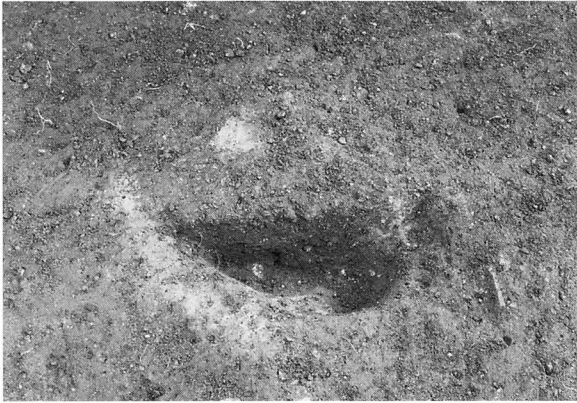
SN 107覆土断面 (東から)



SN 107断面（東から）



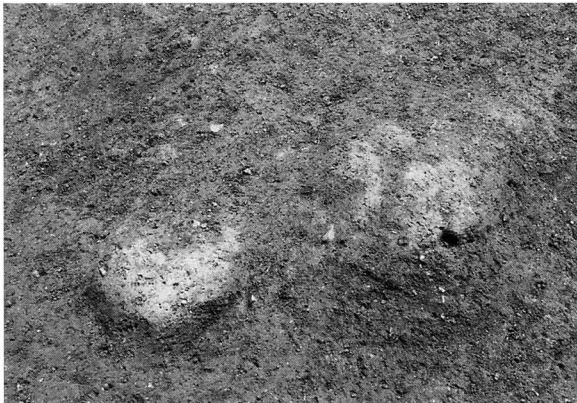
SN 108平面（北東から）



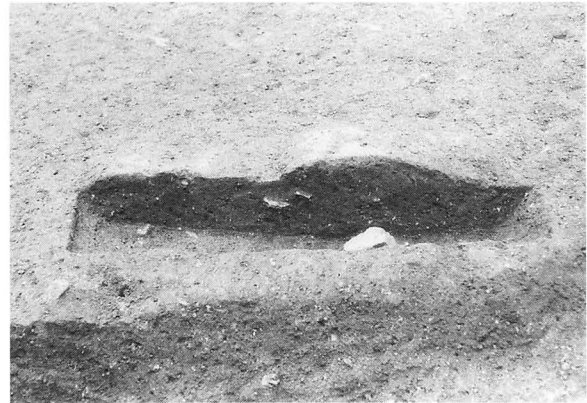
SN 108覆土断面（北東から）



SN 108断面（北東から）



SN 109平面（北から）



SN 109断面（北から）



SN 110平面（南東から）



SN 110断面B-B'（北東から）





P 1 : No. 115出土状況 (南から)



P 2 : No. 70・71・72出土状況 (南から)



P 3・4 : No. 94・95出土状況 (南から)



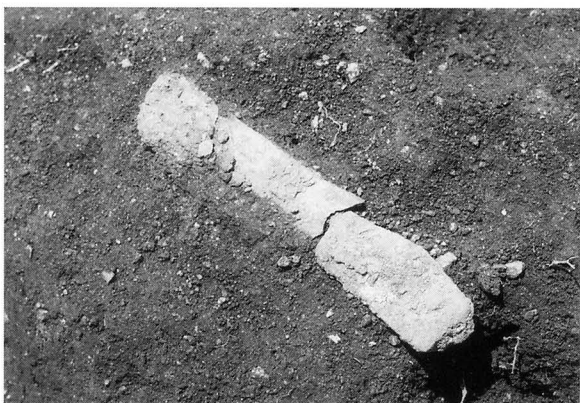
P 5 : No. 93出土状況 (南から)



P 6 出土状況 (南から)



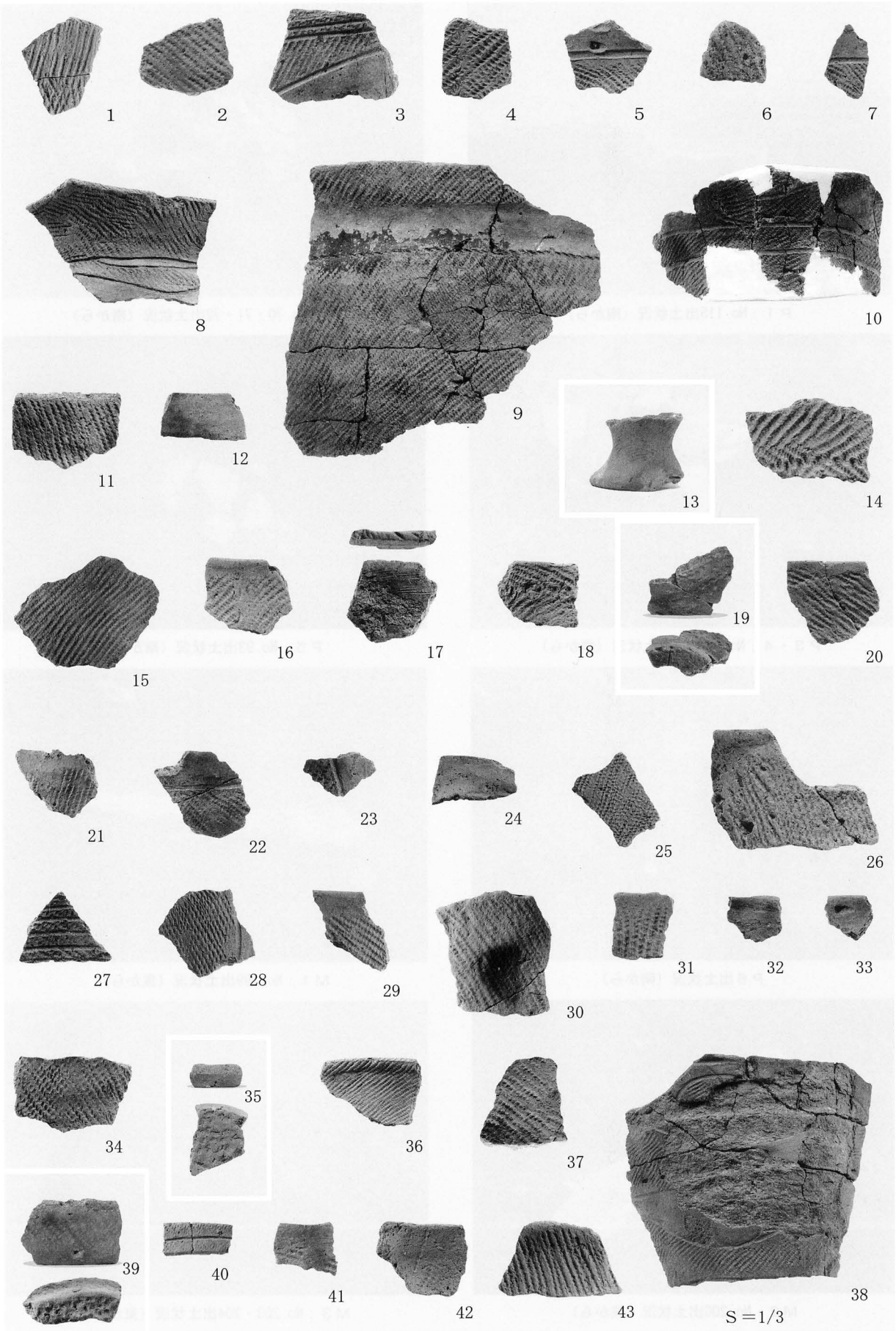
M 1 : No. 199出土状況 (東から)



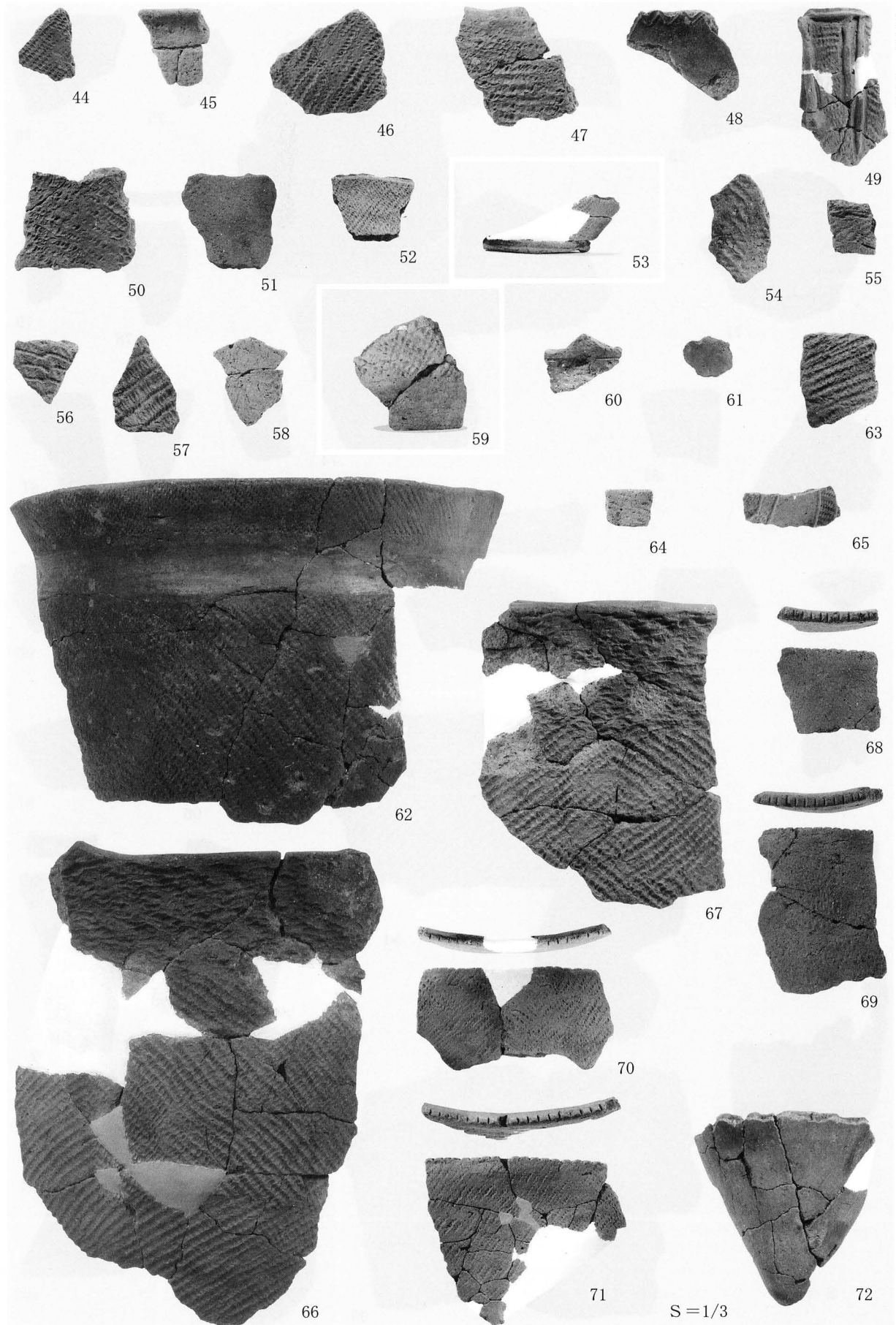
M 2 : No. 200出土状況 (東から)



M 3 : No. 203・204出土状況 (東から)

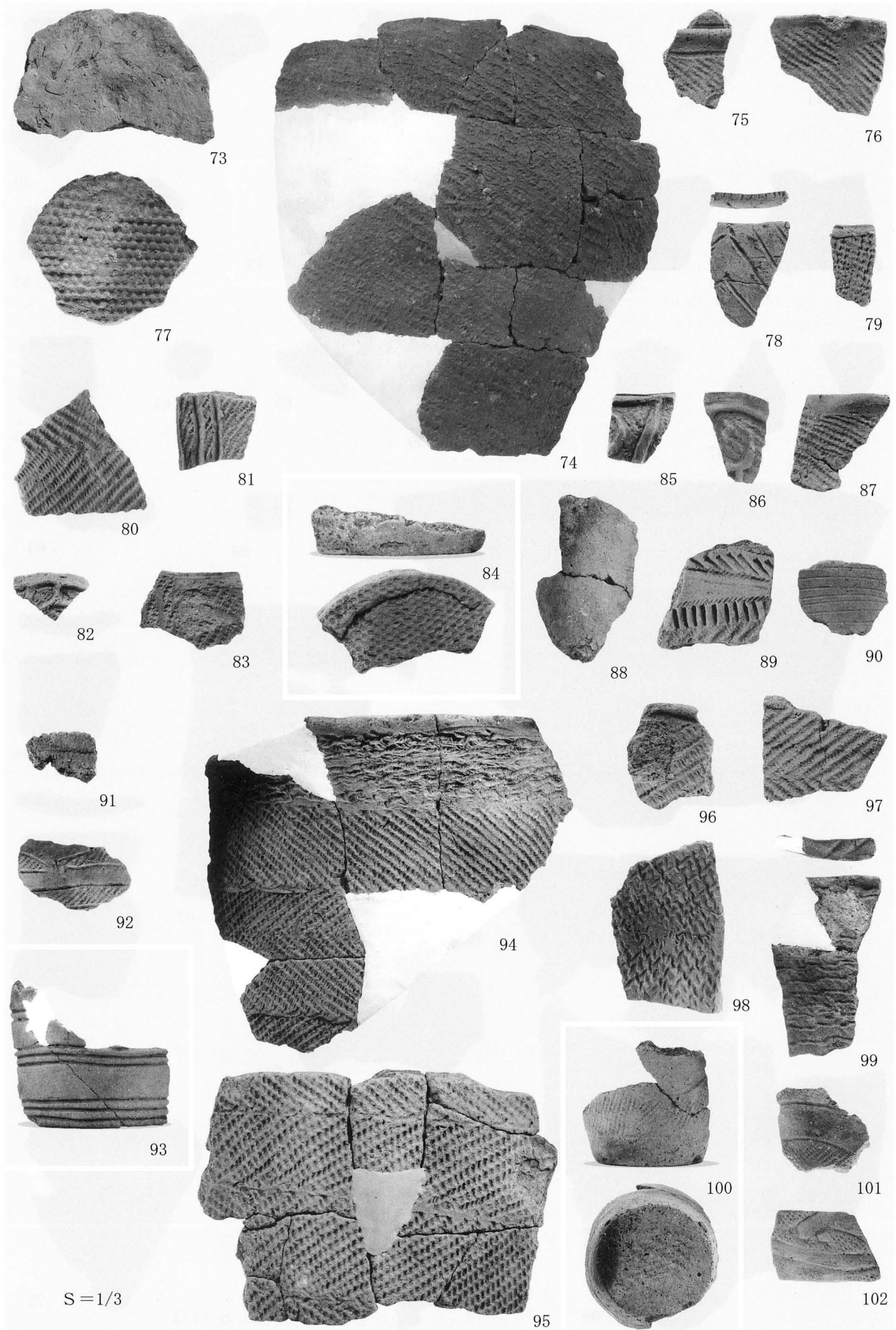


写真図版22 土器(1)

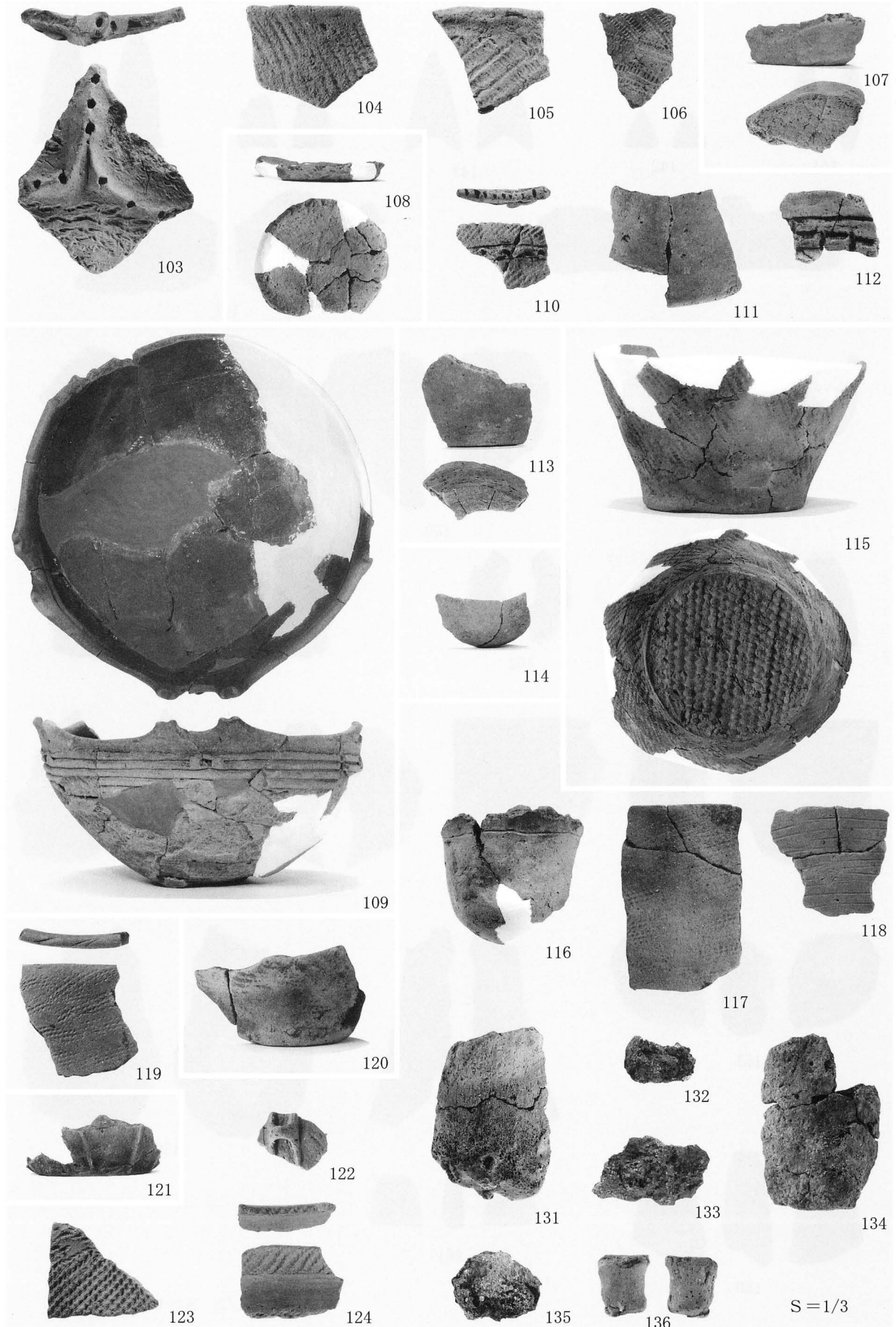


写真図版23 土器(2)

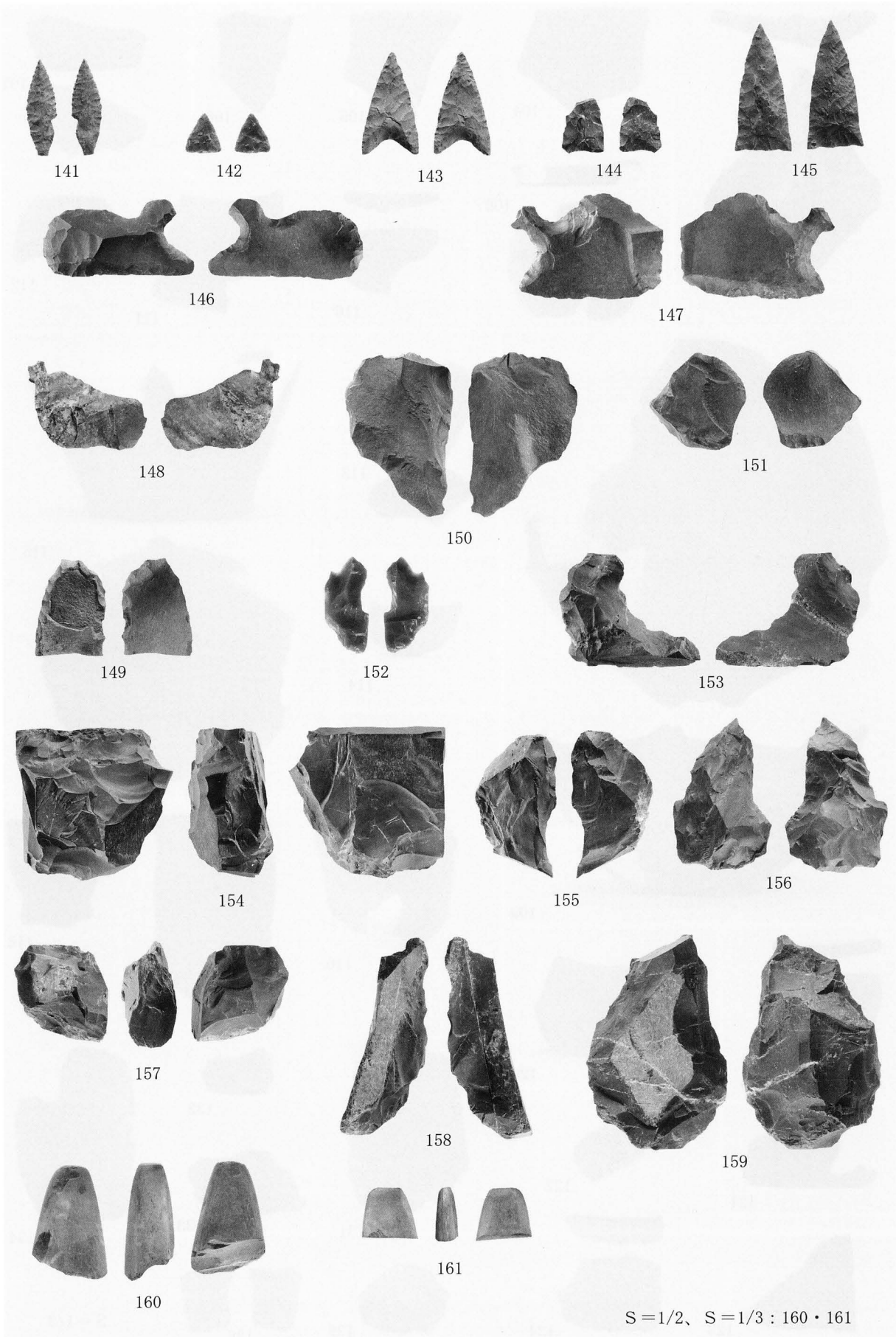




写真図版24 土器(3)

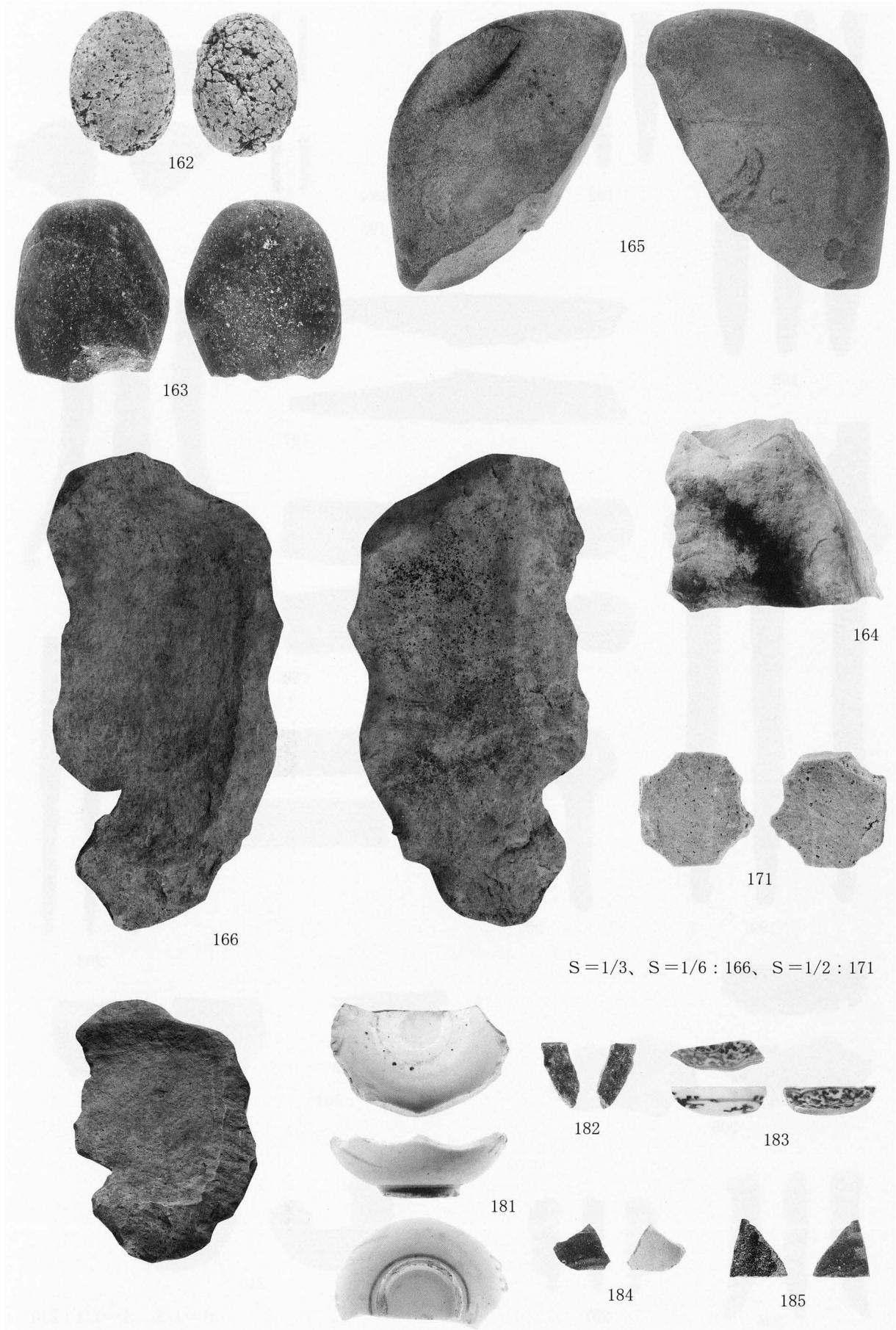


写真図版25 土器(4)・土製品

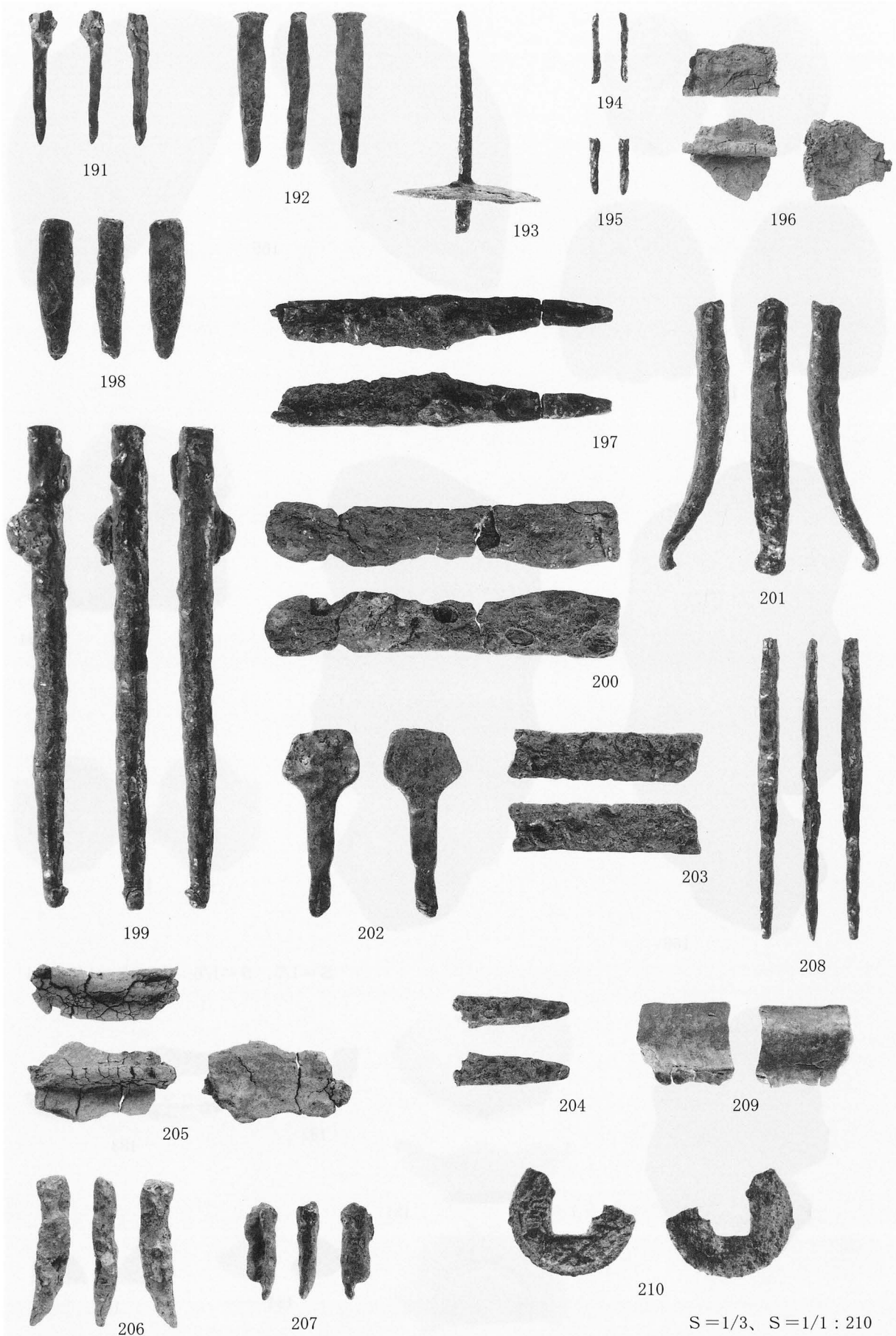


写真図版26 石器(1)

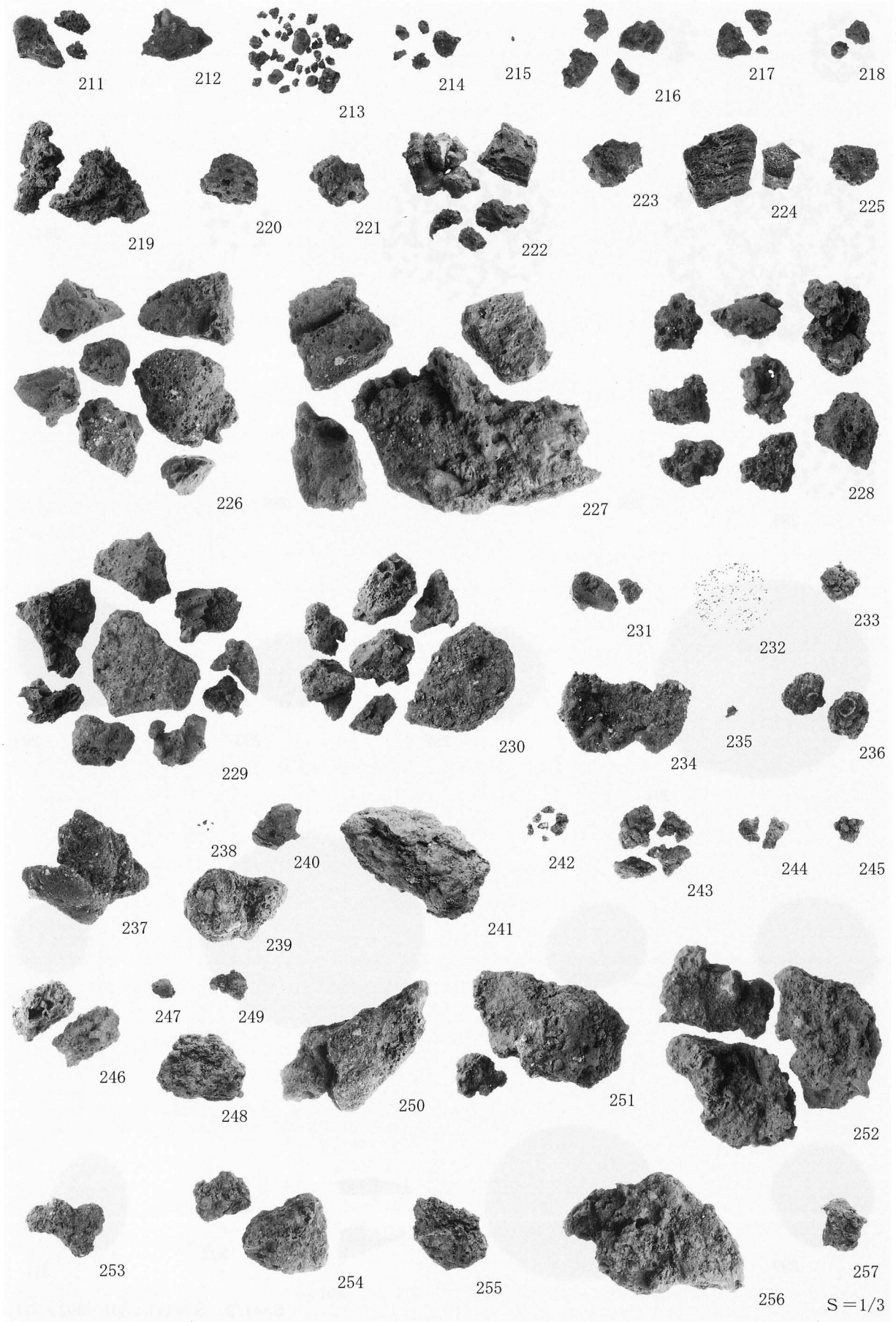




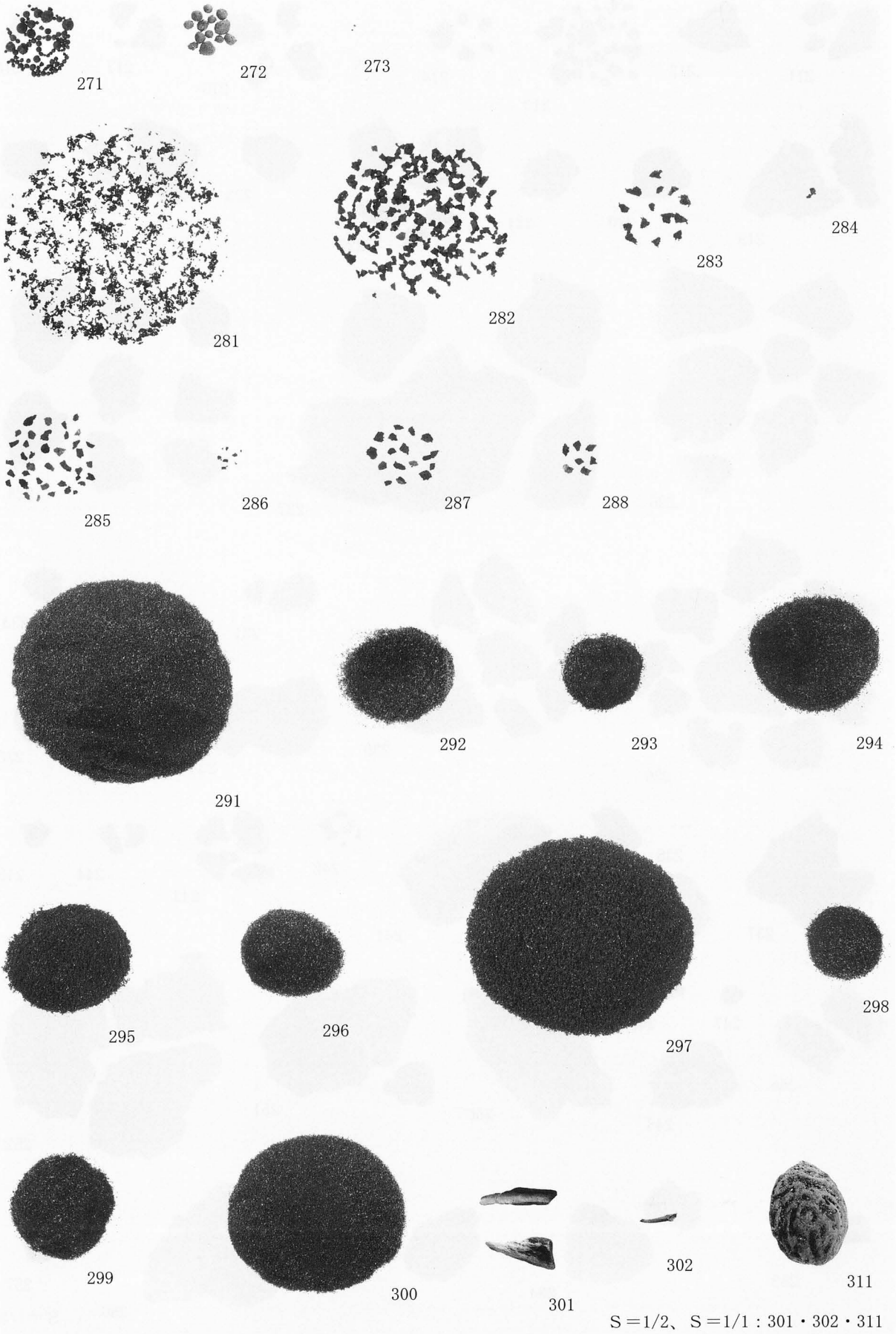
写真図版27 石器(2)、石製品、陶磁器



写真図版28 金属製品、銭貨



写真図版29 鉄滓類(1)



S = 1/2、S = 1/1 : 301・302・311

写真図版30 鉄滓類(2)・動物遺存体・植物遺存体





調査区遠景（南東から）



調査区全景（南から）



尾根頂部調査前全景（南東から）



尾根頂部調査終了全景（南東から）



南東尾根部調査前全景（北西から）



南東尾根部調査終了全景（北西から）



北東尾根部調査前全景（南東から）



北東尾根部調査終了全景（南東から）



尾根頂部基本土層 断面（南東から）



南東尾根部基本土層 断面（西から）





T 2遺構検出状況（西から）



T 17遺構検出状況（南東から）



T 22遺構検出状況（南から）



T 35遺構検出状況（北西から）



T 36遺構検出状況（東から）



T 37遺構検出状況（北東から）



T 38遺構検出状況（北東から）



T 53遺構検出状況（南から）



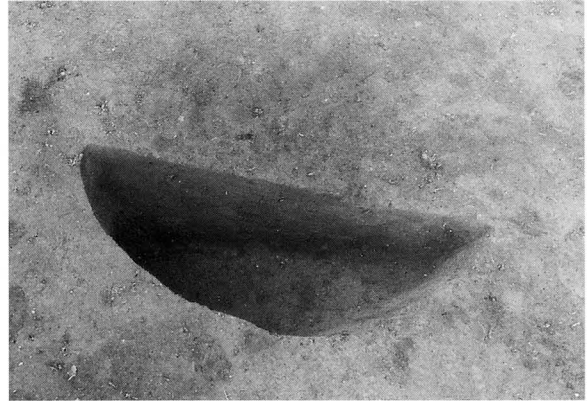
SK 01平面 (南東から)



SK 01断面 (南東から)



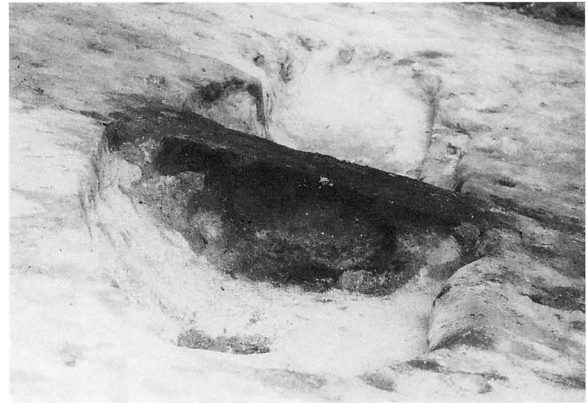
SK 02平面 (南から)



SK 02断面 (南から)



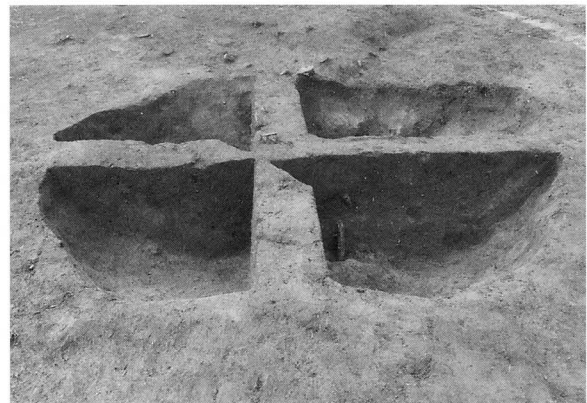
SK 04平面 (南から)



SK 04断面 (南から)



SK 07平面 (東から)



SK 07断面 (東から)

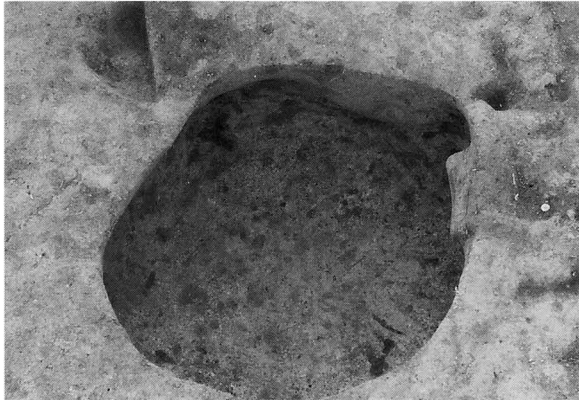




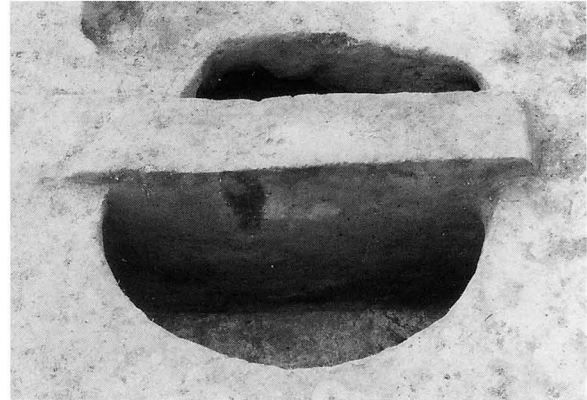
SK 09平面 (北東から)



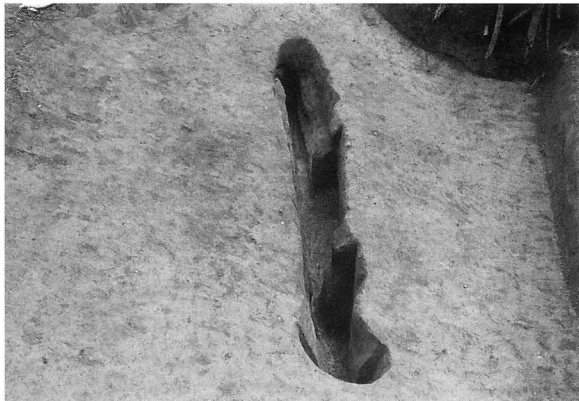
SK 09断面A-A' (北東から)



SK 11平面 (北東から)



SK 11断面 (北東から)



SK 03平面 (東から)



SK 03断面A-A' (東から)



SK 03断面B-B' (東から)



SK 03断面C-C' (東から)



SK 05 平面 (南東から)



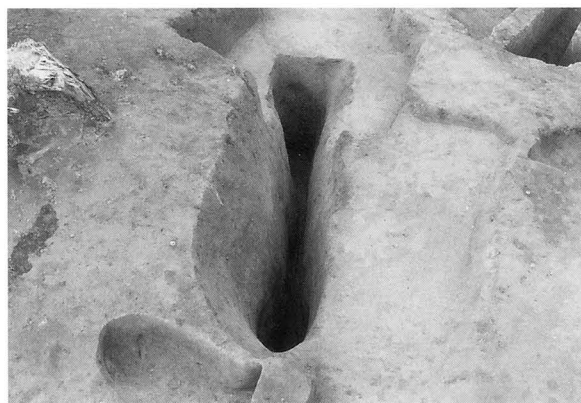
SK 05 断面 (南東から)



SK 06 平面 (南東から)



SK 06 断面 (南東から)



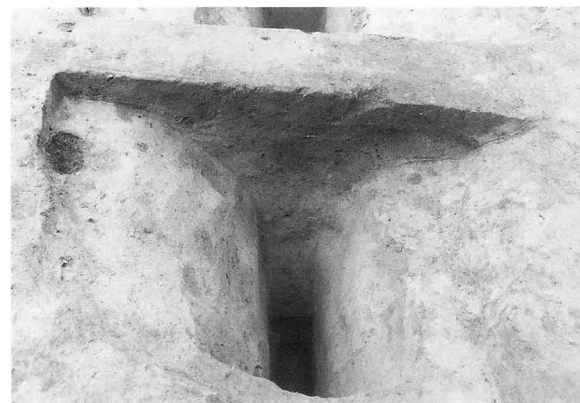
SK 08 平面 (南から)



SK 08 断面B-B' (南から)



SK 10 平面 (東から)

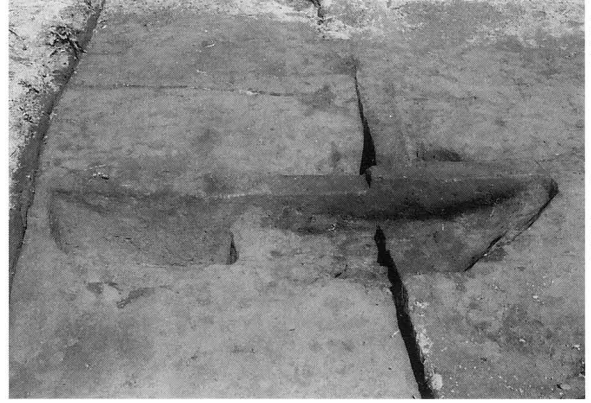


SK 10 断面A-A' (東から)

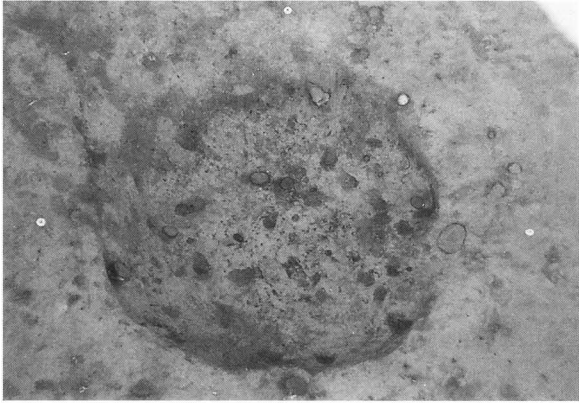




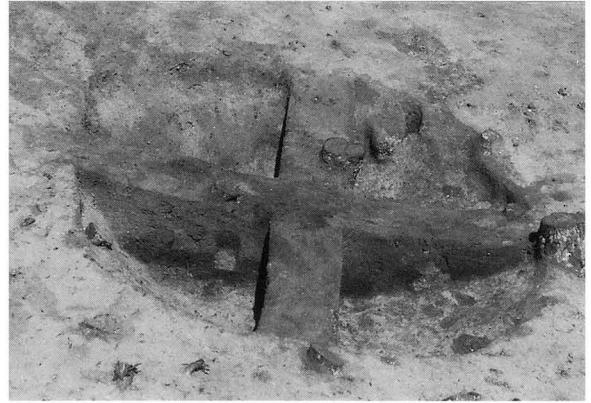
SW 01平面 (北東から)



SW 01断面A-A' (南東から)



SW 02平面 (南西から)



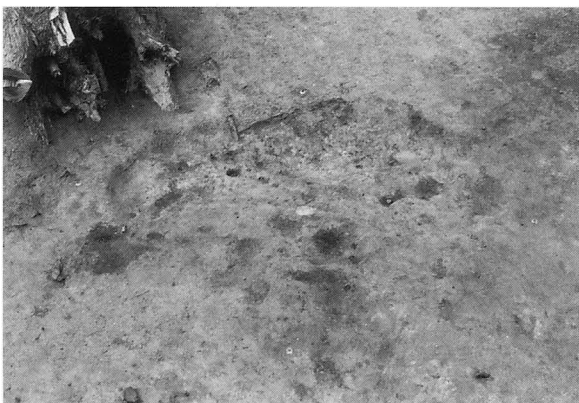
SW 02断面A-A' (南西から)



SW 03平面 (南から)



SW 03断面 (南から)



SW 04平面 (南東から)



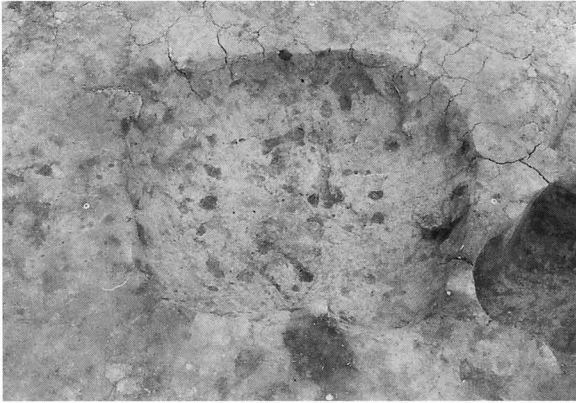
SW 04断面B-B' (南西から)



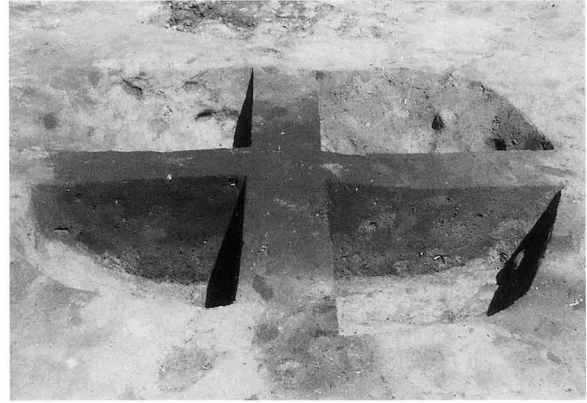
SW 05平面 (南から)



SW 05断面 (南から)



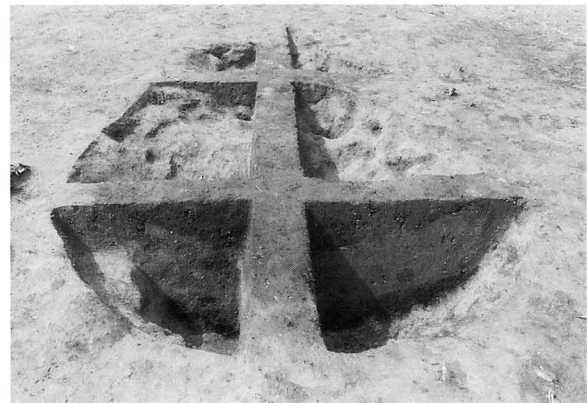
SW 06平面 (南から)



SW 06断面B-B' (南から)



SW 07平面 (南東から)



SW 07断面B-B' (南東から)

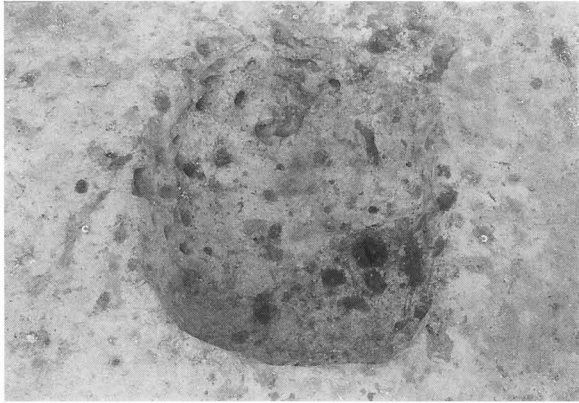


SW 08平面 (南から)

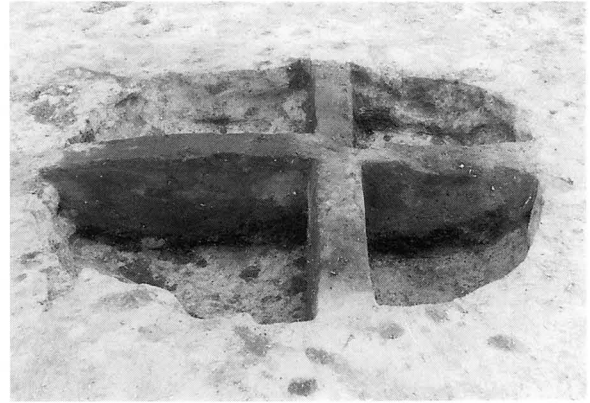


SW 08断面A-A' (南から)





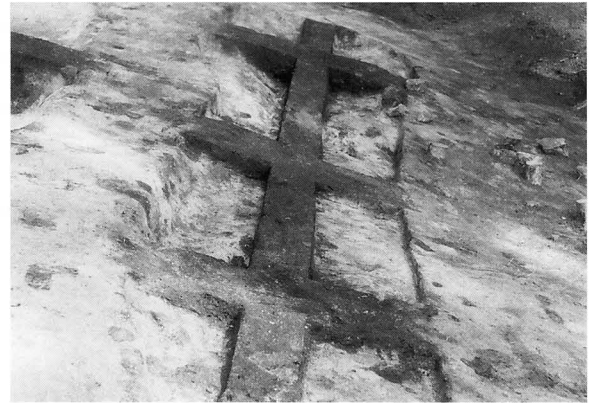
SW 09平面 (南から)



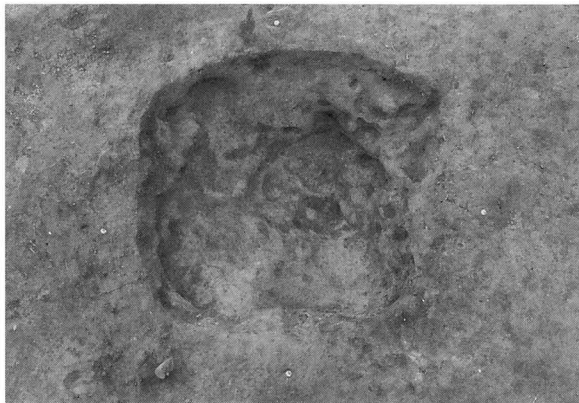
SW 09断面A-A' (西から)



SW 10平面 (南から)



SW 10断面A-A'、B-B'、C-C' (南から)



SW 11平面 (北東から)



SW 11断面A-A' (北東から)



SW 11断面B-B' (南東から)



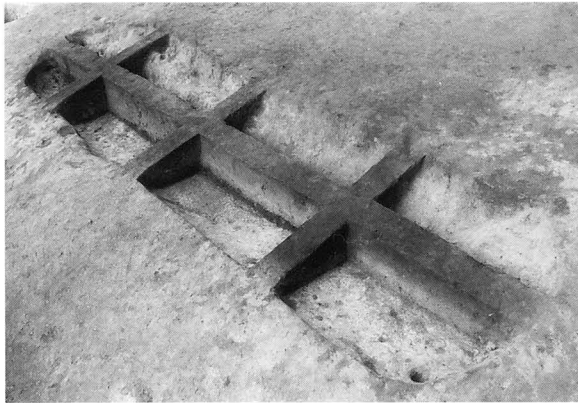
作業風景



SW 12平面 (北西から)



SW 12断面B-B'、C-C'、D-D' (北東から)



SW 12断面A-A' (南から)



SW 12炭化材出土状況 (北西から)



SW 12炭化材出土状況 (南西から)



SW 12底面焼土出土状況 (南西から)

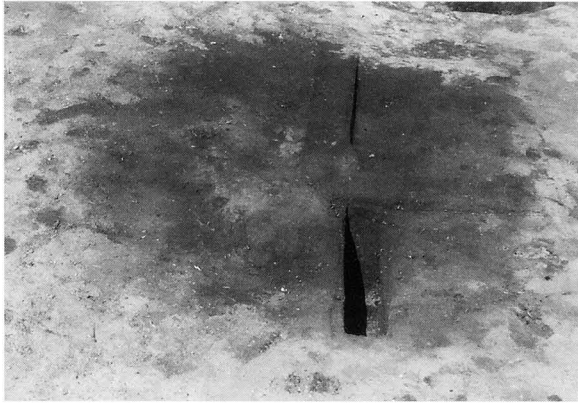


作業風景

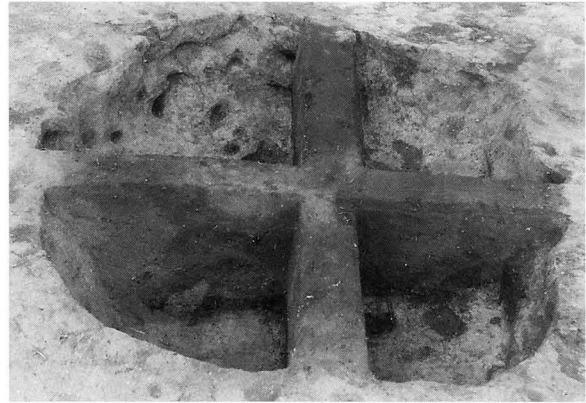


現地公開





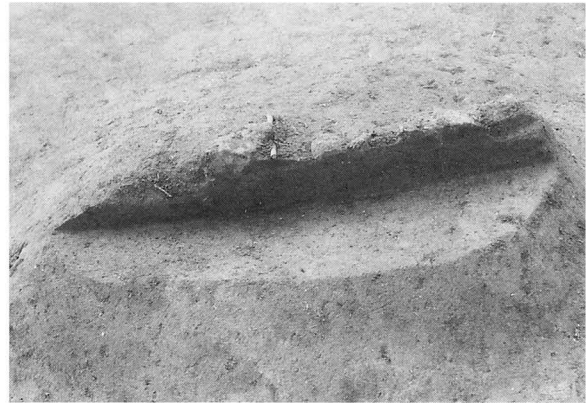
SN 01平面 (南から)



SN 01断面B-B' (南から)



SN 02平面 (南東から)



SN 02断面 (北東から)



SN 03平面 (東から)



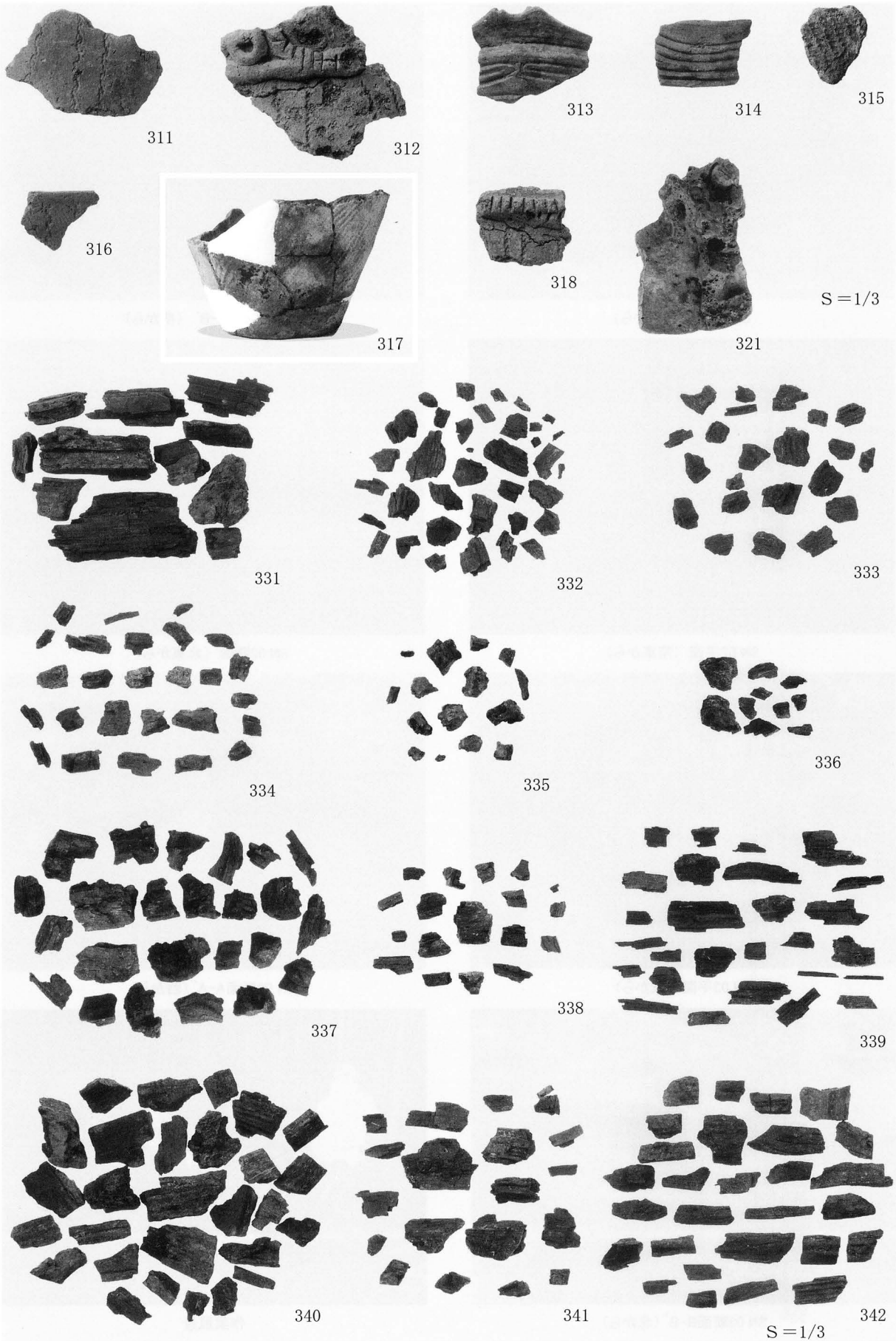
SN 03断面A-A' (西から)



SN 03断面B-B' (北から)



作業風景



写真図版42 土器、鉄滓類、炭化材

## 報告書抄録

ふりがな	やぎさわ2いせきだいにじ・やぎさわらんとのさわ2いせきはつちようさほうこくしょ							
書名	八木沢Ⅱ遺跡第2次・八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	三陸縦貫自動車道宮古道路建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第551集							
編著者名	阿部勝則・菅野 梢							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2010年2月5日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ′	東経 ° / ′	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やぎさわ2いせき 八木沢Ⅱ遺跡 だいにじ 第2次	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 おおあぎやぎさわだいに 大字八木沢第 ちわりあぎなかむら 3地割字中村 153ほか	03202	LG43-0205	39度 36分 57秒	141度 56分 4秒	2008.04.08 ～ 2008.07.15	7,000㎡	三陸縦貫自動車 道宮古道路建設 事業に伴う緊急 発掘調査
やぎさわ 八木沢ラントノ さわ2いせき 沢Ⅱ遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 おおあぎやぎさわだいに 大字八木沢第 ちわりあぎなかむら 3地割字中村 89ほか	03202	LG43-0269	39度 36分 48秒	141度 56分 4秒	2008.07.16 ～ 2008.10.30	5,023㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
八木沢Ⅱ遺跡 第2次	集落跡 生産地跡	縄文時代  古 代	竪穴住居跡 1棟 竪穴状遺構 1基 土坑 44基 陥し穴状遺構 7基 炭窯跡 1基 炉跡・焼土遺構 10基 土器埋設遺構 1基	縄文土器 大コンテナ2箱 土製品 6点 石器 26点 石製品 1点 陶磁器 5点 金属製品 20点 鉄滓類 中コンテナ3箱	縄文時代の集落跡・ 古代の鉄生産の跡			
八木沢ラントノ 沢Ⅱ遺跡	狩場跡 生産地跡	縄文時代  古 代	土坑 6基 陥し穴状遺構 5基 炭窯跡 12基 焼土遺構 3基	縄文土器 数点 鉄滓類 1点 炭化材 大コンテナ3箱	縄文時代の狩場跡・ 古代の炭窯跡			
要 約	八木沢Ⅱ遺跡は、連続する尾根部と谷部、また八木沢川の支流が形成した低地面からなり、調査区は、昨年度調査区の南側に当たり、第2次調査となる。縄文時代は、調査区北側の平坦面に竪穴住居跡や貯蔵穴、斜面部には陥し穴がつくられており、より低い北側の低地面に古代の鍛冶関連施設がつくられていた。この遺跡では、縄文時代から古代までの多岐にわたる性格の遺構が確認され、時期により土地利用が異なることが明らかとなった。							
	八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡は、調査区が東西の尾根部から谷部にかけての斜面上に位置し、縄文時代と推定される陥し穴状遺構5基、時期不明の土坑6基、古代の炭窯跡12基が検出された。この遺跡は、縄文時代には主に狩猟の場として利用されており、古代では木炭の生産地として利用されていたものと推測される。							



---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第551集  
八木沢Ⅱ遺跡第2次・八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書

三陸縦貫自動車道宮古道路建設事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成22年2月1日

発行 平成22年2月5日

編集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地  
電話 (019) 638-9001

発行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所  
〒027-0029 岩手県宮古市藤の川4番1号  
電話 (0193) 71-1716

(財)岩手県文化振興事業団  
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号  
電話 (019) 654-2235

印刷 (有)小松茂印刷所  
〒020-0025 岩手県盛岡市大沢川原二丁目5-37  
電話 (019) 623-6073



